福岡大学医学部年報

令和５年度

福岡大学医学部

目　　次

はじめに …… 1

Ⅰ．医学部医学科・医学研究科
1．学科主任挨拶 …… 4
2．令和５年度医学部医学科年譜 …… 6
3．医学部（医学科）病院の教員組織 …… 7
4．入試・教務・国試 …… 16
5．学生の表彰・指導及び課外活動 …… 22
6．大学院医学研究科 …… 25
7．学位取得 …… 27
8．国際交流 …… 29
9．研究業績 …… 31
1）解剖学 …… 31
2）細胞生物学 …… 34
3）生理学 …… 35
4）生化学 …… 36
5）薬理学 …… 37
6）病理学 …… 37
7）微生物・免疫学 …… 44
8）再生・移植医学 …… 45
9）衛生・公衆衛生学 …… 47
10）法医学 …… 55
11）医学教育推進講座 …… 56
12）生命医療倫理学 …… 57
13）総合医学研究センター …… 58
14）腫瘍・血液・感染症内科学 …… 61
15）内分泌・糖尿病内科学 …… 65
16）心臓・血管内科学 …… 71
17）消化器内科学 …… 76
18）呼吸器内科学 …… 87
19）腎臓・膠原病内科学 …… 92
20）脳神経内科学 …… 96
21）精神医学 …… 99
22）小児科学 …… 107

23）皮膚科学 …… 111
24）放射線医学 …… 116
25）消化器外科学 …… 124
26）呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学 …… 128
27）心臓血管外科学 …… 134
28）脳神経外科学 …… 135
29）整形外科学 …… 140
30）形成外科学 …… 151
31）眼科学 …… 152
32）耳鼻咽喉科学 …… 155
33）腎泌尿器外科学 …… 157
34）産科婦人科学 …… 160
35）麻酔科学 …… 162
36）歯科口腔外科学 …… 163
37）臨床検査医学 …… 166
38）救命救急医学 …… 167
39）総合診療学 …… 173
40）福岡大学病院病理部・病理診断科 …… 175
41）福岡大学病院リハビリテーション部 …… 177
42）福岡大学病院薬剤部 …… 179
43）福岡大学筑紫病院呼吸器内科 …… 181
44）福岡大学筑紫病院内分泌・糖尿病内科 …… 184
45）福岡大学筑紫病院消化器内科・内視鏡部 …… 185
46）福岡大学筑紫病院脳神経外科・脳卒中センター・脳神経内科 …… 195
47）福岡大学筑紫病院小児科 …… 196
48）福岡大学筑紫病院外科 …… 198
49）福岡大学筑紫病院呼吸器・乳腺外科 …… 200
50）福岡大学筑紫病院整形外科 …… 201
51）福岡大学筑紫病院泌尿器科 …… 203
52）福岡大学筑紫病院眼科 …… 203
53）福岡大学筑紫病院耳鼻いんこう科 …… 205
54）福岡大学筑紫病院放射線科 …… 205
55）福岡大学筑紫病院麻酔科 …… 205
56）福岡大学筑紫病院病理部・病理診断科 …… 205
57）福岡大学西新病院循環器内科 …… 210
58）福岡大学西新病院消化器内科 …… 210

Ⅱ．医学部看護学科
１．学科主任挨拶 …… 213
２．令和５年度医学部看護学科年譜 …… 214
３．看護学科教員組織 …… 215
４．入学試験・教育活動・国家試験・進路支援 …… 216
５．学生の指導・課外活動 …… 224
６．国際交流 …… 225
７．総務・広報・図書・研究推進活動 …… 226
８．医学研究科看護学専攻（修士課程）…… 230
９．社会活動 …… 233
10．研究業績 …… 234

Ⅲ．福岡大学病院 …… 245

Ⅳ．福岡大学筑紫病院 …… 251

Ⅴ．福岡大学西新病院 …… 255

Ⅵ．付属施設・組織
１）福岡大学図書館医学部分館 …… 259
２）アニマルセンター …… 260
３）医学部 RI 施設 …… 260
４）福岡大学医学会 …… 261

はじめに

医学部長　小　玉　正　太

長年、医に関する倫理委員会の委員長として、多くの倫理審査に携わった経験から、常に公知すべき諸言があります。申請する方には「臨床研究は研究計画を立案し、申請書を作成する段階から（施設長認可の開始日ではなく)、既に研究は始まっている。」とお話ししています。まず、臨床研究計画書を作成すること自体が臨床研究であることを知って頂きたいと思います。さらに「研究は仮説をたてること、実験はその証明であり、論文はその二つの集大成である」と言われますが、研究成果が新しい発見であるためには、学会や査読付き論文で研究成果を公表する必要があります。ここで、仮説をたてる、実験する、論文を書く行為はそれぞれ独立したもので、サイエンティストはそれらすべてのプロセスに於いてバランスがとれた状況でなければなりません。実験はするけど論文は書かない、理論があっても行動がない、臨床はするけど研究はしない等、様々な状況が学部内で散見されます。そこで真の医学研究者は、十分な経験と文献的知識を合わせもち論文執筆を行うことが出発点であることを知って頂きたいと思います。

現在、研究における透明性や倫理性、得られたデータの品質保証や説明責任までが問われる時代になってきました。科学論文の捏造、臨床研究の金銭的疑惑等、日本での医学研究や医療倫理の在り方がマスコミを賑わしています。それに対応し、平成25年11月には、全国医学部長病院長会議から、また、平成26年２月には日本医学会から「医学研究の Conflicts of Interest（COI）マネージメントに関するガイドライン」改訂版が出版され、医学系研究の実施や推進のハードルがかなり高くなったのは事実です。平成27年４月から、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」が実質化しました。それにあわせて、本学における医に関する倫理委員会の規定改正を行い、平成28年９月から新しいシステムで動いています。つまり、医学部、福岡大学病院、筑紫病院およびその他の部門からでた「ヒトを対象とする臨床研究」は一つの倫理で審査されていくことになります。平成30年４月１日から、新規に臨床研究法が施行されましたが、それに対応すべく認定倫理委員会の設置を模索しています。将来的に、大学内に研究推進部とは別に Academic Research Organization（ARO）の組織設置等が必要と考えます。

医学部では医学教育分野別評価を受審していますが、これは教育の質保障にあります。アウトカム基盤型教育を導入し、卒業時アウトカム（学修成果）として「FU-RIGHT」を掲げ、PDCA サイクル等を効率的に機能させることによって質の向上を図り、教育・学習その他のサービスが一定水準にあることを福岡大学自らの責任でもって説明・証明する必要があります。教育のインプット、プロセス、アウトプットが満足されたもので、今後は教育プログラムが継続的かつ恒常的に評価・モニター・改善されなければなりません。教育改革の真只中にいる私たちは、自らを律し、グローバルな大学人として、学部および大学院教育に取り組まなくてはならない責務を負っています。そこで、この年報を活用し福岡大学医学部の質文化形成においてさらなる発展を目指したいと思います。

Ⅰ．医学部医学科・医学研究科

1．学科主任挨拶

小　玉　正　太

令和５年度にかけて継続的に取り組んだ入試・教育・研究の改善・改革を紹介します。

以前行われた入試の合否判定での指摘を真摯に受けとめ、入学センター、医学部内部構成委員に外部からの評価委員を加えた委員会で議論を行い、改革に努めてきました。また今まで６回の教務入試検討委員会において、入試選抜での属性への対応や面接のあり方の提言がなされました。更には、Diploma Policy（DP）に合致した医学生を輩出するために、Institutional Research（IR）部門から面接点数や科目点数から問題点を抽出し Admission Policy（AP）に反映する改革を始めています。入学選抜は AP にそった学生を選抜するだけでなく、次の段階としては DP に合致すべき素養に富んだ学生を入学させる必要があります。さらに地域枠に関しては、卒後ミッションが不透明になり易かったために、福岡大学病院あるいは筑紫病院、西新病院での研修を必須とし、附属病院からの地域医療への貢献を目指すものとしています。卒前後の実習・研修も医学部の教育推進講座と連携をはかり、学外連携施設病院での実習をはじめ、病院での教育部門を再編成強化し One Team 化を推進しています。

学科カリキュラムに関しては、カリキュラム改革が浸透し、解剖学は M1年次から座学がスタートし、生化学も１年次になっています。M4年次には共用試験（Computer Based Testing: CBT）があり、客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination: OSCE）と合わせて、法定化され実施されていることは皆様ご存知のとおりです。昨年度同様に、外部関係者やご父兄にも出席をお願いし、進級を許可された M4学生全員および学内教職員が臨席のもと、「白衣授与・臨床実習生認定式」を行います。

M6学年の卒業判定は領域別試験Ⅰ～Ⅱを導入していますし、全国模擬試験受験は卒業に必須な事項になります。再試験評価も厳しくなりましたが、今からの社会は、どこにいても試されることが要求されます。従って、そのストレスをはねのける力を養っていく必要があります。医師国家試験も平成30年春から、３日間から２日間に、500問から400問に変化し、臨床実習で経験する様々な事柄が問われるようになってきました。医学科内のカリキュラム検討委員会では学生が参加して意見を述べるようにしています。本学医学部は、日本医学教育評価機構（JACME）より、世界医学教育連盟（WFME）のグローバルスタンダードに基づく医学教育プログラムの評価認定「適合」（認定期間：2020/11/1～2027/10/31）となっています。

医学科の医学教育推進講座は、医学教育、クリニカルクラークシップ、分野別評価、カリキュラム全般、国家試験合格率アップ、OSCE、PCC-OSCE、PBL/チュートリアル、学生評価・教育評価、地域医療との関わり、海外実習、シミュレーションセンター、リサーチマインドの養成等、様々な課題に向かって対応していますが、これはすべての講座・病院診療科（部）の積極的な支援があって成立するものです。さらに、コロナ禍の影響で教育や働き方の概念も多くの変容を遂げました。官庁関連・全国会議や学会、授業のあり方や勤務のあり方に至るまで、多様性が問われ、医学部ではその時々に最善と思われる方策を選択してきました。今後もこの経験を基に、会議体のあり方や教育現場での情報発信に臨機応変に応え、ボトムアップされた意見聴取から新たな対応とシェイプアップされた組織体への編成が必要です。

最後になりましたが、今回教育や臨床に尽力頂きました教員・事務職員・教育技術職員の皆様に感謝申し上げます。今後とも、福岡大学医学部医学科の発展のために、よろしくご協力お願いします。

Fukuoka University FU Medicine RIGHT
Relationship Intelligence Gentleness Health Teaching

福岡大学医学部医学科の使命（ミッション）

医療のプロフェッショナルとしての誇りと広い視野を持ち、患者に寄り添い、地域社会に貢献する医師の育成

福岡大学医学部医学科の学修成果（アウトカム）

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に

❶ 自尊心と高い倫理観を有し、他者と信頼関係を築くことができる。
❷ 確かな知識と技能に基づいた、人にやさしい医療を実践できる。
❸ グローバルな視野で地域の健康増進と疾病予防に貢献できる。
❹ 科学的探究心、論理的思考を身に付け、教育的指導ができる。

上記の学修アウトカムは以下のコンピテンスの領域（Ⅰ～Ⅵ）ごとのコンピテンシー（43項目）により達成されます。

Ⅰ プロフェッショナリズム

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に医師としての使命と責任をもって医療を実践するために、高い倫理観と他者を尊重する人間性のもとに行動できる。

1. 医療者として法的責任、規則を遵守できる。
2. 生命倫理に基づいた医療、研究を遂行できる。
3. 他者を尊重し、利他的な態度で行動できる。
4. 患者の個人情報保護を遵守できる。
5. 多様な背景をもつ患者の意思決定を理解し対応できる。
6. 患者、社会、医療者に対して説明責任を果たすことができる。
7. 医師としての自尊心と向上心を持ち続けることができる。
8. 患者と家族、後輩、同僚、多職種医療者を尊重できる。

Ⅱ 医学的知識

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に基礎、臨床、社会医学等の知識を習得し、診療に応用できる。

1. 正常構造と機能
2. 発達、成長、加齢、死
3. 心理、行動
4. 病因、構造と機能の異常
5. 診断、治療
6. 医療安全
7. 疫学、予防、公衆衛生
8. 保健・医療・福祉制度
9. 医療経済

Ⅲ 診療技術・患者ケア

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に患者の意思を尊重し、適切な診療を実践できる。

1. 患者から病歴を的確に聴取できる。
2. 成人、小児の基本的な身体診察と基本的臨床手技を実践できる。
3. 患者の病歴、診察所見から臨床推論ができる。
4. 診断に必要な検査を選択し、結果を解釈できる。
5. 頻度の高い疾患について、EBM（Evidence-Based Medicine)に基づいた診断、治療方針について説明できる。
6. 患者の安全と感染防止を十分に理解し、チームの一員として診療に参加できる。
7. POS (Problem-Oriented System)を用いて診療録を記載し、適切にプレゼンテーションができる。
8. 患者に必要な病状説明・意思決定の場に参加できる。

Ⅳ コミュニケーションとチーム医療

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に患者とその家族、医療者、関係機関と円滑なコミュニケーションを実践し、患者中心のチーム医療に貢献できる。

1. 患者とその家族の個人的背景、文化、社会的背景を理解し、良好なコミュニケーションをとることができる。
2. 多職種の医療チーム内で信頼関係を築き、患者中心の医療のために情報を共有し、説明伝達ができる。
3. 他の医療者に、手順を守り適切にコンサルテーションできる。
4. 患者の医学情報を診療録に的確に記載し、医療チーム内で情報を共有できる。
5. 医療の国際化を認識し、英語で医療面接ができる。

Ⅴ グローバルな視野と地域医療

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に医療制度を理解して国際的、社会的な医療問題に関心を持ち、地域の関連機関と連携し、地域社会に貢献できる。

1. 医療制度、社会福祉制度を正しく理解した診療を実践できる。
2. 地域の医療機関、保健、福祉、行政等の関連機関と適切な連携がとれる。
3. 行政への届け出や社会福祉制度の必要書類を適切に作成できる。
4. 地域医療に参加し、プライマリケアが実践できる。
5. 海外からの患者の診療、医療者との交流が行える。
6. 国際保健や医療の社会的問題の情報を収集できる。

Ⅵ 科学的探究心と自律学習能力

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に科学的探究心を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続することができる。

1. 基礎研究、臨床研究の理論と方法を理解することができる。
2. 最新の医学情報を収集し、論理的、批判的に評価し、正しく応用できる。
3. ICTを適切に利用し情報セキュリティ管理ができる。
4. 未解決の医学的、科学的問題を発見し、解決に取り組む事ができる。
5. 自己の到達目標を設定し、自ら学ぶ機会を持つことができる。
6. 診療、研究に国際的視野を持ち、情報収集と発信ができる。
7. 学生、後輩、同僚に対し教育者として貢献できる。

（2017.5.10）

2．令和５年度　医学部医学科年譜

年月日	行　　事	付　　記
【令和５年】		
４月１日	学年始	
	入学式	
	医学部新入生歓迎式	
	医学部第52期生　110名	
４月３日	医学科新任・昇格教育職員ガイダンス	於：本館Ａ会議室
４月６日	MM1フレッシュマンスタートアップミーティング	於：RI 大講堂
５月22日	第１回医学教育ワークショップ	於：RI 大講堂
５月30日	教育技術職員との懇談会	於：基礎第一講義室
６月24日	MM6父母懇談会	
７月15日	地方父母懇談会（宮崎）	
７月31日	第75回西日本医科学生総合体育大会（８月25日まで）	
	代表主管校：大阪大学	
８月５日	オープンキャンパス	
９月５日	第２回医学教育ワークショップ	於：RI 大講堂
９月18日	第44回医学部長争奪バレーボール大会	於：第二記念会堂
10月21日	第50回慰霊祭	於：ユウベル積善社福岡斎場
11月２日	MM4 OSCE	
11月18日	父母後援会総会	於：ANA クラウンプラザホテル
11月21日	MM4 CBT	
11月24日	第３回医学教育ワークショップ	於：RI 大講堂
11月26日	令和６年度Ａ方式推薦入試（志願者122名・受験者121名・合格者26名）	
	地域枠推薦入試（志願者50名・受験者50名・合格者９名）	
	附属校推薦入試（志願者17名・受験者17名・合格者５名）	
【令和６年】		
２月２日	令和６年度一般入試（MM 一次選考）	
	本学・東京・名古屋・大阪（志願者2,071名・受験者1,905名・合格者453名）	
	白衣授与・臨床実習生認定式	於：RI 大講堂
２月３日	第118回医師国家試験（４日まで）受験者：新卒113名・既卒13名	
２月14日	令和６年度一般入試（MM 二次選考）（受験者453名・合格者131名）	
	共通テスト利用型Ｉ期（MM 二次選考）（受験者115名・合格者22名）	
２月29日	第４回医学教育ワークショップ	於：RI 大講堂
３月15日	第118回医師国家試験合格発表	
	新卒113名中96名合格　合格率85.0％	
	既卒13名中10名合格　合格率76.9％	
３月19日	卒業式	
	医学部学位記授与式	於：RI 大講堂
	医学部医学科47回生　113名卒業	
３月31日	学年終了	

〈中止となった行事〉

新入生フレッシュマンキャンプ
啓明大学派遣、受入れ
医学祭
医学部長杯争奪ソフトボール大会

3．医学部（医学科）病院の教員組織

令和５年４月１日現在

医学科基礎講座							
講座＼資格	教授	准教授	講師	講師４条７号		助教	
解剖学	立花　克郎	貴田　浩志		フェリル，ロリト	遠藤日富美	山﨑裕太郎	
細胞生物学	白澤　専二	角田　俊之 石倉　周平		土井　佳子 小柳　緑	吉田　和真	田中　陽子	
生理学	藤田　孝之		本田　啓	内田　俊毅		胡　耀鵬	平石　敬三
生化学	安永晋一郎		芝口　浩智	白須　直人	大野　芳典		
薬理学	岩本　隆宏	根本　隆行		喜多　知 小松　知広	篠田　康晴		
病理学	濵﨑　慎	上杉　憲子	青木光希子	宮原　聡		牟田　紘子	坂本　良平
微生物・免疫学	廣松　賢治			石井　一成 伊藤　竜太 清水　章文 伴　文武	栗原　悠介 尾鶴　亮 吉村　芳修		
再生・移植医学	小玉　正太	坂田　直昭		田中　智子			
衛生・公衆衛生学	有馬　久富	吉村　力	前田　俊樹	川添　美紀 佐藤　敦	阿部真紀子		
法医学	久保　真一	柏木　正之	髙山　みお	松末　綾	ウォーターズ， ブライアンＪ.		
医学教育推進講座	安元　佐和	八尋　英二	武岡　宏明				
教育計画部							
生命医療倫理学	今泉　聡						
人体生物系総合研究室							
生体制御系総合研究室							
病態構造系総合研究室							
病態機能系総合研究室							
先端医療科学系総合研究室							
社会医学系総合研究室							

総合医学研究センター	岩﨑　昭憲（呼吸器乳腺小児外科）
	向坂彰太郎（消化器内科学）
	林　英之（眼科学）
	廣瀬　伸一（小児科学）
	松永　彰（臨床検査医学）

・［　　］は休職

令和５年４月１日現在

医学科臨床講座						
資格 / 講座	教授	准教授	講師	講師４条７号	助教	
腫瘍・血液・感染症内科学	髙松　泰	田中　俊裕			茂木　愛	林　武生
内分泌・糖尿病内科学	川浪　大治		髙士　祐一			
心臓・血管内科学	三浦伸一郎	杉原　充			三根かおり	小牧　智
消化器内科学	平井　郁仁	釈迦堂　敏			船越　禎広	
呼吸器内科学	藤田　昌樹	井上　博之			井形　文保	
腎臓・膠原病内科学	升谷　耕介	安野　哲彦			氷室　尚子	冷牟田浩人
脳神経内科学	坪井　義夫	藤岡　伸助		栗原可南子	井上　賢一	
精神医学	川嵜　弘詔	堀　輝		衞藤　暢明	［田口　公之］	林　礼雄
小児科学	永光信一郎				佐々木聡子 林　仁美	伊東　和俊
皮膚科学	今福　信一		古賀　文二	佐藤　絵美	筒井　啓太	髙野　彩加
放射線医学	吉満　研吾	高山　幸久			赤井　智春	日隈由紀枝
消化器外科学	長谷川　傑	塩飽　洋生			槇　研二 島岡　秀樹	中島　亮
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学	佐藤　寿彦				［阿部　創世］ 上田雄一郎	徳石　恵太
心臓血管外科学	和田　秀一	桑原　豪			林田　好生	松村　仁
脳神経外科学	安部　洋		竹本光一郎		榎本　年孝 吉永進太郎	［天本　宇昭］ 福本　博順
整形外科学	山本　卓明		木下　浩一		石松　哲郎	塩川　晃章
形成外科学	髙木　誠司				小柳　俊彰	
眼科学	内尾　英一			高橋　理恵		
耳鼻咽喉科学	坂田　俊文		末田　尚之		妻鳥敬一郎	前原　宏基
腎泌尿器外科学	羽賀　宣博			松﨑　洋吏	郡家　直敬	岡部　雄
産科婦人科学	四元　房典			伊東　智宏	吉川　賢一	清島　千尋
麻酔科学	秋吉浩三郎			楠本　剛		
歯科口腔外科学	近藤　誠二		吉野　綾	喜多　涼介		
臨床検査医学	小川　正浩	大久保久美子				
救命救急医学	石倉　宏恭	岩朝　光利				
臨床検査医学	鍋島　茂樹				鈴山　裕貴	

・［　　］は休職

令和５年４月１日現在

福岡大学病院										
診療科・部・センター	教授	准教授	講師			講師４条７号	助教			
腫瘍・血液・感染症内科		磯部　泰司				佐々木秀法	中島　勇太	石津　昌直	後藤　真喜	
内分泌・糖尿病内科			横溝　久				牟田　芳実			
循環器内科			末松　保憲	有村　忠聴 加藤　悠太	桑野　孝志 [志賀 悠平]		平田　哲夫	満田　寛子	今泉　朝樹	藤田　崇史
消化器内科			横山　圭二	芦塚　信也		田中　崇 高田　和英	久能　宣昭	土屋　直壮	福永　篤志	古賀　毅彦
呼吸器内科		濵田　直樹				海老　規之	池田　貴登	[佐々木朝矢]	中尾　明	春藤　裕樹
腎臓・膠原病内科		三宅　勝久	伊藤　建二				多田　和弘			
脳神経内科		三嶋　崇靖				合馬　慎二	立石　雄嗣	髙橋　信敬		
精神神経科			菅原　裕子			飯田　仁志	北井　良和	原田　康平	畑中　聡仁	
小児科			八ツ賀秀一	藤田　貴子	吉兼由佳子		久保田　慧	音田　泰裕 小寺　達朗	後藤　綾子 古賀　信彦	新居見俊和 [坂口　崇]
皮膚科			[柴山 慶継]			内藤　玲子	清水　裕毅			
放射線科							田中　慎二	村山　僚	中根慎一朗	谷　知允
消化器外科		梶原　正俊	内藤　滋俊	山田　哲平	[小島 大望]	愛洲　尚哉	橋本　恭弘	佐々木貴英 棟近　太郎	松本　芳子	[石井 文規]
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科		吉永　康照				増田　佳子	*田中 益美	中島　裕康	[岩中　剛]	
心臓血管外科						古井　雅人	寺谷　裕充	清水　真行		
脳神経外科			森下　登史			小林　広昌	[堀尾 欣伸]	河野　大	田中　秀明	
整形外科		前山　彰				三宅　智 田中　潤 萩尾　友宣	瀬尾　哉	中山　鎭秀	廣田　高志	松永　大樹
形成外科						大山　拓人	森田　愛	鈴木翔太郎	[岡本 理沙]	前山　徹
眼科		尾崎　弘明					上野　智弘	小林　彩加		
耳鼻咽喉科			田浦　政彦				打田　義則			
腎泌尿器外科			中村　信之				宮﨑　健	福原悠一朗		
産婦人科		宮田　康平	漆山　大知	倉員　正光		野口　幸子	石田　倖子	重川浩一郎		
麻酔科			[原賀 勇壮]				*今給黎佑理	平井　規雅 佐藤　聖子	三股　亮介 熊野　仁美	柴田　志保
歯科口腔外科		梅本　丈二	瀬戸　美夏							
臨床検査・輸血部		森戸　夏美	髙田　耕平	小柳　尚子						
救命救急センター		喜多村泰輔	仲村　佳彦			*星野 耕大	山﨑　玲子 川平　悠人 大藏　裕子	鯉江めぐみ 田尻　崇人 川野　恭雅	石橋　卓也 森本　紳一 泉谷　義人	村西謙太郎 宮﨑弘太郎
総合診療部							[野下 育真]	日吉　哲也	[加藤 禎史] 瀬知　裕介	坂本　篤彦 奥津　翔太
病理部		濵田　義浩	古賀　佳織							
内視鏡部			石田　祐介							
放射線部第一　第二	長町　茂樹									
手術部		重松　研二	吉村　文博				岩下　耕平	富永　将三		村山　和哉
リハビリテーション部		鎌田　聡	藤見　幹太							
総合周産期母子医療センター		廣瀬龍一郎 太田　栄治	小幡　聡			井槌　大介	讃井　絢子 宮本　辰樹	瀬戸上貴資	川野　裕康	
臓器移植医療センター	白石　武史									
臨床研究支援センター	野田　慶太									
卒後臨床研修センター		北島　研								
医療情報部	吉田陽一郎									
感染制御部	高田　徹	戸川　温								
再生医療センター		吉松　軍平								
医療安全管理部			小吉　里枝			中村伸理子				
臨床医学研究センター										

•[　　]は休職

令和５年４月１日現在

筑紫病院

診療科	教授	准教授	講師	講師4条7号	助教		
循環器内科	河村　彰	池　周而	高宮　陽介		奥田　哲	長田　芳久	[矢野 雅也]
呼吸器内科	石井　寛		木下　義晃		[上田 裕介]	和田　健司	吉田　祐士
内分泌・糖尿病内科	小林　邦久	阿部　一朗			工藤　忠睦		
消化器内科	植木　敏晴	久部　高司	小野陽一郎		[今村健太郎] 安川　重義	野間栄次郎	武田　輝之
脳神経内科		津川　潤		竹下　翔			
小児科		井上　貴仁			平井　貴彦	塩手　仁也	藤井　裕子
外科	渡部　雅人	東　大二郎	宮坂　義浩		川元　真 渡邉　利史	柴田　亮輔 [上床 崇吾]	髙橋　宏幸 甲斐田大貴
呼吸器・乳腺外科	山下　眞一	吉田　康浩					
整形外科	伊﨑　輝昌		坂本　哲哉	野村　智洋	小阪　英智	蓑川　創	
脳神経外科	東　登志夫		坂本　王哉		井上　律郎	神崎　貴充	
泌尿器科				宮島　茂郎	王丸　泰成		
眼科		久冨　智朗			森　雄二郎	下川亜沙美	
耳鼻いんこう科			三橋　泰仁		佐藤　晋	[梅野 悠太]	
放射線科		高野　浩一		浦川　博史	山本良太郎		
麻酔科				若崎るみ枝	中原　春奈	野口　紗織	三原　慶介
救急・総合診療科		松尾　邦浩			丸尾　達 長野　秀紀	平野　陽介 八坂　達尚	崎原　永志 松岡　優太
内視鏡部	八尾　建史			宮岡　正喜	石川　智士		
病理部	二村　聡		原岡　誠司		田邉　寛	吉村　雅代	
臨床検査部							
感染制御部		串間　尚子					
炎症性腸疾患センター				髙津　典孝	古賀　章浩		
脳卒中センター		新居　浩平			花田　迅貫		
緩和ケアセンター					箱田　浩介		
臨床医学研究センター	浦田　秀則 柴田　陽三 小川　厚	石井　龍					

令和５年４月１日現在

西新病院

診療科	教授	准教授	講師	講師4条7号	助教		
循環器内科		西川　宏明	則松　賢次 井上　寛子 河野　靖 森井　誠士		月橋　洋平	山下　素樹	上田　隆士
消化器内科		入江　真			阿部　光市		
糖尿病・代謝・内分泌内科					藤井　秀幸		
呼吸器内科				赤木　隆紀	青山　崇		

・[　　] は休職

医学部（医学科）病院の教員組織

所属＼資格		教　授	准教授	講　師	講師４条７号	助　教	計
医学科	基　礎	12	9	6	25	6	58
	臨　床	31	12	6	8	40（３）	97（３）
	総　研	0	0	0	0	0	0
	（小　計）	43	21	12	33	46（３）	155（３）
福大病院		5	20	33（４）	19（１）	92(10)	169(15)
筑紫病院		13	13	8	7	45（５）	86（５）
西新病院		0	2	4	1	6	13
合　計		61	56	57（４）	60（１）	189(18)	423(23)

教育技術職員	医学部医学科　56 ： 基礎　12	臨床　26	総研　5	その他　13
事務職	12	労務職員	2	

①（　　）は再掲した休職者・休業者（[　　]、*）数。合計には休職者・休業者を含み、兼務者は除く。
②総研に医学部 RI 施設を含む。
③医学部特別寄付講座、寄付研究連携講座、アニマルセンターは除く。

寄付研究連携講座　人員一覧表

令和５年４月１日現在

所　属	寄付研究連携講座名称	教　授	講　師	講師４条７号	助 教	研究代表者	備　考
医学部	分子循環器病治療学講座					三浦伸一郎	H23．4～R 6．3
医学部	心血管病対策マネジメント講座					三浦伸一郎	R 4．4～R 9．3
医学部	心血管疾患先進治療研究講座				田代　浩平	小川　正浩	H23．4～R 6．3
医学部	がん薬物療法研究講座					髙松　泰	H24．4～R 6．3
医学部	地域・救急医療学講座					三浦伸一郎	H24．4～R 6．3
医学部	循環生理検査治療学講座					小川　正浩	H24.10～R 5．9
医学部	西日本地区周産期医療研究講座				柴田　磨己	四元　房典	H26．4～R 6．3
医学部	応用再生医療開発講座					小玉　正太	H27．4～R 6．3
医学部	応用異種移植発展講座					小玉　正太	R 3．7～R 8．6
医学部	ニューロサイエンス・精神医学研究講座				後藤　玲央	川嵜　弘詔	H27.10～R 6．3
医学部	呼吸睡眠医学講座					藤田　昌樹	H28．4～R 6．3
医学部	運動器先端医療開発講座				柴田　達也 杉野　裕記 橋野　悠也 秀島　義章	山本　卓明	H28.10～R 5．9
医学部	先端スポーツ医学開発講座					山本　卓明	R 3.10～R 8．9
医学部	腎不全総合医療学講座			渡邉　真穂		升谷　耕介	H30．8～R 5．7
医学部	手術評価医療学講座					佐藤　寿彦	H31．3～R 6．3
医学部	在宅療養支援・リハビリテーション講座					三浦伸一郎	H31．4～R 6．3
医学部	多職種連携パーキンソン病治療研究講座				長城　晃一 河田　純一	坪井　義夫	R 1.10～R 5．9
医学部	神経疾患遠隔診療研究講座					坪井　義夫	R 2．4～R 6．3
医学部	下肢救済管理学講座					三浦伸一郎	R 3．4～R 8．3
医学部	循環器緩和ケア・医療連携講座					三浦伸一郎	R 4．7～R 9．3
筑紫病院	炎症性腸疾患先端治療学講座					植木　敏晴	H24．4～R 6．3

特別寄付講座　人員一覧

令和５年４月１日現在

所　属	特別寄付講座名称		助　教	研究代表者	備　考
医学部	地域医療管理学講座	心臓・血管内科学	出石礼仁　川井美早紀	小玉　正太	H22．4～R 7．3
		総合診療部	藤兼亜耶		
		筑紫病院・消化器内科	伊原　諒　立川勝子 天野良祐		

令和５年度　福岡大学臨床教授等一覧

臨床教授（令和５年４月１日～令和７年３月31日）　卒前学外臨床実習協力医療機関

氏　名	病　院・役 職 等
佐藤　秀一	二田哲博クリニック　天神院長
南　　昌江	南昌江内科クリニック　院長
前田　泰孝	南昌江内科クリニック　南糖尿病臨床研究センター長
宮本美知子	若杉病院
天野　角哉	さくら病院　消化器内科診療部長・内視鏡センター長
小林　広幸	福岡山王病院　副院長・消化器内科部長
森原　大輔	もりはら内科クリニック　院長
森島　直美	福岡中央病院　小児科部長
藤川麻衣子	まいこクリニック　理事長・院長
山本　　剛	やまもとこどもの診療所　理事長・院長
谷　　博樹	白十字病院　外科部長・肝胆膵センター長

氏　名	病　院・役 職 等
三上　公治	福岡中央病院　外科部長
前川　隆文	福岡中央病院　副院長
森　　寿治	ウェルネス天神クリニック乳腺診断センター　センター長
大石　正信	千早病院　整形外科部長
阿部　裕典	白十字病院　副院長・泌尿器科部長
本庄　　考	アイブイエフ詠田クリニック
河野　浩万	河野耳鼻咽喉科 Ear Surgi Clinic　院長
中島　力哉	白十字病院　放射線科部長
益崎　隆雄	ますざき医院　理事長
山﨑　繁通	トータルケアやまさきクリニック　院長
伊藤　大樹	あおばクリニック　院長

臨床教授（令和５年６月１日～令和７年３月31日）　卒前学外臨床実習協力医療機関

氏　名	病　院・役 職 等
寒水　康雄	北九州若杉病院　地域連携室長
星野　史博	村上華林堂病院　副院長・循環器内科診療部長
森　　憲	糸島医師会病院　副院長・循環器内科部長
谷川　　健	医療法人谷川放射線科胃腸科医院　理事長・院長

氏　名	病　院・役 職 等
熊井　康敬	白十字病院　副院長・脳血管内科部長
木村　廣志	白十字病院　腎臓内科部長
藤光　律子	糸島医師会病院　放射線科部長
髙良　真一	福西会病院　放射線科

臨床准教授（令和５年４月１日～令和７年３月31日）　卒前学外臨床実習協力医療機関

氏　名	病　院・役 職 等
信藤　真理	福岡中央病院　整形外科部長

氏　名	病　院・役 職 等
田中　潤一	福岡鳥飼病院　訪問診療部長

臨床准教授（令和５年６月１日～令和７年３月31日）　卒前学外臨床実習協力医療機関

氏　名	病　院・役 職 等
寺脇　悠一	二田哲博クリニック姪浜　副院長
江下　明彦	江下内科クリニック　院長
小林　知弘	白十字病院　整形外科部長

氏　名	病　院・役 職 等
納　　彰伸	白十字病院　IVR 部長
入江　悠平	白十字病院　救急科部長

臨床教授（令和５年４月１日～令和７年３月31日）　卒後臨床研修協力医療機関等

氏　名	病　院・役 職 等
友尻　茂樹	福岡赤十字病院　救急センター長 兼 部長

臨床教授（令和５年４月１日～令和７年３月31日）　関連医療機関

氏　名	病　院・役 職 等
田邉真紀人	福岡徳洲会病院　心療内科・内分泌・糖尿病内科部長
芹川　　威	福岡和白病院　循環器内科部長
村岡　聡一	薬院内科循環器クリニック　理事長
三戸　隆裕	白十字病院　心臓血管内科部長
岩田　　郁	夫婦石病院　副院長
川平幸三郎	久留米記念病院　院長
久良木隆繁	福岡徳洲会病院　副院長
白石　素公	福岡山王病院　呼吸器内科部長
緒方　利安	福岡赤十字病院　第二脳神経内科部長
木村　豪雄	桜十字福岡病院
山下　裕一	福西会病院　病院長
渕野　泰秀	白十字病院　病院長
坂口　　満	熊本整形外科病院　理事長
勝田　俊郎	済生会唐津病院　脳神経外科部長
継　　仁	福岡赤十字病院　脳神経外科部長
保田　宗紀	福岡東医療センター　脳神経外科医長

氏　名	病　院・役 職 等
武村　有祐	佐世保中央病院　脳神経外科部長
森重　徳継	済生会福岡総合病院　心臓血管外科顧問
和田　至弘	薬院血管外科クリニック　院長
伊藤宏太郎	伊藤皮膚科　副院長
坂井　和裕	エンゼル病院
竹内　　肇	竹内産婦人科クリニック　院長
井槌　邦雄	井槌病院　理事長
松本信一郎	宗像水光会総合病院　産婦人科顧問
馬渡　秀仁	馬渡産婦人科医院　院長
古賀　文敏	古賀文敏ウイメンズクリニック　院長
ファン ジェーン	村上華林堂病院　眼科部長
山野　貴史	福岡歯科大学医科歯科総合病院　耳鼻咽喉科教授
小河原利帆子	九州がんセンター　麻酔科医長
櫻井　俊弘	地方独立行政法人 芦屋中央病院　病院長
宗　　祐人	戸畑共立病院　副院長・消化器病センター長

医学部役職員及び委員名簿（下線は委員長、カッコは指定職の委員）

令和５年４月１日

医学部長：小玉　正太　看護学科主任：宮城由美子　医学研究科長：松永　　彰　アニマルセンター長：立花　克郎　医学部 RI 施設長：吉満　研吾
福大病院長：岩﨑　昭憲　福大病院副病院長：長谷川　傑・藤田　昌樹・和田　秀一・小川　正浩・甲斐　純美（看護部）
筑紫病院長：河村　　彰　筑紫病院副病院長：山下　眞一・柴田　陽三・二村　　聡
西新病院長：三浦伸一郎　西新病院副病院長：入江　　真・西川　宏明

委員会名	委員名	病院・他学部選出委員名	任期	
評議員会	(小玉)・平井・宮城		3年	5年11月
大学協議会	(小玉)・髙松(非学部選出＝緒方)		2年	5年11月
教務委員会	川浪		2年	5年11月
学生部委員会	永光		2年	5年11月
図書委員会	大倉		2年	5年11月
研究推進部委員会	小川(正)		2年	5年11月
入学センター委員会	有馬		2年	5年11月
国際センター委員会	山本		2年	5年11月
キャリアセンター委員会	佐久間		2年	5年11月
学部調整委員	鍋島(茂)・江藤		2年	5年11月
アニマルセンター運営委員会	(立花)・廣松・藤田(孝) 安永・坂田(直)	倉岡(理)・花井(工)・古賀(薬)・川中(ス)・佐藤(病院)	2年	5年11月
RIセンター委員会	(吉満)・秋吉		2年	5年11月
学生懲戒委員会	升谷		2年	5年11月

委員会名	委員名	病院・他学部選出委員名	任期	
医学部RI施設運営小委員会	(小玉)・(岩﨑)・(吉満)・(秋吉)・(榮) 立花・藤田(孝)・吉村・根本	廣瀬(龍)(病院)	2年	5年11月
教育職員資格審査委員会	小柳・末次		1年	5年11月
大学院学務委員会	平井		2年	5年11月
大学院教育職員資格審査委員会	近藤・安永		1年	5年11月
環境保全センター委員会	角田	川浪(病院)・久冨(筑紫)	2年	5年11月
医に関する倫理委員会	今泉・有馬・安永・平井 前山・中島	川島(人文)・前越(法) 金城(外部)・楠瀬(外部)	2年	6年3月
研究倫理委員会	安永・平井		2年	5年11月
遺伝子組換え実験安全委員会	(小玉)・(安永)・貴田・根本 角田		2年	5年11月
動物実験委員会	(立花)・廣松・藤田(孝)・安永 坂田(直)	川中(ス)・林(人)・倉岡(理)・武下(工) 古賀(薬)・髙田(薬)・上原(ス) 白石(武)(病院)・吉兼(筑紫)	2年	5年11月

A．医学部　常設委員会（下線は委員長、以下同じ）

令和５年４月１日

委員会名	委員名	任期	
自己点検・評価実施委員会	(学部長)小玉・(看護学科主任)宮城・(大学協議員)髙松・(教務委員)川浪・(学生部委員)永光・(図書委員)大倉・(医学教育推進講座)安元 (入学センター委員)有馬・(国際センター委員)山本・(医学研究科長)松永・(大学院学務委員)平井 (看護学専攻専攻長)緒方・(看護学科教務委員会委員長)宮城・(看護学科 FD 委員会委員)長谷川	２年	５年11月
分館図書小委員会	(図書委員)大倉・(基礎３名・臨床２名)安元・石井・坂田(直)・田中(俊)・漆山・(看護学科)小柳・(筑紫)久冨	２年	５年11月
医学情報センター運営委員会	(図書委員)大倉・(分館図書小委員)安元・石井・坂田(直)・田中(俊)・漆山・(看護学科)小柳・(筑紫)久冨・(事務部長)田中(孝)	２年	５年11月
医学紀要編集委員会	(研究推進部委員)小川(正)・秋吉・佐藤・髙木・永光・藤田(孝)・升谷・安部・今泉・塩飽・濵﨑・(看護学科)大田・(看護学科)黒髪	２年	５年11月
医学部広報委員会	(学部長)小玉・(看護学科主任)宮城・(大学協議員)髙松・(教務委員)川浪・(学生部委員)永光・(図書委員)大倉 (入学センター委員)有馬・(国際センター委員)山本・(医学研究科長)松永・(大学院学務委員)平井 (総合研究室世話人)藤田(孝)・坂田(直)・濵﨑・近藤・平井・川嵜・(電子顕微鏡センター運営委員長)向坂・(看護学科 入試委員長)浦	２年	５年11月
兼業審査委員会(教育職員)	(学部長)小玉・(大学協議員)髙松・(評議員)平井・(看護学科主任)宮城 ※看護学科主任は、看護学科所属教職員から兼業申請があった場合のみとする。	２年	５年11月

B．医学部　随時委員会

委員会名	委員名	任期	
禁煙推進委員会	(学生部委員)・(学部長)・(医学科クラス主担任６名)・看護学科３名	１年	－

C．医学科　常設委員会

委員会名	委員名	任期	
教務委員会 入試委員会 学生委員会	(学部長)小玉・(前学部長)－・(福大病院長)岩﨑・(大学協議員)髙松・(教務委員)川浪・(前教務委員)－・(入学センター委員)有馬 (学生部委員)永光・(研究科長)松永・(大学院学務委員)平井・(図書委員)－・ (大学院教育職員資格審査委員)安永・近藤 (国際センター委員)山本・(各学年担任)安永・升谷／藤田(孝)・平井／立花・秋吉／長谷川・岩本／坂田(俊)・廣松／今福・有馬 (国試対策委員会責任者)北島・(筑紫病院教育委員)二村・(次年度 MM1担任)濵﨑・小川 (医学教育推進講座)安元・(事務)田中(孝)	１年	６年３月
総合試験委員会	(教務委員)川浪・(学部長)小玉・(医学教育推進講座)安元 青木・有馬・吉村・佐藤・久保・今泉・田中(俊)・髙田(徹)・横溝・杉原・桑野・釈迦堂・船越・升谷・三宅(勝)・藤田(昌)・合馬・原田(康)・後藤・新居見・音田・清水・吉満・高山・長谷川・上田・森下・和田・桑原・三宅(智)・原田(一)・坂田・中村・漆山・平川・宮田・重松・楠本・瀬戸・森戸・岩朝・喜多村・鈴木・坂本・北島・吉田	１年	６年３月
国試対策委員会	(委員長)北島・三嶋・中尾・吉兼・伊藤(建)・平川・飯田・船越・佐々木(秀)・牟田・安元	１年	６年３月
ＣＢＴ委員会	(教務委員)川浪・(学部長)小玉・(医学教育推進講座)安元 貴田・角田・藤田(孝)・大野・根本・牟田・廣松・吉村(芳)・前田・川添・阿部(真)・柏木・吉松・今泉・磯部・髙田(徹)・横溝・加藤・末松・芦塚・田中・伊藤・氷室・井上・三嶋・原田(康)・後藤・新居見・音田・佐藤・吉満・高山・長谷川・増田・竹本・和田・松村・三宅(智)・原田(一)・末田・中村・重川・宮田・伊東・岩下・柴田・梅本・森戸・岩朝・喜多村・鈴木・北島・日吉	１年	６年３月
カリキュラム検討委員会	(教務委員)川浪・(医学教育推進講座)安元・(基礎)岩本・(臨床内科系)藤田(昌)・(臨床外科系)長谷川・(事務部長)田中(孝)・(学生代表)２名	１年	５年11月
医学教育評価委員会	(基礎系教授)・(臨床内科系教授)・(臨床外科系教授)・(事務部長)	１年	—
ＦＤ推進委員会	(学部長)・(教務委員)・(医学教育推進講座)・(基礎系教授)・(臨床内科系教授)・(臨床外科系教授)	１年	—
臨床実習検討委員会	(学部長)・(福大病院長)・(教務委員)・(卒後臨床研修センター長)・(医学教育推進講座)・(各診療科の C.C 実施責任者)	１年	—
医学教育検討委員会	(学部長)・(教務委員)・(医学教育推進講座)・(基礎系教授)若干人・(臨床内科系教授)若干人・(臨床外科系教授)若干人・(認証評価経験者)若干人	１年	—
クラス担任会	(学部長)小玉・(教務委員)川浪・(学生部委員)永光 (１年)安永・升谷　(２年)藤田(孝)・平井　(３年)立花・秋吉　(４年)長谷川・岩本　(５年)坂田(俊)・廣松 (６年)今福・有馬	１年	６年３月
予算委員会	(学部長)小玉・(福大病院長)岩﨑・(筑紫病院長)河村・(大学協議員)髙松・(教務委員)川浪・(図書委員)大倉・(研究科長)松永 (大学院学務委員)平井・(アニマルセンター長)立花・(電子顕微鏡センター運営委員長)向坂・(医学部 RI 施設長)吉満・(研究推進部委員)小川(正) (総合研究室世話人)藤田(孝)・坂田(直)・濵﨑・近藤・平井・川嵜 (基礎・臨床各２名)安永・有馬・安部・升谷	１年	５年11月
准教授・講師選考委員会	(学部長)小玉・(学部長が医学科教授会議に推薦して選任した者)近藤・安永 (基礎・臨床各３名)有馬・白澤・廣松・小川・平井・永光	１年	５年11月
教育技術職員審議会	(学部長)小玉・(評議員)平井・宮城・(大学協議員)髙松・(事務部長)田中(孝)	役職任期満了交代制	

委員会名	委員名	任期	
総合研究室運営委員会	(学部長)小玉・(研究科長)松永・(研究推進部委員)小川(正)・(人体生物系世話人)藤田(孝)・ (生体制御系世話人)坂田(直)・(病態構造系世話人)濵崎 (病態機能系世話人)近藤・(先端医療科学系世話人)平井・(社会医学系世話人)川嵜・(電顕運営委員長)向坂・ (基礎)安永・(臨床)安部	1年	5年11月
電子顕微鏡センター運営委員会	委員長(臨床系講座)向坂・(人体生物系)貴田・(生体制御系)坂田(直)・(病態構造系)上杉・(臨床系講座)升谷	2年	5年11月
個人評価自己申告書点検委員会	(世話人)立花・羽賀・(作業部会)基礎系講座及び臨床講座の准教授ないしは講師	1年	5年3月
国際交流委員会	(学部長)小玉・(国際センター委員)山本・(教務委員)川浪・(学生部委員)永光・(学部長が認めた若干人)	1年	5年11月
医学生業績報告書(JAMeS)編集委員会	(委員長)三浦・川浪・安元・小玉・山本・学生会会長	1年	5年11月

D．医学科　随時委員会

委員会名	委員名	任期	
C・C実施責任者会	髙松・高田／三浦・杉原／平井・田中・福永／升谷・三宅／坪井・三嶋／(教務委員)川浪・髙士・牟田／藤田(昌)・ 濵田／長谷川・塩飽・山田／佐藤・中島 岩朝・喜多村／四元・宮田・漆山／永光・伊東・宮本／川嵜・畑中／二村／吉満・肥田／小川・森戸／ 秋吉・重松・楠本／山本・三宅／和田・林田 中村・松﨑／古賀・筒井／高橋・川村／末田・妻鳥／安部・小林／上杉・青木／髙木・鈴木／神村・兼重／ 瀬戸・吉野・喜多／野田／鎌田・藤見／鍋島・日吉	1年	6年3月

E．医学科　外部委員会

委員会名	委員名	任期	
外部評価・問題検討委員会	(学部長)・(教務委員)・(医学教育推進講座)・(医学教育評価委員会)2人・(本学以外の大学教員)若干人 (本学以外の病院医師)若干人・(医学教育に関わる学外者)若干人・(医師会、行政機関代表者)若干人	1年	—

4．入試・教務・国試

1．令和６年度入学者　入学試験・入学者状況

医学科では、平成21年度からの入試制度改革により、①地域枠推薦、②Ａ方式推薦、③附属校推薦、④学部留学生選抜、⑤一般選抜、⑥共通テスト利用型選抜の６つの異なる入学選抜方式を採用している。その趣旨は、優秀な人材の確保のみならず、地域医療の充実や国際交流促進の観点に立ち、幅広く人材を求めることにある。また、人物評価をより客観的かつ適切に行う為に、学部留学生選抜・附属校推薦を除く入学試験において受験者４～６名に対し面接者３名による集団面接を導入している。

令和６年度　入学試験・入学者の状況を表１に示す。

１）学校推薦型選抜（Ａ方式、地域枠、附属校）では、英語と数学の筆記試験を実施し、併せて集団面接（附属校は、個別面接）を行った。附属校推薦入学制度は39年目を迎え、今年度の推薦者数は17名で、前年度と比べ７名増加した。厳正な選考の結果、５名を合格とした。その他の学校推薦型選抜の志願者数は、Ａ方式推薦が122名、地域枠推薦が50名と、前年度と比べＡ方式が12名減少し、地域枠が12名増加した。Ａ方式推薦及び地域枠推薦はそれぞれ26名、９名を合格とし、計35名を推薦入試全体の合格とした。

２）一般選抜では英語、数学の配点をそれぞれ100点、理科２科目（物理、化学、生物より２科目選択）の配点を200点として、合計400点の学力考査結果をもとに第一次選抜を行った。

一般選抜は、本学（福岡）、東京、名古屋、大阪の４会場で令和６年２月２日に実施した。志願者数は2,071名で前年度（2,127名）と比べ56名減少した。受験者数は1,905名で、一次試験の最高点362点から最低点269点までの453名を一次合格とした。

二次試験は面接と一次試験の結果で総合的に選考した。学校推薦型選抜・学部留学生選抜・共通テスト利用型選抜を除く定員65名に対し、最高点404点から最低点323点までの131名を正規合格とした。

３）平成26年度から大学入試センター試験利用入試（令和３年度より大学入学共通テスト）を実施した。令和６年度大学入学共通テストにおける指定科目を英語200点、国語100点、数学２科目（数学Ⅰ・数学Ａ、数学Ⅱ・数学Ｂ）の200点、理科２科目選択（物理、化学、生物）の200点とし、合計700点で第一次選抜を行った。志願者数は451名で、第一次選抜の最高得点は690点から550.2点までの145名を一次合格とした。二次試験は面接と一次試験の結果で総合的に選考した。定員５名に対し、最高点728点から最低点638点までの22名を正規合格とした。

４）学部留学生選抜では３名の志願者があった。筆記試験・面接・小論文・書類審査で選考の結果、合格者はいなかった。

５）令和６年度　入学者のまとめ

一般入学試験では、正規合格者131名中55名（42.0%）、追加合格者14名中10名（71.4%）が入学した。共通テスト利用型選抜では、正規合格者22名中１名（4.5%）、追加合格者31名中４名（12.9%）が入学した。推薦入学者40名（Ａ方式、附属校、地域枠）を加え、全体の入学者数は定員通りの計110名となった。男・女構成は、男子62名、女子48名である。

表１　令和６年度入学者　医学部医学科入学試験状況

	志願者数(一次)		受験者数(一次)		合格者数(一次)		受験者数(二次)		合格者数(二次)		追加合格者数		入学者数	
	全体	女子数	全体	女子数	全体	女子数	全体	女子数	全体	女子数	全体	女子数	全体	女子数
一　般　選　抜	2,071	772	1,905	719	453	157	384	129	131	45	14	5	65	23
共通テスト利用型選抜	451	191	447	190	145	64	115	53	22	8	31	19	5	4
Ａ 方 式 推 薦	122	51	121	51					26	11			26	11
地 域 枠 推 薦	50	27	50	27					9	7			9	7
附 属 校 推 薦	17	7	17	7					5	3			5	3
学部留学生選抜	3	2	2	2					0	0			0	0
計	2,714	1,050	2,542	996	598	221	499	182	193	74	45	24	110	48

（入学センター委員　有馬 久富）

２．カリキュラム改編

第１学年から第４学年では、学生の成績評価に関する信頼性、妥当性および利益相反がないことを外部評価者（科目外の教員）が評価し、かつ学生の進級判定をその学年の教育を担当した全科目の教員で確認することを目的に、令和２年度から成績評価検討会議を開始した。その結果に基づいて教務委員会、教授会で審議を行うことで、より適正な学生の評価が可能となった。

第５学年は、臨床実習を通じて医師として必要な臨床判断や技能、態度を学んでいる。同時に国家試験を目指して医学的知識の修得状況を段階的に評価することを目的に、令和２年度から年度末の進級判定試験に加えて中間試験を３ヵ月毎に３回行っている。今年度も続行した。

第６学年は、臨床修練Ⅰに引き続いて４～６月に臨床修練Ⅱを行っている。継続的に臨床実習を行うことで、臨床能力・態度の習得度が高まると期待される。

図１－１　令和５年度　医学部医学科６年生日程

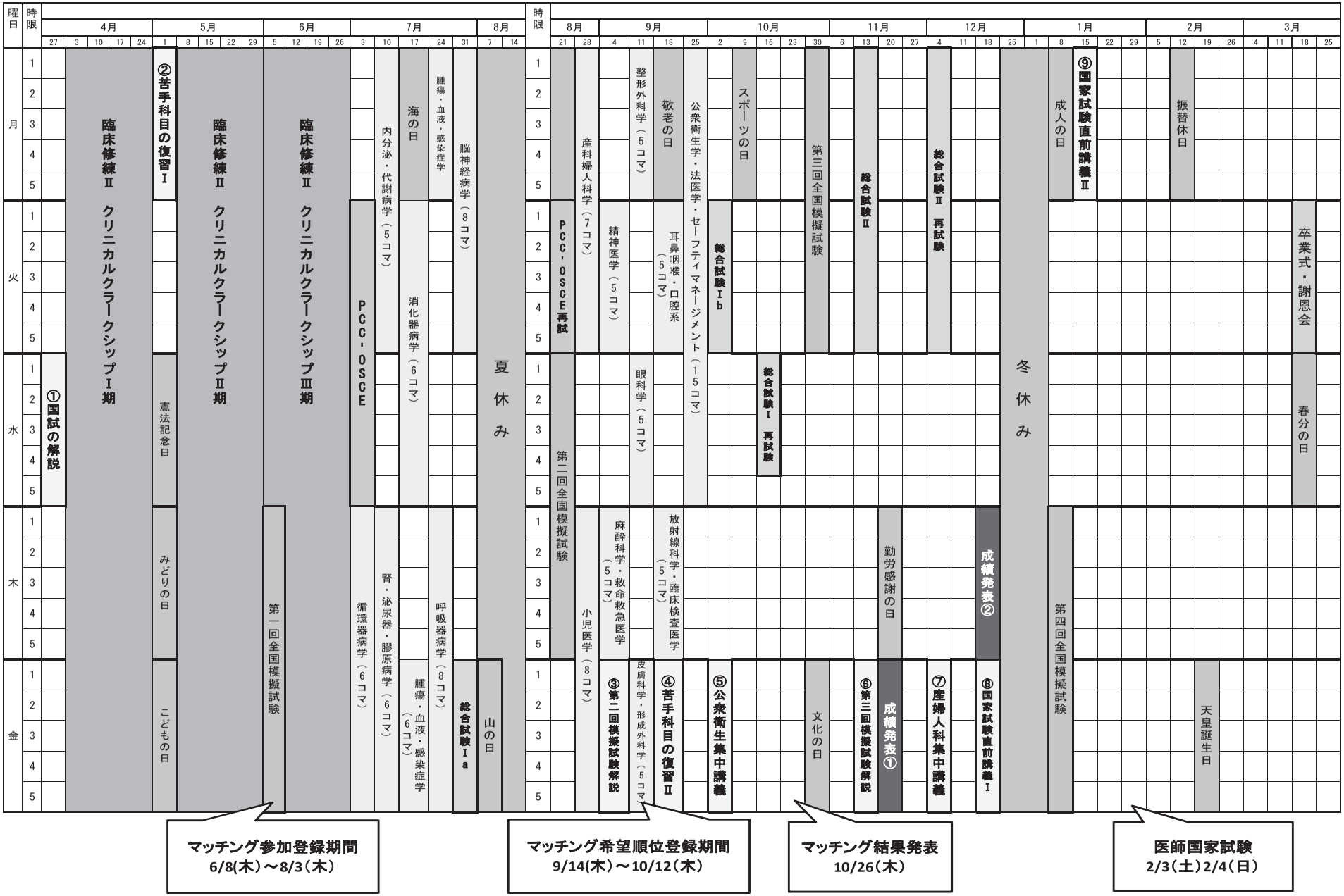
令和５年

３月29日(水)	特別講義（第１回）
４月３日(月)～４月28日(金)	臨床修練Ⅱクリニカルクラークシップ　Ⅰ期
５月１日(月)	特別講義（第２回）
５月８日(月)～６月２日(金)	臨床修練Ⅱクリニカルクラークシップ　Ⅱ期
６月５日(月)～６月30日(金)	臨床修練Ⅱクリニカルクラークシップ　Ⅲ期
６月８日(木)～６月９日(金)	第１回　全国模擬試験
７月４日(火)～７月５日(水)	Post-CC OSCE【共用試験】
７月６日(木)～８月１日(火)	領域別集中講義Ⅰ
８月４日(金)	総合試験Ⅰa
８月22日(火)	Post-CC OSCE【共用試験】再試験
８月23日(水)～８月24日(木)	第２回　全国模擬試験
８月28日(月)～９月27日(水)	領域別集中講義Ⅱ
９月８日(金)	特別講義（第３回）
９月22日(金)	特別講義（第４回）
10月３日(火)	総合試験Ⅰb
10月６日(金)	特別講義（第５回）
10月18日(水)	総合試験Ⅰ再試験
10月30日(月)～10月31日(火)	第３回　全国模擬試験
11月13日(月)～11月14日(火)	総合試験Ⅱ【卒業試験】
11月17日(金)	特別講義（第６回）
11月24日(金)	成績発表１【一次卒業判定】
12月４日(月)～12月５日(火)	総合試験Ⅱ【再試験】
12月８日(金)	特別講義（第７回）
12月21日(木)	成績発表２【二次卒業判定】※再試験者のみ
12月22日(金)	特別講義（第８回）

令和６年

１月11日(木)～１月12日(金)	第４回　全国模擬試験
１月15日(月)	特別講義（第９回）
２月３日(土)～４日(日)	第118回　医師国家試験
３月19日(火)	卒業式・謝恩会

図１−２　令和５年度　医学部医学科６年生カリキュラム



3．医学教育ワークショップ

ワークショップは４回実施した。各回のテーマは次の通りであった。

第１回（通算86回）

１「第117回 医師国家試験講評および今後の課題」

２「学外臨床実習の進捗状況および令和５年度からの医学科教務に関する変更点について」

第２回（通算87回）

１「医学科2023年度入試の状況について」

２「IR から医学科入学試験のあり方を考える」

第３回（通算88回）

１「今後のカリキュラム改革について」

２「第118回医師国家試験へ向けた対策」

第４回（通算89回）

「地域医療を支える医師会のいま、そしてこれからの医師としてのキャリアパスを一緒に考えよう」

4．国家試験結果

第118回医師国家試験は、令和６年２月３～４日に行われた。

本学からは新卒者113名が受験し、96名（85.0%）が合格した。合格率の順位は全国82大学中82位であった（昨年度は91.1%で73位）。既卒者は13名が受験して10名（76.9%）が合格。新卒者、既卒者を合わせた全体の合格者は126名中106名（84.1%）で、全国82大学中81位であった（昨年度は合格率89.0%で68位）。

本学卒業生の国家試験合格者数を表２、３に示す。全卒業生数は4,844名で、そのうち41名が未合格者数である。

（教務委員　川　浪　大　治）

表２　医師国家試験合格状況：全国平均・私大平均との比較

卒業回	国試（回）	年	新卒＋既卒							新卒							既卒		
			受験者（名）	合格者（名）	合格率（％）	全国平均（％）	全国順位（　位／　校）	私大平均（％）	私大順位（　位／　校）	受験者（名）	合格者（名）	合格率（％）	全国平均（％）	全国順位（　位／　校）	私大平均（％）	私大順位（　位／　校）	受験者（名）	合格者（名）	合格率（％）
47回生	118	2024	126	106	84.1	92.4	81 / 82	94.1	30 / 31	113	96	85.0	95.4	82 / 82	96.2	31 / 31	13	10	76.9
46回生	117	2023	118	105	89.0	91.6	68 / 82	92.3	24 / 31	112	102	91.1	94.9	73 / 82	94.6	24 / 31	6	3	50.0
45回生	116	2022	101	95	94.1	91.7	31 / 81	92.4	15 / 30	86	84	97.7	95.0	19 / 81	95.2	9 / 30	15	11	73.3
44回生	115	2021	118	104	88.1	91.4	68 / 80	91.1	21 / 29	104	95	91.3	94.4	69 / 80	93.8	22 / 29	14	9	64.3
43回生	114	2020	138	123	89.1	92.1	73 / 80	93.3	24 / 29	98	92	93.9	94.9	66 / 80	95.4	23 / 29	40	31	77.5
42回生	113	2019	139	100	71.9	89.0	80 / 80	88.9	29 / 29	117	88	75.2	92.4	80 / 80	91.5	29 / 29	22	12	54.5
41回生	112	2018	123	101	82.1	90.1	78 / 80	90.2	27 / 29	100	83	83.0	93.3	77 / 80	92.8	26 / 29	23	18	78.3
40回生	111	2017	108	85	78.7	88.7	77 / 80	86.5	26 / 29	93	77	82.8	91.8	75 / 80	89.4	24 / 29	15	8	53.3
39回生	110	2016	120	105	87.5	91.5	74 / 80	91.6	25 / 29	107	97	90.7	94.3	72 / 80	94.2	23 / 29	13	8	61.5
38回生	109	2015	113	100	88.5	91.2	66 / 80	90.6	20 / 29	93	86	92.5	94.5	66 / 80	94.0	19 / 29	20	14	70.0
37回生	108	2014	123	101	82.1	90.6	78 / 80	89.7	27 / 29	99	84	84.8	93.9	78 / 80	92.5	27 / 29	24	17	70.8
36回生	107	2013	126	102	81.0	89.8	77 / 80	88.9	27 / 29	101	87	86.1	93.1	74 / 80	91.8	24 / 29	25	15	60.0
35回生	106	2012	122	95	77.9	90.2	80 / 80	90.2	29 / 29	98	78	79.6	93.9	79 / 80	93.5	28 / 29	24	17	70.8
34回生	105	2011	123	99	80.5	89.3	77 / 80	88.0	26 / 29	98	84	85.7	92.6	76 / 80	91.5	25 / 29	25	15	60.0
33回生	104	2010	113	88	77.9	89.2	77 / 80	87.1	26 / 29	101	81	80.2	92.8	80 / 80	91.1	29 / 29	12	7	58.3
32回生	103	2009	121	108	89.3	91.0	59 / 80	89.4	18 / 29	106	100	94.3	94.8	56 / 80	93.4	16 / 29	15	8	53.3
31回生	102	2008	118	103	87.3	90.6	67 / 80	89.3	21 / 29	91	82	90.1	94.4	72 / 80	93.4	22 / 29	27	21	77.8
30回生	101	2007	132	103	78.0	87.9	76 / 80	84.7	25 / 29	97	86	88.7	92.3	68 / 80	89.6	19 / 29	35	17	48.6
29回生	100	2006	134	99	73.9	90.0	80 / 80	89.2	29 / 29	111	85	76.6	93.9	80 / 80	93.2	29 / 29	23	14	60.9
28回生	99	2005	114	92	80.7	89.1	76 / 80	87.1	25 / 29	95	82	86.3	93.3	77 / 80	92.2	26 / 29	19	10	52.6
27回生	98	2004	114	95	83.3	88.4	68 / 80	85.5	19 / 29	99	91	91.9	92.9	56 / 80	90.8	14 / 29	15	4	26.7
26回生	97	2003	120	104	86.7	90.3	64 / 80	88.4	18 / 29	102	100	98.0	94.7	13 / 80	93.6	3 / 29	18	4	22.2
25回生	96	2002	121	103	85.1	90.4	71 / 80	87.4	20 / 29	94	90	95.7	94.3	32 / 80	92.6	8 / 29	27	13	48.1
24回生	95	2001	141	116	82.3	90.4	75 / 80	87.5	24 / 29	90	77	85.6	94.4	77 / 80	92.6	26 / 29	51	39	76.5
23回生	94	2000	136	81	59.6	79.1	76 / 80	73.8	25 / 29	93	61	65.6	82.9	76 / 80	77.8	25 / 29	43	20	46.5
22回生	93	1999	120	76	63.3	84.1	79 / 80	79.2	28 / 29	96	70	72.9	87.4	79 / 80	83.4	28 / 29	24	6	25.0
21回生	92	1998	120	95	79.2	89.6	76 / 80	87.4	26 / 29	94	83	88.3	93.0	71 / 80	91.5	24 / 29	26	12	46.2
20回生	91	1997	137	111	81.0	88.1	71 / 80	86.0	22 / 29	109	93	85.3	91.7	72 / 80	90.3	24 / 29	28	18	64.3
19回生	90	1996	136	107	78.7	89.3	75 / 80	85.8	24 / 29	104	89	85.6	93.2	73 / 80	90.5	22 / 29	32	18	56.3
18回生	89	1995	128	96	75.0	86.0	70 / 80	80.3	19 / 29	99	81	81.8	90.0	70 / 80	84.7	19 / 29	29	15	51.7
17回生	88	1994	147	118	80.3	86.2	70 / 80	83.5	21 / 29	104	94	90.4	90.2	46 / 80	88.0	16 / 29	43	24	55.8
16回生	87	1993	162	117	72.2	90.0	79 / 80	86.8	28 / 29	127	91	71.7	93.5	80 / 80	91.0	29 / 29	35	26	74.3
15回生	86	1992	132	98	74.2	84.0	73 / 80	79.4	22 / 29	95	79	83.2	88.0	68 / 80	84.3	22 / 29	37	19	51.4
14回生	85	1991	136	100	73.5	84.1	71 / 80	78.0	20 / 29	98	76	77.6	87.7	73 / 80	82.4	20 / 29	38	24	63.2

表３　国家試験合格状況

卒業回	国試実施年		78～93年	94年	95年	96年	97年	98年	99年	00年	01年	02年	03年	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	未合格者数
	国試回		65～87回	88回	89回	90回	91回	92回	93回	94回	95回	96回	97回	98回	99回	100回	101回	102回	103回	104回	105回	106回	107回	108回	109回	110回	111回	112回	113回	114回	115回	116回	117回	118回	
	合格者数		1684	118	96	107	111	95	76	81	116	103	104	95	92	99	103	103	108	88	99	95	102	101	100	105	85	101	100	123	104	95	105	106	
	卒業生数	累積	*1687*	*1805*	*1901*	*2008*	*2119*	*2214*	*2290*	*2371*	*2487*	*2590*	*2694*	*2789*	*2881*	*2980*	*3083*	*3186*	*3294*	*3382*	*3481*	*3576*	*3678*	*3779*	*3879*	*3984*	*4069*	*4170*	*4270*	*4393*	*4497*	*4592*	*4697*	*4803*	41
1~6回生	590	*590*	586															1																	3
7回生	128	*718*	128																																0
8回生	151	*869*	151																																0
9回生	116	*985*	114	1																															1
10回生	104	*1089*	103																																1
11回生	118	*1207*	116																																2
12回生	93	*1300*	93																																0
13回生	115	*1415*	115																																0
14回生	99	*1514*	98																																1
15回生	95	*1609*	92	3																															0
16回生	127	*1736*	91	20	7		4	2																											3
17回生	104	*1840*		94	8	2																													0
18回生	99	*1939*			81	16	2																												0
19回生	105	*2044*				89	12				1		1																						2
20回生	109	*2153*					93	10	1	1	1				1																					2
21回生	94	*2247*						83	5	2	2				1																					1
22回生	96	*2343*							70	17	5	1		1																						2
23回生	93	*2436*								61	30	1			1																					0
24回生	90	*2526*									77	11	2																							0
25回生	94	*2620*										90	1	1	1																					1
26回生	102	*2722*											100	2																						0
27回生	99	*2821*												91	6	2																				0
28回生	95	*2916*													82	12		1																		0
29回生	112	*3028*														85	17	8	1																	1
30回生	97	*3125*															86	11																		0
31回生	91	*3216*																82	7	2																0
32回生	106	*3322*																	100	5																1
33回生	101	*3423*																		81	15	4	1													0
34回生	98	*3521*																			84	13	1													0
35回生	98	*3619*																				78	13	4	2									1		0
36回生	101	*3720*																					87	13	1											0
37回生	99	*3819*																						84	11	3										1
38回生	93	*3912*																							86	5	2									0
39回生	107	*4019*																								97	6	4								0
40回生	93	*4112*																									77	14	2							0
41回生	100	*4212*																										83	10	7						0
42回生	118	*4330*																											88	24	3	1		1	1
43回生	99	*4429*																												92	6	1			0
44回生	104	*4533*																													95	9			0
45回生	86	*4619*																														84	2		0
46回生	112	*4731*																															102	9	1
47回生	113	*4844*																																96	17

5．学生の表彰・指導及び課外活動

令和５年度（令和５年４月から令和６年３月）に行われた医学部医学科学生関係の主な行事について報告する。

1．医学部新入生歓迎式

４月１日　於：RI 大講堂

2．医学部長賞表彰式（医学科）

前年度に学業ならびに課外活動等において、特に優れた成績を収めた学生個人または団体に対し医学部長賞を授与した。

3．新入生学部指導懇談会（医学科）

４月２日　於：RI 大講堂

新入生110名に対する学生部関係のガイダンス

１）学内説明、教務部、学生部に関する諸手続きの説明

２）医学部同窓会紹介及び医学部愛好会紹介

※令和５年度の医学部愛好会は、表１のとおり。

4．新入生　フレッシュマンスタートアップミーティング

４月６日　於：RI 大講堂他

5．医学部医学科新入生歓迎会

５月11日　於：ホテルニューオータニ博多

6．学生定期健康診断

（新　入　生）５月29日～６月２日、６月５日、６月15日～16日　於：本学健康管理センター

（２・３年生）５月11日～12日　於：医学部研究棟本館前

7．日本学生支援機構奨学生、福岡大学奨学生、各種団体奨学生採用者数（医学科）

１）日本学生支援機構奨学生：（第一種）22名、（第二種）38名

２）日本学生支援機構奨学生（給付奨学金）：７名

３）福岡大学課外活動給費奨学金：０名

４）福岡大学貸与奨学生：１名

５）緊急給付型経済支援による授業料等減免：０名

６）大規模災害及び感染症拡大の影響等による授業料等減免：０名

７）入試成績優秀者奨学金 FU スカラシップ：３名

８）福岡大学有信会奨学金：０名

９）福岡大学利子補給奨学金：３名

8．第75回西日本医科学生総合体育大会結団式：７月10日

9．第75回西日本医科学生総合体育大会

７月31日～８月25日　代表主管校：大阪大学

10. 第54回医学部長杯争奪ソフトボール大会【中止】

11. 第48回医学部長杯争奪バレーボール大会

９月18日　於：第二記念会堂

12. 第43回医学祭【中止】

13. 第47回医学部愛好会幹部研修会

令和６年２月16日　於：RI 大講堂

14. 第47回医学部医学科学位記授与式

令和６年３月19日　於：RI 大講堂

15. 第47回医学部医学科卒業生謝恩会

令和６年３月19日

（卒業記念品は以下の通り）

教授会から：印鑑付ボールペン

同窓会から：パニックマニュアル一式

16. 第63回九州・山口医科学生体育大会結団式【中止】

17. 第63回九州・山口医科学生体育大会

令和６年３月～令和６年６月　総合主管校：九州大学

18. 総評

令和５年度はCOVID-19が「５類」に移行し、コロナ禍で中止を余儀なくされていた様々な催しが再開されるに至りました。令和５年５月より医学部愛好会活動における指針が緩和され、新型コロナウイルス感染症拡大前と同等の活動が可能となり、４年ぶりに西日本医科学生総合体育大会（第75回西医体）が開催され、本学からも各愛好会が出場しました。さらに、これもコロナ禍で中止されていた、卒業生の謝恩会が５年ぶりに開催されました。今後もさらに様々な催しが復活することができると思います。この数年間、従来の活動がストップしていましたが、医療人育成に大切な社会性、協調性、行動力の向上に役立つ催しが再開されるのは喜ばしいことと思います。

（学生部委員　鍋　島　茂　樹）

表１　福岡大学医学部愛好会一覧表

（令和５年５月現在）

	愛好会名	顧問名	医学部医学科　学年別部員数内訳［(　)内数字は女子部員数］						
			総数	１年	２年	３年	４年	５年	６年
1	ラグビー	小玉　正太	46 (20)	7 (3)	11 (5)	5 (1)	9 (3)	7 (2)	7 (6)
2	バスケットボール	岩朝　光利	30 (10)	7 (2)	10 (5)	5 (1)	4 (1)	2 (1)	2 (0)
3	準硬式野球	植木　敏晴	33 (11)	5 (2)	6 (1)	11 (3)	1 (0)	5 (1)	5 (4)
4	アーチェリー	坂田　俊文	32 (9)	5 (4)	4 (0)	1 (1)	16 (3)	3 (1)	3 (0)
5	ゴルフ	柴田　陽三	42 (20)	4 (1)	6 (4)	9 (4)	7 (2)	8 (5)	8 (4)
6	剣道	鍋島　茂樹	20 (10)	3 (2)	3 (1)	3 (2)	4 (2)	1 (1)	6 (2)
7	サッカー	髙木　誠司	36 (0)	8 (0)	12 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	12 (0)
8	バレーボール	八尋　英二	32 (13)	8 (4)	8 (3)	3 (0)	5 (2)	4 (1)	4 (3)
9	硬式庭球	永光信一郎	37 (12)	8 (3)	14 (5)	3 (0)	1 (1)	7 (2)	4 (1)
10	柔道	川浪　大治	8 (3)	2 (1)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (2)	1 (0)
11	卓球	藤田　昌樹	20 (9)	4 (2)	2 (0)	2 (2)	3 (1)	5 (3)	4 (1)
12	空手道	－	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －
13	フェンシング	－	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －
14	ソフトテニス	坪井　義夫	25 (13)	7 (3)	3 (0)	4 (3)	5 (2)	3 (3)	3 (2)
15	漕艇	長谷川　傑	25 (4)	5 (1)	4 (1)	5 (0)	4 (1)	2 (0)	5 (1)
16	軟式野球	羽賀　宣博	17 (1)	2 (1)	5 (0)	3 (0)	3 (0)	3 (0)	1 (0)
17	英語研究会	立花　克郎	37 (29)	6 (5)	6 (6)	11 (10)	5 (2)	5 (3)	4 (3)
18	ワンダーフォーゲル	角田　俊之	46 (20)	7 (3)	11 (5)	5 (1)	9 (3)	7 (2)	7 (6)
19	写真	吉満　研吾	14 (5)	0 (0)	3 (0)	0 (0)	3 (1)	3 (2)	5 (2)
20	バドミントン	今福　信一	36 (20)	9 (6)	5 (2)	7 (4)	5 (4)	5 (2)	5 (2)
21	社会医学研究会	久保　真一	12 (3)	1 (1)	2 (1)	2 (1)	0 (0)	2 (0)	5 (0)
22	医用電子科学研究会	濵﨑　慎	7 (1)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	1 (0)
23	水泳	三浦伸一郎	45 (20)	10 (5)	8 (1)	4 (1)	6 (5)	8 (4)	9 (4)
24	弓道	川嵜　弘詔	25 (16)	6 (4)	3 (3)	4 (3)	2 (0)	3 (2)	7 (4)
25	ウインドサーフィン	平井　郁仁	11 (2)	3 (2)	5 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
26	音楽研究会	安部　洋	82 (45)	14 (5)	18 (9)	12 (4)	19 (7)	9 (14)	10 (6)
27	競技スキー愛好会	芝口　浩智	5 (1)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (1)	1 (0)
28	フットサル	白澤　専二	40 (15)	2 (0)	4 (1)	6 (4)	14 (5)	5 (0)	9 (5)
29	ＣＭｅＴ（準）	石倉　宏恭	15 (2)	2 (2)	0 (0)	1 (0)	3 (0)	3 (0)	6 (0)
30	管弦楽（準）	松永　彰	20 (11)	1 (1)	4 (2)	1 (1)	5 (1)	2 (1)	7 (5)
合計			798 (325)	138 (63)	162 (55)	109 (46)	136 (46)	111 (54)	142 (61)
総学生数			686 (263)	124 (58)	130 (42)	97 (40)	116 (41)	97 (33)	122 (49)
入会率			116.3% (123.6%)	111.3% (108.6%)	124.6% (131.0%)	112.4% (115.0%)	117.2% (112.2%)	114.4% (163.6%)	116.4% (124.5%)

6．大学院医学研究科

1．在　籍　者　数

本年度の大学院在籍者は124名であった。　（令和５年５月１日現在）

	１年次	２年次	３年次	４年次以上	計
人体生物系	3	0	0	0	3
生体制御系	1	0	1	3	5
病態構造系	2	3	4	6	15
病態機能系	4	9	7	11	31
社会医学系	2	4	7	10	23
先端医療科学系	11	12	10	14	47
計	23	28	29	44	124

2．専攻分野、専攻科名及び指導教員

（令和５年５月１日現在）

専攻分野	専攻科名	指導教員		定員
人体生物系	生体構造学	博(医)	立花　克郎	3
	分子細胞生物学	博(医)	白澤　専二	
	細胞分子制御学	博(医)	藤田　孝之	
生体制御系	生体防御学	博(医)	廣松　賢治	2
	再生・移植医学	博(医)	小玉　正太	
	呼吸病態生理学	博(医)	藤田　昌樹	
	再生再建外科学	博(医)	髙木　誠司	
病態構造系	形態病理学	博(医)	二村　聡	8
	腫瘍病理学	博(医)	濵﨑　慎	
	高次中枢病態学	博(医)	安部　洋	
	視覚病態学	博(医)	内尾　英一	
	腎・尿路病態学	博(医)	羽賀　宣博	
	消化器病態学	博(医)	植木　敏晴	
	〃	博(医)	八尾　建史	
	脳神経病態学	医博	坪井　義夫	
	腎免疫・代謝病態学	博(医)	升谷　耕介	
病態機能系	細胞分子薬理学	博(薬)	岩本　隆宏	8
	神経耳科学	博(医)	坂田　俊文	
	関節機能学	博(医)	山本　卓明	
	運動器機能学	医博	柴田　陽三	
	循環機能学	博(医)	和田　秀一	
	放射線応用医学Ⅰ	博(医)	吉満　研吾	
	放射線応用医学Ⅱ	博(医)	長町　茂樹	
	脳卒中予防・地域医療学	博(医)	東　登志夫	
	麻酔学	博(医)	秋吉浩三郎	
	救命救急医学	博(医)	石倉　宏恭	
	口腔病態学	博(歯)	近藤　誠二	
社会医学系	予防医学・公衆衛生学	博(医)	有馬　久富	3
	犯罪医学	医博	久保　真一	
	精神科治療学	博(医)	川嵜　弘詔	
	生命医療倫理学	博(医)	今泉　聡	

専攻分野	専攻科名	指導教員		定員
先端医療科学系	分子医化学	博(医)	安永晋一郎	6
	循環生理化学	博(医)	三浦伸一郎	
	〃	医博	朔　啓二郎	
	分子生殖医学	博(医)	四元　房典	
	臨床検査解析学	博(医)	小川　正浩	
	〃	医博	松永　　彰	
	心疾患病態生理化学	博(医)	河村　　彰	
	〃	医博	浦田　秀則	
	皮膚炎症・感染症免疫遺伝学	博(医)	今福　信一	
	感染症病態生理学	博(医)	髙田　　徹	
	〃	博(医)	髙松　　泰	
	病院感染制御科学	博(医)	髙田　　徹	
	内分泌・代謝病態生理学	博(医)	川浪　大治	
	〃	博(医)	小林　邦久	
	消化器外科病態学	博(医)	長谷川　傑	
	〃	博(医)	渡部　雅人	
	臓器再建・病態外科学	博(医)	佐藤　寿彦	
	〃	医博	岩﨑　昭憲	
	消化器内科病態学	博(医)	平井　郁仁	
	〃	医博	向坂彰太郎	
	発達小児科学	博(医)	永光信一郎	
	〃	医博	廣瀬　伸一	
	総合内科診断学	博(医)	鍋島　茂樹	
	臨床腫瘍学	博(医)	髙松　　泰	
	〃	博(医)	四元　房典	
	〃	博(医)	佐藤　寿彦	
	〃	医博	岩﨑　昭憲	
	〃	医博	向坂彰太郎	
	臨床研究科学	博(医)	三浦伸一郎	
	〃	医博	朔　啓二郎	
	〃	医博	野田　慶太	
	〃	博(医)	安元　佐和	
		合　　計		30

7．学 位 取 得

1．学位取得者数

学位取得者は、課程修了者24名、論文提出者６名であった。

表１　学位取得者

	授　与　日	取　得　者　数		
課　程	令和５年９月13日	3	計24	計30
	令和６年３月14日	21		
論　文	令和５年10月５日	4	計6	
	令和６年３月14日	2		

2．課程修了による学位取得者一覧表

（授与日：令和５年９月13日）

番号	学位名称	報告番号	学位記番号	氏名	指導教員	主査	副査	副査	副査
1	博士(医学)	甲第1999号	第1999号	青柳（あおやぎ）　力夫（ちかお）	小玉　正太	白澤　専二	安永晋一郎	阿部　一朗	
2	博士(医学)	甲第2000号	第2000号	栗原（くりはら）可南子（かなこ）	坪井　義夫	藤田　孝之	安部　洋	藤田　貴子	
3	博士(医学)	甲第2001号	第2001号	花田（はなだ）　迅貫（はやつら）	東　登志夫	東　登志夫	坪井　義夫	松永　彰	根本　隆行

＊平成27年度以前入学者は主査＝指導教員。

（授与日：令和６年３月14日）

番号	学位名称	報告番号	学位記番号	氏名	指導教員	主査	副査	副査
1	博士(医学)	甲第2035号	第2035号	森田（もりた）　裕一（ゆういち）	小玉　正太	髙木　誠司	長谷川　傑	貴田　浩志
2	博士(医学)	甲第2024号	第2024号	河野（かわの）　大（だい）	安部　洋	坪井　義夫	濵﨑　慎	有村　忠聴
3	博士(医学)	甲第2027号	第2027号	武田（たけだ）　和大（かずひろ）	八尾　建史	平井　郁仁	濵﨑　慎	塩飽　洋生
4	博士(医学)	甲第2032号	第2032号	平塚（ひらつか）　裕晃（ひろあき）	植木　敏晴	向坂彰太郎	渡部　雅人	吉松　軍平
5	博士(医学)	甲第2017号	第2017号	石橋（いしばし）　卓也（たくや）	山本　卓明	柴田　陽三	秋吉浩三郎	喜多　知
6	博士(医学)	甲第2019号	第2019号	岩下（いわした）　由樹（ゆき）	近藤　誠二	坂田　俊文	川嵜　弘詔	福岡歯科大学 山野　貴史
7	博士(医学)	甲第2023号	第2023号	小田（おだ）　大嘉（たいが）	山本　卓明	二村　聡	近藤　誠二	山下　眞一
8	博士(医学)	甲第2025号	第2025号	工藤（くどう）　悠貴（ゆうき）	山本　卓明	立花　克郎	髙木　誠司	重松　研二
9	博士(医学)	甲第2029号	第2029号	土肥（どい）憲一郎（けんいちろう）	山本　卓明	長町　茂樹	四元　房典	遠藤日富美
10	博士(医学)	甲第2031号	第2031号	萩原（はぎはら）　秀祐（しゅうすけ）	山本　卓明	石倉　宏恭	廣松　賢治	松﨑　洋吏
11	博士(医学)	甲第2020号	第2020号	岩永（いわなが）　和代（かずよ）	有馬　久富	髙松　泰	久保　真一	末田　尚之
12	博士(医学)	甲第2022号	第2022号	奥津（おくつ）　翔太（しょうた）	有馬　久富	松永　彰	河村　彰	小松　知広
13	博士(医学)	甲第2026号	第2026号	髙橋（たかはし）　宏治（こうじ）	有馬　久富	川浪　大治	羽賀　宣博	上杉　憲子
14	博士(医学)	甲第2036号	第2036号	森永（もりなが）　朗子（あきこ）	有馬　久富	小玉　正太	廣松　賢治	中村学園大学大学院 野崎　剛弘
15	博士(医学)	甲第2016号	第2016号	片山（かたやま）　栞（しおり）	今福　信一	白澤　専二	佐藤　寿彦	吉田陽一郎
16	博士(医学)	甲第2018号	第2018号	今給黎（いまきいれ）　宗（そう）	平井　郁仁	八尾　建史	升谷　耕介	尾鶴　亮
17	博士(医学)	甲第2021号	第2021号	大西（おおにし）　菜月（なつき）	三浦伸一郎	有馬　久富	藤田　昌樹	坂田　直昭
18	博士(医学)	甲第2028号	第2028号	立花（たちばな）　哲郎（てつろう）	三浦伸一郎	今泉　聡	浦田　秀則	高野　浩一

番号	学位名称	報告番号	学位記番号	氏名	指導教員	主査	副査	副査
19	博士(医学)	甲第2030号	第2030号	永田(ながた)　貴大(たかひろ)	平井　郁仁	植木　敏晴	安永晋一郎	濵田　義浩
20	博士(医学)	甲第2033号	第2033号	御鍵(みかぎ)　昌史(まさし)	三浦伸一郎	藤田　孝之	岩本　隆宏	髙士　祐一
21	博士(医学)	甲第2034号	第2034号	三根(みね)かおり	三浦伸一郎	和田　秀一	髙田　　徹	栗原　悠介

３．論文提出による学位取得者一覧表

（授与日：令和５年10月５日）

番号	学位名称	報告番号	学位記番号	氏名	指導教員	主査	副査	副査
1	博士(医学)	乙第2002号	第2002号	伊﨑(いざき)　亮介(りょうすけ)	内尾　英一	廣松　賢治	藤田　昌樹	安野　哲彦
2	博士(医学)	乙第2003号	第2003号	宮﨑(みやざき)　健(たけし)	羽賀　宣博	川嵜　弘詔	升谷　耕介	吉村　　力
3	博士(医学)	乙第2004号	第2004号	竹下(たけした)　佳織(かおり)	小林　邦久	岩本　隆宏	立花　克郎	杉原　　充
4	博士(医学)	乙第2005号	第2005号	古賀(こが)　毅彦(たけひこ)	平井　郁仁	長谷川　傑	吉満　研吾	角田　俊之

（授与日：令和６年３月14日）

番号	学位名称	報告番号	学位記番号	氏名	指導教員	主査	副査	副査
1	博士(医学)	乙第2041号	第2041号	柴田(しばた)　志保(しほ)	岩本　隆宏	坪井　義夫	廣松　賢治	坂本　王哉
2	博士(医学)	乙第2042号	第2042号	瀬戸上貴資(せとうえたかし)	永光信一郎	安部　　洋	安永晋一郎	藤岡　伸助

8．国 際 交 流

1．教職員在外研究員および海外研修

1）長期

所属	所属科	資格	氏名	研修先	研修期間	研修の種類
福岡大学病院	救命救急センター	講師 (第4条7号適用)	星野　耕大	オーストラリア	R5.4.1～R6.3.31	3号

2）短期

所属	所属科	資格	氏名	研修先	研修期間	研修の種類
医学部	歯科口腔外科学	講師 (第4条7号適用)	吉野　　綾	台湾	R5.9.1～R5.11.30	2号
筑紫病院	内視鏡部	講師 (第4条7号適用)	宮岡　正喜	ブータン王国	R5.9.11～R5.12.10	4号

3）1か月未満

医学部基礎講座	医学部臨床講座	病院	筑紫病院	合計
18	22	13	0	53

2．学生海外研修

医学部学生を募集対象とした海外研修は以下の8校に限られる。

ウォッシュバン大学	（アメリカ合衆国）	研修費自己負担、旅費大学支給
グリフィス大学	（オーストラリア）	研修費自己負担、旅費大学支給
蔚山大学	（韓国）	研修費自己負担、旅費大学支給
ニューカッスル大学	（イギリス）	全額自己負担
シアトル大学	（アメリカ合衆国）	全額自己負担
ハノイ大学	（ベトナム）	全額自己負担
揚州大学	（中国）	全額自己負担
啓明大学	（韓国）	医学部

対象学年　1年生～4年生（ただし、啓明大学の場合は医学部医学科6年生および大学院生）

研修先大学　　蔚山大学
ウォッシュバン大学
グリフィス大学
ニューカッスル大学
シアトル大学
ハノイ大学
揚州大学
啓明大学

ウォッシュバン大学及びグリフィス大学の選考は英語試験、作文、面接により行われる。蔚山大学校の選考は作文と面接。ニューカッスル大学と揚州大学は選考試験がなく、定員になり次第締め切り。医学部学生の面接は医学部長、教務委員、国際センター委員で行い、候補者を推薦。医学部学生の研修生採用枠は1～2名で他学部に比べ少ない。採用枠は志願者数増加により多少増加し得る。

ウォッシュバン大学、グリフィス大学の場合、選考は10月頃に行われる。選考による候補者が学年末試験に該当することになった場合、研修不可能になる。全学的なもので、医学部学生のみ期日変更は不可能である。
R4年度実績：なし

３．外国人研究員受け入れ状況

１）長期
延長（730日間）：1名（タイ）
２）短期
令和４年度：実績なし

４．医学部研究生（外国人受け入れ状況１名）

（全研究生：14名）

５．大学院留学生受け入れ状況

志願者０名
合格者０名（在学生０名）

６．学部留学生受け入れ状況

志願者３名
合格者０名
入学者０名（在学生０名）

７．啓明大学 BSL 交換プログラム

【派遣】
新型コロナウィルス感染拡大に伴い派遣中止
【受け入れ】
新型コロナウィルス感染拡大に伴い受入中止

８．参考（福岡大学協定校：22カ国・地域、86大学、１機関、令和６年３月31日現在）

うち、医学部学生が研究可能な協定校は以下の通りです。
注）全学に関しては、「国際センター活動報告書」令和５年（2023）年度を参照されてください。

韓国：蔚山大学校、啓明大学校
中国：揚州大学
イギリス：ニューカッスル大学
アメリカ：ウオッシュバン大学、シアトル大学
オーストラリア：グリフィス大学
ベトナム：ハノイ大学

（医学部国際センター委員　升　谷　耕　介）

9．研 究 業 績

令和５年４月より令和６年３月までの１年間における研究業績の主なものを，ここに記載する。

講座名 No.	論文題名	発表雑誌	発行の巻（号） 頁・年	著者及び演者
解剖学				
〈原著〉				
1	Efficient mRNA Delivery with Lyophilized Human Serum Albumin-Based Nanobubbles	Nanomaterials	13(7)： 1283-1301， 2023	Kida H., Yamasaki Y., Feril L.B. Jr, Hitomi Endo, Keiji Itaka, Katsuro Tachibana
2	下腿に皮疹を伴う足関節炎	九州リウマチ	43(2)： 107-113， 2023	古賀　幹朗，前山　　彰， 山﨑裕太郎，萩尾　友宣， 柴田　光史，小田　大嘉， 氷室　尚子，三宅　勝久， 山本　卓明
3	人工膝関節全置換術での距骨下関節代償能の検討	整形外科と災害外科	72(3)： 437-440， 2023	田原健太郎，前山　　彰， 山﨑裕太郎，宮﨑弘太郎， 柴田　光史，松永　大樹， 中山　鎭秀，石松　哲郎， 村岡　邦秀，萩尾　友宣， 山本　卓明
4	人工膝関節置換術が変形性足関節症のアライメントに及ぼす影響	整形外科と災害外科	72(3)： 459-461， 2023	田代　勇人，石松　哲郎， 宮﨑弘太郎，山﨑裕太郎， 中山　鎭秀，松永　大樹， 前山　　彰，山本　卓明
〈症例報告〉				
1	Trial of Topiramate for Patients with Hereditary Spinocerebellar Ataxia.	Clin Case Rep.	26;11(2)： e6980，2023	Miura S, Sawada R, Yorita A, Kida H, Kamada T, Yamanishi Y.
2	A case of extrapulmonary tuberculosis after use of baricitinib	Mod Rheumatol Case Rep.	7(2)： 364-367， 2023	Shimada T., Maeyama A., Hagio T., Muraoka K., Shibata T., Yamasaki Y., Oda T., Hamasaki M., Yamamoto T.
〈総説〉				
1	超音波による細胞内への mRNA デリバリー技術	細胞	55：935-939 2023	貴田　浩志，立花　克郎
〈著書〉				
1	Application of Ultrasound-Responsive Reagents for Drug Delivery Systems	In: Acoustic Technologies in Biology and Medicine.	pp.181-216， 2023	Kida H., Tachibana K.
〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉				
1	（国際）Efficient mRNA Delivery with Lyophilized Albumin-based Nanobubbles	22nd Annual International Symposium on Therapeutic Ultrasound（ISTU）	Lyon 4/17-20， 2024	Hiroshi Kida, Yutaro Yamasaki, Hitomi Endo, Loreto B. Feril, Keiji Itaka, Katsuro Tachibana;

2	（シンポジウム）新たな医療モダリティとしての可能性：ファインバブルによる気体デリバリーシステム	日本薬剤学第38回年会	名古屋 5/16， 2023	立花　克郎
3	（シンポジウム）超音波とナノバブルを用いた薬物・遺伝子送達研究の現状と未来.	第96回日本超音波医学会学術集会	大宮 5/27-29， 2023	貴田　浩志
4	（招待講演）次世代センサ・アクチュエーター：超音波アクチュエータとウルトラファインバブル併用した細胞内薬物送達技術	2023年度精密工学会秋季大会学術講演会（全国学術学会）	福岡 9/13， 2023	立花　克郎
5	（招待講演）ウルトラファインバブルによる溶液浸透促進効果の基礎検討	COSME Week 2023（東京化粧品開発展）化粧品アカデミック フォーラム	東京 1/19， 2024	立花　克郎
6	（シンポジスト）抗体－遺伝子結合ペプチドを用いたアストロサイト選択的な遺伝子導入法の確立.「神経疾患に対する創薬トランスレーショナルリサーチを学ぶ」	日本神経学会主催2023年度産官学創薬スクール	オンライン開催； 2/7， 2024	貴田　浩志
7	（シンポジスト）抗体－遺伝子結合ペプチドを用いたアストロサイト選択的な遺伝子導入法の確立	日本神経学会シーズマッチング forum	オンライン開催； 3/7， 2024	貴田　浩志
8	（シンポジスト）低周波数超音波の遺伝子送達への応用	第129回日本解剖学会総会・全国学術集会	那覇 3/21-23， 2024	貴田　浩志，立花　克郎
9	（シンポジスト）Therapeutic Prospects of Gene Delivery using Ultrasound and Nanobubbles	第101回日本生理学会大会	北九州 3/28-30， 2024	Kida H.

〈国内研究助成金〉

1	ワクチンに向けた経皮的ナノバブル超音波穿孔法でのキャリアフリー mRNA 導入の確立	独立行政法人 日本学術振興会 令和５年度科学研究費補助金 基盤研究(B)	2023	立花　克郎（代表）
2	ウルトラファインバブルによる膠芽腫の抗 EGFR 抗体/shRNA 治療の開発研究	独立行政法人 日本学術振興会 令和５年度科学研究費補助金 基盤研究(C)	2023	貴田　浩志（代表）
3	免疫チェックポイント阻害剤と低強度超音波を併用した悪性黒色種治療の確立	独立行政法人 日本学術振興会 令和５年度科学研究費補助金 基盤研究(C)	2023	フェリル　ロリト（代表）
4	抗 PD L1抗体と PARP shRAN のペプチド複合体による卵巣癌治療	独立行政法人 日本学術振興会 令和５年度科学研究費補助金 基盤研究(C)	2023	遠藤日富美（代表）
5	ナノバブルによる Ewing 肉腫の IGF-1R 抗体-shRNA 治療の開発研究	独立行政法人 日本学術振興会 令和５年度科学研究費補助金 基盤研究(C)	2023	山﨑裕太郎（代表）
6	（可能性試験）福岡バイオ産業創出事業	福岡バイオコミュニティ	2023	貴田　浩志（代表）
7	（がん研究助成金）令和５年度　ナノバブルによる Ewing 肉腫の IGF-1R 抗体 - shRNA 治療の開発研究	公益財団法人ふくおか公衆衛生推進機構	2023	山﨑裕太郎（代表）
8	（研究助成金）令和５年度　キャリアペプチドを用いた悪性腫瘍に対する抗体-遺伝子複合療法の開発	福岡大学若手・女性研究基盤構築支援事業	2023	貴田　浩志（代表）

9	（研究助成金）令和５年度　一酸化炭素封入ウルトラファインバブルによる革新的なバイオフィルム形成制御法の研究開発	福岡大学若手・女性研究基盤構築支援事業	2023	山﨑裕太郎（代表）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	令和５年度 日本超音波医学会分科会 超音波分子診断治療研究会（JSUM，JSTU 共催）	福岡市科学館サイエンスホール	福岡 12/18，2023	立花　克郎

〈学会活動〉

1	日本超音波医学会	代議員	2023	立花　克郎
2	日本脳神経超音波学会	理事・代議員	2023	立花　克郎
3	日本栓子検出と治療学会	理事・評議員	2023	貴田　浩志，立花　克郎
4	The Neurosonology Research Group of the World Federation of Neurology	理事	2023	立花　克郎
5	日本解剖学会	評議員	2023	立花　克郎
6	福岡大学医学会	評議員	2023	立花　克郎
7	日本超音波脳神経学会九州地方会	評議員	2023	立花　克郎
8	FBIA（finebubble 研究会）技術委員会医療応用分科会 ワーキンググループ（WG）	運営委員	2023	立花　克郎
9	特別研究員等審査委員会：独立日本学術振興会	審査委員	2023	立花　克郎
10	卓越研究員候補者選考委員会書面審査員及び国際事業委員会書面審査員・書面評価員：独立行政法人日本学術振興会	審査委員	2023	立花　克郎
11	戦略的基盤技術高度化支援事業 推進委員会	委員	2023	立花　克郎
12	Translational Pharmacology, Frontiers in Pharmacology	Associate editor	2023	貴田　浩志
13	Philippine Physics Journal	Editor	2023	Feril LB Jr.
14	SRL Cancer & Cellular Biology, SciRes Literature	Editorial Board Member	2023	Feril LB Jr.
15	Elsevier publications	Elsevier Researcher Panel Member	2023	Feril LB Jr.
16	Asian Journal of Pharmaceutical Sciences	Editorial Board Member	2023	Feril LB Jr.
17	Philippine Society of Ultrasound in Clinical Medicine, Inc.	Honorary Member,	2023	Feril LB Jr.
18	Mathews Journal of Cancer Science, Mathews Open Access Journals	Editorial Board member	2023	Feril LB Jr.
19	President, Filipinos and Friends in Fukuoka（FFF）	President	2023	Feril LB Jr.
20	Radiation and Health, Frontiers in Public Health	Associate Editor,	2023	Feril LB Jr.

21	Journal of Anatomy Forecast, Science Forecast	Editorial Board member	2023	Feril LB Jr.
22	Filipinos and Friends in Fukuoka (FFF)	President	2023	Feril LB Jr.

〈研究に関係した賞〉

1	第23回技術賞「超音波血栓溶解療法用のカテーテル型超音波装置の技術」	日本超音波医学会	2023	立花　克郎

〈特許取得〉

1	Bubble Manufacturing Container	米国特許： United States Patent	登録番号： US 11,786,478 B2 〔Oct.17,2023〕	Tachibana K.

細胞生物学

〈原著〉

1	Inhibitory Effect of Pyra-Metho-Carnil on Cancer Spheroid Growth Through Decrease in Glycolysis-associated Molecules.	Anticancer Res	43(8): 3717-3726, 2023	Yoshida K, Nishi K, Ishikura S, Matsumoto T, Nakabayashi K, Yazaki R, Ohshima T, Suenaga M, Shirasawa S, Tsunoda T.
2	MMP-2 Regulation of Emmprin on Tumour Cells and CD73 on Fibroblasts During Tumour-Stromal Interaction.	Anticancer Res	43(8): 3735-3745, 2023	Aoki M, Tsunoda T, Koga K, Nabeshima K, Hamasaki M.
3	Measurement of GLUT4 Traffic to and from the Cell Surface in Muscle Cells.	Curr Protoc	e803, 2023	Antonescu CN, Ishikura S, Bilan PJ, Klip A.

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	Comprehensive gene expression analysis during repression of the transcriptional regulator Zfat in mouse fetal liver.	Human Genetics Asia 2023	Tokyo, Japan October 11-14 2023	Doi K, Koyanagi M, Tanaka Y.

〈国内研究助成金〉

1	ZFAT によるゲノム制御機構とその破綻による細胞癌化メカニズムの解明	文部科学省 基盤研究 C	2023	白澤　専二（代表）
2	新規抗腫瘍薬を利用した腫瘍免疫微小環境における KRAS 制御機構の解明と制御法開発	文部科学省 基盤研究 C	2023	角田　俊之（代表）
3	アスペルギルスと細菌の微生物間インタラクション解析による重複感染病態の解明と制御	文部科学省 基盤研究 C	2023	角田　俊之 （代表者：泉川公一）
4	Emmprin と CD73の結合阻害薬を開発するための基盤研究	文部科学省 基盤研究 C	2023	角田　俊之 （代表者：青木光希子）
5	骨髄赤血球系前駆細胞における転写制御因子ＺＦＡＴの機能解析	文部科学省 基盤研究 C	2023	土井　佳子（代表）
6	セントロメア DNA 損傷修復における ZFAT の役割と B 細胞リンパ腫との関連の解明	文部科学省 基盤研究 C	2023	石倉　周平（代表）
7	新規抗腫瘍薬で探る変異 KRAS 陽性癌細胞の小胞体ストレス応答と細胞死誘導制御	文部科学省 基盤研究 C	2023	吉田　和真（代表）
8	変異 KRAS シグナルの活性化した癌細胞に特異的に進入する抗癌性スパイクペプチドを備えたナノキャリアの開発	TAKEDA COCKPI-T FUNDING	2023	角田　俊之（代表）

〈学会活動〉

1	バイオ治療法研究会	監事	2023	白澤　専二
2	バイオ治療法研究会	運営委員	2023	角田　俊之

生理学

〈原著〉

1	Long-term tracking of the effects of colostrum-derived *Lacticaseibacillus* rhamnosus Probio-M9 on gut microbiota in mice with colitis-associated tumorigenesis.	Biomedicines	12(3), 531, 2024 (https://doi.org/10.3390/biomedicines12030531)	Zhao F, Hiraishi K, Li X, Hu Y, Kojima D, Sun Z, Zhang H, Kurahara L-H.

〈総説〉

1	The role of TRPM4 in cardiac electrophysiology and arrhythmogenesis.	Int. J. Mol. Sci.	24.14: 11798, 2023 (https://doi.org/10.3390/ijms241411798)	Hu Y, Cang J, Hiraishi K, Fujita T, Inoue R

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（シンポジウム） TRPM4チャネルによる不整脈誘発機構の統合的な検討	第101回日本生理学会大会（ハイブリッド開催）	福岡 3/28-3/30 2024	胡　耀鵬，平石　敬三，倉　傑輝，李　欽，朱　欣，井上　隆司，藤田　孝之

〈国内研究助成金〉

1	交感神経の有害シグナルの選択的抑制による，より安全で有効な心疾患治療戦略の開発	基盤研究 C	2023	藤田　孝之（代表）
2	高リスク心疾患に対する栄養・加齢・幹細胞の炎症への影響と組織再生能評価	挑戦的研究（萌芽）	2023	藤田　孝之 （代表者：千葉　由美）
3	Investigation on the arrhythmogenecity of Nav1.5-TRPM4 channel complex	若手研究	2023	胡　耀鵬（代表）
4	交感神経系により進行する心臓リモデリングにおける，TRPM7チャネルの役割の解明	若手研究	2023	平石　敬三（代表）

〈学会活動〉

1	日本生理学会	評議員	2023	藤田　孝之，本田　啓
2	日本生理学会	編集・広報委員	2023	藤田　孝之
3	日本病態生理学会	評議員	2023	藤田　孝之
4	日本薬理学会	学術評議員	2023	藤田　孝之
5	日本老年医学会	代議員	2023	藤田　孝之
6	JPS（Journal of Physiological Sciences）	査読委員	2023	藤田　孝之
7	日本高血圧学会	生涯教育・チーム医療委員	2023	藤田　孝之

生化学

〈原著〉

1	An idea to explore: Determination of single nucleotide polymorphisms in alcohol metabolism-related genes using PCR-based assays to understand the link between an individual's genotype and phenotype.	Biochem Mol Biol Educ	52(1):117-126, 2024	Shirasu N, Yasunaga S.
2	Physical properties of ultrafine bubbles generated using generator system.	In Vivo	37(6):2555-2563, 2023	Miyamoto, S, Hirakawa, T, Noguchi, Y, Urushiyama D, Miyata K, Baba T, Yotsumoto, F, Yasunaga, S, Nakabayashi K, Hata K, Nakagawa W, Otsuka T, Nozawa Y, Furuhata I, Mikasa J.
3	Liver toxicity of intravenous heparin treatment in patients with acute ischemic stroke.	Clin Neurol Neurosurg	226:107630, 2023	Yasutaka Y, Fujioka S, Tsuboi Y, Oyabu K, Shibaguchi H, Kamimura H.
4	Associations of High-Density Lipoprotein Functionality with Coronary Plaque Characteristics in Diabetic Patients with Coronary Artery Disease: Integrated Backscatter Intravascular Ultrasound Analysis.	Biomolecules	13(9), 2023	Takata K, Imaizumi S, Iwata A, Zhang B, Kawachi E, Miura SI, Ogawa M.
5	Long-Term Follow-up Study of Hospitalizations for Acute Coronary Syndrome in Kobe-City and Other Districts Under the Hyogo Smoking Ban Legislation-A Nationwide Database Study.	Circ J	87(11):1680-1685, 2023	Nakai M, Iwanaga Y, Sumita Y, Amano T, Fukuda I, Hirano T, Iida M, Katanoda K, Miyamoto Y, Nakamura M, Saku K, Tabuchi T, Yamato H, Zhang B, Fujiwara H.
6	Safety and Potential Effect of Intrauterine Infusion of Autologous Adipose Tissue-Derived Regenerative Cells in Patients With Implantation Failure: A Pilot Study	Cureus	16(3):e57220, 2024 Mar	Yotsumoto F, Yoshikawa K, Hirakawa T, Urushiyama D, Kiyoshima C, Arima H, Kodama S, Nishikawa H, Yasunaga S, Miyamoto S.

〈著書〉

1	モデル・コア・カリキュラム対応 医用生化学－生体物質の代謝と異常－2023年版	福岡大学医学部生化学講座	2023	安永晋一郎（編・著）

〈国内研究助成金〉

1	腫瘍細胞と腫瘍浸潤性 Treg を同時標的化する光免疫療法による高効率な抗腫瘍免疫賦活化	文部科学省 基盤研究(C)	2023	白須　直人（代表）
2	HDL 機能を強化・改善する食事パターン・食品・栄養素の同定	文部科学省 基盤研究(C)	2023	瀬川　波子（代表）
3	HDL 機能を強化・改善する食事パターン・食品・栄養素の同定	文部科学省 基盤研究(C)	2023	安永晋一郎（代表者：瀬川　波子）

〈学会活動〉

1	日本血液学会	評議員	2023	安永晋一郎

2	日本アレルギー学会	評議員	2023	安永晋一郎
3	日本生化学会	評議員	2023	安永晋一郎
4	日本動脈硬化学会	評議員	2023	瀬川　波子

薬理学

〈原著〉

1	YM-244769, a highly potent Na^+/Ca^{2+} exchange inhibitor, efficiently protects renal ischemia-reperfusion injury mice.	Journal of Magnesium Research	41(2): 66-72, 2023	Nemoto T, Gotoh Y, Kuwahara M, Kita T, Shinoda Y, Kita S, Iwamoto T.
2	Perineural treatment with anti-TNF-a antibody ameliorates persistent allodynia and edema in novel mouse models with complex regional pain syndrome.	J Pharmacol Sci.	153(1): 1-11, 2023	Shibata S, Tagashira H, Nemoto T, Kita S, Kita T, Shinoda Y, Akiyoshi K, Yamaura K, Iwamoto T.
3	Changes in TRPV1 Receptor, CGRP, and BDNF Expression in Rat Dorsal Root Ganglion with Resiniferatoxin-Induced Neuropathic Pain: Modulation by Pulsed Radiofrequency Applied to the Sciatic Nerve.	Acta Med Okayama.	77(4): 359-364, 2023	Koshida T, Maruta T, Tanaka N, Hidaka K, Kurogi M, Nemoto T, Yanagita T, Takeya R, Tsuneyoshi I.
4	Protection of Liver Functions and Improvement of Kidney Functions by Twelve Weeks Consumption of Cuban Policosanol (Raydel®) with a Decrease of Glycated Hemoglobin and Blood Pressure from a Randomized, Placebo-Controlled, and Double-Blinded Study with Healthy and Middle-Aged Japanese Participants	Life (Basel).	13(6): 1319, 2023.	Cho KH, Kim JE, Komatsu T, Uehara Y.
5	Cuban policosanol improves high-density lipoprotein cholesterol efflux capacity in healthy Japanese subjects	Front Nutr.	Published online: 2024	Uehara Y, Komatsu T, Sasaki K, Abe S, Nakashima S, Yamamoto T, Kim JE, Cho KH.
6	Effectiveness of Interprofessional Education Based on the Case-and Communication-Based Approach	IAFOR Journal of Psychology & the Behavioral Sciences	9(2): 39-53, 2024.	Yamamoto E, Kanaoka M, Nemoto T, Kinoshita Y, Takeya R, Yanagita T.

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	High-density lipoprotein mimetics promote mitochondrial function in mouse skeletal muscle.	6th Asia-Pacific CardioMetabolic Syndrome Congress	Seoul, Korea May 26-27 2023	Komatsu T
2	（シンポジウム） IgG4関連 LCAT 自己抗体による後天性 LCAT 欠損症の一例	第55回日本動脈硬化学会総会・学術集会	宇都宮 7/8-9 2023	小松　知広，西田　尚史， 遠藤　康弘，荒川　純子， 寺本麻菜美，阿部　智美， 山本　泰暉，桂田　由佳， 宮下かずや，佐々木　誠， 三宅　隆之，桜田　真己， 松熊　　晋，上原　吉就， 池脇　克則
3	（シンポジウム） 複合性局所疼痛症候群：TNF-α 中和抗体を用いた新規治療法の有用性	第7回黒潮カンファレンス	宮崎 7/22-23 2023	根本　隆行，柴田　志保， 田頭　秀章，喜多紗斗美， 喜多　　知，篠田　康晴， 秋吉浩三郎，山浦　　健， 岩本　隆宏

4	（シンポジウム） NCX 輸送体を標的とした急性腎障害治療戦略	第13回トランスポーター研究会九州部会	福岡 8/5 2023	根本　隆行，若崎るみ枝， 喜多　　知，喜多紗斗美， 岩本　隆宏
5	（シンポジウム） 肺高血圧発症機序における細胞膜/ミトコンドリア内膜 Ca^{2+}輸送体の関与	2023年度心脈管作動物質学会 若手研究者交流シンポジウム	福岡 10/14 2023	根本　隆行，小松　知広， 喜多　　知，篠田　康晴， 田頭　秀章，上原　吉就， 喜多紗斗美，岩本　隆宏

〈国内研究助成金〉

1	肺動脈性肺高血圧発症における NCX1/NCX2の相反する制御機序の解明	文部科学省 基盤研究Ｃ	2023	岩本　隆宏（代表） 篠田　康晴
2	遠位尿細管特異的遺伝子改変マウスを駆使した急性腎障害機序の解明	文部科学省 基盤研究Ｃ	2023	根本　隆行（代表）， 篠田　康晴
3	細胞膜–ミトコンドリア Ca^{2+}輸送連関による褐色脂肪細胞熱産生制御機構の解明	文部科学省 基盤研究Ｃ	2023	喜多　　知（代表）
4	脂質代謝因子アポリポ蛋白 C2を介した骨格筋発現制御メカニズムの解明	文部科学省 若手研究	2023	小松　知広（代表）
5	マクロファージ NCX1輸送制御に基づく血管新生機序の解明	文部科学省 若手研究	2023	篠田　康晴（代表）
6	運動による骨格筋高比重リポ蛋白（HDL）産生システムの発動とその作用解明	文部科学省 基盤研究Ｂ	2023	小松　知広 （代表者：上原　吉就）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第13回トランスポーター研究会九州部会	福岡大学文系センター15階	8/5， 2023	根本　隆行

〈学会活動〉

1	日本薬理学会	財務委員	2023	岩本　隆宏
2	日本薬理学会	編集委員	2023	岩本　隆宏
3	日本薬理学会	学術評議員	2023	岩本　隆宏，根本　隆行， 喜多　　知，篠田　康晴
4	日本薬理学会	代議員	2023	岩本　隆宏，根本　隆行
5	日本臨床薬理学会	支部世話人	2023	岩本　隆宏
6	日本マグネシウム学会	評議員	2023	岩本　隆宏
7	日本平滑筋学会	評議員	2023	岩本　隆宏
8	日本心脈管作動物質学会	理事	2023	岩本　隆宏
9	日本心脈管作動物質学会	評議員	2023	岩本　隆宏
10	国際心臓研究学会（ISHR）	評議員	2023	岩本　隆宏
11	トランスポーター研究会	顧問	2023	岩本　隆宏
12	トランスポーター研究会	幹事	2023	根本　隆行，喜多　知
13	Journal of Pharmacological Sciences	Section Editor	2023	岩本　隆宏
14	Frontiers in Physiology	Associate Editor	2023	岩本　隆宏

15	Frontiers in Physiology	Editor	2023	根本　隆行，喜多　　知， 篠田　康晴，小松　知広
16	Japanese Journal of Circulation Research	Editor	2023	岩本　隆宏
17	Journal of Magnesium Research	Editor	2023	岩本　隆宏

〈研究に関係した賞〉

1	回腸律動性収縮反応における NCX1の機能的役割	第７回黒潮カンファレンス優秀発表賞	2023	根本　隆行，桑原　正裕， 篠田　康晴，喜多　　知， 喜多紗斗美，岩本　隆宏

病理学

〈原著〉

1	Biology and Management of Deep-seated Atypical Lipomatous Tumor of the Extremities	Anticancer Res	43(10)： 4295-4301， 2023	Nishio J, Nakayama S, Chijiiwa Y, Aoki M
2	Bortezomib Increased Vascular Permeability by Decreasing Cell-Cell Junction Molecules in Human Pulmonary Microvascular Endothelial Cells	Int J Mol Sci	29;24(13)， 2023	Matsumoto T, Matsumoto J, Matsushita Y, Arimura M, Aono K, Aoki M, Terada K, Mori M, Haramaki Y, Imatoh T, Yamauchi A, Migita K
3	Clinicopathological features of adult T-cell leukemia/lymphoma with T-follicular helper phenotype.	Cancer Med	13(6)： e7050， 2024	Muto R, Miyoshi H, Nakashima K, Takeuchi M, Hamasaki M, Ohshima K
4	Early Enhancement with Contrast-Enhanced Ultrasonography Relates to the Number of Small-Diameter Neovessels in the Carotid Plaque.	Cerebrovasc Dis	52(1)： 36-43， 2023	Takeshita S, Ogata T, Uesugi N, Nabeshima K, Shimada H, Arima H, Inoue T, Tsuboi Y
5	Expression of laminin332 γ2 at the invasive front is associated with tumor budding and poor prognosis in cutaneous squamous cell carcinoma	J Dermatol	50(12)： 1585-1593， 2023	Katayama S, Koga K, Fujimoto M, Matsuzaki I, Nabeshima K, Imafuku S, Hamasaki M
6	High predictive ability of apparent diffusion coefficient value for wall-invasion pattern of advanced gallbladder carcinoma	Abd Radiol	48(3)： 902-912， 2023	Koga T, Ishida Y, Hamada Y, Takayama Y, Tsuchiya N, Kitaguchi T, Matsumoto K, Kajiwara M, Naito S, Ishii F, Nakashima R, Sasaki T, Hirai F.
7	Is Podocytopathy Associated with Gross Hematuria after COVID-19 Vaccination in Patients with Immunoglobulin A Nephropathy?	Intern Med	2024 Feb 26	Suenaga A, Sawa N, Oba Y, Ikuma D, Sekine A, Yamanouchi M, Hasegawa E, Mizuno H, Suwabe T, Kono K, Kinowaki K, Ohashi K, Miyazono M, Yamaguchi Y, Uesugi N, Ubara Y
8	MMP-2 Regulation of Emmprin on Tumour Cells and CD73 on Fibroblasts During Tumour-Stromal Interaction.	Anticancer Res	43(8)： 3735-3745， 2023	Aoki M, Tsunoda T, Koga K, Nabeshima K, Hamasaki M.

9	Morphological and etiological analyses of C3 and non-C3 glomerulonephritis in primary membranoproliferative glomerulonephritis using periodic acid-methenamine silver stain electron microscopy: a retrospective multicentered study.	Med Mol Morphol	57(1): 23-34, 2024	Honma S, Sato N, Sakaguchi R, Hashiguchi A, Uesugi N, Nakamura Y, Sasano H, Joh K
10	PDGFRB and NOTCH3 Mutations are Detectable in a Wider Range of Pericytic Tumors, Including Myopericytomas, Angioleiomyomas, Glomus Tumors, and Their Combined Tumors.	Mod Pathol	36(3): 100070, 2023	Iwamura R, Komatsu K, Kusano M, Kubo C, Inaba Y, Shiba E, Nawata A, Tajiri R, Matsuyama A, Matoba H, Koga K, Takeda M, Itami H, Hisaoka M
11	Polar vasculosis is associated with better kidney outcome in type 2 diabetes with biopsy-proven diabetic kidney disease: A multicenter cohort study.	J Diabetes Investig	14(11): 1268-1278, 2023	Shimizu M, Furuichi K, Toyama T, Yamanouchi M, Hoshino J, Kitajima S, Hara A, Iwata Y, Sakai N, Yuzawa Y, Kitamura H, Sato H, Shibagaki Y, Suzuki Y, Uesugi N, Ueda Y, Kohagura K, Samejima K, Tsuruya K, Nishi S, Nishino T, Makino H, Matsuo S, Ubara Y, Yokoyama H, Wada T
12	Recent Advances in the Diagnosis, Pathogenesis, and Management of Myxoinflammatory Fibroblastic Sarcoma.	Int J Mol Sci	25(2), 2024	Nishio J, Nakayama S, Aoki M
13	Relationship between false lumen morphology and entry tear in acute type A aortic dissection.	Eur J Cardiothorac Surg	65(2), 2024	Furui M, Uesugi N, Matsumura H, Hayashida Y, Kuwahara G, Fujii M, Shimizu M, Morita Y, Ito C, Hayama M, Wada H
14	Seasonal variations in renal biopsy numbers and primary glomerular disease features based on the Japan renal biopsy registry.	Sci Rep	13(1): 5123, 2023	Kanzaki G, Tsuboi N, Yokoo T, Uesugi N, Furuichi K, Shimizu A, Sugiyama H, Sato H, Yokoyama H
15	Usefulness of NF2 hemizygous loss detected by fluorescence in situ hybridization in diagnosing pleural mesothelioma in tissue and cytology material: A multi-institutional study.	Lung Cancer	175:27-35, 2023	Sa-Ngiamwibool, Hamasaki M, Kinoshita Y, Matsumoto S, Sato A, Tsujimura T, Kawahara K, Kasai T, Kushitani K, Takeshima Y, Hiroshima K, Iwasaki A, Nabeshima K.
16	根治切除後早期に肝転移再発した intracholecystic papillary neoplasm の１例	日本臨床外科学会雑誌	84(3): 448-453, 2023	富永　孝亮，梶原　正俊， 佐々木貴英，中島　　亮， 内藤　滋俊，濵田　義浩， 長谷川　傑
17	当院の脳腫瘍症例における原発性中枢神経系リンパ腫の頻度の推移および予後分類システムの有用性についての検討	福岡大学医学紀要	50(2): 57-61, 2023	垰本　僚太，青木光希子， 鍋島　一樹，武藤　礼治， 榎本　年孝，安部　　洋， 濵﨑　　慎

〈症例報告〉

1	A case of crescentic glomerulonephritis induced by afatinib for lung adenocarcinoma.	CEN Case Rep	12(2): 152-158, 2023	Morita D, Ito K, Ikeuchi N, Nishida Y, Igata F, Nakamura T, Murayama H, Watanabe M, Takahashi K, Yasuno T, Uesugi N, Fujita M, Oda T, Masutani K
2	A case of extrapulmonary tuberculosis after use of baricitinib.	Mod Rheumatol Case Rep	19;7(2): 364-367, 2023	Shimada T, Maeyama A, Hagio T, Muraoka K, Shibata T, Yamasaki Y, Oda T, Hamasaki M, Yamamoto T.
3	A case of giant nipple adenoma.	Surg Case Rep	10(1): 70, 2024	Ono S, Tanaka M, Yoshinaga Y, Satou T, Aoki M
4	Case of secondary milia after regressing lesions of bullous lichen planus	Int J Dermatol	62(11): e590-e592, 2023	Koga M, Koga K
5	Concurrent immunoglobulin G4-related disease and hypereosinophilia with persistent fever and simultaneous acute multi-organ involvement.	Rheumatol Adv Pract	7(3), 2023	Nawata T, Goda K, Tsutsui M, Ikegami T, Akase H, Okuda S, Nakao F, Ueyama T, Uesugi N, Ikeda Y
6	Improvement of Light Chain Proximal Tubulopathy without Crystals in IgG λ-type Monoclonal Gammopathy of Undetermined Significance Using Bortezomib and Dexamethasone.	Intern Med	63(5): 693-698, 2024	Tsuyuki T, Uramatsu T, Shimizu M, Ishi T, Tsuji K, Nakashima J, Katafuchi E, Nakayama T, Uesugi N, Muta K, Nishino T
7	Multiple linear spiradenomas and ALPK1 mutation: A case report and literature review.	Australas J Dermatol	65(1): 71-73, 2024	Furukawa Y, Koga M, Oyama T, Koga K, Takagi S, Imafuku S
8	Pediatric and elderly polymorphous low-grade neuroepithelial tumor of the young: Typical and unusual case reports and literature review.	Neuropathology	43(4): 319-325, 2023	Furuta T, Moritsubo M, Muta H, Shimamoto H, Ohshima K, Sugita Y.
9	Phosphaturic mesenchymal tumor: A chondromyxoid fibroma-like type.	J Dermatol	50(11): 1484-1487, 2023	Koga K, Iwasaki H, Nabeshima K
10	Preoperatively diagnosed intraductal oncocytic papillary neoplasm of the pancreas with prominent invasion: a case report	Clin J Gastroenterol	16(5): 772-778, 2023	Nomaru R, Ishida Y, Kitaguchi T, Koga T, Tsuchiya N, Nakashima R, Sato K, Hamada Y, Hasegawa S, Hirai F.
11	The first autopsy case of Epstein-Barr virus-positive marginal zone lymphoma that deteriorated after COVID-19 vaccination.	Pathol Int	74(2): 87-92, 2024	Wang Z, Muto R, Miyoshi H, Aoki M, Uesugi N, Murayama H, Masutani K, Hamasaki M
12	胃粘膜下腫瘍様の形態を呈した腹膜中皮腫の一例	大分県臨床細胞学会誌	33:10-13, 2024	中園　裕一，芦田　拓未， 澤田　吉人，後藤　優加， 吉田　大輔，濱崎　　慎

13	外陰に発生した高異型度子宮内膜間質肉腫の一例	福岡大学医学紀要	50(2): 77-82, 2023	伊東　智宏, 吉川　賢一, 重川浩一郎, 古賀　佳織, 濱崎　　慎, 四元　房典
14	若年者の肩部に発生した褐色脂肪腫の１例	日本臨床細胞学会九州連合会雑誌	54:71-75, 2023	小山　　逸, 松本　慎二, 角谷　優子, 坂田　祥子, 秋吉　梨江, 西中村恵輔, 青木光希子, 古河祐紀子, 今福　信一, 濱崎　　慎
15	線維形成性毛包上皮腫	西日本皮膚科	85(2): 89-90, 2023	西村　美紅, 古賀　佳織, 木村　翔一, 伊藤宏太郎, 鍋島　一樹, 中原　剛士
16	著しい脾臓浸潤を認めた膵臓腺房細胞癌の１例	日本臨床細胞学会九州連合会雑誌	54:97-102, 2023	秋吉　梨江, 松本　慎二, 角谷　優子, 小山　　逸, 坂田　祥子, 西中村恵輔, 石田　祐介, 梶原　正俊, 濱田　義浩, 濱崎　　慎
17	当院の脳腫瘍症例における原発性中枢神経系リンパ腫の頻度の推移および予後分類システムの有用性についての検討	福岡大学医学紀要	50(2): 57-61, 2023	垰本　僚太, 青木光希子, 鍋島　一樹, 武藤　礼治, 榎本　年孝, 安部　　洋, 濱崎　　慎
18	乳児指趾線維腫症の１例　本邦報告21例の検討	西日本皮膚科	85(5): 362-365, 2023	村尾　　玲, 麻生麻理子, 古賀　文二, 古賀　佳織, 鶴田　紀子
19	皮膚原発腋窩アポクリン癌の１例	西日本皮膚科	85(4): 288-292, 2023	古河裕紀子, 佐藤　絵美, 筒井　啓太, 古賀　佳織, 益雪　凌介, 高野　彩加, 今福　信一
20	臨床症状と病理組織所見から線状 IgA 水疱性皮膚症との鑑別が困難であった後天性表皮水疱症の１例	西日本皮膚科	85(4): 272-276, 2023	吉村　麻衣, 古賀　文二, 古賀　佳織, 石井　文人, 名嘉眞武國, 今福　信一
21	頸部に生じた褐色脂肪腫の１例	西日本皮膚科	85(3): 176-179, 2023	古河裕紀子, 佐藤　絵美, 筒井　啓太, 青木光希子, 古賀　佳織, 今福　信一

〈総説〉

1	An Update on Clinicopathological, Imaging, and Genetic Features of Angioleiomyoma.	Cancer Diagn Progn	3(2): 145-150, 2023	Koga M, Nishio J, Koga T, Koga K, Nakayama S, Yamamoto T
2	Spindle Cell Lipoma and Pleomorphic Lipoma: An Update and Review.	Cancer Diagn Progn	3(3): 282-290, 2023	Ohshima Y, Nishio J, Nakayama S, Koga K, Aoki M, Yamamoto T

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（ランチョンセミナー9） 効率的な免疫染色のワークフローと特殊染色の自動化が病理検査・診断にもたらすこと	第62回日本臨床細胞学会秋期大会	福岡 11/4-11/5 2023	濵﨑　　慎, 松本　慎二
2	（教育講演） 中皮腫診断の現状－遺伝子異常基づく補助診断法の応用－	第62回日本臨床細胞学会秋期大会	福岡 11/4-11/5 2023	濵﨑　　慎, 角谷　優子, 松本　慎二

3	（特別講演） 腎生検電顕の見方-1	第29回九州沖縄腎生検フォーラム	福岡 3/3 2024	上杉　憲子
4	（国際学会発表） A case of multinucleate cell angiohitiocytoma	The 60th annual meeting of the American Society of Dermatopathology	Chicago, USA October 5-8 2023	Koga K, Ito K, Hamasaki M

〈国内研究助成金〉

1	悪性胸膜中皮腫細胞診診断の精度向上に関する研究：新規良悪性鑑別マーカーの探索	文部科学省 基盤研究C	2023	濵﨑　　慎（代表）
2	NIB-101コンパニオン診断薬開発	ノイルイミューン・ニチレイバイオサイエンス	2023	濵﨑　　慎（代表）
3	Emmprin と CD73の結合阻害薬を開発するための基盤研究	文部科学省 基盤研究C	2023	青木光希子（代表）

〈学会活動〉

1	日本病理学会	学術評議員	2023	濵﨑　　慎，上杉　憲子， 濵田　義浩，青木光希子， 古賀　佳織，牟田　紘子
2	日本病理学会・国立がん研究センター	病理診断コンサルテーション　コンサルタント	2023	濵﨑　　慎，古賀　佳織
3	日本病理学会	センター調査個別調査部会部会員	2023	濵﨑　　慎
4	日本臨床細胞学会	細胞診ガイドライン改訂ワーキンググループ体腔液小委員会委員	2023	濵﨑　　慎
5	日本臨床細胞学会	第65回日本臨床細胞学会春期大会コアプログラム委員	2023	濵﨑　　慎
6	環境省	中央環境審議会専門委員	2023	濵﨑　　慎
7	環境省	環境保健部会所属専門委員	2023	濵﨑　　慎
8	環境省	環境保健部会石綿健康被害判定小委員会所属専門委員	2023	濵﨑　　慎
9	日本石綿・中皮腫学会（JAMIG）	理事	2023	濵﨑　　慎
10	日本肺癌学会	評議員	2023	濵﨑　　慎
11	日本肺癌学会	病理委員会委員	2023	濵﨑　　慎
12	日本肺癌学会	病理委員会・アドホック胸部腫瘍改定作業小委員会委員	2023	濵﨑　　慎
13	日本肺癌学会	ガイドライン胸膜中皮腫小委員会委員　病理委員代表	2023	濵﨑　　慎
14	日本肺癌学会	中皮腫取扱い規約改定委員	2023	濵﨑　　慎
15	九州肺癌研究機構（LOGIK）	LOGIK プロトコール委員（病理）	2023	濵﨑　　慎
16	中皮腫細胞診研究会	幹事	2023	濵﨑　　慎

17	腎臓病学会	評議員	2023	上杉　憲子
18	日本皮膚病理組織学会	理事	2023	古賀　佳織

微生物・免疫学

〈原著〉

1	*Chlamydia pneumoniae* Lung Infection in Mice Induces Fatty Acid-Binding Protein 4-Dependent White Adipose Tissue Pathology.	J. Immunol.	210(8):1086-1097, 2023	Kurihara Y, Walenna NF, Ishii K, Soejima T, Chou B, Yoshimura M, Ozuru R, Shimizu A, Itoh R, Furuhashi M, Hotamisligil GS, Hiromatsu K.
2	Antibody acquisition after second and third SARS-CoV-2 vaccinations in Japanese kidney transplant patients: a prospective study.	Clin. Exp. Nephrol.	27(6):574-582, 2023	Deguchi H, Sakamoto A, Nakamura N, Okabe Y, Miura Y, Iida T, Yoshimura M, Haga N, Nabeshima S, Masutani K.
3	Multiple mutations of *Mycobacterium intracellulare* subsp. *chimaera* causing false-negative reaction to the transcription-reverse transcription concerted method for pathogen detection.	Int. J. Infect. Dis.	133:14-17, 2023	Togawa A, Chikamatsu K, Takaki A, Matsumoto Y, Yoshimura M, Tsuchiya S, Nakamura S, Mitarai S.
4	Insufficient anti-spike RBD IgA responses after triple vaccination with intramuscular mRNA BNT162b2 vaccine against SARS-CoV-2.	Heliyon	10(1):e23595, 2024	Yoshimura M, Sakamoto A, Ozuru R, Kurihara Y, Itoh R, Ishii K, Shimizu A, Chou B, Sechi Y, Fujikane A, Nabeshima S, Hiromatsu K.
5	The appearance of anti-spike receptor binding domain immunoglobulin G4 responses after repetitive immunization with messenger RNA-based COVID-19 vaccines	Int. J. Infect. Dis.	139:1-5, 2024	Yoshimura M, Sakamoto A, Ozuru R, Kurihara Y, Itoh R, Ishii K, Shimizu A, Chou B, Nabeshima S, Hiromatsu K.

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（招待講演） 細胞内寄生体の脂肪細胞への感染意義	第98回日本結核・非結核性抗酸菌症学会学術講演会	東京 6/10-6/11 2023	栗原　悠介
2	（シンポジウム） SARS-CoV-2感染症と mRNA ワクチンが我々にもたらしたもの －免疫学的視点から見た COVID-19mRNA ワクチンの明暗－	第73回日本東洋医学会学術総会	福岡 6/16-6/18 2023	廣松　賢治
3	（国際学会） Pathogenic leptospires induce lipolysis in host adipocytes via adrenergic receptors to obtain their carbon sources.	The 21st Awaji International Forum on Infection and Immunity	Nagano, Japan 9/3-9/6 2023	Ozuru R,Ishii K, Fujiki S, Hiromatsu K
4	（国際シンポジウム） Automating tests for leptospirosis with deep learning -Seeing “by computer” is believing-	Philippine Society for Microbiology Cluster 1 Symposium “Computational Microbiology and Biotechnology in an Evolving Microbial World”	Manilla, Philippines 1/27 2024	Ozuru R

5	（国際学会） An unique strategy for acquiring carbon sources: Leptospira induces lipolysis in the host adipocytes via adrenergic receptors.	Gordon Research Conference, Biology of Spirochetes	Ventura, CA, USA 1/14-1/19 2024	Ozuru R, Kurihara Y, Ishii K, Fujiki S, Yoshimura M, Hiromatsu K

〈国内研究助成金〉

1	脂質代謝に着目したトリパノソーマ感染機構・シャーガス病病態形成の分子基盤	文部科学省 基盤研究C	2023	石井　一成（代表）
2	非結核性抗酸菌 Mycobacterium abscessus の休眠体誘導メカニズムの解析	文部科学省 基盤研究C	2023	栗原　悠介（代表）
3	レプトスピラの脂肪組織定着機構を利用したレプトスピラ症新規バイオマーカーの創出	文部科学省 若手研究	2023	尾鶴　　亮（代表）
4	ミトコンドリア形態を利用した肺炎クラミジア感染戦略の解明	文部科学省 若手研究	2023	栗原　悠介（代表）
5	肺炎クラミジア遺伝子機能解析の為の遺伝子破壊株ライブラリの作製	文部科学省 若手研究	2023	清水　章文（代表）
6	肺炎クラミジアによる宿主脂質代謝系の異常とエクソソームの関連	文部科学省 若手研究	2023	吉村　芳修（代表）
7	Circadian rhythm dusregulation due to enterie bacterial infection through microbiota-gut-brain axis	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 （AMED）	2023	尾鶴　　亮（代表）
8	AI 技術を用いたレプトスピラ症診断の自動化と標準化	福岡大学 総合科学研究	2023	尾鶴　　亮（代表）

再生・移植医学

〈原著〉

1	Procedure of Adult Porcine Islet Isolation.	Tissue Eng Part C Methods.	29(4): 144-153. 2023 Apr	Sakata N, Yoshimatsu G, Kawakami R, Chinen K, Aoyagi C, Kodama S.
2	Elevation in white blood cell count and development of hyper LDL cholesterolemia.	Sci Rep.	13(1): 8292. 2023 May	Okutsu S, Kato Y, Takeoka H, Funakoshi S, Maeda T, Yoshimura C, Kawazoe M, Satoh A, Tada K, Takahashi K, Ito K, Yasuno T, Fujii H, Mukoubara S, Saku K, Kodama S, Kawanami D, Masutani K, Arima H, Nabeshima S.
3	Serum triglyceride levels and incidence of hypertension in a general Japanese population: ISSA-CKD study.	Hypertens Res.	46(5): 1122-1131. 2023 May	Ishida S, Kondo S, Funakoshi S, Abe M, Satoh A, Kawazoe M, Maeda T, Yoshimura C, Nishida Y, Tada K, Takahashi K, Ito K, Yasuno T, Kawanami D, Miura SI, Kodama S, Saku K, Mukobara S, Masutani K, Arima H.

4	Comparison of changes in health-related quality of life between elderly and non-elderly patients undergoing elective surgery for colorectal cancer.	Int J Colorectal Dis.	38(1): 149. 2023 May	Watanabe T, Ohno R, Kajitani R, Sahara K, Munechika T, Matsumoto Y, Aisu N, Kojima D, Yoshimatsu G, Hasegawa S.
5	Differentiation of human adipose tissue-derived mesenchymal stromal cells into steroidogenic cells by adenovirus-mediated overexpression of NR5A1 and implantation into adrenal insufficient mice.	Cytotherapy.	25(8): 866-876. 2023 Aug	Aoyagi C, Tanaka T, Haga N, Yanase T, Kodama S.
6	Establishment of a Simple, Reproducible, and Long-lasting Hind Limb Animal Model of Lymphedema.	Plast Reconstr Surg Glob Open.	11(9): e5243. 2023 Sep	Morita Y, Sakata N, Kawakami R, Shimizu M, Yoshimatsu G, Wada H, Kodama S
7	福岡大学における動物実験計画書審査の電子化について	九州実験動物雑誌	№39:21-26, 2023 Sep.	田中　聖一，上原　吉就，古賀　允久，坂田　直昭（他10名）
8	Metabolic intervention by low carbohydrate diet suppresses the onset and progression of neuroendocrine tumors.	Cell Death Dis.	14(9): 597. 2023 Sep	Chen Y, Yamamoto T, Takahashi Y, Moro T, Tajima T, Sakaguchi Y, Sakata N, Yokoyama A, Hijioka S, Sada A, Tabata Y, Ohki R.
9	Optimal temperature for the long-term culture of adult porcine islets for xenotransplantation.	Front Immunol.	13;14:1280668. 2023 Oct	Sakata N, Yoshimatsu G, Kawakami R, Aoyagi C, Kodama S.
10	Rescue of murine hind limb ischemia via angiogenesis and lymphangiogenesis promoted by cellular communication network factor 2.	Sci Rep.	16;13(1): 20029. 2023 Nov	Shimizu M, Yoshimatsu G, Morita Y, Tanaka T, Sakata N, Tagashira H, Wada H, Kodama S.
11	The porcine islet-derived organoid showed the characteristics as pancreatic duct.	Sci Rep.	14(1): 6401. 2024 Mar	Sakata N, Yoshimatsu G, Kawakami R, Nakano K, Yamada T, Yamamura A, Nagashima H, Kodama S.

〈総説〉

1	糖尿病治療としての移植医療	臨牀と研究	101(2): 220-227, 2024年2月	吉松　軍平，坂田　直昭，小玉正太

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（パネルディスカッション４） 福岡大学における膵島移植への取り組み	第109回日本消化器病学会総会	長崎市 4/6-8 2023	坂田　直昭，吉松　軍平，小玉正太
2	（分野別ワークショップ） ブタ膵島異種移植を実現するための取り組み：長期培養下ブタ膵島の特性の検証	第59回日本移植学会総会	京都市 9/21-23 2023	坂田　直昭，川上　　亮，吉松　軍平，小玉　正太
3	（臓器横断的シンポジウム２） 膵島移植におけるコーディネーターの育成～教育を受けた立場から～	第59回日本移植学会総会	京都市 9/21-23 2023	江崎　綾奈

4	（招待講演） Islet xenotransplantation	The 3rd Congress of Asian Pancreas and Islet Cell transplantation Association 2023（APITA2023）	Taipei, Taiwan December 10 2023	Kodama S.
5	（シンポジウム１） 遺伝子改変型膵島を用いた国内異種膵島移植の実施を目指して	第26回日本異種移植研究会	鹿児島市 2/17 2024	小玉　正太
6	（シンポジウム１） ブタ膵島保存のための取り組み：ブタ膵島培養研究を中心に	第26回日本異種移植研究会	鹿児島市 2/17 2024	坂田　直昭，川上　　亮， 吉松　軍平，小玉　正太

〈国内研究助成金〉

1	慢性膵炎等に対する膵全摘術に伴う自家膵島移植術の先進医療制度下多施設共同試験	AMED 再生医療実用化研究事業	2023	小玉　正太 （代表者：霜田　雅之）

〈学会活動〉

1	日本膵・膵島移植学会	理事	2023	小玉　正太
2	日本膵・膵島移植学会	評議員	2023	坂田　直昭
3	日本組織移植学会	理事	2023	小玉　正太
4	日本組織移植学会	評議員	2023	小玉　正太，坂田　直昭， 吉松　軍平
5	日本移植学会	理事	2023	小玉　正太
6	日本移植学会	代議員	2023	小玉　正太
7	日本再生医療学会	代議員	2023	小玉　正太

衛生・公衆衛生学

〈原著〉

1	Effect of Pharmacotherapy for Overactive Bladder on the Incidence of and Factors Related to Urinary Tract Infection: A Systematic Review and Meta-analysis.	J Urol.	209(4)： 665-674 2023	Tsubouchi K, Arima H, Abe M, Matsuzaki H, Tominaga K, Fujikawa A, Gunge N, Miyazaki T, Okabe Y, Nakamura N, Matsuoka H, Okutsu S, Tada K, Haga N.
2	Impact of non-motor fluctuations on QOL in patients with Parkinson's disease.	Front Neurol.	14：1149615 2023	Kakimoto A, Kawazoe M, Kurihara K, Mishima T, Tsuboi Y
3	Cost effectiveness of low-dose compared to standard-dose alteplase for acute ischemic stroke in China: a within-trial economic e valuation of the ENCHANTED study.	Cerebrovasc Dis.	52(2)： 145-152 2023	Si L , Chen X, Ouyang M, Wang X, Chen G, Cao Y J, Wu G, Zhang J, Zhang J, Liu Y, Zhangm S, Song L, Delcourt G, Arima H（Co-author）, Wang L, Lung T, Chen M, S G Anderson, Jan S.

4	Serum triglyceride levels and incidence of hypertension in a general Japanese population: ISSA-CKD study.	Hypertens Res.	46(5): 1122-1131 2023	Ishida S, Kondo S, Funakoshi S, Abe M, Satoh A, Kawazoe M, Maeda T, Yoshimura C, Nishida Y, Tada K, Takahashi K, Ito K, Yasuno T, Kawanami D, Miura SI, Kodama S, Saku K, Mukobara S, Masutani K, Arima H.
5	Elevation in white blood cell count and development of hyper LDL cholesterolemia.	Sci Rep.	13(1): 8292 2023	Okutsu S, Kato Y, Takeoka H, Funakoshi S, Maeda T, Yoshimura C, Kawazoe M, Satoh A, Tada K, Takahashi K, Ito K, Yasuno T, Fujii H, Mukoubara S, Saku K, Kodama S, Kawanami D, Masutani K, Arima H, Nabeshima S.
6	Casual Serum Triglyceride Concentrations and New-Onset Chronic Kidney Disease in the General Japanese Population: The Iki City Epidemiological Study of Atherosclerosis and Chronic Kidney Disease Study.	Kidney Blood Press Res	48(1): 495-504 2023	Takahashi K, Nishida Y, Yokota S, Tada K, Hiyamuta H, Ito K, Yasuno T, Maeda T, Arima H, Masutani K.
7	Author Correction: A nationwide web-based survey of oncologic surgeons to clarify the current status of preoperative assessment for elderly cancer surgery patients in Japan.	Sci Rep.	13(1): 9705 2023	Inoue D, Yamamoto M, Arima H, Tamura K, Yoshida Y.
8	Association between serum ALT levels and incidence of new-onset diabetes in general population of Japanese: a longitudinal observational study (ISSA-CKD)	BMJ Open	13(8): e074007 2023	Morinaga A, Iwanaga K, Maki K, Ueno T, Kawano K, Funakoshi S, Yamanokuchi T, Tsuji M, Abe M, Satoh A, Kawazoe M, Maeda T, Yoshimura C, Takahashi K, Tada K, Ito K, Yasuno T, Kawanami D, Masutani K, Arima H.
9	Two-year evolution of quality of life following radiotherapy and/or chemotherapy in patients with head and neck cancer	Asia Pac J Oncol Nurs.	10(11): 100301 2023	Iwanaga K, Ishibashi Y, Maki K, Ura A, Kotake K, Haba K, Sakata T, Nakagawa T, Arima H.
10	Changes in patellar baja progress until 3 months after medial open-wedge high tibial osteotomy.	J Orthop Surg (Hong Kong)	30(3): 10225536221128615. 2023	Kudo Y, Maeyama A, Ishimatsu T, Matsunaga T, Hara J, Arima H, Yamamoto T.
11	Urate-lowering drugs for chronic kidney disease with asymptomatic hyperuricemia and hypertension: a randomized trial.	J Hypertens	41(9): 1420-1428 2023	Kohagura K, Satoh A, Kochi M, Nakamura T, Zamami R, Tana T, Kinjyo K, Funakoshi R, Yamazato M, Ishida A, Sakima A, Iseki K, Arima H, Ohya Y.

12	Progressive Supranuclear Palsy can mimic idiopathic normal pressure hydrocephalus : A case series.	J Neuropathol Exp Neurol.	82(12) : 1033-1036 2023	Kawazoe M, Koga S, Dickson DW,.
13	Validation Study of the MDS Criteria for the Diagnosis of Multiple System Atrophy in the Mayo Clinic Brain Bank.	Neurology	101(24) e2460-e2471 2023	Sekiya H, Koga S, Murakami A, Kawazoe M, Kim M, Martin NB, Uitti RJ, Cheshire WP, Wszolek ZK, Dickson DW
14	Real-World Evidence for Risk Factors of Bruises and Fractures from Falls in Patients with Overactive Bladder: A Medical Record Analysis.	Int J Clin Pract.	3701823	Miyajima S, Omaru T, Ishii T, Arima H, Shibata Y, Izaki T, Haga N.
15	Update on the INTEnsive ambulance-delivered blood pressure Reduction in hyper-ACute stroke Trial (INTERACT4): progress and baseline features in 2053 participants.	Trials.	24(1) : 817	Chen C, Lin Y, Liu F, Chen X, Billot L, Li Q, Guo Y, Liu H, Si L, Ouyang M, Zhang C, Arima H, Bath PM, Ford GA, Robinson T, Sandset EC, Saver JL, Sprigg N, van der Worp HB, Liu G, Song L, Yang J, Li G, Anderson CS; INTERACT4 Investigators.
16	Association between occurrence of multiple white and flat elevated gastric lesions and oral proton pump inhibitor intake.	Clin Endosc.	57(1) : 65-72 2024	Hasegawa R, Yao K, Kanemitsu T, Arima H, Hirase T, Hiratsuka Y, Takeda K, Imamura K, Ohtsu K, Ono Y, Miyaoka M, Hisabe T, Ueki T, Tanabe H, Ohta A, Nimura S.
17	The gut microbiota and coronary armentery calcification in Japanese.	Am Heart J.	267: 12-21 2024	Okami Y, Arima H, Kondo K, Hexun Z, Yano Y, Kadota A, Torii S, Hisamatsu T, Fujiyoshi A, Kadowaki S, Watanabe Y, Andoh A, Nakagawa Y, Ueshima H, Miura K for the SESSA Research Group MD
18	Optimum baseline clinical severity scale cut points for prognosticating intracerebral hemorrhage: INTERACT studies.	Stroke	55(1) : 139-145 2024	You S, Zheng D, Yoshimura S, Ouyang M, Han Q, Wang X, Cao Y, Delcourt C, Song L, Arima H, Chen X, Liu CF, Lindley RI, Robinson T, Craig S Anderson CS, Chalmers J; INTERACT Investigators

19	Association of step counts with cognitive function in apparently healthy middle-aged and older Japanese men.	Prev Med Rep.	in press 2024	Shibukawa T, Fujiyoshi A, Moniruzzaman M, Miyagawa N, Kadota A, Kondo K, Saito Y, Kadowaki S, Hisamatsu T, Yano Y, Arima H, Tooyama I, Ueshima H, Miura K.
20	Association of gut microbiome with COPD in Japanese male residents: the SESSA study.	ERJ Open Research.	10(1): 00788-2023 2024	Kawashima , Kinose D, Arima H, Kondo K, Yamazaki A, Uchida Y, Nakagawa H, Yamaguchi M, Segawa H, Torii S, Okami Y, Kadota A, Yano Y, Andoh A, Miura K, Nakano Y, Ueshima H.
21	Dysbiosis of Gut Microbiota in Patients with Chronic Kidney Disease.	Intern Med.	63(3): 347-352 2024	Yasuno T, Takahashi K, Tada K, Hiyamuta H, Watanabe M, Ito K, Arima H, Masutani K.
22	Intensive Ambulance-Delivered Blood-Pressure Reduction in Hyperacute Stroke.	NEJM.	in press 2024	Li G, Lin Y, Yang J, Anderson CS, Chen C, Liu F, Billot L, Li Q, Chen X, Liu X, Ren X, Zhang C, Xu P, Wu L, Wang F, Qiu D, Jiang M, Peng M Y, Li C, Huang Y, Zhao X, Liang J, Wang Y, Wu X, Xu MX, Chen G, Huang D, Zhang Y, Zuo L, Ma G, Yang Y, Hao J, Xu X, Xiong X, Tang Y, Guo Y, Yu J , Li S, He S, Mao F, Tan Q, Tan S, Yu N, Xu R, Sun M, Li B, Guo J, Liu L, Liu H, Ouyang M, Si L, Arima H, Philip M Bath FMedSci,32 Gary A Ford, Thompson Robinson, Else Charlotte Sandset, Jeffrey L. Saver, Nikola Sprigg, H. Bart van der Worp, Lili Song, for the INTERACT4 investigators
23	Relationship between abdominal circumference and the incidence of hyperuricemia in the general Japanese population.	Sci Rep.	14(1): 4573 2024	Kawano K, Ueno T, Maeda T, Nohara C, Maki K, Iwanaga K, Morinaga A, Funakoshi S, Abe M, Satoh A, Kawazoe M, Yoshimura C, Takahashi K, Tada K, Ito K, Yasuno T, Mukobara S, Kawanami D, Masutani K, Arima H.
24	Sleep-related breathing disorder in a Japanese occupational population and its a ssociation with hypertension - Stratified analysis by obesity status -	Hypertens Res.	Online ahead of print. 2024	Inoue M, Sakata S, Arima H, Yamato I, Oishi E, Ibaraki A, Goto K, Kitazono T.

25	Risk of recurrent stroke and dementia following acute stroke by changes in kidney function: results from PROGRESS.	J Hypertens.	Online ahead of print. 2024	Maeda T, Woodward M, Jun M, Sakamoto Y, Chen X, Matsushita K, Mancia G, Arima H, Anderson CS, Chalmers J, Harris K.

〈総説〉

1	デジタル技術と高血圧に関する指針作成の意義	Current Therapy	41(5): 38-41 2023	吉村　力，有馬　久富
2	血圧管理におけるデジタル技術の活用	腎と透析	95(2): 164-167 2023	吉村　力，有馬　久富
3	睡眠をめぐる近年の治験と職場での対応３ 労働者の睡眠時無呼吸症候群	産業医学ジャーナル	47(1): 67-72 2024	吉村　力
4	An evidence review project for food with function claims ~Challenges of the Japan society for vascular failure for the promotion of adequate evidences for food with function claims	Hypertens Res.	47(2): 533-536 2024	Matsumoto C, Tomiyama H, Takahashi O, Matsuzawa Y, Masaki N, Muraki I, Yano Y, Sugimoto T, Kabutoya T, Sawami K, Tanaka A, Arima H, Sata M, Node K.
5	Dementia: a looming threat for women with hypertensive disorders of pregnancy?	Hypertens Res.	Online ahead of print.	Abe M, Arima H

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（シンポジウム） 長崎県壱岐市における慢性腎臓病（CKD）予防の取り組み	第59回日本循環器病予防学会学術集会	鹿児島 6/3 2023	有馬　久富
2	（シンポジウム） JSH2025に求められるシステマティック・レビューとは　What is the systematic review required for JSH2025	第45回日本高血圧学会総会	大阪 9/17 2023	有馬　久富
3	（シンポジウム） デジタル技術を活用した生涯にわたる血圧管理に関する指針の研究開発　Development of guideline for lifetime blood pressure contorol using digital tchnologies	第45回日本高血圧学会総会	大阪 9/17 2023	有馬　久富
4	（シンポジウム） 睡眠時無呼吸症候群を公衆衛生から攻める	第82回日本公衆衛生学会総会	つくば 11/2 2023	吉村　力
5	（シンポジウム） SAS の治療選択を見直す～CPAP firstってどうなの？～SAS 治療選択肢の調査研究～SRNG 研究会からのお願い～	日本睡眠学会第45回定期学術集会	横浜 9/15 2023	吉村　力
6	（シンポジウム） SAS 診療において合併症をどうするか？ 気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患（COPD）について	日本睡眠学会第45回定期学術集会	横浜 9/15 2023	吉村　力

7	（国際学会） Idiopathic normal pressure hydrocephalus features on MRI in patients with pathologically confirmed progressive supranuclear palsy	World Congress on Parkinson's Disease and Related Disorders 2023	Chicago USA May 13-16 2023	M Kawazoe

〈国内研究助成金〉

1	心房細胞患者の至適降圧レベルを検討する無作為化比較試験	文部科学省 基盤研究Ｂ	2023	有馬　久富（代表） 吉村　　力（分担） 前田　俊樹（分担） 川添　美紀（分担） 佐藤　　敦（分担） 阿部真紀子（分担）
2	腸内細菌から動脈硬化を予測する：AI を用いた挑戦	文部科学省 挑戦的研究（萌芽）	2023	有馬　久富（代表） 吉村　　力（分担） 前田　俊樹（分担） 川添　美紀（分担） 佐藤　　敦（分担） 阿部真紀子（分担）
3	腸内細菌叢と認知機能・動脈硬化・フレイルに関する東西４コホート統合疫学研究	文部科学省 基盤研究Ｂ	2023	有馬　久富 （代表者：久松　隆史）
4	動脈硬化予防に最適な身体活動プログラムの開発	文部科学省 基盤研究Ｃ	2023	有馬　久富 （代表者：藤居　貴子）
5	若年高血圧に関する口腔内・腸内細菌を探索し予防と治療につなげる研究	文部科学省 基盤研究Ｃ	2023	有馬　久富 （代表者：荒川　仁香）
6	妊婦の会陰部裂傷と産後の QOL に対する会陰部マッサージ効果検証と手技の確立	文部科学省 基盤研究Ｃ	2023	有馬　久富 （代表者：齋藤　祥乃）
7	一般住民における過活動膀胱，夜間頻尿と動脈硬化の機序解明	文部科学省 基盤研究Ｃ	2023	有馬　久富，吉村　　力， 前田　俊樹，川添　美紀， 佐藤　　敦 （代表者：坪内　和女）
8	感染症発症に関与する腸内細菌叢異常を解明	文部科学省 基盤研究Ｃ	2023	有馬　久富 （代表者：武岡　宏明）
9	口腔－腸内性菌叢と人工呼吸器関連肺炎（VAP）	文部科学省 基盤研究Ｃ	2023	有馬　久富 （代表者：喜多　涼介）
10	認知症初期の人の介護者支援の介入研究－integra ted care の視点から	文部科学省 基盤研究Ｃ	2023	有馬　久富 （代表者：冨嶺　克己）
11	動脈硬化性疾患患者の口腔－腸内細菌叢の微生物相解析	文部科学省 基盤研究Ｃ	2023	有馬　久富 （代表者：冨嶺　克己）
12	病型別に慢性腎臓病の発症および増悪に関与する腸内細菌叢異常を解明する	文部科学省 基盤研究Ｃ	2023	有馬　久富，吉村　　力， 前田　俊樹 （代表者：安野　哲彦）
13	最終糖化産物（AGEs）の慢性腎臓病に対する影響を解明する－疫学的視点より－	文部科学省 基盤研究Ｃ	2023	有馬　久富 （代表者：伊藤　建二）
14	認知症初期の人の介護者支援の介入研究-integrated care の視点から	文部科学省 基盤研究Ｃ	2023	有馬　久富 （代表者：馬場みちえ）
15	一般住民における前立腺肥大と動脈硬化の機序解明	文部科学省 基盤研究Ｃ	2023	有馬　久富，吉村　　力， 前田　俊樹，佐藤　　敦 （代表者：中村　信之）

16	人工呼吸器関連肺炎続発患者における口腔－腸内細菌叢相関の集中治療施設間比較	文部科学省 基盤研究C	2023	有馬　久富 （代表者：眞野　亮介）
17	動脈硬化，心血管病，CKD に及ぼす不眠症，睡眠時無呼吸症候群の解明	文部科学省 基盤研究C	2023	吉村　　力（代表） 有馬　久富（分担） 前田　俊樹（分担） 川添　美紀（分担） 佐藤　　敦（分担）
18	ソーシャルキャピタルが潜在性動脈硬化に及ぼす影響	文部科学省 若手研究	2023	前田　俊樹（代表）
19	気象・周辺環境情報を統合した保健医療情報基盤構築と個人・環境要因の複合的影響評価	文部科学省 基盤研究B	2023	前田　俊樹 （代表者：西　　巧）
20	死亡票とレセプトの連結解析による高齢者終末期ケアの実態解明	文部科学省 挑戦的研究(萌芽)	2023	前田　俊樹 （代表者：西　　巧）
21	多系統萎縮症の発症に関与する腸内細菌叢異常を解明する－疫学・遺伝子学的視点より－	文部科学省 基盤研究C	2023	川添　美紀（代表） 有馬　久富（分担）
22	一般住民における Troponin T と潜在性動脈硬化との関連	文部科学省 若手研究	2023	佐藤　　敦（代表）
23	デジタル技術を活用した生涯にわたる血圧管理に関する指針の研究開発	受託研究 国立研究開発法人医療研究開発機構	2023	有馬　久富（代表） 吉村　　力（分担・事務局長） 前田　俊樹（分担） 川添　美紀（分担） 佐藤　　敦（分担） 阿部真紀子（分担）
24	循環器疾患におけるヘルスケアサービスの有効性に関するエビデンスの整理と指針作成	受託研究 国立研究開発法人医療研究開発機構	2023	有馬　久富（代表） 阿部真紀子（分担）
25	中等症以上の閉塞性睡眠時無呼吸患者を対象とした CPAP または口腔内装置治療による心血管イベントの抑制効果を検討する前向きコホート研究	受託研究 国立大学法人九州大学	2023	有馬　久富（代表） 吉村　　力（分担） 前田　俊樹（分担） 川添　美紀（分担） 佐藤　　敦（分担）
26	東京貨物運送健康保険組合 新型コロナウイルス感染症に伴う慢性疾患の受療状況の変化に関する研究に係るデータ分析	受託研究 合同会社生活習慣病予防研究センター	2023	有馬　久富（代表）
27	東京貨物運送健康保険組合 保険者機能強化支援事業　事業評価に係るデータ分析	受託研究 合同会社生活習慣病予防研究センター	2023	有馬　久富（代表）
28	研究助成のため	壱岐市	2023	有馬　久富（代表）
29	研究助成のため	NPO 法人 RESPECT 研究会	2023	有馬　久富（代表）
30	研究助成のため	血圧管理研究会	2023	有馬　久富（代表）
31	研究助成のため	NPO 法人西日本炎症性皮膚疾患研	2023	有馬　久富（代表）
32	心臓周囲脂肪と冠動脈・胸腹部大動脈石灰化スコアとの関連に関する疫学的検討	福岡大学 若手・女性研究基盤構築支援事業	2023	阿部真紀子（代表）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第18回七隈睡眠研究会 第５回福岡北九州睡眠医療研究会	福岡	8/25 2023	吉村　力
2	第19回七隈睡眠研究会	福岡	12/21 2023	吉村　力
3	第20回七隈睡眠研究会	福岡	1/24 2024	吉村　力

〈学会活動〉

1	日本疫学会	理事	2023	有馬　久富
2	日本血管不全学会	理事	2023	有馬　久富
3	日本高血圧学会	理事	2023	有馬　久富
4	日本循環器病予防学会	理事	2023	有馬　久富
5	日本循環器学会九州支部	評議員	2023	有馬　久富
6	日本高血圧学会	評議員	2023	有馬　久富，吉村　力
7	日本循環器病予防学会	評議員	2023	有馬　久富，吉村　力
8	日本臨床薬理学会	代議員	2023	有馬　久富
9	日本公衆衛生学会	代議員	2023	有馬　久富
10	日本疫学会	代議員	2023	有馬　久富，吉村　力
11	Journal of Hypertension	編集委員	2023	有馬　久富
12	BMC Public Health	編集委員	2023	有馬　久富
13	HYPERTENSION	編集委員	2023	有馬　久富
14	Journal of Epidemiology	編集委員	2023	有馬　久富
15	Cerebrovascular Disease	編集委員	2023	有馬　久富
16	日本循環器病予防学会誌	編集委員	2023	有馬　久富
17	日本睡眠学会	評議員	2023	吉村　力
18	日本臨床生理学会	評議員	2023	吉村　力
19	日本呼吸器内視鏡学会	評議員	2023	吉村　力
20	日本呼吸器学会	代議員	2023	吉村　力
21	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会	代議員	2023	吉村　力
22	Scientific Reports	編集委員	2023	吉村　力
23	日本医療・病院管理学会	評議員	2023	前田　俊樹

法医学

〈原著〉

1	Immunohistochemical study of neuronal changes in the hippocampus and cerebellum of intoxication and drug-related cases.	Albanian J Med Health Sci	61：1-12，2023	Takayama M, Waters B, Kashiwagi M, Matsusue A, Kubo S.
2	Urinary phenylacetylglutamine as a possible biomarker for central nervous system disorders in forensic autopsy cases.	Leg Med	64：102274，2023	Ikematsu N, Hara K, Waters B, Matsusue A, Takayama M, Kashiwagi M, Kubo S.

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	An autopsy case of surfactant poisoning from detergent ingestion.	60th Annual Meeting of the International Association of Forensic Toxicologists	Rome, Italy August27-31 2023	Kashiwagi M, Waters B, Takayama M, Matsusue A, Kubo S.
2	An autopsy case considered amlodipine intoxication.	60th Annual Meeting of the International Association of Forensic Toxicologists	Rome, Italy August27-31 2023	Takayama M, Kashiwagi M, Matsusue A, Waters B, Kubo S.
3	Association between blood catecholamine concentrations and catechol-O-methyltransferase gene polymorphisms in forensic autopsy cases.	60th Annual Meeting of the International Association of Forensic Toxicologists	Rome, Italy August27-31 2023	Matsusue A, Ishikawa T, Ikeda T, Tani N, Takayama M, Waters B, Kashiwagi M, Kubo S.
4	Separation of barbiturates by fast GC-MS/MS and tandem columns.	60th Annual Meeting of the International Association of Forensic Toxicologists	Rome, Italy August27-31 2023	Waters B, Kashiwagi M, Matsusue A, Takayama M, Kubo S.
5	An autopsy case of cerebral hemorrhage in an HIV-infected patient with suspected HIV-associated cerebrovascular disease.	102. Jahrestagung Deutsche Gesellschaft für Rechtsmedizin	Jena, Germany September11-15 2023	Takayama M, Kashiwagi M, Matsusue A, Waters B, Kubo S.
6	（シンポジウム）「法中毒学の教育・研究における新たな潮流と毒性学との連携」死因究明において法中毒学，毒性学に求められるもの：死因究明等推進基本法の施行をうけて.	第50回日本毒性学会学術年会	横浜 6/19 2023	久保　真一
7	（シンポジウム）温故知新～忘れられない過去の事例から学ぶ：今を知って未来を拓く：了解現在，開拓未来.	日本法中毒学会第42年会	東京 6/30 2023	久保　真一
8	（教育講演）法医学　在宅医療における異状死を考える～人生の最期を誰が診るのか～.	第36回日本臨床内科医学会	福岡 10/8 2023	久保　真一
9	（退職記念特別講演）40年間を振り返って～生化学から病理学，中毒学そして，未来へ～.	第73回日本法医学会学術九州地方集会	鹿児島 10/27-28 2023	久保　真一
10	（シンポジウム）死因究明等推進基本法に求められる薬学部・薬科大学の役割.	日本薬学会第144年会	横浜 3/31 2024	久保　真一

〈国内研究助成金〉

1	新興感染症およびパンデミックに対応可能な剖検体制の確立のための研究	厚生労働省 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業	2023	久保　真一 （代表者：近藤　稔和）
2	乱用薬物による中枢神経障害の神経病理学的検索：免疫組織化学的研究	日本学術振興会 研究活動スタート支援	2023	髙山　みお（代表）
3	覚醒剤の毒性発現の個人差に影響する遺伝的要因の解明	日本学術振興会 基盤研究(C)	2023	松末　　綾（代表）
4	戦没者遺骨の身元特定に係る DNA 鑑定の精度向上に関する研究	厚生労働省 政策科学総合研究事業	2023	松末　　綾 （代表者：橋谷田真樹）

〈学会活動〉

1	日本法医学会	評議員	2023	久保　真一，柏木　正之
2	日本法中毒学会	理事	2023	久保　真一
3	日本法中毒学会	評議員	2023	久保　真一， ウォーターズ　ブライアン
4	法医中毒研究会	会長	2023	久保　真一
5	日本法医病理学会	理事	2023	久保　真一
6	日本犯罪学会	評議員	2023	久保　真一
7	法医中毒研究会	運営委員	2023	ウォーターズ　ブライアン

医学教育推進講座

〈原著〉

1	Scalp EEG-recorded high-frequency oscillations can predict seizure activity in Panayiotopoulos syndrome	Clinical Neurophysiology	Volume 156, December 2023, Pages 106-112	Takako Fujita, Yukiko Ihara, Hitomi Hayashi, Takahito Inoue, Shinichiro Nagamitsu, Sawa Yasumoto, Shozo Tobimatsu.
2	Predictive Factors for the Necessity of Hospitalization of Patients With Acute Alcohol Intoxication.	J Clin Med Res.	15(3): 161-165, 2023	Takeoka H, Horibata K, Masui S, Suzuyama H, Ajisaka K, Nabeshima S.
3	Elevation in white blood cell count and development of hyper LDL cholesterolemia.	Sci Rep	13(1): 8292, 2023	Okutsu S, Kato Y, Takeoka H, Funakoshi S, Maeda T, Yoshimura C, Kawazoe M, Satoh A, Tada K, Takahashi K, Ito K, Yasuno T, Fujii H, Mukoubara S, Saku K, Kodama S, Kawanami D, Masutani K, Arima H,
4	大学病院における医療職者の努力－報酬不均衡モデルによる職業性ストレスと労働災害・医療事故との関係	労働安全衛生研究	2023年16巻２号 p.117-125	錦谷まりこ，伊豆倉理江子， 澤渡　浩之，城戸　瑞穂， 守屋普久子，川波　祥子， 安元　佐和，武冨貴久子， 藤野ユリ子，永吉　絹子， 加藤　聖子，中島　直樹， 樗木　晶子

〈総説〉

1	第75回医学教育ワークショップの記録	福岡大学医学紀要	50(2)付1-2, 2023	八尋　英二，安元　佐和
2	第76回医学教育ワークショップの記録	福岡大学医学紀要	50(2)付3-6, 2023	八尋　英二，安元　佐和
3	第77回医学教育ワークショップの記録	福岡大学医学紀要	50(2)付7-11, 2023	八尋　英二，安元　佐和

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（シンポジウム） てんかん（けいれん）発作をとらえるポイントと実際：成人におけるけいれんを捉えるポイントと症例	第53回日本臨床神経生理学会	福岡 12/1 2023	安元　佐和

〈国内研究助成金〉

1	感染症発症に関与する腸内細菌叢異常を解明	文部科学省 基盤研究C	2023	武岡　宏明(代表)

〈学会活動〉

1	日本臨床神経生理学会	代議員	2023	安元　佐和
2	日本小児神経学会	評議員	2023	安元　佐和
3	日本てんかん学会	理事	2023	安元　佐和
4	日本医学教育学会	代議員	2023	安元　佐和，八尋　英二
5	日本循環器学会	評議員	2023	八尋　英二
6	日本病院総合診療医学会	評議員	2023	武岡　宏明
7	日本感染症学会	評議員	2023	武岡　宏明

〈研究に関係した賞〉

1	絵本で学ぶ心の発達とポリヴェーガル理論	第55回日本医学教育学会医学教育アカデミー賞	2023	安元　佐和

生命医療倫理学

〈原著〉

1	Associations of High-Density Lipoprotein Functionality with Coronary Plaque Characteristics in Diabetic Patients with Coronary Artery Disease: Integrated Backscatter Intravascular Ultrasound Analysis.	Biomolecules.	13(9): 1278, 2023	Takata K, Imaizumi S, Iwata A, Zhang B, Kawachi E, Miura S, Ogawa M.

〈症例報告〉

1	Distinct single spiky component of local abnormal ventricular activity and accurate identification of origin of premature ventricular complexes arising from left ventricular summit.	HeartRhythm Case Rep.	9;10(3): 182-185 2023	Tashiro K, Komaki T, Ideishi A, Mohri N, Miura SI, Ogawa M.

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（招待講演） 楽しい臨床研究のすすめ方	第29回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	横浜 7/15-16 2023	今泉　聡

〈学会活動〉

1	日本動脈硬化学会	評議員	2023	今泉　聡
2	日本高血圧学会	評議員	2023	今泉　聡
3	日本高血圧学会	研究倫理審査委員会委員	2023	今泉　聡
4	日本脳神経血管内治療学会	倫理委員会委員	2023	今泉　聡

総合医学研究センター

〈原著〉

1	Usefulness of NF2 hemizygous loss detected by fluorescence in situ hybridization in diagnosing pleural mesothelioma in tissue and cytology material: A multi-institutional study	Lung Cancer	175:27-35, 2023	Prakasit Sa-Ngiamwibool, M Hamasaki, Y Kinoshita, S Matsumoto, A Sato, T Tsujimura, K Kawahara, T Kasai, K Kushitani, Y Takeshima, K Hiroshima, A Iwasaki, K Nabeshima
2	Frequency of iduronate-2-sulfatase gene variants detected in newborn screening for mucopolysaccharidosis type II in Japan	Mol. Genet. Metab. Rep.	37:101003, 2023	Hattori Y, sawada T, Kido J, Sugawara K, Yoshida S, Matsumoto S, Inoue T, Hirose S, Nakamura K.
3	GWAS meta-analysis of over 29,000 people with epilepsy identifies 26 risk loci and subtype-specific genetic architecture	Nat Genet	55(9): 1471-82, 2023	International League Against Epilepsy Consortium on Complex E.
4	Genome-wide identification and phenotypic characterization of seizure-associated copy number variations in 741,075 individuals	Nat Commun	14(1): 4392, 2023	Montanucci L, Lewis-Smith D, Collins RL, Niestroj LM, Parthasarathy S, Xian J, Ganesan S, Macnee M, Brunger T, Thomas RH, Talkowski M, Epi C, Helbig I, Hirose S, et al.
5	Developmental changes in brain activity of heterozygous Scn1a knockout rats	Front Neurol	14:1125089, 2023	Tahara M, Higurashi N, Hata J, Nishikawa M, Ito K, Hirose S, Kaneko T, Mashimo T, Sakuma T, Yamamoto T, Okano HJ.
6	Malnutrition and inflammation status in nonobese patients with inflammatory bowel disease are associated with nonalcoholic fatty liver disease: a retrospective study	Intestinal research	21(4): 471-480, 2023	Nagata T, Funakoshi S, Morihara D, Shakado S, Yokoyama K, Takata K, Tanaka T, Fukunaga A, Yamauchi R, Fukuda H, Matsuoka H, Imakiire S, Sakisaka H, Matsuoka S, Kuno N, Abe K, Ishibashi H, Ashizuka S, Hirai F

7	Long-term outcome and eligibility of radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma over 3.0 cm in diameter	Scientific Reports	13(1)：16286．doi：10.1038/s41598-023-43516-w．	Tanaka T, Takata K, Miyayama T, Shibata K, Fukuda H, Yamauchi R, Fukunaga A, Yokoyama K, Shakado S, Sakisaka S, Hirai F

〈症例報告〉

1	Dravet 症候群に対して fenfluramine 療法を行った５例	てんかん研究	41(3)：507-513，2024	松浦　隆樹，浜野晋一郎，菊地健二郎，竹田里可子，竹内　博一，平田　佑子，小一原玲子，大場　大樹，大橋　博文，廣瀬　伸一，岡　　明
2	Two Cases of Rapidly Progressive Fatty Liver Disease due to Pancreatic Exocrine Insufficiency without a History of Surgery	Internal Medicine	62(18)：2667-2673，2023	Takata K, Nagata T, Matsumoto K, Miyayama T, Shibata K, Fukuda H, Yamauchi R, Fukunaga A, Tanaka T, Yokoyama K, Shakado S, Sakisaka S, Hirai F
3	Disappearance of Hepatocellular Adenoma in a Patient with Cornelia de Lange Syndrome after Treatment with Transcatheter Arterial Embolization	Internal Medicine	doi：10.2169/internalmedicine．2537-23	Takata K, Kitaguchi T, Tokushige H, Nagata T, Miyayama T, Shibata K, Fukuda H, Yamauchi R, Fukunaga A, Tanaka T, Yokoyama K, Shakado S, Yoshimitsu K, Kusano H, Sakisaka S, Hirai F
4	Hepatitis C Virus-associated Cryoglobulinemic Livedo Reticularis Improved with Direct-acting Antivirals	Internal Medicine	62(24)：3631-3636，2023	Yokoyama K, Kino T, Nagata T, Miyayama T, Shibata K, Fukuda H, Yamauchi R, Fukunaga A, Umeda K, Takata K, Tanaka T, Shakado S, Sakisaka S, Imafuku S, Hirai F

〈総説〉

1	手術相談室　症例呈示　Marfan 症候群小児の脱臼水晶体切除の適応，術式ならびに術後屈折矯正の選択は？	眼科手術	36(4)Page585-590（2023.10）	林　　英之，根岸　一乃，永田万由美，松下　五佳，近藤　寛之，太田　俊彦
2	国際学会の楽しみ方	小児内科	56(1)：128-130 2024	廣瀬　伸一
3	福岡県で実施された「拡大」新生児マススクリーニング	福岡県医報	1569:11 2023	廣瀬　伸一

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	インストラクションコース11「明日から使える！画像オーダーと診断の実際と手順（CT，MRI）」No.1	第77回　日本臨床眼科学会	2023年10月６日	尾山徳秀，林　　英之，中尾　雄三
2	インストラクションコース47　未熟児網膜症診療アップデート	第77回　日本臨床眼科学会	2023年10月８日	林　　英之，福嶋　葉子，清田真理子，川村　朋子，髙橋　理恵，野々部典枝

3	教育講演 ㊙：競争的資金の獲得法教えます	第65回日本小児神経学会学術集会	岡山 5/24-5/27 2023	廣瀬　伸一
4	New development of genetic treatment in epilepsy syndrome	16th Asian Oceanian Congress of Child Neurology	Bangkok, Thailand August 4-6 2023	Hirose Shinichi
5	Overview of channelopathy	16th Asian Oceanian Congress of Child Neurology	Bangkok, Thailand August 4-6 2023	Hirose Shinich
6	Pemafibrate improve hepatic fibrosis in patients with metabolic associated fatty liver disease （MAFLD）	The 3rd JSH International Liver Conference （ハイブリッド開催）	東京 9/7-9/8 2023	Yamauchi R, Yokoyama K, Tokushige H, Nagata T, Miyayama T, Shibata K, Fukuda H, Fukunaga A, Takata K, Tanaka T, Shakado S, Sakisaka S, Hirai F
7	Therapeutic Efficacy of Conversion Therapy after Systemic Chemotherapy for Patients with Unresectable Hepatocellular Carcinoma	The Asian Pacific Association for the Study of the Liver（APASL）2023	宮城 10/27-10/28 2023	Tanaka T, Nagata T, Miyayama T, Shibata K, Fukuda H, Yamauchi R, Fukunaga A, Takata K, Yokoyama K, Shakado S, Sakisaka S, Hirai F
8	Radiofrequency ablation for the treatment of hepatocellular carcinoma just below the hepatic capsule	The 33rd annual Meeting of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver（APASL）2024	京都 3/27-3/31 2024	Tanaka T, Nagata T, Miyayama T,Shibata K, Fukuda H, Yamauchi R, Fukunaga A, Takata K, Yokoyama K, Shakado S, Sakisaka S, Hirai F

〈国内研究助成金〉

1	難治性てんかんの分子病態研究成果を基盤とした創薬パイプライン実用展開研究	文部科学省 基盤研究 B	2023	廣瀬　伸一（代表）
2	iPS 細胞由来ニューロンの単一細胞解析を可能とするデバイス構築	文部科学省 基盤研究 B	2023	廣瀬　伸一 （代表者：安田　　隆）
3	ドラベ症候群に対する創薬シーズの最適化と動物モデルでの POC 取得	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構（AMED）	2023	廣瀬　伸一（代表）

〈学会活動〉

1	日本気胸・嚢胞性肺疾患学会	理事	2023	岩﨑　昭憲
2	日本気胸・嚢胞性肺疾患学会	評議員	2023	岩﨑　昭憲
3	日本眼薬理学会	評議員	2023	林　　英之
4	日本小児眼科学会	監事	2023	林　　英之
5	American Academy of Ophthalmology	会員	2023	林　　英之
6	アジア大洋州小児神経学会	会長	2023	廣瀬　伸一
7	てんかん治療研究振興財団	評議員	2023	廣瀬　伸一
8	米国消化器病学会（AGA）	フェロー	2022	向坂彰太郎

9	米国肝臓学会（AASLD）	フェロー	2022	向坂彰太郎
10	日本消化器病学会	名誉会員	2022	向坂彰太郎
11	日本臨床分子形態学会	名誉理事長	2022	向坂彰太郎
12	日本肝臓学会	名誉会員	2022	向坂彰太郎
13	日本肝移植学会	名誉会員	2022	向坂彰太郎
14	日本消化器病学会九州支部	名誉支部長	2022	向坂彰太郎

腫瘍・血液・感染症内科学

〈原著〉

1	Landscape of immunoglobulin heavy chain γ gene class switch recombination in patients with adult T-cell leukemia-lymphoma.	Haematologica	108(4)：1173-1178，2023	Hiramatsu H, Nosaka K, Kusumoto S, Nakano N, Choi I, Yoshimitsu M, Imaizumi Y, Hidaka M, Sasaki H, Makiyama J, Ohtsuka E, Jo T, Ogata M, Ito A, Yonekura K, Tatetsu H, Kato T, Kawakita T, Suehiro Y, Ishitsuka K, Iida S, Matsutani T, Nishikawa H, Utsunomiya A, Ueda R, Ishida T.
2	*IKZF1*^{plus} alterations are not associated with outcomes in Philadelphia-positive acute lymphoblastic leukemia patients enrolled in the FBMTG ALL/MRD2008 trial.	Eur J Haematol	111(1)：103-112，2023	Ito Y, Ozawa H, Eto T, Miyamoto T, Kamimura T, Ogawa R, Uchida N, Wake A, Fujisaki T, Ohno Y, Takase K, Okumura H, Takamatsu Y, Kawano N, Akashi K, Nagafuji K.
3	Diagnostic significance of secondary bacteremia in patients with COVID-19.	J Infect Chemother	29(4)：422-426，2023	Nakagawara K, Kamata H, Chubachi S, Namkoong H, Tanaka H, Lee H, Otake S, Fukushima T, Kusumoto T, Morita A, Azekawa S, Watase M, Asakura T, Masaki K, Ishii M, Endo A, Koike R, Ishikura H, Takata T, et al.; Japan COVID-19 Task Force.（99人中19番目）
4	Impact of respiratory bacterial infections on mortality in Japanese patients with COVID-19: a retrospective cohort study.	BMC Pulm Med	23(1)：146，2023	Nakagawara K, Kamata H, Chubachi S, Namkoong H, Tanaka H, Lee H, Otake S, Fukushima T, Kusumoto T, Morita A, Azekawa S, Watase M, Asakura T, Masaki K, Ishii M, Endo A, Koike R, Ishikura H, Takata T, et al.; Japan COVID-19 Task Force.（99人中19番目）

5	Propensity-score matched analysis of the effectiveness of baricitinib in patients with coronavirus disease 2019 (COVID-19) using nationwide real-world data: An observational matched cohort study from the Japan COVID-19 Task Force.	Open Forum Infect Dis	10(7): ofad311, 2023.6.8 doi: 10.1093/ofid/ofad311	Tanaka H, Chubachi S, Namkoong H, Sato Y, Asakura T, Lee H, Azekawa S, Otake S, Nakagawa K, Fukushima T, Watase M, Sakurai K, Kusumoto T, Kondo Y, Masaki K, Kamata H, Ishii M, Kaneko Y, Hasegawa N, Ueda S, Sasaki M, Izumo T, Inomata M, Miyazawa N, Kimura Y, Suzuki Y, Harada N, Ichikawa M, Takata T, et al. (60人中29番目)
6	Association of the quantitative oral health status of patients with COVID-19 with their organ status and immunity: A single-centre observational study.	Intens Crit Care Nur	77: 103433, 2023	Yoshino A, Nakamura Y, Kusu A, Fukushima M, Yotsui Y, Takata T, Ishikura H, Kondo S.
7	Multiple mutations of *Mycobacterium intracellulare subsp. chimaera* causing false-negative reaction to the transcription-reverse transcription concerted method for pathogen detection.	Int J Infect Dis	133: 14-17, 2023	Togawa A, Chikamatsu K, Takaki A, Matsumoto Y, Yoshimura M, Tsuchiya S, Nakamura S, Mitarai S.
8	Assessment of the prognosis, frequency, and isolated bacteria in ventilator-associated pneumonia among patients with severe coronavirus disease 2019 pneumonia: A single-center retrospective observational study.	J Infect Chemother	30: 499-503, 2024	Morimoto S, Muranishi K, Izutani Y, Maruyama J, Kato R, Ninomiya S, Nakamura Y, Kitamura T, Takata T, Ishikura H.

〈症例報告〉

1	HTLV-1-associated demyelinating neuropathy: A case report and review of the literature.	eNeurological Sci	31: 100453, 2023	Tamaki K, Mishima T, Tateishi Y, Mera H, Ogura H, Tsugawa J, Fujioka S, Takamatsu Y, Tsuboi Y.
2	A case of L-Asparaginase-induced severe hepatic steatosis with decreased serum cholinesterase levels.	Cureus	15(12): e49787, 2023	Takata K, Nakashima Y, Shakado S, Takamatsu Y, Hirai F.

〈総説〉

1	乳腺リンパ腫の特徴とその治療抵抗性	血液内科	86(4): 494-498, 2023	磯部　泰司
2	領域別臨床検査データの診かた　血液疾患	月刊 臨床と研究 別冊	100(2): 21-24, 2023	中島　勇太，高松　　泰
3	多発性骨髄腫における MRD の臨床的意義	血液内科	86(6): 835-840, 2023	中島　勇太，高松　　泰

4	血液症候群（第３版）(Ⅰ) －その他の血液疾患を含めて－ Ⅱ 赤血球の異常 貧血 その他の貧血 放射線による造血障害	別冊 日本臨床 領域別症候群シリーズ No.26	430-434, 2023	茂木　愛，高松　泰
5	血液症候群（第３版）(Ⅳ) －その他の血液疾患を含めて－ Ⅸ リンパ系の腫瘍 悪性リンパ腫と類縁疾患 原発性縦隔大細胞型Ｂ細胞リンパ腫	別冊 日本臨床 領域別症候群シリーズ No.29	291-294, 2024	中島　勇太，高松　泰
6	特集 徹底ガイド 重症感染症のすべて －研修医からの質問302－ Ⅲ．各種感染症の管理 カンジダ属 －侵襲性カンジダ感染症－	救急・集中治療	35(1): 281-285, 2023	髙田　徹
7	総論 原因不明のままの不明熱と診断的治療について	診断と治療	111(8): 1019-1023, 2023	髙田　徹

〈著書〉

1	造血器腫瘍診療ガイドライン2023年版 第３版第１刷 （一般社団法人 日本血液学会 編） 5. 慢性リンパ性白血病/小リンパ球性リンパ腫（CLL/SLL）	金原出版	147-172, 2023	高松　泰（各疾患の責任者） 磯部　泰司（システマティックレビュー(SR)チーム）
2	血液専門医テキスト 改訂第４版 （編集 一般社団法人日本血液学会） 第Ⅻ章支持療法 1．化学療法の支持療法，2．サイトカイン（EPO 製剤を含む）	南江堂	493-498, 499-501, 2023	高松　泰
3	制吐薬適正使用ガイドライン 第３版 CQ9 細胞障害性抗がん薬の静脈内投与を連日受ける患者に対して，連日制吐療法は推奨されるか？	金原出版	98-102, 2023	佐々木秀法
4	臨床腫瘍学 改訂第７版 （日本臨床腫瘍学会 編集） 24. その他の抗がん薬	南江堂	357-360, 2024	佐々木秀法
5	血液専門医テキスト 改訂第４版 （編集 一般社団法人日本血液学会） 第Ⅹ章 白血球系疾患：非腫瘍性疾患 3. HIV 感染症	南江堂	390-395, 2023	髙田　徹
6	JAID/JSC 感染症治療ガイド2023 （編集 JAID/JSC 感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会） Ⅱ．発熱性好中球減少症	日本感染症学会・ 日本化学療法学会	22-31, 2023	髙田　徹（委員長）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（シンポジウム） 高齢者がん医療における適正・安全なマネジメントを考える	第７回日本老年薬学会学術大会	福岡 2023.5.20,21	高松　泰
2	（セッション） 日本がんサポーティブケア学会がん支持医療認定制度	第８回日本がんサポーティブケア学会学術集会	奈良 2023.6.22-24	高松　泰

3	（セッション） 指定発言 JASCC 認定制度の考え方	第８回日本がんサポーティブケア学会学術集会	奈良 2023.6.22-24	髙松　　泰
4	カテーテル関連血流感染症の診療	日本化学療法学会 第67回抗菌薬適正使用生涯教育セミナー Basic	東京 2023.5.27	髙田　　徹
5	（シンポジウム） 発熱性好中球減少症	第93回日本感染症学会西日本地方会学術集会 第71回日本化学療法学会西日本支部総会	富山 2023.11.11	髙田　　徹

〈国内研究助成金〉

1	リンパ系腫瘍・多発性骨髄腫に対する標準的治療確立のための多施設共同研究	国立がん研究センター 研究開発費	2023	髙松　　泰 （代表：大江裕一郎）
2	高齢者多発性骨髄腫に対する標準治療の確立と治療効果・耐性獲得に関わる分子基盤の探索	日本医療研究開発機構（AMED）革新的がん医療実用化研究事業	2023	髙松　　泰 （代表：丸山　　大）
3	ウルトラファインバブルと超音波を用いたMRSA デバイス感染新規治療法の開発	科学研究費助成事業 （学術研究助成） 基盤研究(C)（一般）	2023	髙田　　徹

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第７回日本検査血液学会九州支部学術集会	福大メディカルホール	2023.11.18	髙松　　泰
2	第14回日本血液学会九州地方会	アクロス福岡	2024.3.9	髙松　　泰

〈学会活動〉

1	日本検査血液学会	理事, 九州支部支部長	2023	髙松　　泰
2	日本臨床腫瘍学会	協議員	2023	髙松　　泰
3	日本リンパ網内系学会	評議員	2023	髙松　　泰
4	日本内科学会	評議員	2023	髙松　　泰
5	日本血液会	評議員	2023	髙松　　泰
6	日本骨髄腫学会	代議員	2023	髙松　　泰
7	日本がんサポーティブケア学会	評議員	2023	髙松　　泰
8	日本医療情報学会	評議員	2023	田中　俊裕
9	日本病院総合診療医学会	評議員	2023	林　　武生
10	日本バイオフィルム学会	理事	2023	髙田　　徹
11	日本感染症学会	評議員, 西日本地方理事	2023	髙田　　徹
12	日本化学療法学会	評議員, 西日本地方幹事	2023	髙田　　徹
13	福岡 ICT 交流会	世話人	2023	髙田　　徹
14	福岡 HIV 感染症治療研究会	世話人	2023	髙田　　徹
15	福岡感染症を考える会	世話人	2023	髙田　　徹
16	福岡西部地区感染対策ネットワーク	代表	2023	髙田　　徹

内分泌・糖尿病内科学

〈原著〉

1	Renoprotective effects of combination treatment with sodium-glucose cotransporter inhibitors and GLP-1 receptor agonists in patients with type 2 diabetes mellitus according to preceding medication.	Diab Vasc Dis Res.	20(6)：1-8，2023	Kobayashi K, Toyoda M, Tone A, Kawanami D, Suzuki D, Tsuriya D, Machimura H, Shimura H, Takeda H, Yokomizo H, Takeshita K, Chin K, Kanasaki K, Miyauchi M, Saburi M, Morita M, Yomota M, Kimura M, Hatori N, Nakajima S, Ito S, Tsukamoto S, Murata T, Matsushita T, Furuki T, Hashimoto T, Umezono T, Muta Y, Takashi Y, Tamura K.
2	Impact of Finerenone-Induced Albuminuria Reduction on Chronic Kidney Disease Outcomes in Type 2 Diabetes : A Mediation Analysis.	Ann Intern Med.	176(12)：1606-1616，2023	Agarwal R, Tu W, Farjat AE, Farag YMK, Toto R, Kaul S, Lawatscheck R, Rohwedder K, Ruilope LM, Rossing P, Pitt B, Filippatos G, Anker SD, Bakris GL; FIDELIO-DKD and FIGARO-DKD Investigators (Kawanami D).
3	3) Association between serum ALT levels and incidence of new-onset diabetes in general population of Japanese: a longitudinal observational study (ISSA-CKD).	BMJ Open.	13(8)：e074007，2023	Morinaga A, Iwanaga K, Maki K, Ueno T, Kawano K, Funakoshi S, Yamanokuchi T, Tsuji M, Abe M, Satoh A, Kawazoe M, Maeda T, Yoshimura C, Takahashi K, Tada K, Ito K, Yasuno T, Kawanami D, Masutani K, Arima H.
4	Elevation in white blood cell count and development of hyper LDL cholesterolemia.	Sci Rep.	13(1)：8292，2023	Okutsu S, Kato Y, Takeoka H, Funakoshi S, Maeda T, Yoshimura C, Kawazoe M, Satoh A, Tada K, Takahashi K, Ito K, Yasuno T, Fujii H, Mukoubara S, Saku K, Kodama S, Kawanami D, Masutani K, Arima H, Nabeshima S.
5	Rho-kinase inhibitor restores glomerular fatty acid metabolism in diabetic kidney disease.	Biochem Biophys Res Commun.	649：32-38，2023	Nagai Y, Matoba K, Yako H, Ohashi S, Sekiguchi K, Mitsuyoshi E, Sango K, Kawanami D, Utsunomiya K, Nishimura R.

6	Serum triglyceride levels and incidence of hypertension in a general Japanese population: ISSA-CKD study.	Hypertens Res.	46(5): 1122-1131, 2023	Ishida S, Kondo S, Funakoshi S, Abe M, Satoh A, Kawazoe M, Maeda T, Yoshimura C, Nishida Y, Tada K, Takahashi K, Ito K, Yasuno T, Kawanami D, Miura SI, Kodama S, Saku K, Mukobara S, Masutani K, Arima H.
7	Dysregulation of CXCL1 expression and neutrophil recruitment in insulin resistance and diabetes-related periodontitis in male mice.	Diabetes.	72(7): 986-998, 2023	Shinjo T, Onizuka S, Zaitsu Y, Ishikado A, Park K, Li Q, Yokomizo H, Zeze T, Sato K, St-Louis R, Fu J, I-Hsien W, Mizutani K, Hasturk H, Van Dyke T.E, Nishimura F, King G.L.
8	Improved Endurance Capacity of Diabetic Mice during SGLT2 Inhibition: Role of AICARP, an AMPK Activator in the Soleus.	J Cachexia Sarcopenia Muscle.	14(6): 2866-2881, 2023	Nakamura S, Miyachi Y, Shinjo A, Yokomizo H, Takahashi M, Nakatani K, Izumi Y, Otsuka H, Sato N, Sakamoto R, Miyazawa T, Bamba T, Ogawa Y.
9	メディカルスタッフの現状と課題：糖尿病チーム医療，資格取得，学会発表，臨床研究，論文投稿，ジェンダー	糖尿病	66(1): 118-128, 2023	佐藤　麻子，川浪　大治， 藤川　るみ，菅沼　由美， 古橋　眞人，森野勝太郎， 山本　恭子，和田　幹子， 井町　仁美，岡田由紀子， 川崎　麻紀，近藤　敬一， 笹岡　利安，高橋　倫子， 富樫　　優，中島　華子， 橋本　尚子，藤本　　啓， 別所　瞭一，的場　ゆか， 宮　　愛香，我孫子亜津子
10	糖尿病性腎症病期分類2023の策定	日本透析医学会誌	56巻11号: 393-400, 2023	馬場園哲也，金崎　啓造， 宇都宮一典，古家　大祐， 綿田　裕孝，繪本　正憲， 川浪　大治，深水　　圭， 久米　真司，鈴木　芳樹， 和田　　淳，和田　隆志， 岡田　浩一，成田　一衛， 小岩　文彦，阿部　雅紀， 土谷　　健，加藤　明彦， 市川　和子，北谷　直美
11	糖尿病性腎症病期分類2023の策定 Updated Staging of Diabetic Nephropathy 2023	日本腎臓学会誌	65(7): 847-856, 2023	馬場園哲也，金崎　啓造， 宇都宮一典，古家　大祐， 綿田　裕孝，繪本　正憲， 川浪　大治，深水　　圭， 久米　真司，鈴木　芳樹， 和田　　淳，和田　隆志， 岡田　浩一，成田　一衛， 小岩　文彦，阿部　雅紀， 土谷　　健，加藤　明彦， 市川　和子，北谷　直美

12	糖尿病性腎症病期分類2023の策定 Updated Staging of Diabetic Nephropathy 2023	糖尿病	66巻11号： 797–805， 2023	馬場園哲也，金崎　啓造， 宇都宮一典，古家　大祐， 綿田　裕孝，繪本　正憲， 川浪　大治，深水　　圭， 久米　真司，鈴木　芳樹， 和田　　淳，和田　隆志， 岡田　浩一，成田　一衛， 小岩　文彦，阿部　雅紀， 土谷　　健，加藤　明彦， 市川　和子，北谷　直美
13	CKD 治療における SGLT2阻害薬の適正使用に関する recommendation	日本腎臓学会誌	65(1)： 1–10， 2023	深水　　圭，岡田　浩一， 成田　一衛，和田　　淳， 植木浩二郎，金崎　啓造， 川浪　大治，綿田　裕孝

〈症例報告〉

1	94歳で新規発症，インスリン療法を必要とした緩徐進行１型糖尿病の１例．	糖尿病	66(2)： 139–150， 2023	畑山　朋美，横溝　　久， 宮澤　　崇，坂本　竜一， 宮本　哲哉，小川　佳宏

〈総説〉

1	－糖尿病性腎臓病に関する改訂点－ 糖尿病の集約的治療	エビデンスに基づく CKD 診療ガイドライン2023	4–5， 2023	川浪　大治
2	糖尿病性腎臓病の課題と展望	臨床と研究	100(8)： 1027–1032， 2023	川浪　大治
3	糖尿病食事療法の考え方	食と医療	26： 76–78， 2023	川浪　大治
4	糖尿病性腎臓病の成因としての骨腎連関と Rho-kinase の関与	糖尿病合併症	37(2)： 236–240， 2023	川浪　大治
5	糖尿病性腎臓病の治療の進歩	月刊 糖尿病	15(4)： 69–75， 2023	川浪　大治
6	イメグリミンへの期待	月刊保団連	1399： 40–43， 2023	川浪　大治
7	メトホルミン再考	月刊保団連	1398： 36–39， 2023	川浪　大治
8	GIP/GLP-1受容体作動薬チルゼパチドの登場	月刊保団連	1397： 36–40， 2023	川浪　大治
9	糖尿病性腎臓病の治療の進歩	月刊保団連	1396： 40–43， 2023	川浪　大治
10	糖尿病性腎臓病の成因	月刊保団連	1394： 42–45， 2023	川浪　大治

11	糖尿病食事療法の考え方	月刊保団連	1389: 43-46, 2023	川浪　大治
12	糖尿病性腎臓病発症・進展におけるリン代謝の意義	沖中記念成人病研究所年報	49: 29-32, 2023	川浪　大治
13	特集－自信がもてるようになる！－エビデンスに基づく「糖尿病診療」大全 - 新薬からトピックスまで Ⅰ章「薬物療法」の新スタンダード② 糖尿病に合併した「高血圧症」「脂質異常症」の薬剤選択	総合診療	33(3): 268-272, 2023	横溝　　久，川浪　大治
14	骨粗鬆症診療におけるリン代謝の重要性， 日本骨粗鬆症学会雑誌	骨粗鬆症学会雑誌，	9(4): 457-460, 2023	高士　祐一

〈著書〉

1	日本腎臓学会エビデンスに基づく CKD 診療ガイドライン2023 ４章「糖尿病性腎臓病」4	東京医学社	pp.3-12, 2023	川浪　大治（分担）
2	臨床雑誌内科 内分泌疾患診断のための５ Steps Step2一般検査データから内分泌疾患を想起する 肝機能異常・腎機能異常	南江堂	132(2): 242-246, 2023	高士　祐一（分担）
3	内分泌代謝・糖尿病内科領域専門医研修ガイドブック 骨密度測定，骨代謝マーカー	診断と治療社	pp.56-57, 2023	高士　祐一（分担）
4	内分泌代謝疾患クリニカルクエスチョン100 改訂第２版 PTH 非依存性の高カルシウム血症の鑑別診断の進め方は？	診断と治療社	pp.102-103, 2023	高士　祐一（分担）
5	内分泌代謝疾患クリニカルクエスチョン100 改訂第２版 骨粗鬆症におけるテリパラチドの適応は？	診断と治療社	pp.117-118, 2023	高士　祐一（分担）
6	糖尿病・内分泌プラクティス Web 骨粗鬆症の薬物療法，			高士　祐一（分担）
7	シリーズ G ノート骨粗鬆症の薬の使いかたと治療の続けかた RANKL 阻害薬	羊土社	pp.119-125, 2023	高士　祐一（分担）
8	血糖だけにこだわらない！糖尿病治療薬の考え方・使い方 骨粗鬆症予防を考えた治療戦略	日本医事新報社	pp.134-141, 2023	高士　祐一（分担）
9	虎の門病院内分泌クリニカルプラクティス 改訂版 低カルシウム血症	クリニコ出版	pp.276-280, 2023	高士　祐一（分担）
10	虎の門病院内分泌クリニカルプラクティス 改訂版 高カルシウム血症	クリニコ出版	pp.281-287, 2023	高士　祐一（分担）

11	虎の門病院内分泌クリニカルプラクティス 改訂版 低リン血症	クリニコ出版	pp.288-292, 2023	高士　祐一（分担）
12	虎の門病院内分泌クリニカルプラクティス 改訂版 高リン血症	クリニコ出版	pp.293-295, 2023	高士　祐一（分担）
13	虎の門病院内分泌クリニカルプラクティス 改訂版 低マグネシウム血症	クリニコ出版	pp.296-298, 2023	高士　祐一（分担）
14	虎の門病院内分泌クリニカルプラクティス 改訂版 高マグネシウム血症	クリニコ出版	pp.299-300, 2023	高士　祐一（分担）
15	グルココルチコイド誘発性骨粗鬆症の管理と治療のガイドライン2023 CQ8 ビスホスホネート製剤はグルココルチコイド誘発性骨粗鬆症に対して有用か？	南山堂	pp.47-19, 2023	蛯名　耕介，高士　祐一（分担）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（ランチョンセミナー） 「糖尿病性腎臓病（DKD）の合併症対策 Up-to-date」糖尿病性腎臓病（DKD）のトータルマネジメント	第66回日本糖尿病学会 年次学術集会	鹿児島 5/11-13 2023	川浪　大治
2	（研究助成受賞講演） 健康長寿を目指したファーストメッセンジャーとしてのリンの作用機構と臓器連関解析	第96回日本内分泌学会 学術総会	名古屋 6/1-3 2023	高士　祐一
3	（シンポジウム） ミネラル代謝とビタミン D の視点から骨粗鬆症を見直す	第96回日本内分泌学会 学術総会	名古屋 6/1-3 2023	高士　祐一
4	（ランチョンセミナー） 患者さんの視点に立った FGF23関連低リン血症性くる病・骨軟化症診療	第96回日本内分泌学会 学術総会	名古屋 6/1-3 2023	高士　祐一
5	（シンポジウム） 「YEC シンポジウム A」私の研究を変えたブレイクスルー	日本内分泌学会 第41回内分泌代謝学サマーセミナー	宮城 7/6-8 2023	高士　祐一
6	（研究奨励賞受賞講演） 健康長寿を目指した骨のリン感知機構の解明	第41回日本骨代謝学会 学術集会	東京 7/27-29 2023	高士　祐一
7	（ランチョンセミナー） 希少疾患における研究立案と手法について ～骨系統疾患／低ホスファターゼ症について～：日本骨粗鬆症学会臨床研究サマーセミナー	日本骨粗鬆症学会 臨床研究サマーセミナー	千葉 8/5-6 2023	高士　祐一
8	（特別講演） 糖尿病の治療の進歩と周術期マネジメント	九州麻酔科学会 第61回大会	福岡 9/9 2023	川浪　大治
9	（ランチョンセミナー） 心腎連関から考える糖尿病治療－フィネレノンへの期待－	第73回日本体質医学会総会	東京 9/9-10 2023	川浪　大治

10	（シンポジウム） 内分泌疾患による続発性骨粗鬆症の診断と治療	第25回日本骨粗鬆症学会	名古屋 9/29-10/1 2023	髙士　祐一
11	（シンポジウム） 「糖尿病に伴う眼疾患の診断・治療と内科との連携」内科医からみた糖尿病網膜症	第38回日本糖尿病合併症学会	岡山 10/20-21 2023	川浪　大治
12	（ワークショップ） 「腎症②」糖尿病性腎症保護因子 PKM2に着目した新規治療法の開発	第38回日本糖尿病合併症学会	岡山 10/20-21 2023	横溝　　久
13	（イブニングセミナー） 糖尿病性腎症の課題と展望	日本糖尿病学会 中国四国地方会 第61回総会	島根 10/27-28 2023	川浪　大治
14	（ランチョンセミナー） ２型糖尿病合併 CKD の成因と治療 ～イメグリミンへの期待を含めて～	第34回日本糖尿病性腎症研究会	東京 12/2-3 2023	川浪　大治
15	（招待講演） 【糖尿病診療に必要な知識】 DKD 治療の進歩	糖尿病学の進歩	京都 2/16-17 2024	川浪　大治
16	（ランチョンセミナー） 糖尿病関連腎臓病（DKD）のトータルマネージメント	糖尿病学の進歩	京都 2/16-17 2024	川浪　大治

〈国内研究助成金〉

1	糖尿病性腎臓病におけるリン代謝と Rho-kinase の意義	日本学術振興会 基盤研究(C)	2023	川浪　大治（代表）
2	代謝特性の異なる遅筋と速筋に着目した糖尿病における骨格筋障害の発症機構の解明	日本学術振興会 若手研究	2023	横溝　　久（代表）
3	PGD2シグナリング経路に着目した歯周炎が糖尿病性腎症を増悪する分子機序の解明	日本学術振興会 基盤研究(C)	2023	横溝　　久 （代表者：新城　尊徳）
4	慢性腎臓病患者の健康寿命の延伸を目指した生体のリン感知機構の解明	日本学術振興会 基盤研究(C)	2023	髙士　祐一（代表）
5	糖尿病腎臓病の成因としての骨腎連関の意義	日本糖尿病学会 キャリアデベロップメント報奨金	2023	川浪　大治（代表）
6	糖尿病性腎症保護因子に着目した残余病態の解明と治療応用	日本糖尿病財団・ ノボノルディスクファーマ研究助成	2023	横溝　　久（代表）
7	解糖系代謝機構に着目した糖尿病性腎症の残存病態の機序解明	鈴木万平糖尿病財団 若手研究者調査研究助成	2023	横溝　　久（代表）

〈学会活動〉

1	日本糖尿病眼学会	理事	2022	川浪　大治
2	日本膵・膵島移植学会	理事	2022	川浪　大治
3	日本機能性食品医用学会	理事	2022	川浪　大治
4	日本内科学会	評議員	2022	川浪　大治

5	日本糖尿病学会	学術評議員	2022	川浪　大治，横溝　　久， 髙士　祐一
6	日本糖尿病学会	糖尿病診療ガイドライン 評価委員	2022	川浪　大治
7	日本内分泌学会	評議員	2022	川浪　大治，髙士　祐一
8	日本体質学会	評議員	2022	川浪　大治
9	日本糖尿病合併症学会	評議員	2022	川浪　大治
10	日本機能性食品医用学会	評議員	2022	川浪　大治
11	日本腎臓学会	CKD 診療ガイドライン 作成委員	2022	川浪　大治
12	日本糖尿病学会九州支部	監事	2022	川浪　大治
13	日本内分泌学会九州支部	幹事	2022	川浪　大治
14	日本糖尿病性腎症研究会	幹事	2022	川浪　大治
15	日本骨代謝学会	評議員	2022	髙士　祐一
16	厚生労働省診療報酬改定委員会	DPC 作業班	2023	川浪　大治
17	福岡県糖尿病性腎症重症化予防対策協議会	委員	2023	川浪　大治
18	日本糖尿病協会福岡県支部	常任理事	2023	川浪　大治
19	福岡市指定難病審査委員会	委員	2023	髙士　祐一

〈研究に関係した賞〉

1	健康長寿を目指した骨のリン感知機構の解明	日本骨代謝学会 研究奨励賞	2023	髙士　祐一

心臓・血管内科学

〈原著〉

1	Association Between Major Adverse Cardiovascular Events and the Gensini Score or Coronary Artery Calcification Score in Hypertensive Patients Who Have Undergone Coronary Computed Tomography Angiography	Cardiol Res	14(2)： 91–96， 2023	Shiga Y, Tashiro K, Miura E, Higashi S, Kawahira Y, Kuwano T, Sugihara M, Miura S.
2	Development of a Non-Peptide Angiotensin Ⅱ Type 1 Receptor Ligand by Structural Modification of Olmesartan as a Biased Agonist	Biomedicines	11(5)： 1486， 2023	Matsuo Y, Suematsu Y,: Morita H, Miura S.
3	Investigating the Association between Coronary Artery Disease and the Liver Fibrosis–4 Index in Patients Who Underwent Coronary Computed Tomography Angiography: A Cross-Sectional Study	J Cardiovasc Dev Dis	doi：10.3390/ jcdd10070301， 2023	Hirata T, Shiga Y, Tashiro K, Higashi S, Tachibana T, Kawahira Y, Suematsu Y, Kuwano T, Sugihara M, Miura S.

4	Associations of High-Density Lipoprotein Functionality with Coronary Plaque Characteristics in Diabetic Patients with Coronary Artery Disease: Integrated Backscatter Intravascular Ultrasound Analysis	Biomolecules	13(9): 1278, 2023	Takata K, Imaizumi S, Iwata A, Zhang B, Kawachi E, Miura S, Ogawa M.
5	Development of Machine Learning-Based Web System for Estimating Pleural Effusion Using Multi-Frequency Bioelectrical Impedance Analyses	J Cardiovasc Dev Dis	10(7): 291, 2023	Nose D, Matsui T, Otsuka T, Matsuda Y, Arimura T, Yasumoto K, Sugimoto M, Miura S.
6	Association between paroxysmal or persistent atrial fibrillation and hyperuricemia in patients who underwent coronary computed tomography angiography: from the FU-CCTA-AF Registry	Heart Vessels	38(12): 1451-1458, 2023	Mikagi M, Tashiro K, Komaki T, Shiga Y, Tachibana T, Higashi S, Kawahira Y, Suematsu Y, Ideishi A, Ogawa M, Miura S.
7	Association between Major Adverse Cardiovascular Events and the Liver Fibrosis Score in Patients with and without Coronary Artery Disease: From the FU-CCTA Registry	J Clin Med	12(18): 5987, 2023	Ajimu Y, Shiga Y, Hirata T, Tashiro K, Higashi S, Kawahira Y, Suematsu Y, Kato Y, Kuwano T, Sugihara M, Miura S.
8	Association Between the Presence of Coronary Artery Disease or Peripheral Artery Disease and Left Ventricular Mass in Patients Who Have Undergone Coronary Computed Tomography Angiography	Cardiol Res	14(5): 387-395, 2023	Tachibana T, Shiga Y, Hirata T, Tashiro K, Higashi S, Kawahira Y, Kato Y, Kuwano T, Sugihara M, Miura S.
9	Association Between Telomere G-Tail Length and Coronary Artery Disease or Statin Treatment in Patients With Cardiovascular Risks - A Cross-Sectional Study	Circ Rep	5(8): 338-347, 2023	Nose D, Shiga Y, Takahashi R, Yamamoto Y, Suematsu Y, Kuwano T, Sugihara M, Kanda M, Tahara H, Miura S.
10	Evaluation of the efficacy and safety of an integrated telerehabilitation platform for home-based cardiac REHABilitation in patients with heart failure (E-REHAB): protocol for a randomised controlled trial	BMJ Open	13(8): e073846, 2023	Chimura M, Koba S, Sakata Y, Ise T, Miura H, Murai R, Suzuki H, Maekawa E, Kida K, Matsuo K, Kondo H, Takabayashi K, Fujimoto W, Tamura Y, Imai S, Miura S, Origuchi H, Goda A, Saita R, Kikuchi A, Taniguchi T.
11	Serum triglyceride levels and incidence of hypertension in a general Japanese population: ISSA-CKD study	Hypertens Res	46(5): 1122-1131, 2023	Ishida S, Kondo S, Funakoshi S, Abe M, Satoh A, Kawazoe M, Maeda T, Yoshimura C, Nishida Y, Tada K, Takahashi K, Ito K, Yasuno T, Kawanami D, Miura S, Kodama S, Saku K, Mukobara S, Masutani K, Arima H.
12	発症・再発予防のためのリスク管理 生活指導	臨牀と研究	100(5): 60-66, 2023	平田　哲夫，三浦伸一郎.

13	Effects of high-intensity intermittent exercise versus moderate-intensity continuous exercise on renal hemodynamics assessed by ultrasound echo	Physiol Rep	12(2): e15925, 2024	Kawakami S, Yasuno T, Kawakami S, Ito A, Fujimi K, Matsuda T, Nakashima S, Masutani K, Uehara Y, Higaki Y, Michishita R.
14	Factors associated with the uric acid-lowering effects of sodium-glucose cotransporter-2 inhibition in patients with type 2 diabetes: Insights from the randomized PROTECT trial	Diabetes Obes Metab	26(3): 1110-1113, 2024	Saito Y, Tanaka A, Imai T, Miura S, Ajioka M, Kodama K, Kobayashi Y, Node K, PROTECT Investigators.
15	冠動脈 CT 検査時点の高血圧患者における降圧療法の効果－血圧コントロールが不良な場合に薬剤師が行うこと－	臨牀と研究	101(3): 77-80, 2024	髙橋江里香，田代　浩平， 志賀　悠平，東　　沙羅， 川平　悠人，星野　史博， 神村　英利，三浦伸一郎
16	オンライン遠隔診療・服薬指導および薬宅配を一元化するアプリの有用性と問題点の抽出	臨牀と研究	101(2): 106-109, 2024	萩原　大樹，二見真紀人， 井上　寛子，森井　誠士， 西川　宏明，三浦伸一郎.
17	新型コロナ感染症流行における大学生感染者と福岡地域感染者の動向	臨牀と研究	101(1): 85-89, 2024	朔　啓二郎，杉山　達信， 岩田　　敦，三浦伸一郎.

〈症例報告〉

1	Distinct single spiky component of local abnormal ventricular activity and accurate identification of origin of premature ventricular complexes arising from left ventricular summit	HeartRhythm Case Rep	10(3): 182-185, 2023	Tashiro K, Komaki T, Ideishi A, Mohri N, Miura S, Ogawa M.

〈総説〉

1	特集 高血圧の最近の治療戦略－近未来の展望 運動療法の意義と実効性の課題克服に向けて	カレントテラピー Current Therapy	41(5): 26-31, 2023	藤見　幹太，三浦伸一郎
2	【アンチエイジングと機能性食品やその成分】機能性食品を活用した慢性腎臓病の予防・改善（解説）	機能性食品と薬理栄養	16(6): 304-308, 2023	松崎　景子，福嶋　伸子， 齊藤ちづる，クルーザ麻由， 萩原　大樹，三浦伸一郎
3	健康寿命延伸へ向けた地域 well-being の取り組み－ Sustainable な効果的プログラムの探究－	臨牀と研究	100(7): 82-87, 2023	野瀬　大補，三浦伸一郎， 朔　啓二郎
4	高齢者の総合的機能評価と在宅医療	臨牀と研究	100(6): 77-81, 2023	福井奈美子，河野　　靖， 二見真紀人，福島　優子， 樋口　晶子，岸本　早苗， 森井　誠士，椎葉　優子， 西川　宏明，三浦伸一郎
5	冠動脈疾患	診断と治療	111(9): 1189-1195, 2023	北島　　研，三浦伸一郎
6	特集 もう迷わない！ 循環器薬物処方～若手医師へ贈る熟練医の処方の考え方Ⅱ 疾患ごとの薬物治療の方針について理解する 8．動脈疾患（大動脈解離・大動脈瘤・末梢動脈疾患）	Heart View	27(12): 110-114, 2023	杉原　　充，三浦伸一郎

7	レジスタンストレーニング	循環器内科＝ Cardioangiology/ 循環器内科編集委員会 編	93(4)： 482–487， 2023	藤見　幹太

〈著書〉

1	循環器疾患 最新の治療 2024–2025 Ⅻ 高血圧症　3.高齢者の高血圧	株式会社　南江堂	383–385， 2023	森田　英剛，三浦伸一郎 （共著）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（KEYNOTE LECTURE） Prediction of Progression of Coronary Atherosclerosis Using Molecular and Imaging Biomarkers	6th Asia-Pacific CardioMetabolic Syndrome Congress	韓国ソウル 5/26 2023	Miura S
2	（KEYNOTE LECTURE） Strategy of non-invasive, simple, and accurate determination of anaerobic threshold in patients with cardiovascular diseases	6th Asia-Pacific CardioMetabolic Syndrome Congress	韓国ソウル 5/26 2023	Suematsu Y
3	「生活習慣修正へのアプローチ NOW！」 JS8–1運動療法の降圧メカニズムと最近の臨床エビデンス	第29回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	パシフィコ横浜ノース 7/15–7/16 2023	Miura S
4	「心臓リハビリテーション学会が取り組むレジストリー研究」JRA–2 AMI のエビデンスと JROAD-CR	第29回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	パシフィコ横浜ノース 7/15–7/16 2023	Miura S
5	EVT Live Case Transmission Live Transmission Site: Kasukabe Chuo General Hospital	CCT2023	Kobe International Exhibition Hall Portpia Hotel, Kobe, Japan 10/21 2023	Sugihara M
6	（シンポジウム） 「心リハのエビデンス up to date これからの心リハはどうあるべきか？」CPSY1–3高度医療・短期入院時代における急性心筋梗塞患者に対する心臓リハビリテーションの経済的効果	第29回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	パシフィコ横浜ノース 7/15–7/16 2023	Suematsu Y
7	（シンポジウム） 心臓リハビリテーションによる心拍変動への影響	第71回日本心臓病学会学術集会	東京 京王プラザホテル 9/8–9/10 2023	Suematsu Y
8	（シンポジウム） 血管保護を考慮した降圧運動療法 Exercise therapy for vascular protection in patients with hypertension	第45回日本高血圧学会総会	大阪国際会議場 9/16 2023	Suematsu Y
9	（シンポジウム） 心不全の重症度判定における超短時間血圧変動測定法の有用性　Very short-term continuous blood pressure variability for evaluating the hemodynamic aggravation in heart failure patients with reduced ejection fraction	第45回日本高血圧学会総会	大阪国際会議場 9/16 2023	Suematsu Y

〈国内研究助成金〉

1	抗がん剤の心毒性に対する beta-arrestin-biased orthosteric ligands の有用性	文部科学省 基盤研究(C)（一般）	2023	三浦伸一郎（代表）
2	心臓核医学検査による特発性心筋症病態層別化指標の確立	AMED：難治性疾患実用化研究事業	2023	三浦伸一郎（代表）
3	デジタル技術を活用した生涯にわたる血圧管理に関する指針の研究開発	AMED：ヘルスケア社会実装基盤整備事業	2023	三浦伸一郎 （代表：有馬　久富）
4	連続血圧を用いた超短期血圧変動による心不全 重症度の予測判定	一般財団法人 医療･介護・教育研究財団 ふくおか「臨床医学研究賞」	2023	末松　保憲（代表）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第６回日本抗加齢医学会九州地方会学術総会	福岡 電気ビル共創館	1/28, 2024	三浦伸一郎

〈学会活動〉

1	日本機能性医用食品学会	理事	2023	三浦伸一郎
2	日本心臓リハビリテーション学会	理事	2023	三浦伸一郎
3	日本循環器学会	理事	2023	三浦伸一郎
4	和温療法学会	理事	2023	三浦伸一郎
5	日本高血圧学会	理事	2023	三浦伸一郎
6	日本内分泌学会	評議員	2023	三浦伸一郎
7	日本動脈硬化学会	評議員	2023	三浦伸一郎
8	日本高血圧学会	評議員	2023	三浦伸一郎
9	日本腫瘍循環器学会	評議員	2023	三浦伸一郎
10	日本心不全学会	代議員	2023	三浦伸一郎
11	日本再生医療学会	代議員	2023	三浦伸一郎
12	日本心血管内分泌学会	評議員	2023	三浦伸一郎
13	日本心臓リハビリテーション学会	評議員	2023	藤見　幹太，三浦伸一郎
14	国際心臓研究学会	評議員	2023	三浦伸一郎
15	日本循環器学会	社員	2023	三浦伸一郎
16	日本内科学会	評議員	2023	三浦伸一郎
17	日本冠疾患学会	評議員	2023	三浦伸一郎
18	日本抗加齢医学会	評議員	2023	三浦伸一郎
19	日本循環器予防学会	評議員	2023	三浦伸一郎
20	日本心臓病学会	評議員	2023	三浦伸一郎
21	CVIT	代議員	2023	杉原　　充

〈研究に関係した賞〉

1	心臓リハビリテーション	日本心臓リハビリテーション学会 木村賞	2023	三浦伸一郎
2	非侵襲的連続血圧計による Double product breaking point の有用性	第29回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 The 29th Annual Meeting of the Japanese Association of Cardiac Rehabilitation 一般演題口演31 優秀賞	2023	末松　保憲

消化器内科学

〈原著〉

1	Treatment Patterns in Newly Diagnosed Patients with Crohn's Disease Who Received Biologics Following Diagnosis: A Nationwide, Retrospective, Longitudinal, Observational Study Using a Medical Claims Database in Japan	Digestion	104(2): 109-120, 2023	Hirai F, Uda A, Ota M, Takemura Y, Tanaka K, Iwakiri R.
2	Nationwide cohort study identifies clinical outcomes of angioectasia in patients with acute hematochezia	Journal of Gastroenterology	58(4): 367-378, 2023	Kobayashi M, Akiyama S, Narasaka T, Kobayashi K, Yamauchi A, Yamada A, Omori J, Ikeya T, Aoyama T, Tominaga N, Sato Y, Kishino T, Ishii N, Sawada T, Murata M, Takao A, Mizukami K, Kinjo K, Fujimori S, Uotani T, Fujita M, Sato H, Suzuki S, Hayasaka J, Funabiki T, Kinjo Y, Mizuki A, Kiyotoki S, Mikami T, Gushima R, Fujii H, Fuyuno Y, Gunji N, Toya Y, Narimatsu K, Manabe N, Nagaike K, Kinjo T, Sumida Y, Funakoshi S, Kobayashi K, Matsuhashi T, Komaki Y, Miki K, Watanabe K, Tsuchiya K, Kaise M, Nagata N.
3	Machine learning-based model for prediction and feature analysis of recurrence in pancreatic neuroendocrine tumors G1/G2	Journal of Gastroenterology	58: 586-597, 2023	Murakami M, Fujimori N, Nakata K, Nakamura M, Hashimoto S, Kurahara H, Nishihara K, Abe T, Hashigo S, Kugiyama N, Ozawa E, Okamoto K, Ishida Y, Okano K, Takaki R, Shimamatsu Y, Ito T, Miki M, Oza N, Yamaguchi D, Yamamoto H, Takedomi H, Kawabe K, Akashi T, Miyahara K, Ohuchida J, Ogura Y, Nakashima Y, Ueki T, Ishigami K, Umakoshi H, Ueda K, Oono T, Ogawa Y

4	Prospective clinical trial of EUS-guided choledochoduodenostomy without fistula dilation for malignant distal biliary obstruction	Endoscopic Ultrasound	12(5): 409-416, 2023	Koga T, Hijioka S, Nagashio Y, Maruki Y, Maehara K, Murashima Y, Kawasaki Y, Takeshita K, Yamada N, Yoshinari M, Hisada Y, Harai S, Kitamura H, Kawahara S, Ohba A, Morizane C, Ishida Y, Hirai F, Okusaka T.
5	Malnutrition and inflammation status in nonobese patients with inflammatory bowel disease are associated with nonalcoholic fatty liver disease: a retrospective study	Intestinal research	21(4): 471-480, 2023	Nagata T, Funakoshi S, Morihara D, Shakado S, Yokoyama K, Takata K, Tanaka T, Fukunaga A, Yamauchi R, Fukuda H, Matsuoka H, Imakiire S, Sakisaka H, Matsuoka S, Kuno N, Abe K, Ishibashi H, Ashizuka S, Hirai F
6	A new endoscopic scoring system corresponding to histological healing using linked color imaging in ulcerative colitis: the SOUL study	Endoscopy International Open	11(5): E504-E512, 2023	Saito D, Hirai F, Uchiyama K, Takagi T, Naito Y, Takatsu N, Tanabe H, Kishimoto M, Matsuura M, Miyoshi J, Watanabe K, Esaki M, Naganuma M, Hisamatsu T
7	Long-term outcome and eligibility of radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma over 3.0 cm in diameter	Scientific Reports	13(1): 16286. doi: 10.1038/s41598-023-43516-w.	Tanaka T, Takata K, Miyayama T, Shibata K, Fukuda H, Yamauchi R, Fukunaga A, Yokoyama K, Shakado S, Sakisaka S, Hirai F
8	Trajectory analyses to identify persistently low responders to COVID-19 vaccination in patients with inflammatory bowel disease: a prospective multicentre controlled study, J-COMBAT	Journal of Gastroenterology	58(10): 1015-1029, 2023	Watanabe K, Nojima M, Nakase H, Sato T, Matsuura M, Aoyama N, Taku Kobayashi T, Sakuraba H, Nishishita M, Yokoyama K, Esaki M, Hirai F, Nagahori M, Nanjo S, Omori T, Tanida S, Yokoyama Y, Moriya K, Maemoto A, Handa O, Ohmiya N, Tsuchiya K, Shinzaki S, Kato S, Uraoka T, Tanaka H, Takatsu N, Nishida A, Umeno J, Nakamura M, Mishima Y, Fujiya M, Tsuchida K, Hiraoka S, Okabe M, Toyonaga T, Matsuoka K, Andoh A, Yoshio Hirota Y, Hisamatsu T; J-COMBAT study group

9	Mirikizumab as Induction and Maintenance Therapy for Ulcerative Colitis	The New England Journal of Medicine	388(26): 2444-2455, 2023	Geert D'Haens, Marla Dubinsky, Kobayashi T, Peter M Irving, Stefanie Howaldt, Juris Pokrotnieks, Kathryn Krueger, Janelle Laskowski, Xingyuan Li, Trevor Lissoos, Joe Milata, Nathan Morris, Vipin Arora, Catherine Milch, William Sandborn, Bruce E Sands; LUCENT Study Group
10	Development and validation of a novel model for predicting stigmata of recent hemorrhage in acute lower gastrointestinal bleeding: Multicenter nationwide study	Digestive Endoscopy	35(6): 777-789, 2023	Aoki T, Yamada A, Kobayashi K, Yamauchi A, Omori J, Ikeya T, Aoyama T, Tominaga N, Sato Y, Kishino T, Ishii N, Sawada T, Murata M, Takao A, Mizukami K, Kinjo K, Fujimori S, Uotani T, Fujita M, Sato H, Suzuki S, Narasaka T, Hayasaka J, Funabiki T, Kinjo Y, Mizuki A, Fujishiro M, Kaise M, Nagata N; Collaborators.
11	Multicenter propensity score-matched analysis comparing short versus long cap-assisted colonoscopy for acute hematochezia	An open access journal of Gastroenterology and Hepatology	7(7): 487-496, 2023	Kobayashi M, Akiyama S, Narasaka T, Kobayashi K, Yamauchi A, Yamada A, Omori J, Ikeya T, Aoyama T, Naoyuki Tominaga N, Sato Y, Takaaki Kishino T, Ishii N, Sawada T, Murata M, Takao A, Mizukami K, Kinjo K, Fujimori S, Uotani T, Fujita M, Sato H, Suzuki S, Hayasaka J, Funabiki T, Kinjo Y, Mizuki A, Kiyotoki S, Mikami T, Gushima R, Fujii H, Fuyuno Y, Gunji N, Toya Y, Narimatsu K, Manabe N, Nagaike K, Kinjo T, Sumida Y, Funakoshi S, Kobayashi K, Matsuhashi T, Komaki Y, Tsuchiya K, Kaise M, Nagata N

12	Early feeding reduces length of hospital stay in patients with acute lower gastrointestinal bleeding: A large multicentre cohort study	International journal of colorectal disease	25(11): 2206–2216, 2023	Kishino T, Aoki T, Sadashima E, Kobayashi K, Yamauchi A, Yamada A, Omori J, Ikeya T, Aoyama T, Tominaga N, Sato Y, Ishii N, Sawada T, Murata M, Takao A, Mizukami K, Kinjo K, Fujimori S, Uotani T 18, Fujita M, Sato H, Suzuki S, Narasaka T, Hayasaka J, Funabiki T, Kinjo Y, Mizuki A, Kiyotoki S, Mikami T, Gushima R, Fujii H, Fuyuno Y, Gunji N, Toya Y, Narimatsu K, Manabe N, Nagaike K, Kinjo T, Sumida Y, Funakoshi S, Kobayashi K, Matsuhashi T, Komaki Y, Kaise M, Nagata N
13	LONG-HOSP Score: A Novel Predictive Score for Length of Hospital Stay in Acute Lower Gastrointestinal Bleeding - A Multicenter Nationwide Study	Digestion	104(6): 446–459, 2023	Fujita M, Aoki T, Manabe N, Ito Y, Kobayashi K, Yamauchi A, Yamada A, Omori J, Ikeya T, Aoyama T, Tominaga N, Sato Y, Kishino T, Ishii N, Sawada T, Murata M, Takao A, Mizukami K, Kinjo K, Fujimori S, Uotani T, Sato H, Suzuki S, Narasaka T, Hayasaka J, Funabiki T, Kinjo Y, Mizuki A, Kiyotoki S, Mikami T, Gushima R, Fujii H, Fuyuno Y, Gunji N, Toya Y, Narimatsu K, Nagaike K, Kinjo T, Sumida Y, Funakoshi S, Kobayashi K, Matsuhashi T, Komaki Y, Miki K, Watanabe K, Ayaki M, Murao T, Suehiro M, Shiotani A, Hata J, Haruma K, Kaise M, Nagata N.

14	Weekend Effect on Clinical Outcomes of Acute Lower Gastrointestinal Bleeding: A Large Multicenter Cohort Study in Japan	Digestive diseases	41(6): 890–899, 2023	Hayasaka J, Kikuchi D, Ishii N, Kobayashi K, Yamauchi A, Yamada A, Omori J, Ikeya T, Aoyama T, Tominaga N, Sato Y, Kishino T, Sawada T, Murata M, Takao A, Mizukami K, Kinjo K, Fujimori S, Uotani T, Fujita M, Sato H, Suzuki S, Narasaka T, Funabiki T, Kinjo Y, Mizuki A, Kiyotoki S, Mikami T, Gushima R, Fujii H, Fuyuno Y, Gunji N, Toya Y, Narimatsu K, Manabe N, Nagaike K, Kinjo T, Sumida Y, Funakoshi S, Kobayashi K, Matsuhashi T, Komaki Y, Miki K, Watanabe K, Odagiri H, Hoteya S, Kaise M, Nagata N.
15	Outcomes and recurrent bleeding risks of detachable snare and band ligation for colonic diverticular bleeding: a multicenter retrospective cohort study	Gastrointestinal Endoscopy	98(1): 59–72, 2023	Yamauchi A, Ishii N, Yamada A, Kobayashi K, Omori J, Ikeya T, Aoyama T, Tominaga N, Sato Y, Kishino T, Sawada T, Murata M, Takao A, Mizukami K, Kinjo K, Fujimori S, Uotani T, Fujita M, Sato H, Suzuki S, Narasaka T, Hayasaka J, Funabiki T, Kinjo Y, Mizuki A, Kiyotoki S, Mikami T, Gushima R, Fujii H, Fuyuno Y, Gunji N, Toya Y, Narimatsu K, Manabe N, Nagaike K, Kinjo T, Sumida Y, Funakoshi S, Kobayashi K, Matsuhashi T, Komaki Y, Miki K, Watanabe K, Mori Y, Osawa K, Nakagami S, Kawai Y, Yoshikawa T, Kaise M, Nagata N.

16	Long-term Risks of Recurrence After Hospital Discharge for Acute Lower Gastrointestinal Bleeding: A Large Nationwide Cohort Study	Clinical Gastroenterology and Hepatology	21(13): 3258–3269, 2023	Sato Y, Aoki T, Sadashima E, Nakamoto Y, Kobayashi K, Yamauchi A, Yamada A, Omori J, Ikeya T, Aoyama T, Tominaga N, Kishino T, Ishii N, Sawada T, Murata M, Takao A, Mizukami K, Kinjo K, Fujimori S, Uotani T, Fujita M, Sato H, Suzuki S, Narasaka T, Hayasaka J, Funabiki T, Kinjo Y, Mizuki A, Kiyotoki S, Mikami T, Gushima R, Fujii H, Fuyuno Y, Gunji N, Toya Y, Narimatsu K, Manabe N, Nagaike K, Kinjo T, Sumida Y, Funakoshi S, Kobayashi K, Matsuhashi T, Komaki Y, Maehata T, Tateishi K, Kaise M, Nagata N.
17	Comparison of 6-mm and 10-mm-diameter, fully-covered, self-expandable metallic stents for distal malignant biliary obstruction	Endosc Int Open	11(04): E340–E348, 2023	Harai S, Hijioka S, Nagashio Y, Ohba A, Maruki Y, Yamashige D, Hisada Y, Yoshinari M, Kitamura H, Maehara K, Murashima Y, Kawasaki Y, Koga T, Takeshita K, Ueno H, Kondo S, Morizane C, Fukasawa M, Sone M, Saito Y, Enomoto N, Okusaka T
18	Usefulness of a laser-cut covered metal stent with a 7F delivery sheath in endoscopic ultrasound-guided biliary drainage without fistula dilation.	Endosc Int Open.	2023 Jan 26; 11(1): E97–E104. doi: 10.1055/ a-1997-9149. eCollection 2023 Jan. PMID: 36712906	Takeshita K, Hijioka S, Nagashio Y, Maruki Y, Ohba A, Kawasaki Y, Hisada Y, Yoshinari M, Harai S, Kitamura H, Koga T, Maehara K, Murashima Y, Yamada N, Okada M, Takasaki T, Agarie D, Hara H, Hagiwara Y, Okamoto K, Yamashige D, Kondo S, Morizane C, Ueno H, Saito Y, Okusaka T
19	Nationwide multicenter study on adverse events associated with a patency capsule: Additional survey of appropriate use of patency capsule study	Journal of Gastroenterology and Hepatology	39(2): 337–345, 2024	Omori T , Ohmiya N, Watanabe K, Hirai F, Nakamura M, Kitamura K, Ozeki K, Oka S, Kawano S, Handa O, Kawai M, Ninomiya K, Sagawa T, Wakamatsu T, Araki A, Koike Y, Kato S, Hashimoto S, Mannami T, Nakaji K, Tanaka S, Matsui T; J-POP study group

20	Efficacy and safety of 48 weeks of guselkumab for patients with Crohn's disease: maintenance results from the phase 2, randomised, double-blind GALAXI-1 trial	The Lancet Gastroenterology & Hepatology	9(2):133-146, 2024	Silvio Danese, Remo Panaccione, Brian G Feagan, Anita Afzali, David T Rubin, Bruce E Sands, Walter Reinisch, Julián Panés, Aparna Sahoo, Natalie A Terry, Daphne Chan, Chenglong Han, Mary Ellen Frustaci, Zijiang Yang, William J Sandborn, Hisamatsu T, Jane M Andrews, Geert R D'Haens; GALAXI-1 Study Group
21	Safety of biliary drainage with 6-mm metallic stent for preoperative obstructive jaundice in pancreatic cancer: PURPLE SIX STUDY	J Gastroenterol Hepatol	2024 Feb 29. doi: 10.1111/jgh.16524. Online ahead of print.	Harai S, Hijioka S, Yamada R, Ogura T, Fukasawa M, Okuda A, Horike H, Inoue D, Sekine M, Ishida Y, Koga T, Kitamura H, Tanaka Y, Yoshinari M, Kobayashi K, Chatto M, Yamashige D, Kawasaki Y, Nagashio Y, Okusaka T
22	胃胆管瘻孔形成術用ステントのメッシュ形状が胃壁からの引抜き力に及ぼす影響に関する有限要素解析	日本機械学会九州支部第76期総会・講演会講演論文集		西　祐次朗, 山田　　宏, 古賀　毅彦

〈症例報告〉

1	Resolution of Laryngeal Ulceration with Prednisolone Therapy in a Patient with Crohn's Disease	Internal Medicine	62(14):2071-2075, 2023	Ko YL, Matsuoka H, Nomaru R, Imakiire S, Sakisaka H, Matsuoka S, Kuno N, Abe K, Funakoshi S, Ishida Y, Ishibashi H, Miyagi S, Sakata T, Hirai F.
2	Complete tumor necrosis confirmed by conversion hepatectomy after atezolizumab-bevacizumab treatment for advanced-stage hepatocellular carcinoma with lung metastasis	Clinical Journal of Gastroenterology	16(2):224-228, 2023	Fukunaga A, Takata K, Itoh S, Yamauchi R, Tanaka T, Yokoyama K, Shakado S, Kohashi K, Yoshizumi T & Hirai F
3	Successful removal of a migrated biliary plastic stent using a novel spiral dilator	Endoscopy	55(S 01):E804-E805, 2023	Ishida Y, Koga T, Tsuchiya N, Hata K, Nishioka K, Shiga N, Hirai F
4	Disappearance of Hepatocellular Adenoma in a Patient with Cornelia de Lange Syndrome after Treatment with Transcatheter Arterial Embolization	Internal Medicine	63(11):1569-1573, 2024	Takata K, Kitaguchi T, Tokushige H, Nagata T, Miyayama T, Shibata K, Fukuda H, Yamauchi R, Fukunaga A, Tanaka T, Yokoyama K, Shakado S, Yoshimitsu K, Kusano H, Sakisaka S, Hirai F
5	Preoperatively diagnosed intraductal oncocytic papillary neoplasm of the pancreas with prominent invasion: a case report	Clinical Journal of Gastroenterology	16(5):772-778, 2023	Nomaru R, Ishida Y, Kitaguchi T, Koga T, Tsuchiya N, Nakashima R, Sato K, Hamada Y, Hasegawa S, Hirai F

6	A Case of L-Asparaginase-Induced Severe Hepatic Steatosis With Decreased Serum Cholinesterase Levels	Cureus	15(12): e49787. doi: 10.7759/cureus.49787.	Takata K, Nakashima Y, Shakado S, Takamatsu Y, Hirai F
7	Hepatitis C Virus-associated Cryoglobulinemic Livedo Reticularis Improved with Direct-acting Antivirals	Internal Medicine	62(24): 3631-3636, 2023	Yokoyama K, Kino T, Nagata T, Miyayama T, Shibata K, Fukuda H, Yamauchi R, Fukunaga A, Umeda K, Takata K, Tanaka T, Shakado S, Sakisaka S, Imafuku S, Hirai F
8	Endoscopic transpapillary repositioning of a migrated cystic duct tube using a gooseneck snare technique	Endoscopy	55(S01): E397-E399, 2023	Koga T, Ishida Y, Ishikawa H, Kishimoto Y, Kojima S, Okabe M, Hirai F
9	Novel hemostatic option using self-assembling peptide gel for endoscopic necrosectomy-related bleeding	Endoscopy	55(S01): E598-E599, 2023	Koga T, Ishida Y, Tsuchiya N, Kitaguchi T, Kurogi T, Shimoji Y, Hirai F
10	Minocycline-induced black hairy tongue and skin hyperpigmentation	BMJ Case Rep.	16(4): e253811. doi: 10.1136/bcr-2022-253811.	Takata K, Hirai F
11	Amiodarone-induced hepatotoxicity	BMJ Case Rep.	16(11): e256679. doi: 10.1136/bcr-2023-256679.	Nagata T, Takata K, Shakado S, Hirai F
12	Pigtail trap: Stent migration crisis following endoscopic ultrasound-guided gallbladder drainage	Digestive Endoscopy	36(4): 502-503, 2024	Koga T, Ishida Y, Hirai F
13	Partial splenic embolization improved stomal varices in patient with decompensated liver cirrhosis: a case report	Clinical Journal of Gastroenterology	17(1): 100-105, 2024	Yamauchi R, Takata K, Yokoyama K, Shibata K, Fukuda H, Fukunaga A, Tanaka T, Shakado S, Yoshimitsu K, Hirai F
14	治療抵抗性の潰瘍性大腸炎に上行大動脈内血栓と塞栓性脳梗塞を合併した1例	臨床神経学	64(2): 93-98, 2023	井上　賢一，緒方　利安，三嶋　崇靖，石橋　英樹，平井　郁仁，坪井　義夫

〈総説〉

1	【あなたの知らないIBD診療の世界】既存治療のupdateバイオ製剤を用いない場合のクローン病の治療法 治療前評価の重要性，および栄養療法，ステロイド（ブデソニド含む），チオプリン製剤の活用法	臨牀消化器内科	58(3): 205-216, 2023	久能　宣昭，芦塚　伸也，今給黎　宗，石橋　英樹，船越　禎広，平井　郁仁
2	IBD 診療現場の Pros & Cons（No.9）（その1）初発クローン病患者に対する小腸精査どちらを優先？ 小腸造影 or 小腸造影以外 小腸造影の立場から	IBD Research	17(1): 56-60, 2023	芦塚　伸也，平井　郁仁
3	【「胃と腸」式 読影問題集2023 基本と応用－考える画像診断が身につく】小腸（Case 5）	胃と腸	58(4): 514-517, 2023	石橋　英樹，二村　　聡，平井　郁仁

4	【分類不能腸炎（IBDU）の現状と将来展望】 非特異性多発性小腸潰瘍症診断における尿中プロスタグランジン E 主要代謝産物（PGE-MUM）の有用性	胃と腸	58(6)： 773-781， 2023	松野　雄一，梅野　淳嗣， 鳥巣　剛弘，冬野　雄太， 岡本　康治，安川　重義， 平井　郁仁，渡辺　憲治， 細江　直樹，河内　修司， 蔵原　晃一，八尾　恒良， 松本　主之，江崎　幹宏
5	治療法の再整理とアップデートのために専門家による私の治療 腸結核	日本医事新報	5167： 50-51， 2023	平井　郁仁，柴田　　衛
6	Treatment escalation and de-escalation decisions in Crohn's disease: Delphi consensus recommendations from Japan, 2021	Journal of Gastroenterology	58(4)： 313-345， 2023	Nakase H, Esaki M, Hirai F, Kobayashi T, Matsuoka K, Minoru Matsuura M, Naganuma M, Saruta M, Tsuchiya K, Uchino M, Watanabe K, Hisamatsu T; TRADE consensus group
7	消化管 T 細胞リンパ腫の内視鏡所見の特徴	胃と腸	58(7)： 871-879， 2023	石橋　英樹，二村　　聡， 平井　郁仁，竹下　盛重

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	Pemafibrate improve hepatic fibrosis in patients with metabolic associated fatty liver disease（MAFLD）	The 3rd JSH International Liver Conference （ハイブリッド開催）	東京 9/7-9/8 2023	Yamauchi R, Yokoyama K, Tokushige H, Nagata T, iyayama T, Shibata K, Fukuda H, Fukunaga A, Takata K, Tanaka T, Shakado S, Sakisaka S, Hirai F
2	Therapeutic Efficacy of Conversion Therapy after Systemic Chemotherapy for Patients with Unresectable Hepatocellular Carcinoma	The Asian Pacific Association for the Study of the Liver（APASL）2023	宮城 10/27-10/28 2023	Tanaka T, Nagata T, Miyayama T, Shibata K, Fukuda H, Yamauchi R, Fukunaga A, Takata K, Yokoyama K, Shakado S, Sakisaka S, Hirai F
3	Experimental study on the structure and mechanical properties of 0.025-inch ERCP guidewire	Asian Pacific Digestive Week 2023（APDW2023）	Thailand 12/6-12/9 2023	Koga T, Ishida Y, Tsuchiya N, Kitaguchi T, Matsumoto K, Fukuyama M, Hirai F
4	Radiofrequency ablation for the treatment of hepatocellular carcinoma just below the hepatic capsule	The 33rd annual Meeting of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver（APASL）2024	京都 3/27-3/31 2024	Tanaka T, Nagata T, Miyayama T,Shibata K, Fukuda H, Yamauchi R, Fukunaga A, Takata K, Yokoyama K,Shakado S, Sakisaka S, Hirai F
5	（パネルディスカッション） C 型非代償性肝硬変に対するソホスブビル/ベルパタスビル治療後の肝予備能改善に関する検討〈多施設共同研究〉	第109回日本消化器病学会総会 （対面，オンデマンド開催）	長崎 4/6-4/8 2023	佐野　有哉，横山　圭二， 磯田　広史
6	（ワークショップ） 生物学的製剤抵抗性クローン病を対象とした多施設共同二重盲検アドレノメデュリン Phase 2a 医師主導治験	第109回日本消化器病学会総会 （対面，オンデマンド開催）	長崎 4/6-4/8 2023	芦塚　伸也，北　　俊弘， 北村　和雄

7	（セミナー） 福岡大学病院における難治性潰瘍性大腸炎に対する新規薬物療法の治療成績	第109回日本消化器病学会総会 （対面，オンデマンド開催）	長崎 4/6-4/8 2023	柴田　衛，平井　郁仁， 芦塚　伸也
8	（ワークショップ） IBD の臨床医は，何故病理診断を重視するのか？	第112回日本病理学会総会 （ハイブリッド開催）	山口 4/13-4/15 2023	平井　郁仁
9	（ランチョンセミナー） クローン病治療の今後の展開	第121回日本消化器病学会九州支部例会 第115回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	福岡 5/12-5/13 2023	平井　郁仁
10	（専門医セミナー） 膵嚢胞性病変の診断と取り扱い	第121回日本消化器病学会九州支部例会	福岡 5/12-5/13 2023	石田　祐介
11	（ワークショップ） C 型非代償性肝硬変に対するソホスブビル/ベルパタスビル治療後の肝予備能と予後：多施設共同研究	第121回日本消化器病学会九州支部例会	福岡 5/12-5/13 2023	佐野　有哉，横山　圭二， 磯田　広史，井出　達也， 川口　巧
12	（イブニングセミナー） EUS-BD 手順別デバイス選択の徹底解剖！	第121回日本消化器病学会九州支部例会・ 第115回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	福岡 5/12-5/13 2023	古賀　毅彦
13	（シンポジウム） 慢性肝疾患における低亜鉛血症に対する亜鉛補充療法の有用性	第121回日本消化器病学会九州支部例会	福岡 5/12-5/13 2023	福田　洋美，横山　圭二， 釈迦堂　敏，平井　郁仁
14	（シンポジウム） 潰瘍性大腸炎に対するベドリズマブの短期および長期有効性に関する検討	第121回日本消化器病学会九州支部例会	福岡 5/12-5/13 2023	酒見　亮介，橋本　崇， 平野　昭和，松岡　弘樹， 宗　祐人
15	（ワークショップ） 炎症性腸疾患に対する抗 TNF-α 抗体製剤の効果予測因子に関する検討	第121回日本消化器病学会九州支部例会	福岡 5/12-5/13 2023	今給黎　宗，久能　宣昭， 船越　禎広，芦塚　伸也， 平井　郁仁
16	（シンポジウム） 当科における高齢炎症性腸疾患患者に対する生物学的製剤の治療成績	第121回日本消化器病学会九州支部例会	福岡 5/12-5/13 2023	能丸　遼平，久能　宣昭， 船越　禎広，芦塚　伸也， 平井　郁仁
17	（ランチョンセミナー） 高齢者における炎症性腸疾患診療	第７回日本老年薬学会学術大会 （対面，オンデマンド開催）	福岡 5/20-5/21 2023	芦塚　伸也
18	（ランチョンセミナー） スキリージの臨床試験から考えるクローン病のこれからの治療戦略	第105回日本消化器内視鏡学会総会 （対面，オンデマンド開催）	東京 5/25-5/27 2023	平井　郁仁
19	（会長要望セッション） EST 関連出血におけるピュアスタットの有用性と安全性	第105回日本消化器内視鏡学会総会 （対面，オンデマンド開催）	東京 5/25-5/27 2023	石田　祐介，古賀　毅彦， 平井　郁仁
20	（パネルディスカッション） 当科におけるクローン病に対するウステキヌマブ療法の治療成績	第48回日本大腸肛門病学会九州地方会/ 第39回九州ストーマリハビリテーション研究会	鹿児島 7/29 2023	芦塚　伸也，黒木　大世， 江上弥之介，今給黎　宗， 能丸　遼平，松岡　弘樹， 田辺　太郎，久能　宣昭， 船越　禎広，平井　郁仁

21	（要望演題） アテゾリズマブ・ベバシズマブ併用療法が門脈圧亢進症に与える影響についての検討	第30回日本門脈圧亢進症学会総会	東京 9/22-9/23 2023	横山　圭二，田中　　崇， 山内　　涼，徳重　裕陽， 宮山　隆志，柴田久美子， 高田　和英，入江　　真， 平井　郁仁
22	（ランチョンセミナー） 小腸病変を有するクローン病患者への治療強化基準は何か？	第65回日本消化器病学会大会（JDDW2023） （ハイブリッド開催）	兵庫 11/2-11/5 2023	平井　郁仁
23	（シンポジウム） 抗 TNF-α 抗体製剤治療中の IBD 患者における治療反応性因子に関する比較検討	第78回日本大腸肛門病学会学術集会 （対面，オンデマンド開催）	熊本 11/10-11/11 2023	今給黎　宗，山内　絵理， 黒木　大世，江上弥之介， 能丸　遼平，松岡　弘樹， 田辺　太郎，久能　宣昭， 船越　禎広，芦塚　伸也， 平井　郁仁
24	（ワークショップ） 当院における潰瘍性大腸炎初診患者の5-ASA製剤不耐の頻度と治療経過の検討	第14回日本炎症性腸疾患学会学術集会	兵庫 12/1-12/2 2023	久能　宣昭，江上弥之介， 能丸　遼平，今給黎　宗， 松岡　弘樹，田辺　太郎， 船越　禎広，芦塚　伸也， 平井　郁仁
25	（ワークショップ） 変異 KRAS 関連シグナルを標的とした低毒性抗癌剤および名のキャリアの開発	第27回日本バイオ治療法学会学術集会	福岡 12/2 2023	角田　俊之，吉田　和馬， 北口　恭規，白澤　専二
26	（パネルディスカッション） 血清 IgA2は門脈圧亢進症における門脈体循環シャント量を予測する非侵襲的マーカーとなる得るか？	第45回日本肝臓学会西部会	京都 12/7-12/8 2023	横山　圭二，釈迦堂　敏， 平井　郁仁
27	（ワークショップ） 直接穿刺が困難な肝被膜直下肝細胞癌に対するラジオ波焼灼術の工夫	第45回日本肝臓学会西部会	京都 12/7-12/8 2023	田中　　崇，釈迦堂　敏， 平井　郁仁

〈国内研究助成金〉

1	「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」 診断基準・治療指針改訂プロジェクト	厚生労働科学研究費補助金 （難治性疾患政策研究事業）	2023	平井　郁仁 （プロジェクトリーダー） （代表者：久松　理一）
2	クローン病の活動性に関連する要因分析と寛解維持への睡眠障害改善効果の検証	文部科学省 基盤研究（C）	2023	平井　郁仁 （代表者：森崎　直子）
3	炎症性腸疾患におけるアドレノメデュリンの病態意義の会名と予後予測因子としての応用	文部科学省 基盤研究（C）	2023	芦塚　伸也（代表）
4	「超音波内視鏡下採取検体を用いた膵癌微小環境の再構築」 福岡大学推進研究プロジェクト	福岡大学推奨研究 プロジェクト 公的研究費	2023	石田　祐介（代表）
5	炎症性腸疾患患者の5-ASA 不耐症例に関する検討	臨床研究症例基金	2023	久能　宣昭（代表）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第15回九州・山口胆膵若手の会	福岡大学病院	1/20 2024	古賀　毅彦
2	福岡大学消化器地域連携セミナー～福岡大学病院における消化器診療の現状と展望～	KKR ホテル博多	1/30 2024	平井　郁仁
3	第25回小腸内視鏡研究会学術セミナー	ANA クラウンプラザホテル福岡	3/2 2024	平井　郁仁

〈学会活動〉

1	日本炎症性腸疾患学会	理事	2023	平井　郁仁
2	日本小腸学会	理事	2023	平井　郁仁
3	日本内科学会	評議員	2023	平井　郁仁
4	日本大腸検査学会	評議員	2023	平井　郁仁
5	アレルギー消化器疾患研究会	世話人	2023	平井　郁仁
6	日本消化器病学会	評議員	2023	平井　郁仁，釈迦堂　敏，芦塚　伸也
7	日本消化器内視鏡学会	社団評議員	2023	平井　郁仁
8	日本消化器内視鏡学会	学術評議員	2023	石田　祐介
9	日本消化管学会	代議員	2023	平井　郁仁
10	日本カプセル内視鏡学会	代議員	2023	平井　郁仁
11	日本消化器病学会九州支部	幹事	2023	平井　郁仁
12	日本消化器病学会九州支部	評議員	2023	平井　郁仁，釈迦堂　敏，横山　圭二，芦塚　伸也，船越　禎広，石田　祐介，田中　　崇，高田　和英，古賀　毅彦，山内　　涼
13	日本消化器内視鏡学会九州支部	幹事	2023	平井　郁仁
14	日本消化器内視鏡学会九州支部	評議員	2023	平井　郁仁，芦塚　伸也，船越　禎広，石田　祐介，久能　宣昭，古賀　毅彦
15	日本大腸肛門病学会学会九州支部	幹事	2023	平井　郁仁
16	日本臨床分子形態学会	評議員	2023	釈迦堂　敏
17	日本門脈圧亢進症学会	評議員	2023	横山　圭二
18	日本肝臓学会西部会	評議員	2023	釈迦堂　敏，横山　圭二，田中　　崇
19	日本アブレーション研究会	幹事	2023	田中　　崇

〈研究に関係した賞〉

1	EUS-CDS without dilation への挑戦：CYCLONE phase Ⅱ prospective study	優秀演題賞，若手症例賞/第31回日本消化器関連学会週間（JDDW2023）第106回消化器内視鏡学会	2023	古賀　毅彦

呼吸器内科学

〈原著〉

1	Survival Impact of Second-Line Immune Checkpoint Inhibitors in Older Patients With Advanced Squamous-Cell NSCLC: Post Hoc Analysis of the CAPITAL Study.	JTO Clin Res Rep	4(6)：100514，2023	Kogure Y, Kada A, Hashimoto H, Atagi S, Takiguchi Y, Saka H, Ebi N, Inoue A, Kurata T, Fujita Y, Nishii Y, Itani H, Endo T, Saito AM, Shibayama T, Yamamoto N, Gemma A.

2	Multicenter, Retrospective Study to Evaluate Necitumumab Plus Cisplatin and Gemcitabine After Immune Checkpoint Inhibitors in Advanced Squamous Cell Lung Cancer in Japan: The NINJA Study	JTO Clin Res Rep	4(12): 100593, 2023	Murata Y, Tanzawa S, Misumi T, Yoshioka H, Miyauchi E, Ninomiya K, Takeshita M, Ito K, Okamoto T, Sugawara S, Kawashima Y, Hashimoto K, Mori M, Miyanaga A, Hayashi A, Tanaka H, Honda R, Nojiri M, Sato Y, Hata A, Masuda K, Kozuki T, Kawamura T, Suzuki T, Yamaguchi T, Asada K, Tetsumoto S, Tanaka H, Watanabe S, Umeda Y, Yamaguchi K, Kuyama S, Tsuruno K, Misumi Y, Kuraishi H, Yoshihara K, Nakao A, Kubo A, Yokoyama T, Watanabe K, Seki N.
3	Ramucirumab Plus Docetaxel for Patients with Non-small cell Lung Cancer with Brain Metastases: A Multicenter, Open-Label Single-Arm Phase II Trial	Oncologist	28(6): 551-e454. doi: 10.1093/ oncolo/oyad013. 2023	Tanimura K, Uchino J, Kimura H, Hiranuma O, Chihara Y, Tanzawa S, Takumi C, Kita T, Inoue K, Minato K, Takemoto S, Nakao A, Yoshimura K, Takayama K.
4	Impact of increased plasma levels of calreticulin on prognosis of patients with advanced lung cancer undergoing combination treatment of chemotherapy and immune checkpoint inhibitors.	Lung Cancer	181: 107264, 2023	Tsutsumi H, Inoue H, Shiraishi Y, Hirayama A, Nakanishi T, Ando H, Nakajima M, Shinozaki S, Ogata H, Okamura K, Kimura S, Ogawa T, Ota K, Yoneshima Y, Tanaka K, Hamada N, Okamoto I, Iwama E.
5	Safety evaluation of immune-cell therapy for malignant tumor in the Cancer Immune-cell Therapy Evaluation Group (CITEG).	Cytotherapy	25(11): 1229-1235, 2023	Takimoto R, Kamigaki T, Ito H, Saito M, Takizawa K, Soejima K, Yasuda H, Ohgino K, Terai H, Tomita K, Miura M, Mizukoshi E, Miyashita T, Nakamoto Y, Hayashi K, Miwa S, Kitahara M, Takeuchi A, Kimura H, Mochizuki T, Sugie H, Seino KI, Yamada T, Takeuchi S, Makita K, Naitoh K, Yasumoto K, Yoshida Y, Inoue H, Kotake K, Ohshima K, Noda SE, Okamoto M, Yoshimoto Y, Okada S, Ibe H, Oguma E, Goto S.

6	Prophylactic treatment of dacomitinib-induced skin toxicities in epidermal growth factor receptor-mutated non-small-cell lung cancer: A multicenter, Phase II trial.	Cancer Med	12(14): 15117-15127, 2023	Iwasaku M, Uchino J, Chibana K, Tanzawa S, Yamada T, Tobino K, Uchida Y, Kijima T, Nakatomi K, Izumi M, Tamiya N, Kimura H, Fujita M, Honda R, Takumi C, Yamada T, Kaneko Y, Kiyomi F, Takayama K.
7	Concomitant Proton Pump Inhibitor Use With Pembrolizumab Monotherapy vs Immune Checkpoint Inhibitor Plus Chemotherapy in Patients With Non-Small Cell Lung Cancer	JAMA Netw Open	6(7): e2322915, 2023	Kawachi H, Yamada T, Tamiya M, Negi Y, Goto Y, Nakao A, Shiotsu S , Tanimura K, Takeda T, Okada A, Harada T, Date K , Chihara Y, Hasegawa I, Tamiya N, Ishida M, Katayama Y, Morimoto K, Iwasaku M, Tokuda Sh, Kijima T, Takayama K.
8	Nationwide surveillance of bacterial respiratory pathogens conducted by the surveillance committee of the Japanese Society of Chemotherapy, the Japanese Association for Infectious Diseases, and the Japanese Society for Clinical Microbiology in 2019-2020: General view of the pathogens' antibacterial susceptibility	J Infect Chemother.	29(8): 731-743, 2023	Tokimatsu I, Matsumoto T, Tsukada H, Fujikura Y, Miki M, Morinaga Y, Sato J, Wakamura T, Kiyota H, Tateda K, Yanagisawa H, Sasaki T, Ikeda H, Horikawa H, Takahashi H, Seki M, Mori Y, Takeda H, Kurai D, Hasegawa N, Uwamino Y, Kudo M, Yamamoto M, Nagano Y, Nomura S, Tetsuka T, Hosokai M, Aoki N, Yamamoto Y, Iinuma Y, Mikamo H, Suematsu H, Maruyama T, Kawabata A, Sugaki Y, Nakamura A, Fujikawa Y, Fukumori T, Ukimura A, Kakeya H, Niki M, Yoshida K, Kobashi Y, Tokuyasu H, Yatera K, Ikegami H, Fujita M, Matsumoto T, Yanagihara K, Matsuda J, Hiramatsu K, Shinzato T.
9	Survival and acute exacerbation for patients with idiopathic pulmonary fibrosis (IPF) or non-IPF idiopathic interstitial pneumonias: 5-year follow-up analysis of a prospective multi-institutional patient registry.	BMJ Open Respir Res.	10(1): e001864, 2023	Tsubouchi K, Hamada N, Tokunaga S, Ichiki K, Takata S, Ishii H, Kitasato Y, Okamoto M, Kawakami S, Yatera K, Kawasaki M, Fujita M, Yoshida M, Maeyama T, Harada T, Wataya H, Torii R, Komori M, Mizuta Y, Tobino K, Harada E, Yabuuchi H, Nakanishi Y, Okamoto I.

10	Chemoimmunotherapy Versus Pembrolizumab as a First-Line Treatment for Patients with Advanced Non-small Cell Lung Cancer and High PD-L1 Expression: Focus on the Role of Performance Status	Target Oncol	18(6): 915–925, 2023	Morimoto K, Yamada T, Kawachi H, Tamiya M, Negi Y, Goto Y, Nakao A, Shiotsu S, Tanimura K, Takeda T, Okada A, Harada T, Date K, Chihara Y, Hasegawa I, Tamiya N, Nishioka N, Katayama Y, Iwasaku M, Tokuda S, Kijima T, Takayama K.
11	Effects of treatment with corticosteroids on human rhinovirus–induced asthma exacerbations in pediatric inpatients: a prospective observational study.	BMC Pulm Med.	23(1): 487, 2023	KanO K, Washio Y, Oki T, Fujimoto T, Ninomiya T, Yoshida M, Fujita M, Nakanishi Y, Matsumoto K.
12	Coxsackievirus A11 is an immunostimulatory oncolytic virus that induces complete tumor regression in a human non-small cell lung cancer.	Sci Rep	13(1): 5924, 2023	Sakamoto A, Inoue H*, Miyamoto Sh , Ito Sh, Soda Y, Tani K. *Corresponding author.
13	Cohort study to evaluate prognostic factors in idiopathic pulmonary fibrosis patients introduced to oxygen therapy.	Sci Rep	13(1): 13664, 2023	Kataoka K, Oda K, Takizawa H, Ogura T, Miyamoto A, Inoue Y, Akagawa S, Hashimoto S, Kishaba T, Sakamoto K, Hamada N, Kuwano K, Nakayama M, Ebina M, Enomoto N, Miyazaki Y, Atsumi K, Izumi S, Tanino Y, Ishii H, Ohnishi H, Suda T, Kondoh Y.
14	A prospective cohort study of periostin as a serum biomarker in patients with idiopathic pulmonary fibrosis treated with nintedanib.	Sci Rep.	13(1): 22977, 2023	Okamoto M, Fujimoto K, Johkoh T, Kawaguchi A, Mukae H, Sakamoto N, Ogura T, Ikeda S, Kondoh Y, Yamano Y, Komiya K, Umeki K, Nishikiori H, Tanino Y, Tsuda T, Arai N, Komatsu M, Sakamoto S, Yatera K, Inoue Y, Miyazaki Y, Hashimoto S, Shimizu Y, Hozumi H, Ohnishi H, Handa T, Hattori N, Kishaba T, Kato M, Inomata M, Ishii H, Hamada N, Konno S, Zaizen Y, Azuma A, Suda T, Izuhara K, Hoshino T.

〈症例報告〉

1	A case of crescentic glomerulonephritis induced by afatinib for lung adenocarcinoma.	CEN Case Rep	12(2): 152–158, 2023	Morita D, Ito K, Ikeuchi N, Nishida Y, Igata F, Nakamura T, Murayama H, Watanabe M, Takahashi K, Yasuno T, Uesugi N, Fujita M, Oda T, Masutani K.

〈総説〉

1	排痰コントロールの重要性	臨床と研究	100: 1024-1026, 2023	藤田　昌樹
2	非結核性抗酸菌症の現状	日内誌	112: 490-494, 2023	藤田　昌樹
3	肺非結核性抗酸菌地用におけるキノロンの意義	Kekkaku	98: 169-172, 2023	藤田　昌樹
4	【徹底ガイド 重症感染症のすべて－研修医からの質問302－】 各種感染症の管理 肺非結核性抗酸菌症（Q&A）	救急・集中治療	35(1): 174-178, 2023	藤田　昌樹
5	特集／肺癌治療の新時代 治療 化学療法	臨床と研究	100: 49-54(961-966), 2023	海老　規之，藤田　昌樹

〈著書〉

1	一般社団方針日本移植学会 Tansplanat Physician 委員会編 内科医のため臓器移植診療ハンドブック	ぱーそん書房	2024	藤田　昌樹（共著）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	Lung taransplantation for interstitial pneumonia may reduce acute excerbation	The 27th Congress of the Asian Pacific Society of Respirology（APSR 2023）	Singapore Nov 16-19 2023	Fujita M
2	【ミニシンポジウム】 当科におけるクライオバイオプシーの成績	第63回日本呼吸器学会 学術講演会	東京 Apr 28-30 2023	池田　貴登
3	【分野別ワークショップ】 肺移植後患者の COVID-19治療	第59回日本移植学会 総会	京都 Sep 21-23 2023	春藤　裕樹
4	【シンポジウム１】 「肺サルコイドーシスのフロントライン」 肺サルコイドーシスの最近のトピックス	第43回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会総会	浜松 Oct 6-7 2023	濵田　直樹
5	【ランチョンセミナー】 肺 MAC 症の新たな地平線	第91回日本呼吸器学会・ 日本結核 非結核性抗酸菌症学会・日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患 九州支部秋季学術講演会	宮崎 Oct 27-28 2023	藤田　昌樹
6	【シンポジウム】 進行非小細胞肺癌の免疫複合療法	第91回日本呼吸器学会・ 日本結核 非結核性抗酸菌症学会・日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患 九州支部秋季学術講演会	宮崎 Oct 27-28 2023	海老　規之
7	【アフタヌーンセミナー】 進展型小細胞肺癌治療におけるリアルワールドデータと新たな話題	第92回日本呼吸器学会・ 日本結核 非結核性抗酸菌症学会九州支部春季学術講演会	熊本 Mar 16 2024	井上　博之

〈国内研究助成金〉

1	Pleuroparenchymal fibroelastosis（PPFE）におけるバイオマーカーの探索	柿原科学技術研究財団	2023	濵田　直樹（代表）
2	液性免疫解析による免疫チェックポイント阻害剤の新規治療効果予測因子の探索研究	文部科学省： 科学技術振興機構（JST） 創発的研究支援事業研究	2023	井上　博之（代表）
3	難治性希少呼吸器腫瘍に対するCVA11を用いた新規腫瘍溶解性ウィルス療法の開発	日本学術振興会 若手研究（基金分）	2023	井形　文保（代表）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	令和５年度「呼吸の日」市民公開講座	福岡大学病院 メディカルホール	8/1, 2023	藤田　昌樹
2	令和５年度 若手育成セミナー	福岡大学病院 メディカルホール	8/1, 2023	藤田　昌樹

〈学会活動〉

1	日本結核・非結核性抗酸菌症学会	理事	2023	藤田　昌樹
2	日本界面・サーファクタント医学会	理事	2023	藤田　昌樹
3	Asian pan-pacific respiratory society	assembly （Respiratory infection） deputy head	2023	藤田　昌樹
4	日本内科学会	代議員	2023	藤田　昌樹
5	日本呼吸器学会	代議員	2023	藤田　昌樹
6	日本感染症学会	評議員	2023	藤田　昌樹
7	日本化学療法学会	評議員	2023	藤田　昌樹
8	日本界面・サーファクタント医学会	評議員	2023	藤田　昌樹
9	日本呼吸器内視鏡学会	評議員	2023	藤田　昌樹，海老　規之
10	日本結核・非結核性抗酸菌症学会	評議員	2023	藤田　昌樹
11	日本肺癌学会	評議員	2023	藤田　昌樹，海老　規之
12	日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会	評議員	2023	濵田　直樹

腎臓・膠原病内科学

〈原著〉

1	Association between serum ALT levels and incidence of new-onset diabetes in general population of Japanese: a longitudinal observational study（ISSA-CKD）	BMJ Open.	13(8): e074007, 2023	Morinaga A, Iwanaga K, Maki K, Ueno T, Kawano K, Funakoshi S, Yamanokuchi T, Tsuji M, Abe M, Satoh A, Kawazoe M, Maeda T, Yoshimura C, Takahashi K, Tada K, Ito K, Yasuno T, Kawanami D, Masutani K, Arima H.

2	The differences in renal hemodynamic response following high-intensity exercise between younger and older males.	Clin Exp Nephrol	27(11): 972-980, 2023	Kawakami S, Yasuno T, Kotoku K, Kawakami S, Fujimi K, Matsuda T, Nakashima S, Masutani K, Uehara Y, Higaki Y, Michishita R.
3	Antibody acquisition after second and third SARS-CoV-2 vaccinations in Japanese kidney transplant patients: A prospective study.	Clin Exp Nephrol	27(6): 574-582, 2023	Deguchi H, Sakamoto A, Nakamura N, Okabe Y, Miura Y, Iida T, Yoshimura M, Haga N, Nabeshima S, Masutani K.
4	Effect of low-density lipoprotein apheresis on quality of life in patients with diabetes, proteinuria, and hypercholesterolemia.	Blood Purif	52(4): 373-381, 2023	Hara A, Wada T, Muso E, Maruyama S, Kato S, Furuichi K, Yoshimura K, Toyama T, Sakai N, Suzuki H, Tsukamoto T, Miyazaki M, Sato E, Abe M, Shibagaki Y, Narita I, Goto S, Sakamaki Y, Yokoyama H, Mori N, Tanaka S, Yuzawa Y, Hasegawa M, Matsubara T, Wada J, Tanabe K, Masutani K, Abe Y, Tsuruya T, Fujimoto S, Iwatsubo S, Tsuda A, Suzuki H, Kasuno K, Terada Y, Nakata T, Iino N, Sofue T, Miyata H, Nakano T, Ohtake T, Kobayashi S.
5	Serum triglyceride levels and incidence of hypertension in a general Japanese population: ISSA-CKD study	Hypertens Res.	46(5): 1122-1131, 2023	Ishida S, Kondo S, Funakoshi S, Abe M, Satoh A, Kawazoe M, Maeda T, Yoshimura C, Nishida Y, Tada K, Takahashi K, Ito K, Yasuno T, Kawanami D, Miura SI, Kodama S, Saku K, Mukobara S, Masutani K, Arima H.
6	Dysbiosis of Gut Microbiota in Patients with Chronic Kidney Disease	Intern Med	63(3): 347-352, 2023	Yasuno T, Takahashi K, Tada K, Hiyamuta H, Watanabe M, Ito K, Arima H, Masutani K.
7	Dysbiosis of Gut Microbiota in Patients with Chronic Kidney Disease	Intern Med.	63(3): 347-352, 2024	Yasuno T,Takahashi K, Tada K, Hiyamuta H, Watanabe M, Ito K, Arima H, Masutani K
8	Effect of Pharmacotherapy for Overactive Bladder on the Incidence of and Factors Related to Urinary Tract Infection: A Systematic Review and Meta-analysis.	J Urol	209(4): 665-674, 2023	Tsubouchi K, Arima H, Abe M, Matsuzaki H, Tominaga K, Fujikawa A, Gunge N, Miyazaki T, Okabe Y, Nakamura N, Matsuoka H, Okutsu S, Tada K, Haga N.

9	Casual Serum Triglyceride Concentrations and New-Onset Chronic Kidney Disease in the General Japanese Population: The Iki City Epidemiological Study of Atherosclerosis and Chronic Kidney Disease Study	Kidney Blood Press Res.	48(1): 495–504, 2023	Takahashi K, Nishida Y, Yokota S, Tada K, Hiyamuta H, Ito K, Yasuno T, Maeda T, Arima H, Masutani K.
10	Cumulative smoking dose is associated with subclinical renal injury: a pathological study in individuals without chronic kidney disease.	Nephrol Dial Transplant	38(12): 2799–2808, 2023	Ataka E, Matsukuma Y, Ueki K, Tsuchimoto A, Okabe Y, Masutani K, Nakamura M, Nakano T, Kitazono T.
11	Efficacy of pre-emptive kidney transplantation for adults with end-stage kidney disease: A systematic review and meta-analysis.	Ren Fail	45(1): 2169618, 2023	Azegami T, Kounoue N, Sofue T, Yazawa M, Tsujita M, Masutani K, Oguchi H.
12	Elevation in white blood cell count and development of hyper LDL cholesterolemia	Sci Rep.	13(1): 8292, 2023	Okutsu S, Kato Y, Takeoka H, Funakoshi S, Maeda T, Yoshimura C, Kawazoe M, Satoh A, Tada K, Takahashi K, Ito K, Yasuno T, Fujii H, Mukoubara S, Saku K, Kodama S, Kawanami D, Masutani K, Arima H, Nabeshima S.

〈症例報告〉

1	A case of crescentic glomerulonephritis induced by afatinib for lung adenocarcinoma	CEN Case Rep.	12(2): 152–158, 2023	Morita D, Ito K, Ikeuchi N, Nishida Y, Igata F, Nakamura T, Murayama H, Watanabe M, Takahashi K, Yasuno T, Uesugi N, Fujita M, Oda T, Masutani K.
2	Allograft adenovirus nephritis accompanied by Crohn's disease in a kidney transplant recipient: a novel case report.	CEN Case Rep	12(2): 215–220, 2023	Fujita Y, Fujishima R, Ueki K, Tsuchimoto A, Matsuda T, Kato M, Masutani K, Shinoda K, Yazawa M.
3	A case of acute kidney injury due to native kidney BK polyomavirus-associated nephropathy in a human T-lymphotropic virus type 1 carrier.	BMC Nephrol	24(1): 323, 2023	Takae K, Ueno Y, Shojima M, Nagae H, Nakano T, Takata S, Katafuchi R, Masutani K, Nakano T, Kuroki Y.

〈総説〉

1	腎移植のアフェレシス.	腎臓内科	18(2): 1–10, 2023.	伊藤　建二，升谷　耕介
2	水・電解質異常と輸液管理 各種病態における輸液管理 腎不全	臨床と研究	100(7): 799–804, 2023	安野　哲彦，升谷　耕介

3	高尿酸血症.	腎と透析	95（増刊号病因・病態生理から読み解く腎・泌尿器疾患のすべて）: 594–598, 2023	升谷　耕介
4	Progress in pathological diagnosis after kidney transplantation: current trend and future perspective.	J Atheroscler Thromb	30(7): 720–732, 2023	Masutani K.

〈著書〉

1	拒絶反応を疑う臨床所見と腎生検（小児含む）. 必携内科医のための臓器移植診療ハンドブック	ぱーそん書房，東京	pp173–178, 2023	升谷　耕介（分担）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	Significance of perivascular aggregate in the kidney allograft: evaluation of one-year protocol biopsy with recent Banff Classification.	Congress of Asian Society of Transplantation	Hong-Kong, China August 25–28 2023	Masutani K, Nakagawa K, Matsukuma Y, Ueki K, Ataka E

〈国内研究助成金〉

1	病型別に慢性腎臓病の発症および増悪に関与する腸内細菌叢異常を解明する	日本学術振興会 基盤研究 C	2023	安野　哲彦
2	動脈硬化，心血管病，CKD に及ぼす不眠症，睡眠時無呼吸症候群の解明	日本学術振興会 基盤研究 C	2023	安野　哲彦 （代表者：吉村　　力）
3	腎血流量を維持し腎臓にストレスをかけない最適な運動条件の探索	日本学術振興会 基盤研究 C	2023	安野　哲彦 （代表者：川上翔太郎）
4	最終糖化産物（AGEs）の慢性腎臓病に対する影響を解明する－疫学的視点より－	日本学術振興会 基盤研究 C	2023	安野　哲彦 （代表者：伊藤　建二）
5	DNA メチル化を基盤とする運動適応機構の解明	日本学術振興会 基盤研究 B	2023	安野　哲彦 （代表者：檜垣　靖樹）

〈学会活動〉

1	日本腎臓学会	評議員	2023	升谷　耕介，安野　哲彦，伊藤　建二
2	日本アフェレシス学会	評議員	2023	升谷　耕介，伊藤　建二
3	日本臨床腎移植学会	評議員	2023	升谷　耕介
4	日本透析医学会	評議員	2023	升谷　耕介
5	日本リウマチ学会	代議員	2023	三宅　勝久
6	日本腎臓リハビリテーション学会	代議員	2023	升谷　耕介
7	移植腎病理研究会	幹事	2023	升谷　耕介
8	腎移植内科研究会	幹事	2023	升谷　耕介

〈研究に関係した賞〉

1	NRI-JH と血液透析患者の合併症発症との関連：Q コホート研究10年予後	第13回腎不全研究会 特別奨励賞	2023	嶋本　　聖

脳神経内科学

〈原著〉

1	Liver toxicity of intravenous heparin treatment in patients with acute ischemic stroke.	Clin Neurol Neurosurg.	13：2023	Yasutaka Y, Fujioka S, Tsuboi Y, Oyabu K, Shibaguchi H, Kamimura H.
2	Impact of non-motor fluctuations on QOL in patients with Parkinson's disease.	Front Neurol.	14：2023	Kakimoto A, Kawazoe M, Kurihara K, Mishima T, Tsuboi Y.
3	Evaluation of perception threshold and pain in patients with Parkinson's disease using PainVision®	Front Neurol.	5：2023	Kurihara K, Fujioka S, Mishima T, Tsuboi Y.
4	Impact of Parkinson's Disease on Caregiver Quality of Life in Japan.	Mov Disord Clin Pract.	14：10(4)658-663，2023	Nagaki K, Nakagawa R, Ishido M, Yoshinaga Y, Watanabe J, Kurihara K, Hayashi Y, Ogura H, Mishima T, Fujioka S, Tsuboi Y.
5	Risk factors for developing dyskinesia among Parkinson's disease patients with wearing-off: J-FIRST.	J Neurol Sci.	15：2023	Mishima T, Chiu SW, Saiki H, Yamaguchi T, Shimo Y, Maeda T, Watanabe H, Kashihara K, Nomoto M, Hattori N, Tsuboi Y
6	Metabolic changes in the plasma of mild Alzheimer's disease patients treated with Hachimijiogan.	Front Pharmacol.	12：2023	Kainuma M, Kawakatsu S, Kim JD, Ouma S, Iritani O, Yamashita KI, Ohara T, Hirano S, Suda S, Hamano T, Hieda S, Yasui M, Yoshiiwa A, Shiota S, Hironishi M, Wada-Isoe K, Sasabayashi D, Yamasaki S, Murata M, Funakoshi K, Hayashi K, Shirafuji N, Sasaki H, Kajimoto Y, Mori Y, Suzuki M, Ito H, Ono K, Tsuboi Y.
7	Factors that impact dysphagia and discontinuance of oral intake in patients with progressive supranuclear palsy.	Front Neurol.	13：2023	Iwashita Y, Umemoto G, Fujioka S, Arahata H, Dotsu Y, Oike A, Tsuboi Y.
8	Altered properties of amyloidogenic prion protein in genetic Creutzfeldt-Jakob disease with PRNP V180I mutation in response to pentosan polysulfate.	Brain Pathol.	33(5)：e13197．2023	Shijo M, Yoshimura M, Omae T, Hashimoto G, Mizoguchi T, Kuwashiro T, Komori T, Tsuboi Y, Saito T, Nakagawa M, Itoh K, Honda H.
9	Association between physical activity and health literacy in patients with Parkinson's disease: an online web survey.	BMC Neurol.	23(1)：403，2023	Nagaki K, Mishima T, Ohura T, Kurihara K, Fujioka S, Tsuboi Y
10	Non-ergot dopamine agonist therapy for Parkinson's disease in Japan: A claims database analysis.	Neurology and Clinical Neuroscience.	11(2)，63-71，2023	Wada-Isoe, K., Tsuboi, Y., Kondo, H., Kojima, Y., Takeshima, T., Iwasaki, K.

11	Differences in Parkinson's disease treatment between neurology and other departments in Japan.	Neurology and Clinical Neuroscience	11(2), 79–89, 2023	Tsuboi, Y., Wada-Isoe, K., Kondo, H., Kojima, Y., Takeshima, T., Iwasaki, K.
12	Precision Mapping of Thalamic Deep Brain Stimulation Lead Positions Associated With the Microlesion Effect in Tourette Syndrome.	Neurosurgery.	93(4): 875–883, 2023	Morishita T, Sakai Y, Iida H, Yoshimura S, Fujioka S, Oda K, Tanaka SC, Abe H.

〈症例報告〉

1	A Case of Posterior Interosseous Nerve Palsy Associated With Robotic Low Anterior Resection.	Cureus.	15; 15(3): e36170, 2023	Ohno R, Matsumoto Y, Sahara K, Kajitani R, Watanabe T, Yoshimatsu G, Fujioka S, Ogura H, Tsuboi Y, Hasegawa S.
2	HTLV-1-associated demyelinating neuropathy: A case report and review of the literature.	eNeurologicalSci.	20; 31: 100453, 2023	Tamaki K, Mishima T, Tateishi Y, Mera H, Ogura H, Tsugawa J, Fujioka S, Takamatsu Y, Tsuboi Y.
3	Siblings with Cockayne Syndrome B Type Ⅲ Presenting with Slowly Progressive Cerebellar Ataxia.	Intern Med.	62(15): 2253–2259, 2023	Takahashi N, Mishima T, Fujioka S, Izumi K, Ando M, Higuchi Y, Takashima H, Tsuboi Y.

〈総説〉

1	Neuronal guidance genes in health and diseases.	Protein Cell.	14(4): 238–261, 2023	Yuasa-Kawada J, Kinoshita-Kawada M, Tsuboi Y, Wu JY.
2	【神経難病のある生活者の視点を捉える】 神経難病と作業療法オーバービューパーキンソン病のリハビリテーションを中心に(解説)	作業療法ジャーナル	57巻6号, pp.550–555, 2023	長城　晃一，坪井　義夫
3	パーキンソン病にみられる認知機能障害：背景のリスクおよびレビー小体型認知症との境界	難病と在宅ケア	29巻3号, 55–58, 2023	坪井　義夫
4	【アンチエイジングと機能性食品やその成分】 脳から見たアンチエイジングのための機能性食品やその成分	機能性食品と薬理栄養	16巻6号, 318–323, 2023	藤岡　伸助，坪井　義夫
5	看護から見るパーキンソン病に対するリハビリテーションの効果	MDSJ Letters	16巻1号, 6–7, 2023	山本　澄子，中野　琴美， 坪井　義夫
6	認知と機能からみた神経・精神疾患 パーキンソン病と認知機能障害	認知神経科学	24巻2号, 41–48, 2023	坪井　義夫
7	プライマリケア医に必要な情報をまるっと整理 くすりの使い方便利帳　Parkinson 病治療薬.	内科	131: 1041–1045, 2023	三嶋　崇靖
8	Genetic Movement Disorders Commonly Seen in Asians.	Mov Disord Clin Pract.	8; 10(6): 878–895, 2023	Jagota P, Lim SY, Pal PK, Lee JY, Kukkle PL, Fujioka S, Shang H, Phokaewvarangkul O, Bhidayasiri R, Mohamed Ibrahim N, Ugawa Y, Aldaajani Z, Jeon B, Diesta C, Shambetova C, Lin CH.

9	Nine Hereditary Movement Disorders First Described in Asia: Their History and Evolution.	J Mov Disord.	16(3): 231-247, 2023	Jagota P, Ugawa Y, Aldaajani Z, Ibrahim NM, Ishiura H, Nomura Y, Tsuji S, Diesta C, Hattori N, Onodera O, Bohlega S, Al-Din A, Lim SY, Lee JY, Jeon B, Pal PK, Shang H, Fujioka S, Kukkle PL, Phokaewvarangkul O, Lin CH, Shambetova C, Bhidayasiri R.
10	Historical and More Common Nongenetic Movement Disorders From Asia.	J Mov Disord.	16(3): 248-260, 2023	Ibrahim NM, Jagota P, Pal PK, Bhidayasiri R, Lim SY, Ugawa Y, Aldaajani Z, Jeon B, Fujioka S, Y, Kukkle PL, Shang H, Phokaewvarangkul O, Diesta C, Shambetova C, Lin CH.

〈著書〉

1	今日の治療指針2023　ハンチントン病	医学書院	2023年1月発刊, pp949-950	坪井　義夫

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	神経変性疾患の疾患修飾療法としての栄養療法 ～パーキンソン病～，シンポジウム２　神経変性疾患の疾患修飾療法としての栄養療法	第17回パーキンソン病・運動障害疾患コングレス	大阪 7月20-22日 2023年	坪井　義夫
2	パーキンソン病患者にみられる低体重への対応，神経難病における疾患修飾療法としての栄養療法	第41回日本神経治療学会学術集会	東京 11月3日-5日 2023年	坪井　義夫
3	症例を交えて，地域で診る認知症診療	認知症ケア学会 九州・沖縄ブロック大会 （Web 配信）	福岡 9月28日 2023年	合馬　慎二
4	認知症高齢者の周術期における多職種連携の重要性　－脳神経内科の立場から－	第37回日本手術看護学会年次大会	福岡 10月28日 2023年	合馬　慎二

〈国内研究助成金〉

1	HAM ならびに類縁疾患の患者レジストリによる相談機能の強化と診療ガイドラインの改訂	厚生労働省	2023	坪井　義夫 （代表者：山野　嘉久）
2	神経変性疾患領域の基盤的調査研究	厚生労働省	2023	坪井　義夫 （代表者：戸田　達史）
3	プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班	厚生労働省	2023	坪井　義夫 （代表者：髙尾　昌樹）
4	Perry 病の病態解明および創薬を目指した新規モデルマウスの作製	文部科学省： 学術研究助成基金助成金 （基盤研究（C）一般）	2023	三嶋　崇靖（代表）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	2nd Perry disease international conference in Fukuoka	福岡大学メディカルホール	2023年10月21日	坪井　義夫

〈学会活動〉

1	日本内科学会	評議員	2023	坪井　義夫
2	日本神経感染症学会	評議員	2023	坪井　義夫
3	日本神経治療学会	評議員	2023	坪井　義夫
4	日本パーキンソン病・運動障害疾患学会	評議員	2023	坪井　義夫，藤岡　伸助
5	日本神経学会	評議員	2023	坪井　義夫
6	Full membership International Association of Parkinsonism and Related Disorders	内科チェアマン	2023	Tsuboi Y
7	Movement Disorder Society Non-Motor Parkinson's Disease Study Group Standing Member	Study Group Standing Member	2023	Tsuboi Y

精神医学

〈原著〉

1	Effects of electroconvulsive therapy on the use of anxiolytics and sleep medications: a propensity score-matched analysis.	Psychiatry Clin Neurosci	77(1)：30-37，2023	Tsuboi T, Takaesu Y, Hasegawa N, Ochi S, Fukumoto K, Ohi K, Muraoka H, Okada T, Kodaka F, Igarashi S, Iida H, Kashiwagi H, Hori H, Ichihashi K, Ogasawara K, Hashimoto N, Iga JI, Nakamura T, Usami M, Nagasawa T, Kido M, Komatsu H, Yamagata H, Atake K, Furihata R, Kikuchi S, Horai T, Takeshima M, Hirano Y, Makinodan M, Matsumoto J, Miura K, Hishimoto A, Numata S, Yamada H, Yasui-Furukori N, Inada K, Watanabe K, Hashimoto R.
2	Management of unspecified anxiety disorder: Expert consensus.	Neuropsychopharmacol Rep	43(2)：188-194，2023	Sakurai H, Inada K, Aoki Y, Takeshima M, Ie K, Kise M, Yoshida E, Tsuboi T, Yamada H, Hori H, Inada Y, Shimizu E, Mishima K, Watanabe K, Takaesu Y.

3	Satisfaction with web-based courses on clinical practice guidelines for psychiatrists: Findings from the "Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education in Psychiatric Treatment (EGUIDE)" project.	Neuropsychopharmacol Rep	43(1): 23-32, 2023	Iida H, Okada T, Nemoto K, Hasegawa N, Numata S, Ogasawara K, Miura K, Matsumoto J, Hori H, Iga JI, Ichihashi K, Hashimoto N, Yamada H, Ohi K, Yasui-Furukori N, Fukumoto K, Tsuboi T, Usami M, Furihata R, Takaesu Y, Hishimoto A, Muraoka H, Katsumoto E, Nagasawa T, Ochi S, Komatsu H, Kikuchi S, Takeshima M, Onitsuka T, Tamai S, Kubota C, Inada K, Watanabe K, Kawasaki H, Hashimoto R.
4	Change of prescription for patients with schizophrenia and major depressive disorder during admission: Real-world prescribing surveys from the Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education psychiatric treatment project.	BMC Psychiatry	28l 23(1): 473, 2023	Hashimoto N, Yasui-Furukori N, Hasegawa N, Ishikawa S, Hori H, Iida H, Ichihashi K, Miura K, Matsumoto J, Numata S, Kodaka F, Furihata R, Ohi K, Ogasawara K, Iga JI, Muraoka H, Komatsu H, Takeshima M, Atake K, Kido M, Nakamura T, Kishimoto T, Hishimoto A, Onitsuka T, Okada T, Ochi S, Nagasawa T, Makinodan M, Yamada H, Tsuboi T, Yamada H, Inada K, Watanabe K, Hashimoto R.,
5	Clinical Practice for Unspecified Anxiety Disorder in Primary Care.	PCN Reports	2(3): 2023	Sakurai H, Takeshima M, Inada K, Aoki Y, Ie K, Kise M, Yoshida E, Tsuboi T, Yamada H, Hori H, Inada Y, Shimizu E, Mishima K, Watanabe K, Takaesu Y.
6	Effect of education regarding treatment guidelines for schizophrenia and depression on the treatment behavior of psychiatrists: A multicenter study.	Psychiatry Clin Neurosci	77(19): 559-568, 2023	Hasegawa N, Yasuda Y, Yasui-Furukori N, Yamada H, Hori H, Ichihashi K, Takaesu Y, Iida H, Muraoka H, Kodaka F, Iga JI, Hashimoto N, Ogasawara K, Ohi K, Fukumoto K, Numata S, Tsuboi T, Usami M, Hishimoto A, Furihata R, Kishimoto T, Nakamura T, Katsumoto E, Ochi S, Nagasawa T, Atake K, Kubota C, Komatsu H, Yamagata H, Ide K, Takeshima M, Kido M, Kikuchi S, Okada T, Matsumoto J, Miura K, Shimazu T, Inada K, Watanabe K, Hashimoto R.

7	Inflammation-stratified augmentation of vortioxetine with placebo-controlled trial in Major Depressive Disorder.	J Neurochemistry	in press	Kavakbasi E, Sampson E, Mills NT, Hori H, Schwarte K, Hohoff C, Schubert KO, Clark SR, Fourrier C, Baune BT.
8	Newer antidepressant for Japanese adults with major depressive disorder: A systematic review and meta-analysis.	Neuropsychopharmacol Rep	44(1): 216-220,	Kishi T, Sakuma K, Hatano M, Matsuda Y, Esumi S, Miyake N, Miura I, Hori H, Kato M, Iwata N.
9	Effects of exercise on functional recovery in patients with bipolar depression: A study protocol for a randomized controlled trial.	Metabolites	13(9): 981, 2023	Hamada F, Hori H, Iida H, Yokoyama H, Sugawara H, Hatanaka A, Gotoh L, Ogata M, Kumagai H, Yano R, Tomiyama Y, Yoshida T, Yamaguchi Y, Asada R, Masuda M, Okamoto Y, Kawasaki H.
10	Exploratory analysis of the effects of celecoxib on cognitive function in vortioxetine treated patients with major depressive disorder in the PREDDICT study: A randomized, double-blind, placebo-controlled clinical trial.	J Clin Psychiatry	4; 84(6): 23m14829, 2023	Sampson E, Mills NT, Hori H, Schwarte K, Hohoff C, Schubert O, Clark SR, Fourrier C, Baune BT.
11	Development of an individual fitness score (IFS) based on the depression treatment guidelines of in the Japanese Society of Mood Disorders.	Neuropsychopharmacol Rep	43(1): 33-39, 2023	Fukumoto K, Kodaka F, Hasegawa N, Muraoka H, Hori H, Ichihashi K, Yasuda Y, Iida H, Ohi K, Ochi S, Ide K, Hashimoto N, Usami M, Nakamura T, Komatsu H, Okada T, Nagasawa T, Furihata R, Atake K, Kido M, Kikuchi S, Yamagata H, Kishimoto T, Makinodan M, Horai T, Takeshima M, Kubota C, Asami T, Katsumoto E, Hishimoto A, Onitsuka T, Matsumoto J, Miura K, Yamada H, Yasui-Furukori N, Watanabe K, Inada K, Otsuka K, Hashimoto R.
12	Cognitive improvement in patients with major depressive disorder after personalised multi domain training in the CERT-D study.	Psychiatry Res	(in press)	Hawighorst A, Knight MJ, Fourrier C, Sampson E, Hori H, Cearns M, Jörgens S, Baune BT.

13	Combination Psychotropic Use for Schizophrenia With Long-Acting Injectable Antipsychotics and Oral Antipsychotics: A Nationwide Real-World Study in Japan./（収載誌名 2023 Jul-Aug. 収載誌 IF：2.9）	J Clin Psychopharmacol	01；43(4)：365-368，2023	Onitsuka T, Okada T, Hasegawa N, Tsuboi T, Iga JI, Yasui-Furukori N, Yamada N, Hori H, Muraoka H, Ohi K, Ogasawara K, Ochi S, Takeshima M, Ichihashi K, Fukumoto K, Iida H, Yamada H, Furihata R, Makinodan M, Takaesu Y, Numata S, Komatsu H, Hishimoto A, Kido M, Atake K, Yamagata H, Kikuchi S, Hashimoto N, Usami M, Katsumoto E, Asami T, Kubota C, Matsumoto J, Miura K, Hirano Y, Watanabe K, Inada K, Hashimoto R.
14	Effect of education regarding treatment guidelines for schizophrenia and depression on the treatment behavior of psychiatrists: A multicenter study.	Psychiatry Clin Neurosci	77(10)：559-568，2023	Hasegawa N, Yasuda Y, Yasui-Furukori N, Yamada H, Hori H, Ichihashi K, Takaesu Y, Iida H, Muraoka H, Kodaka F, Iga JI, Hashimoto N, Ogasawara K, Ohi K, Fukumoto K, Numata S, Tsuboi T, Usami M, Hishimoto A, Furihata R, Kishimoto T, Nakamura T, Katsumoto E, Ochi S, Nagasawa T, Atake K, Kubota C, Komatsu H, Yamagata H, Ide K, Takeshima M, Kido M, Kikuchi S, Okada T, Matsumoto J, Miura K, Shimazu T, Inada K, Watanabe K, Hashimoto R.
15	Survey of psychiatric symptoms among inpatients with COVID-19 using the Diagnosis Procedure Combination data and medical records in Japan.	Brain, Behavior, & Immunity - Health	29，100615，2023	Tomohiro Nakao, Keitaro Murayama, Haruhisa Fukuda, Nobuaki Eto, Kousuke Fujita, Ryouhei Igata, Kensuke Ishikawa, Shuichi Isomura, Takako Kawaguchi, Megumi Maeda, Hiroshi Mitsuyasu, Fumiko Murata, Tomoyuki Nakamura, Tomoe Nishihara, Ayako Ohashi, Mamoru Sato, Yuji Yoshida, Hiroaki Kawasaki, Motohiro Ozone, Reiji Yoshimura, Hideharu Tatebayashi
16	Precision Mapping of Thalamic Deep Brain Stimulation Lead Positions Associated With the Microlesion Effect in Tourette Syndrome.	Neurosurgery	1；93(4)：875-883，2023	Morishita T, Sakai Y, Iida H, Yoshimura S, Fujioka S, Oda K, Tanaka SC, Abe H.

〈症例報告〉

1	Benzodiazepine withdrawal catatonia after discontinuing midazolam in young patient with intellectual developmental disorder: A case report.	Asian J Psychiatry	(in press)	Asada R, Hori H, Iida H, Kawasaki H
2	Successful treatment of switching from benzodiazepine to orexin receptor antagonists improves cognitive function in psychiatric disorders: four case reports.	Int Clin Psychopharmacol	38(3): 192–194, 2023	Hori H.
3	自殺予防．特集 こんな時どうする？ 5W2H で学ぶ抗うつ薬の使い方.	月刊薬事	65(5): 893–897, 2023	増田　将人，衞藤　暢明
4	Patrick Casement における失敗から学ぶ. 特集 エナクメント 治療者の〈こころ〉の視点から.	精神療法	49(3): 332–336, 2023	衞藤　暢明
5	Microlesion Effect Induced by Electrode Implantation in the Posteroventral Globus Pallidus Interna for Severe Dystonic Tics.	Tremor Other HyperkinetMov	18; 14: 5, 2024	Permana GI, Morishita T, Tanaka H, Iida H, Fujioka S, Abe H.

〈総説〉

1	遅発性ジスキネジアの発症率とリスク因子について.	臨床精神薬理	26(4): 367–373, 2023	廣田　匠吾，堀　　輝
2	統合失調症薬物治療ガイドラインの社会実装に向けた取り組み.	精神科	41(1): 72–77, 2023	堀　　輝，橋本　亮太
3	精神科医が伝授する発達障害関係の面談スキルで知っておきたいこと.	産業保健と看護	15(6): 8–14, 2023	堀　　輝
4	統合失調症，気分障害における運動習慣と生活習慣病について.	精神科治療学	38(9): 1005–1012, 2023	堀　　輝
5	気分障害における認知機能評価の有用性と臨床応用. 特集「Measurement Based Psychiatry 評価者尺度の有用性と臨床活用」	臨床精神医学	52(10): 1177–1183, 2023	菅原　裕子，堀　　輝
6	身体疾患合併例．特集「こんな時どうする？ 5W2H で学ぶ　抗うつ薬の使い方」	月間薬事	65(5): 67–73, 2023	菅原　裕子
7	気分障害における多様性について．第41回日本社会精神医学会（神戸）シンポジウム２「ダイバーシティ，ジェンダーフリー社会におけるメンタルヘルス」	日社精医誌	32: 227–231, 2023	菅原　裕子
8	透析患者の精神疾患の病態に応じた向精神薬の使い方と注意点. 特集「サイコネフロロジー：透析・移植」各論－患者のメンタルヘルス	腎と透析	96(3): 317–321, 2024	菅原　裕子

9	【統合失調症薬物治療ガイドライン2022】 治療抵抗性統合失調症	精神科	43(1): 36–44, 2023	嶽北　佳輝，諏訪　太朗， 池田俊一郎，沼田　周助， 飯田　仁志，澤山　恵波， 木村　　大
10	薬物療法と精神分析的精神療法の役割分担と共同作業－直接解決と間接解決－	臨床精神薬理	Volume 27, Issue 1, 75–81（2024）	原田　康平

〈著書〉

1	ベンゾジアゼピン受容体作動薬の治療薬依存． 改訂新版重篤副作用疾患対応マニュアル第５集．	日本医療情報センター （JAPIC）	pp336–359, 2023年	堀　　輝（分担）
2	リチウム中毒．改訂新版重篤副作用疾患対応 マニュアル第５集．	日本医療情報センター （JAPIC）	pp361–386, 2023年	堀　　輝（分担）
3	薬剤性せん妄．改訂新版重篤副作用疾患対応 マニュアル第５集．	日本医療情報センター （JAPIC）	pp387–417, 2023年	堀　　輝（分担）
4	抗不安薬　治療開始時のコンセンサスステイ トメント．睡眠薬・抗不安薬のエキスパート コンセンサス．	新興医学出版社	pp178–191, 2023年	堀　　輝（分担）
5	ER・救急で役立つ精神科救急 A to Z	日本医事新報社	pp.40–48, 2024	衛藤　暢明（分担）
6	医師・看護師のための認知症プライマリケア まるごとガイド 最新知識に基づくステージ アプローチ	中央法規出版	pp.51–53, 81–87, 2024	飯田　仁志（分担）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（シンポジウム） 精神科専門医制度の概要と症例レポート作成．	第６回日本病院薬剤師会 Future Pharmacist Forum	オンライン	堀　　輝
2	（シンポジウム） うつ病の認知機能障害治療における薬物療法 の役割．	第20回日本うつ病学会	2023年7月21日 仙台	堀　　輝
3	（ワークショップ） うつ病患者における妊娠への対応．	第20回日本うつ病学会	2023年7月21日 仙台	堀　　輝
4	（シンポジウム） 双極性障害の就労と認知機能．	第20回日本うつ病学会	2023年7月22日 仙台	堀　　輝
5	（シンポジウム） 双極性障害患者の復職に向けた機能面評価と 介入．	第20回日本うつ病学会	2023年7月22日 仙台	堀　　輝
6	（ワークショップ） HAM-D（ハミルトンうつ病評価尺度道場）．	第７回日本精神薬学会	2023年9月17日 岡山	堀　　輝
7	（シンポジウム） 双極性うつ病薬物療法を補完する運動療法の 役割．	第33回日本臨床精神神経 薬理学会	2023年9月28日 愛媛	堀　　輝
8	（シンポジウム） 初回エピソード統合失調症患者の長期経過研究．	第33回日本臨床精神神経 薬理学会．	2023年9月28日 愛媛	堀　　輝
9	（シンポジウム） 日本うつ病学会うつ病治療ガイドライン改訂 作業中に改めて Minds について考える．	第33回日本臨床精神神経 薬理学会	2023年9月28日 愛媛	堀　　輝

10	（シンポジウム） 気分障害における復職時の認知期の評価.	第42回日本社会精神医学会	2024年3月15日 仙台	堀　　輝
11	（シンポジウム） デイケアの就労支援における大学病院の役割.	第28回日本デイケア学会	2024年3月17日 福岡	堀　　輝
12	（シンポジウム） 自殺の遺族ケア. シンポジウム 自殺で遺されたひとのケア.	第５回日本グリーフ＆ビリーブメント学会 学術学会	オンライン 1/22 2023	衞藤　暢明
13	（シンポジウム） 双極性障害と自殺予防	日本うつ病学会 第８回世界双極性障害デーフォーラム	オンライン 3/25 2023	衞藤　暢明
14	（シンポジウム） COVID-19対応看護スタッフに対するコンサルテーション・グループ. 日本集団精神療法学会企画 一般シンポジウム いまなぜグループか？新しいつながり時代の集団精神療法	第119回日本精神神経学会 学術集会	横浜市 6/23 2023	衞藤　暢明
15	（シンポジウム） コロナ禍における自殺の実態. 指定発言	日本精神神経科診療所協会 第29回学術研究会	東京 9/24 2023	衞藤　暢明
16	（シンポジウム） 生体ドナーの透析導入にまつわる諸問題	第68回日本透析医学会 学術集会・総会	神戸 6/16-18 2023	菅原　裕子
17	（シンポジウム） ECT と気分安定薬：現状と考慮すべき注意点／飯田仁志－	第33回日本精神神経薬理学会 学術集会	愛媛 9/28-29 2023	飯田　仁志
18	（シンポジウム） デイケア学会の役割と展望	日本デイケア学会 第28回年次大会福岡大会	福岡 3/16-17 2024	飯田　仁志
19	（シンポジウム） デイケアにおける運動・スポーツ －体育療法の技法を通して－	第21回日本スポーツ精神医学会総会・学術集会	福岡 9/9-9/10 2023	横山　浩之
20	（シンポジウム） デイケアにおける思春期・青年期のスポーツ	日本デイケア学会 第28回年次大会	福岡 3/16-3/17 2024	横山　浩之

〈国内研究助成金〉

1	精神医療分野における治療の質を評価するQI とその向上をもたらす介入技法の開発と実用性の検証	日本医療研究開発機構 （AMED）	2023	堀　　輝 （代表者：橋本　亮太）
2	AI 技術を活用した統合失調症の早期診断医療機器プログラムの開発	日本医療研究開発機構 （AMED）	2023	堀　　輝 （代表者：橋本亮太）
3	交替勤務うつ病労働者の復職に関する多面的研究	文部科学省 基盤研究 C	2023	堀　　輝（代表）
4	オミックスと長期評価による適切なゴールを目指す気分障害の革新的治療の基盤構築	文部科学省 基盤研究 C	2023	堀　　輝 （代表者：加藤　正樹）
5	緊張病の分子生物学的病態解明を目指した横断/縦断研究	文部科学省 基盤研究 C	2023	堀　　輝 （代表者：嶽北　佳輝）
6	認知症徘徊者検知システムの実証実験と介護者の介護負担度への影響	文部科学省 基盤研究 C	2023	堀　　輝 （代表者：掛田　　遥）

7	自殺念慮をもつ身体疾患のある在宅療養者に対する訪問看護実践ガイドラインの開発	厚生労働省 科研	2023-2027	衞藤　暢明 （代表者：千々岩友子）
8	双極性障害エピゲノムマーカーと薬剤反応性についての検討	文部科学省 基盤研究 C	2023	菅原　裕子（代表）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第21回日本スポーツ精神医学会総会・学術集会	福岡国際会議場	9/8-10, 2023	川嵜　弘詔
2	日本デイケア学会 第28回年次大会福岡大会	電気ビル共創館＆ みらいホール	3/16-17, 2024	川嵜　弘詔

〈学会活動〉

1	日本精神神経学会	理事	2023	川嵜　弘詔
2	日本精神神経学会	代議員	2023	川嵜　弘詔，衞藤　暢明
3	日本社会精神医学会	理事	2023	川嵜　弘詔
4	日本社会精神医学会	評議員	2023	川嵜　弘詔，衞藤　暢明
5	九州精神神経学会	理事長 評議員	2023	川嵜　弘詔
6	日本生物学的精神医学会	監事	2023	川嵜　弘詔
7	日本生物学的精神医学会	評議員	2023	川嵜　弘詔，堀　　輝
8	日本うつ病学会	理事 評議員	2023	川嵜　弘詔
9	日本臨床精神神経薬理学会	理事	2023	川嵜　弘詔，堀　　輝
10	日本臨床精神神経薬理学会	評議員	2023	川嵜　弘詔，堀　　輝
11	日本デイケア学会	理事	2023	川嵜　弘詔，飯田　仁志， 横山　浩之
12	日本デイケア学会	評議員	2023	川嵜　弘詔，横山　浩之
13	躁うつ病の薬理生化学的研究懇話会	幹事	2023	川嵜　弘詔
14	GID（性同一性障害）学会	理事	2023	川嵜　弘詔
15	日本総合病院精神医学会	評議員	2023	川嵜　弘詔
16	日本神経化学会	評議員	2023	川嵜　弘詔
17	日本神経精神薬理学会	評議員	2023	川嵜　弘詔，堀　　輝
18	日本ストレス学会	評議員	2023	川嵜　弘詔
19	日本統合失調症学会	評議員	2023	川嵜　弘詔
20	日本精神科診断学会	評議員	2023	川嵜　弘詔
21	日本スポーツ精神医学会	理事	2023	堀　　輝，横山　浩之
22	日本スポーツ精神医学会	評議員	2023	堀　　輝，畑中　聡仁， 横山　浩之
23	日本精神神経学会	代議員	2023	衞藤　暢明

24	日本精神分析学会	運営委員	2023	衞藤　暢明
25	日本自殺予防学会	評議員	2023	衞藤　暢明
26	日本社会精神医学会	評議員	2023	衞藤　暢明
27	日本デイケア学会	理事	2023	飯田　仁志，横山　浩之

〈研究に関係した賞〉

1	Evaluation of changes in anxiety, depression, social behavior, and oxytocin mRNA levels in adults after adolescent interventions in maternal-separated mice	福岡大学医学紀要 優秀論文賞	2023	林　　礼雄

小児科学

〈原著〉

1	男性の産後うつと育児休業に関するアンケート調査	日本小児科学会雑誌	127(1)： 90-95， 2023	今西　洋介，三牧　正和， 永光信一郎 他
2	A Japanese Version of the Ask Suicide-Screening Questions（ASQ）Instrument.	Journal of Suicidology	18(1)： 449-455， 2023	Kodaka M, Nagamitsu S, DeVylder J
3	COVID-19対策での長期休校措置前後の小児心身症関連疾患受診者数の推移	日本小児科学会雑誌	127(10)： 1277-1288， 2023	土生川千珠，村上佳津美， 石井　隆大，柳本　嘉時， 井上　　建，永光信一郎 他
4	血清クレアチニン値は超低出生体重児における慢性腎臓病の早期発見の指標となるか？	日本周産期・新生児医学会雑誌	59(2)： 219-226， 2023	瀬戸上貴資，太田　栄治， 伊東　和俊，小寺　達朗， 音田　泰裕，川野　裕康， 新居見俊和，永光信一郎
5	Toward the Goal of Leaving No One Behind: Orthostatic Dysregulation.	JMA journal	6(3)： 334-336， 2023	Shinno K, Nagamitsu S.
6	持効型インスリンのみで血糖コントロールに成功した新生児糖尿病の療養指導例	くすりと糖尿病	12(2)： 74-78， 2023	井上亜紗美，敷島　友喜， 後藤　美樹，釜田　充浩， 山口加奈子，緒方憲太郎， 兼重　　晋，瀬戸上貴資， 佐々木聡子，永光信一郎， 神村　英利
7	登校困難を主訴に受診し2q37微小欠失症候群と診断した１例	道南医学会ジャーナル	6(1)： 34-38， 2023	清水　直政，八ツ賀秀一， 八ツ賀千穂，鈴木　雅彦， 櫻井　恭平，立石　　格
8	Asynchronous neural oscillations associated with subliminal affective face priming in autism spectrum disorder.	Neuroreport	34(3)： 150-155， 2023	Tanaka M, Yamada E, Yamasaki T, Fujita T, Nakaniwa Y, Ogata K, Nakazono H, Maekawa T, Tobimatsu S.
9	プロトンポンプ阻害薬による長期治療を要した十二指腸潰瘍合併好酸球性胃腸炎の３例	日本小児科学会雑誌	127(6)： 866-873， 2023	高橋　達也，清水　泰岳， 義岡　孝子，吉年　俊文， 藤田　貴子，山本　陽子， 宮田　恵里，藤川　皓基， 竹内　一朗，石黒　　精， 野村伊知郎，新井　勝大

10	Scalp EEG-recorded high-frequency oscillations can predict seizure activity in Panayiotopoulos syndrome	Clinical neurophysiology	156: 106–112, 2023	Fujita T, Ihara Y, Hayashi H, Inoue T, Nagamitsu S, Yasumoto S, Tobimatsu S.
11	Natural history of cow's milk allergy in children aged 6–12 years	Pediatric allergy and immunology	34(12): e14064, 2023	Kubota K, Nagakura KI, Ejiri Y, Sato S, Ebisawa M, Yanagida N.
12	１歳８か月の時点で食道異物を契機に発見された先天性食道狭窄症の女児例	福岡大学医学紀要	50(2): 71–75, 2023	渡邊綱之輔，坂口　崇，後藤　綾子，宮本　辰樹，永光信一郎
13	Frequency of iduronate-2-sulfatase gene variants detected in newborn screening for mucopolysaccharidosis type Ⅱ in Japan	Molecular genetics and metabolism reports	37: 101003, 2023	Hattori Y, Sawada T, Kido J, Sugawara K, Yoshida S, Matsumoto S, Inoue T, Hirose S, Nakamura K.
14	子どもの肥満改善に対する母親のモチベーション	久留米大学心理学研究	22: 51–59, 2023	曲渕　翔，徳田　智代，向笠　理緒，八ツ賀秀一

〈症例報告〉

1	Selenium deficiency and scurvy due to an imbalanced diet of snacks and fermenting drinks: a case report of a 7-year-old boy with autism spectrum disorder	BMC Nutrition	9(1): 41, 2023	Okada M, Nagayama Y, Saiki H, Ito K, Yatsuga S, Nagamitsu S.
2	Systemic inflammation caused by an intracranial mesenchymal tumor with a EWSR1: CREM fusion presenting associated with IL-6/STAT3 signaling.	Neuropathology	43(3): 244–251, 2023	Hojo K, Furuta T, Komaki S, Yoshikane Y, Kikuchi J, Nakamura H, Ide M, Shima S, Hiyoshi Y, Araki J, Tanaka S, Ozono S, Yoshida A, Nobusawa S, Morioka M, Nishikomori R.
3	A case of sacrococcygeal teratoma associated with antenatally acquired urethrovaginal fistula and hydrocolpos	Surgical case reports	9(1): 191, 2023	Shibui Y, Obata S, Hirose R, Nakano R, Setoue T, Miyazaki T, Matsuoka H, Sato T.
4	Infant with accidental ingestion of heated tobacco.	Journal of the American College of Emergency Physicians Open	4(3): e12959, 2023	Maruyama T, Sasaoka D, Fujii Y, Mori S, Inoue T, Ogawa A.
5	A Ukrainian infant with giant coronary aneurysms: A case report and literature review	Clinical case reports	11(5): e7301, 2023	Klymyshyn Y, Datsko O, Stepanovskyy Y, Nagao Y, Nagayama Y, Ueno S, Sheremet M.

〈総説〉

1	スマートフォン CBT（むぎまる）による子どものヘルスプロモーション	小児保健研究	82(1): 2–7, 2023	永光信一郎
2	小児科医による思春期のヘルスプロモーション支援	小児歯科臨床	28(8): 6–13, 2023	永光信一郎

3	【ポストコロナ，少子化時代：30年後の小児医療と人材育成】様々な領域における小児医療者教育　子どもの心の医療の将来像	小児科診療	86(7)： 815-819， 2023	永光信一郎
4	【小児の心身症～いま改めて心身相関を考える～】小児心身症を改めて考える　小児心身症とは何か？　臨床的視点から概念を再考する	小児内科	55(6)： 909-912， 2023	永光信一郎
5	【不登校】最低限見逃してはいけない疾患・合併疾患の知識	小児科	64(8)： 78-783， 2023	永光信一郎

〈著書〉

1	今日の治療指針2023	医学書院	1500-1501， 2023	永光信一郎（分担）
2	ミトコンドリア病診療マニュアル2023	診断と治療社	15-22， 139， 143-144， 2023	八ツ賀秀一（分担）
3	症例と通して学ぶ年内別食物アレルギーのすべて 改定３版	南山堂	166-167， 2023	久保田　慧（分担）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	Eosinophilic gastroenteritis in a Noonan syndrome patient with PTPN11 variation	Human Genetics Asia 2023	東京 10/11-14 2023	Nobuhiko Koga, Shuichi Yatsuga, Kei Kubota, Toshikazu Niimi, Takahito Inoue, Shinichiro Nagamitsu
2	（ポスター発表）Effectiveness of interventions using a smartphone cognitive behavior therapy application for children with psychosomatic disorders	70th Annual Meeting of AACAP	New York 10/23-28, 2023	Nagamitsu S, Okada A, Sakuta R, Habukawa C, Koyanagi K, Ishii R, Kanie A, Ito M, Otani R, Kitajima T, Inoue T, Tanaka C, Fujii C, Shigeyasu Y, Kakuma K, Horikoshi M
3	Prediction of coronary artery lesions caused by treatment-resistant Kawasaki disease before initial treatment	American Heart Association Scientific Sessions	Philadelphia 11/11-13 2023	Yukako Yoshikane, Tatsuki Miyamoto, Shinichiro Nagamitsu
4	（特別講演）子どものこころの診療 －いま，小児科医に期待されいること－	第151回日本小児科学会 岩手地方会	岩手 6/10 2023	永光信一郎
5	（特別講演）成育過程の健康な子ども/病気の子どもを診る－新たな健診と小児心身医学の展望－	第30回日本小児心身医学会 中国四国地方（Web 講演）	6/18 2023	永光信一郎
6	（教育講演）思春期の不登校に対する CBT アプリ治療	第42回日本思春期学会 総会・学術集会	東京 8/26 2023	永光信一郎
7	（基礎医学レクチャー５）研究費獲得のコツ/評価者はここを見ている	第41回日本小児心身医学会 学術集会	和歌山 9/15 2023	永光信一郎

8	（特別講演）学童・思春期のメンタルヘルス－ヘルスプロモーションの重要性	第180回日本小児科学会広島地方会	広島 12/17 2023	永光信一郎

〈国内研究助成金〉

1	身体的・精神的・社会的（biopsychosocial）に乳幼児・学童・思春期の健やかな成長・発達をポピュレーションアプローチで切れ目なく支援するための社会実装化研究	こども家庭科学研究費補助金	2023	永光信一郎（代表）
2	成育基本法を地域格差なく継続的に社会実装するための研究	こども家庭科学研究費補助金	2023	永光信一郎 （代表者：山縣然太朗）
3	母子保健情報のデジタル化とデータの利活用を推進するための研究	こども家庭科学研究費補助金	2023	永光信一郎 （代表者：梅澤　明弘）
4	ギガスクールを活用した子どものメンタルヘルス支援　－教育・医療連携アプリの開発－	日本学術振興会	2023	永光信一郎（代表）
5	ICT と医療・健康・生活情報を活用した「次世代型子ども医療支援システム」の構築に関する研究	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 （AMED）	2023	永光信一郎（代表）
6	思春期のメンタルヘルス診断・予防的支援としての ICT を活用した「こころの学校健診」開発研究	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 （AMED）	2023	永光信一郎 （代表者：土生川千珠）
7	ミトコンドリア病の診療水準や QOL 向上を目指した調査研究	厚生労働科学研究費補助金 （難治性疾患政策研究事業）	2023	八ツ賀秀一 （代表者：三牧　正和）
8	新生児ウレアプラズマ感染症の病態解析と治療戦略の確立	日本学術振興会科学研究費若手研究	2023	伊東　和俊（代表）

〈学会活動〉

1	日本小児心身医学会	理事長	2023	永光信一郎
2	日本思春期学会	理事	2023	永光信一郎
3	子どものこころ専門医機構	理事	2023	永光信一郎
4	日本睡眠協会	理事	2023	永光信一郎
5	成育基本法推進委員会	委員長	2023	永光信一郎
6	日本小児神経学会	評議員	2023	永光信一郎，藤田　貴子，八ツ賀秀一
7	日本睡眠学会	幹事	2023	永光信一郎
8	日本小児科学会	代議員	2023	永光信一郎，吉兼由佳子
9	日本小児内分泌学会	評議員	2023	八ツ賀秀一
10	日本内分泌学会	評議員	2023	八ツ賀秀一
11	日本ミトコンドリア学会	評議員	2023	八ツ賀秀一
12	日本川崎病学会	代議員	2023	吉兼由佳子
13	日本臨床神経生理学会	代議員	2023	藤田　貴子

皮膚科学

〈原著〉

1	Effectiveness of brodalumab in improving itching and skin pain in Japanese patients with psoriasis: The ProLOGUE study.	J. Dermatol.	50(4):453-461, 2023	Honma M, Kanai Y, Murotani K, Ito K, Ohata C, Yamazaki F, Saeki H, Seishima M, Mizutani Y, Kitabayashi H, Imafuku S.
2	Effectiveness of Long-Term Treatment with Brodalumab on Anxiety or Depressive Symptoms in Japanese Patients with Psoriasis: The ProLOGUE Study.	Dermatol.Ther. (Heidelb)	13(4):1039-1052, 2023	Ohata C, Kanai Y, Murotani K, Yamazaki F, Takahashi H, Tada Y, Mabuchi T, Mizutani Y, Nomura T, Imafuku S.
3	Efficacy and safety of the selective TYK2 inhibitor, deucravacitinib, in Japanese patients with moderate to severe plaque psoriasis: Subgroup analysis of a randomized, double-blind, placebo-controlled, global phase 3 trial.	J. Dermatol.	50(5):588-595, 2023	Imafuku S, Tada Y, Hippeli L, Banerjee S, Morita A, Ohtsuki M.
4	English version of Japanese guidance for the use of oral Janus kinase inhibitors (JAK1 and TYK2 inhibitors) in the treatments of psoriasis.	J. Dermatol.	50(5):e138-e150, 2023	Saeki H, Mabuchi T, Asahina A, Abe M, Igarashi A, Imafuku S, Okubo Y, Komine M, Takahashi K, Torii H, Morita A, Yotsuyanagi H, Watanabe A, Ohtsuki M; Committee for reviewing the safety of molecularly targeted drugs for psoriasis, Japanese Dermatological Association.
5	Efficacy and Safety of Tralokinumab in Adolescents With Moderate to Severe Atopic Dermatitis: The Phase 3 ECZTRA 6 Randomized Clinical Trial.	JAMA Dermatol	159(6):596-605, 2023	Paller AS, Flohr C, Cork M, Bewley A, Blauvelt A, Hong HC, Imafuku S, Schuttelaar MLA, Simpson EL, Soong W, Arlert P, Lophaven KW, Kurbasic A, Soldbro L, Vest NS, Wollenberg A.
6	Survival rates of systemic interventions for psoriasis in the Western Japan Psoriasis Registry: A multicenter retrospective study.	J. Dermatol.	50(6):753-765, 2023	Yanase T, Tsuruta N, Yamaguchi K, Ohata C, Ohyama B, Katayama E, Sugita K, Kuwashiro M, Hashimoto A, Yonekura K, Higashi Y, Murota H, Koike Y, Matsuzaka Y, Kikuchi S, Hatano Y, Saito K, Takahashi K, Miyagi T, Kaneko S, Ota M, Harada K, Morizane S, Ikeda K, Furue M, Nakahara T, Okazaki F, Sasaki N, Okada E, Yoshida Y, Ito K, Imafuku S.

7	Clinical characteristics of patients with psoriasis with family history: A multicenter observational study.	J. Dermatol.	50(6): 746–752, 2023	Ohata C, Anezaki H, Kaneko S, Okazaki F, Ito K, Matsuzaka Y, Kikuchi S, Koike Y, Murota H, Miyagi T, Takahashi K, Sugita K, Hashimoto A, Nakahara T, Morizane S, Ohyama B, Saruwatari H, Yanase T, Yoshida Y, Yonekura K, Higashi Y, Hatano Y, Saito K, Katayama E, Yamane M, Yamazaki F, Tsuruta N, Imafuku S.
8	Prevalence of human T-lymphotropic virus type I in patients with psoriasis and its effect on treatment choice: A multicenter observational study.	J. Dermatol. Sci.	110(3): 103–106, 2023	Yonekura K, Tsuruta N, Miyagi T, Koike Y, Higashi Y, Nakahara T, Ohata C, Kaneko S, Yamaguchi M, Saito K, Yanase T, Imafuku S.
9	Rapid and sustained improvements in Generalized Pustular Psoriasis Physician Global Assessment scores with spesolimab for treatment of generalized pustular psoriasis flares in the randomized, placebo-controlled Effisayil 1 study.	J. Am. Acad. Dermatol.	89(1): 36–44, 2023	Elewski BE, Lebwohl MG, Anadkat MJ, Barker J, Ghoreschi K, Imafuku S, Mrowietz U, Li L, Quaresma M, Thoma C, Bachelez H.
10	Treatment of plaque psoriasis with deucravacitinib (POETYK PSO-1 study): a plain language summary.	Immunotherapy	15(12): 885–895, 2023	Armstrong AW, Gooderham M, Warren RB, Papp KA, Strober B, Thaçi D, Morita A, Szepietowski JC, Imafuku S, Colston E, Throup J, Kundu S, Schoenfeld S, Linaberry M, Banerjee S, Blauvelt A.
11	Efficacy and Safety of Apremilast for the Treatment of Japanese Patients with Palmoplantar Pustulosis: Results from a Phase 2, Randomized, Placebo-Controlled Study.	Am. J. Clin. Dermatol.	24(5): 837–847, 2023	Terui T, Okubo Y, Kobayashi S, Sano S, Morita A, Imafuku S, Tada Y, Abe M, Yaguchi M, Uehara N, Handa T, Tanaka M, Zhang W, Paris M, Murakami M.
12	Systemic therapy for Asian patients with advanced BRAF V600-mutant melanoma in a real-world setting: A multi-center retrospective study in Japan (B-CHECK-RWD study).	Cancer Med.	12(17): 17967–17980, 2023	Namikawa K, Ito T, Yoshikawa S, Yoshino K, Kiniwa Y, Ohe S, Isei T, Takenouchi T, Kato H, Mizuhashi S, Fukushima S, Yamamoto Y, Inozume T, Fujisawa Y, Yamasaki O, Nakamura Y, Asai J, Maekawa T, Funakoshi T, Matsushita S, Nakano E, Oashi K, Kato J, Uhara H, Miyagawa T, Uchi H, Hatta N, Tsutsui K, Maeda T, Matsuya T, Yanagisawa H, Muto I, Okumura M, Ogata D, Yamazaki N.

13	English version of Japanese guidance for biologics in treating atopic dermatitis.	J. Dermatol.	50(10): e311-e322, 2023	Saeki H, Akiyama M, Abe M, Igarashi A, Imafuku S, Ohya Y, Katoh N, Kameda H, Kabashima K, Tsunemi Y, Hide M, Ohtsuki M; Committee for reviewing the safety of atopic dermatitis/urticaria treatment, Japanese Dermatological Association.
14	Real-world safety and efficacy of amenamevir in patients with herpes zoster in Japan: A postmarketing observational study (REWARD).	J. Dermatol.	50(10): 1287-1300, 2023	Imafuku S, Korematsu K, Mori N, Kani T, Matsui K.
15	Real-world retention rates and effectiveness of secukinumab in psoriasis: Results from a multicenter cohort study (RAILWAY).	J. Dermatol.	50(11): 1415-1426, 2023	Tada Y, Morita A, Yamanaka K, Kono M, Imafuku S, Okubo Y, Yamazaki F, Kawamura T, Itakura A, Ohtsuki M.
16	Expression of laminin332 γ2 at the invasive front is associated with tumor budding and poor prognosis in cutaneous squamous cell carcinoma.	J. Dermatol.	50(12): 1585-1593, 2023	Katayama S, Koga K, Fujimoto M, Matsuzaki I, Nabeshima K, Imafuku S, Hamasaki M.
17	Real-World Discontinuation and Switching Patterns for Interleukin-Inhibitor Treatments in Patients with Moderate-to-Severe Psoriasis in Japan.	Dermatol. Ther. (Heidelb)	14(1): 99-114, 2024	Tada Y, Soliman AM, Ishii K, Sakuma R, Puig L, Davis M, Nunag D, Pinter A, Imafuku S.
18	Frequency of Acne and Acne Scars in Patients with Neurofibromatosis 1.	Acta. Derm. Venereol.	104: adv18621, 2024	Koga M, Imafuku S.
19	Multiple linear spiradenomas and ALPK1 mutation: A case report and literature review.	Australas. J. Dermatol.	65(1): 71-73, 2024	Furukawa Y, Koga M, Oyama T, Koga K, Takagi S, Imafuku S.
20	Deucravacitinib, an oral, selective, allosteric tyrosine kinase 2 inhibitor, in Japanese patients with moderate to severe plaque, erythrodermic, or generalized pustular psoriasis: Efficacy and safety results from an open-label, phase 3 trial.	J. Dermatol.	51(3): 365-379, 2024	Imafuku S, Okubo Y, Tada Y, Ohtsuki M, Colston E, Napoli A, Shao Y, Banerjee S, Morita A.

〈症例報告〉

1	頸部に生じた褐色脂肪腫の1例	西日本皮膚科	85(3): 176-179, 2023	古河裕紀子, 佐藤　絵美, 筒井　啓太, 青木光希子, 古賀　佳織, 今福　信一
2	若年者の肩部に発生した褐色脂肪腫の1例	日本臨床細胞学会九州連合会雑誌	54: 71-75, 2023	小山　　逸, 松本　慎二, 角谷　優子, 坂田　祥子, 秋吉　梨江, 西中村恵輔, 青木光希子, 古河祐紀子, 今福　信一, 濱崎　　慎
3	臨床症状と病理組織所見から線状IgA水疱性皮膚症との鑑別が困難であった後天性表皮水疱症の1例	西日本皮膚科	85(4): 272-276, 2023	吉村　麻衣, 古賀　文二, 古賀　佳織, 石井　文人, 名嘉眞武國, 今福　信一

4	皮膚原発腋窩アポクリン癌の１例	西日本皮膚科	85(4)：288-292，2023	古河裕紀子，佐藤　絵美，筒井　啓太，古賀　佳織，益雪　凌介，高野　彩加，今福　信一
5	乳児指趾線維腫症の１例　本邦報告21例の検討	西日本皮膚科	85(5)：362-365，2023	村尾　　玲，麻生麻理子，古賀　文二，古賀　佳織，鶴田　紀子
6	高齢者に生じた水痘再罹患の１例	西日本皮膚科	85(5)：374-377，2023	大久保和貴子，内藤　玲子，今福　信一
7	Case of secondary milia after regressing lesions of bullous lichen planus.	Int. J. Dermatol.	62(11)：e590-e592，2023	Koga M, Koga K.
8	脂腺母斑と軟骨母斑を合併した小児腹壁遠心性脂肪萎縮症の１例	西日本皮膚科	85(6)：463-465，2023	麻生麻里子，古賀　文二，鶴田　紀子，今福　信一
9	顔面に生じた家族性の Eruptive vellus hair cysts（EVHC）の１例	西日本皮膚科	86(1)：39-42，2024	松田　絵奈，佐藤　絵美，筒井　ゆき，桐生　美麿，今福　信一
10	Hepatitis C Virus-associated Cryoglobulinemic Livedo Reticularis Improved with Direct-acting Antivirals.	Intern. Med.	62(24)：3631-3636，2023	Yokoyama K, Kino T, Nagata T, Miyayama T, Shibata K, Fukuda H, Yamauchi R, Fukunaga A, Umeda K, Takata K, Tanaka T, Shakado S, Sakisaka S, Imafuku S, Hirai F.
11	エトレチナートで症状の改善がみられた AQP5遺伝子変異によるボスニア型掌蹠角化症の１例	西日本皮膚科	86(1)：30-34，2024	筒井　ゆき，古賀　文二，今福　信一

〈総説〉

1	【埋もれた症例に光をあてる～潰瘍底から掘り起こすさまざまな皮膚潰瘍Ⅱ～】（Part3.）誘因不明，その他（case 23）Marfan 症候群	Visual Dermatology	22(7)：703-704，2023	田代　綾香，今福　信一
2	日本皮膚科学会ガイダンス　アトピー性皮膚炎における生物学的製剤の使用ガイダンス	日本皮膚科学会雑誌	133(8)：1817-1827，2023	日本皮膚科学会アトピー性皮膚炎・蕁麻疹治療安全性検討委員会　佐伯　秀久，秋山　真志，安部　正敏，五十嵐敦之，今福　信一，大矢　幸弘，加藤　則人，亀田　秀人，椛島　健治，常深祐一郎，秀　　道広，大槻マミ太郎
3	特集：乾癬の診療 update －病態・臨床の最新動向－　Ⅱ．乾癬の症状・診断・鑑別診断　乾癬の臨床型	日本臨床	81(12)：1812-1817，2023	今福　信一
4	特集：JAK 阻害薬の効果・安全性と展望　JAK 阻害薬によるアトピー性皮膚炎，円形脱毛症の治療	リウマチ科	70(6)：598-607，2023	今福　信一
5	図説　前胸部に生じた皮膚原発粘液癌	西日本皮膚科	85(6)：433-434，2023	荒巻ちひろ，柴山　慶継，佐藤　絵美，今福　信一

6	創傷・褥瘡・熱傷ガイドライン（2023） －2褥瘡診療ガイドライン（第3版）	日本皮膚科学会雑誌	133(12)： 2735-2797， 2023	創傷・褥瘡・熱傷ガイドライン 策定委員会（褥瘡グループ） 藤原　浩，入澤　亮吉， 大塚　正樹，加古　智子， 加持　達弥，門野　岳史， 古賀　文二，廣﨑　邦紀， 野北　陽子，浅野　善英， 中西　健史，前川　武雄， 茂木精一郎，吉野雄一郎， 長谷川　稔，藤本　学， 立花　隆夫
7	アトピー性皮膚炎患者への抗IL-4受容体α鎖抗体製剤，抗IL-13抗体製剤使用時の眼科的注意点	西日本皮膚科	86(1)： 9-15， 2024	海老原伸行，今福　信一， 栗本沙里奈，大槻マミ太郎
8	【アンメットニーズに対するJAK阻害薬の可能性】皮膚科　乾癬，アトピー性皮膚炎への応用と使い分け	炎症と免疫	32(2)： 125-128， 2024	今福　信一
9	【水疱をきたす疾患】単純ヘルペスの抗体価，核酸検査を再考する	皮膚病診療	46(3)： 220-224， 2024	宮地　素子，今福　信一

〈著書〉

1	アトピー性皮膚炎のみかた，考えかた アトピー性皮膚炎に合併するカポジ水痘様発疹症（ヘルペス性湿疹）	中外医学社	pp.147-149， 2023	今福　信一
2	日常診療に活かす診療ガイドライン UP-TO-DATE 2024→2045 10　単純ヘルペス・帯状疱疹	メディカルレビュー社	pp.766-771， 2024	今福　信一
3	皮膚疾患　初期対応ノート 1　単純ヘルペス	日本医事新報社	pp.160-163， 2024	今福　信一

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（教育講演） 乾癬の生物学的製剤治療の実際	第122回日本皮膚科学会総会 （ハイブリッド）	横浜 6/1-4 2023	今福　信一
2	（教育講演） 専門医更新についての注意点	第122回日本皮膚科学会総会 （ハイブリッド）	横浜 6/1-4 2023	今福　信一
3	Mature IL-36γ induces epidermal stratum corneum exfoliation in generalized pustular psoriasis (GPP) via downregulation of corneodesmosine.	International Societies for Investigative Dermatology Meeting 2023	Tokyo, Japan May 10-13 2023	Sato E, Imayoshi H, Tsutsui Y, Shimizu H, Imafuku S.
4	Deucravacitinib, an oral, selective, tyrosine kinase 2 inhibitor: improvement in scalp psoriasis in patients from Asia in the phase 3 POETYK PSO-3 and PSO-4 trials.	32nd European Academy of Dermatology & Venereology Congress	Berlin, Germany October 11-14 2023	Imafuku S, Zhang J, Ding Y, Wang P, Li L, Pan W, Tada Y, Okubo Y, Morita A, Tsai TF, Jo SJ, Kisa RM, Hoyt K, Kamat S, Banerjee S, Ohtsuki M

5	Deucravacitinib, an allosteric, selective tyrosine kinase 2 inhibitor, in plaque psoriasis: long-term safety results of patients from Asia in the phase 3 POETYK PSO-1 and PSO-3 trials.	32nd European Academy of Dermatology & Venereology Congress	Berlin, Germany October 11–14 2023	Imafuku S, Zhang J, Ding Y, Wang P, Li L, Pan W, Tada Y, Okubo Y, Morita A, Tsai TF, Hong CH, Bang CH, Napoli A, Kisa RM, Hoyt K, Treitel M, Vritzali E, Banerjee S, Ohtsuki M

〈国内研究助成金〉

1	神経皮膚症候群および色素性乾皮症・ポルフィリン症の学際的診療体制に基づく医療最適化と患者 QOL 向上のための研究	厚生労働科学研究費 難治性疾患政策研究事業	2023	今福　信一 (代表者：朝比奈昭彦)

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	日本皮膚科学会第408回福岡地方会	ホテルニューオータニ博多	3/10, 2024	今福　信一

〈学会活動〉

1	日本皮膚科学会	理事	2023	今福　信一
2	日本皮膚科学会西部支部	代議員	2023	今福　信一，古賀　文二
3	日本皮膚科学会福岡地方会	監事	2023	清水　裕毅
4	日本レックリングハウゼン病学会	理事	2023	今福　信一
5	日本研究皮膚科学会	評議員・推薦委員	2023	今福　信一
6	日本皮膚免疫アレルギー学会	代議員	2023	今福　信一
7	日本乾癬学会	理事	2023	今福　信一
8	福岡市性感染症（STD）研究会	顧問	2023	今福　信一
9	日本小児皮膚科学会	運営委員	2023	今福　信一
10	日本性感染症学会	代議員	2023	今福　信一

〈研究に関係した賞〉

1	福岡大学乾癬レジストリ（FUPR）における乾癬患者の死因	第13回2023年度日本乾癬学会「鳥居・帝國乾癬研究奨励賞」学会発表部門	2023	髙野　彩加
2	Mature interleukin-36γ induces epidermal stratum corneum exfoliation in generalized pustular psoriasis via downregulation of corneodesmosine.	第13回2023年度日本乾癬学会「鳥居・帝國乾癬研究奨励賞」国際学会発表部門	2023	佐藤　絵美

放射線医学

〈原著〉

1	上腹部 MRI における体動アーチファクト低減技術	臨床画像	39(4)：378–387, 2023	佐藤　圭亮，田中　慎二，高山　幸久，吉満　研吾

2	脳血流 SPECT による経過観察の有用性	臨床放射線	68(4)： 389-399， 2023	長町　茂樹
3	The reproducibility of MTV and TLG of soft tissue tumors calculated by FDG-PET: Comparison between the lower limit by the fixed value SUV 2.5 and that value by 30% of SUVmax	Jpn J Radiol	41(5)： 531-540， 2023	Iwasa H, Nagamachi S, Nakayama S, Yamamoto T, Yoshimitsu K
4	Extracellular volume fraction determined by dual-layer spectral detector CT: Possible role in predicting the efficacy of preoperative neoadjuvant chemotherapy in pancreatic ductal adenocarcinoma	Eur J Radiol	doi：10.1016/ j.ejrad.2023. 110756 2023	Fujita N, Ushijima Y, Itoyama M, Okamoto D, Ishimatsu K, Wada N, Takao S, Murayama R, Fujimori N, Nakata K, Nakamura M, Yamamoto T, Oda Y, Ishigami K
5	Gallbladder fossa nodularity in the liver typically observed in patients with alcoholic liver disease; comparison with chronic hepatitis C patients	Abdom Radiol	48(6)： 1965-1974， 2023	Tanaka S, Sato K, Yamamoto R, Urakawa H, Ito E, Takayama Y, Yoshimitsu K
6	DICOM 対応プリンタにより紙媒体に出力された単純 X 線画像の表示性能 － LCD モニタとの比較－	日本放射線技術学会雑誌	79(8)： 775-783， 2023	木寺　大輔，清水　雅司， 上野登喜生，松下　大希， 上村　忠久，吉満　研吾
7	【よくわかる肝エラストグラフィ】 肝 MRE 測定の実際－計測上のヒントと注意点	臨床画像	39(7)： 816-821， 2023	高山　幸久，佐藤　圭亮， 田中　慎二，村山　　僚， 吉満　研吾
8	Intraductal oncocytic papillary neoplasm of the pancreas: clinical and radiological features compared to those of intraductal papillary mucinous neoplasm	Abdom Radiol	48(8)： 2483-2493， 2023	Nakaya M, Nakai Y, Takahashi M, Fukukura Y, Sato K, Kameda A, Tashiro Y, Kageyama S, Sofue K, Nakano T, Yoshimitsu K, Marugami N, Takeyama N, Tanaka M, Hasegawa K, Watadani T
9	Risk factors for bleeding in coronavirus disease 2019 patients on extracorporeal membrane oxygenation and effects of transcatheter arterial embolization for hemostasis	Interv Radiol	21；8(3)： 136-145， 2023	Goto K, Takayama Y, Honda G, Fujita K, Osame A, Urakawa H, Hoshino K, Nakamura Y, Ishikura H, Yoshimitsu K
10	Deep learning-based magnetic resonance imaging reconstruction for improving the image quality of reduced-field-of-view diffusion-weighted imaging of the pancreas	World J Radiol	28；15(12)： 338-349， 2023	Takayama Y, Sato K, Tanaka S, Murayama R, Goto N, Yoshimitsu K
11	脳血管3D proton density-weighted black blood MRA の refocus flip angle に関する検討および3D time of flight 法との比較	日本放射線技術学会雑誌	80(1)： 56-65， 2024	神宮綾多郎，清水　聡司， 中牟田隆司，伊豆野勇太， 猿渡　祐子，幸田　英志， 上村　忠久，高野　浩一， 吉満　研吾
12	Ⅱ　腹部画像診断における MRI の技術革新と挑戦　1．腹部領域における MRI 画像診断の最新動向　3）腹部領域における「AIR Recon DL」の利用経験	INNERVIDION	39(3)： 13-16， 2024	高山　幸久，佐藤　圭亮， 田中　慎二，村山　　僚， 吉満　研吾

13	Soft tissue stabilization of the hinge position for lateral closing-wedge distal femoral osteotomy: an anatomic study	Orthop J Sports Med	39(3): 13-16, 2024	Oda T, Maeyama A, Ishimatsu T, Tachibana K, Yoshimitsu K, Yamamoto T
14	Effect of lipiodol marking before CT-guided cryoablation on the outcome of sporadic renal cell carcinoma	Diagn Interv Radiol	30(2): 117-123, 2024	Ushijima Y, Okamoto D, Fujita N, Ishimatsu K, Wada N, Takao S, Murayama R, Itoyama M, Ishigami K
15	Gallbladder fossa nodularity in the liver as observed in alcoholic liver disease patients: Analysis based on hepatobiliary phase signal intensity on gadoxetate-enhanced MRI and extracellular volume fraction calculated from routine CT data	Global Health & Medicine	DOI: 10.35772 2024	Sato K, Tanaka S, Urakawa H, Murayama R, Hisatomi E, Takayama Y, Yoshimitsu K

〈症例報告〉

1	Disappearance of hepatocellular adenoma in a patient with cornelia de lange Syndrome after treatment with transcatheter arterial embolization	Intern Med	doi:10.2169/ internalmedicine. 2537-23, 2023	Takata K, Kitaguchi T, Tokushige H, Nagata T, Miyayama T, Shibata K, Fukuda H, Yamauchi R, Fukunaga A, Tanaka T, Yokoyama K, Shakado S, Yoshimitsu K, Kusano H, Sakisaka S, Hirai F
2	FDG-PET/CT で原発病巣の検出が困難であった胃印鑑細胞癌卵巣転移の１例	臨床核医学	56(6): 82-85, 2023	津田　真司，長町　茂樹， 高山　幸久，吉満　研吾
3	左右胃大網動脈に異時性に発症した segmental arterial mediolysis の１例	臨床放射線	68(13): 1513-1517, 2023	春野　綾子，高山　幸久， 納　　彰伸，田中　慎二， 後藤　和貴，本田　　学， 藤田　一彰，吉満　研吾
4	子宮円索動脈の塞栓を要した胎盤ポリープの１例	日本インターベンショナルラジオロジー学会雑誌	38(2): 112-115, 2023	本田　　学，高山　幸久， 納　　彰伸，津田　真司， 後藤　和貴，藤田　一彰， 浦川　博史，吉満　研吾
5	Partial splenic embolization improved stomal varices in patient with decompensated liver cirrhosis: a case report	Clin J Gastroenterol	17(1): 100-105, 2024	Yamauchi R, Takata K, Yokoyama K, Shibata K, Fukuda H, Fukunaga A, Tanaka T, Shakado S, Yoshimitsu K, Hirai F

〈総説〉

1	【明日の業務に役立つ！胆道の臨床検査】胆道の超音波検査　その他の胆道疾患のチェックポイント	Medical Technology	51(6): 567-571, 2023	藤光　律子，吉岡　晋吾， 佐藤　雅之，山内　皓介， 佐藤　誠也，冨田　昌良， 吉満　研吾
2	AIRTM Recon DL, AIRTM Recon DL Revolution Continues, AIRTM Image Quality	AIRTM Recon DL （ディープラーニング画像再構成技術）	p1-4, 2023	佐藤　圭亮

〈著書〉

1	症例 case 8　70歳台　男性	症例で学ぶ中枢神経の画像診断（監）安陪等思（編集）平井俊範，吉浦　敬（編者）上谷浩之，金原出版株式会社	p.37-40，2023	肥田　浩亮，高野　浩一（分担）
2	症例 case 10　40歳台　女性	症例で学ぶ中枢神経の画像診断（監）安陪等思（編集）平井俊範，吉浦　敬（編者）上谷浩之，金原出版株式会社	p.45-48，2023	谷　　知允，高野　浩一（分担）
3	症例 case 55　70歳台　男性	症例で学ぶ中枢神経の画像診断（監）安陪等思（編集）平井俊範，吉浦　敬（編者）上谷浩之，金原出版株式会社	p.203-204，2023	日隈由紀枝，高野　浩一（分担）
4	症例 case 75　50歳台　女性	症例で学ぶ中枢神経の画像診断（監）安陪等思（編集）平井俊範，吉浦　敬（編者）上谷浩之，金原出版株式会社	p.247-248，2023	谷　　知允，高野　浩一（分担）
5	症例 case 78　50歳台　女性	症例で学ぶ中枢神経の画像診断（監）安陪等思（編集）平井俊範，吉浦　敬（編者）上谷浩之，金原出版株式会社	p.253-254，2023	肥田　浩亮，高野　浩一（分担）
6	症例 case 79　生後13日　女児	症例で学ぶ中枢神経の画像診断（監）安陪等思（編集）平井俊範，吉浦　敬（編者）上谷浩之，金原出版株式会社	p.255-256，2023	谷　　知允，高野　浩一（分担）
7	症例 case 89　40歳台　男性	症例で学ぶ中枢神経の画像診断（監）安陪等思（編集）平井俊範，吉浦　敬（編者）上谷浩之，金原出版株式会社	p.277-278，2023	日隈由紀枝，高野　浩一（分担）
8	症例 case 116　4歳　男児	症例で学ぶ中枢神経の画像診断（監）安陪等思（編集）平井俊範，吉浦　敬（編者）上谷浩之，金原出版株式会社	p.331-332，2023	日隈由紀枝，高野　浩一（分担）
9	症例 case 117　5歳　男児	症例で学ぶ中枢神経の画像診断（監）安陪等思（編集）平井俊範，吉浦　敬（編者）上谷浩之，金原出版株式会社	p.333-334，2023	肥田　浩亮，高野　浩一（分担）
10	即戦力が身につく肝胆膵の画像診断　序文	即戦力が身につく肝胆膵の画像診断（編）吉満研吾，石神康生，メディカル・サイエンス・インターナショナル	p.vii，2023	吉満　研吾
11	炎症性疾患：壊疽性胆嚢炎（症例　L1-5）	即戦力が身につく肝胆膵の画像診断（編）吉満研吾，石神康生，メディカル・サイエンス・インターナショナル	p.18-19，2023	坂本　桂子（分担）
12	炎症性疾患：総胆管結石（症例　L1-9-1）	即戦力が身につく肝胆膵の画像診断（編）吉満研吾，石神康生，メディカル・サイエンス・インターナショナル	p.32，2023	佐藤　圭亮（分担）

13	炎症性疾患：陶器様胆嚢（磁気様胆嚢）（症例　L1-12）	即戦力が身につく肝胆膵の画像診断（編）吉満研吾，石神康生，メディカル・サイエンス・インターナショナル	p.44-46，2023	高山　幸久（分担）
14	炎症性疾患：急性胆嚢炎（症例　L1-15）	即戦力が身につく肝胆膵の画像診断（編）吉満研吾，石神康生，メディカル・サイエンス・インターナショナル	p.55-57，2023	坂本　桂子（分担）
15	代謝疾患：膵脂肪浸潤（症例　L1-16）	即戦力が身につく肝胆膵の画像診断（編）吉満研吾，石神康生，メディカル・サイエンス・インターナショナル	p.58-60，2023	村山　　僚（分担）
16	炎症性疾患：肝内胆管結石症（症例　L1-19）	即戦力が身につく肝胆膵の画像診断（編）吉満研吾，石神康生，メディカル・サイエンス・インターナショナル	p.70-72，2023	佐藤　圭亮（分担）
17	炎症性疾患：気腫性胆嚢炎（症例　L1-26）	即戦力が身につく肝胆膵の画像診断（編）吉満研吾，石神康生，メディカル・サイエンス・インターナショナル	p.95-96，2023	坂本　桂子（分担）
18	炎症性疾患：慢性胆嚢炎（症例　L1-34-1）	即戦力が身につく肝胆膵の画像診断（編）吉満研吾，石神康生，メディカル・サイエンス・インターナショナル	p.122，2023	坂本　桂子（分担）
19	炎症性疾患：胆嚢結石（症例　L1-47）	即戦力が身につく肝胆膵の画像診断（編）吉満研吾，石神康生，メディカル・サイエンス・インターナショナル	p.178-180，2023	佐藤　圭亮（分担）
20	炎症性疾患：胆嚢捻転症　（症例　L2-6）	即戦力が身につく肝胆膵の画像診断（編）吉満研吾，石神康生，メディカル・サイエンス・インターナショナル	p.218-220，2023	高山　幸久（分担）
21	炎症性疾患：胆道結石の DECT（症例　L2-14）	即戦力が身につく肝胆膵の画像診断（編）吉満研吾，石神康生，メディカル・サイエンス・インターナショナル	p.248-250，2023	佐藤　圭亮（分担）
22	炎症性疾患：黄色肉芽腫性胆嚢炎（症例　L2-39）	即戦力が身につく肝胆膵の画像診断（編）吉満研吾，石神康生，メディカル・サイエンス・インターナショナル	p.338-342，2023	吉満　研吾（分担）
23	炎症性疾患：Mirizzi 症候群（症例　L2-51）	即戦力が身につく肝胆膵の画像診断（編）吉満研吾，石神康生，メディカル・サイエンス・インターナショナル	p.381-383，2023	高山　幸久（分担）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（招待講演） Prediction of microvascular invasion of HCC on gadoxetate-enhanced MRI	Unrelenting Efforts to Combat Liver Disease	Seoul（Korea） 4/8 2023	Yoshimitsu K
2	（シンポジウム） MRE ハンズオンセミナー：統括責任者・講師	第82回日本医学放射線学会総会	横浜 4/13-4/16 2023	吉満　研吾
3	（シンポジウム） MRE ハンズオンセミナー：講師・指導補助	第82回日本医学放射線学会総会	横浜 4/13-4/16 2023	高山　幸久
4	（シンポジウム） 腹部 MRI の最新技術：ディープラーニングを用いた再構成アルゴリズムによる上腹部 MRI における画質改善	第82回日本医学放射線学会総会	横浜 4/13-4/16 2023	高山　幸久
5	（招待講演） Cholecystic venous drainage, anatomy and beyond	ESGAR（Annual Meeting and Postgraduate Course）2023	Valencia（Spain） 6/13-6/16 2023	Yoshimitsu K
6	（シンポジウム） PL2-3　日本におけるシーケンシャル治療の現状－ HERITAGE 試験から－	第28回日本肝がん分子標的治療研究会	札幌 6/23-6/24 2023	淺岡　良成，建石　良介， 山田　康秀，長谷川　潔， 飯島　尋子，加藤　直也， 島田　光生，波多野悦朗， 福本　　巧，村上　卓道， 矢野　博久，吉満　研吾， 黒崎　雅之，坂元　亨宇， 松山　　裕，工藤　正俊， 國土　典宏
7	（招待講演） 放射線科報告書作成における AI 利用の現状・展望	第31回日本がん検診・診断学会総会	福岡 6/24-6/25 2023	長町　茂樹
8	（シンポジウム） Session 1. Surveillance and Imaging Diagnosis for HCC “Emerging Imaging Tools for HCC Surveillance: Benefits and Concern”	The 13th Asia-Pacific Primary Liver Cancer Expert Meeting（APPLE 2023）	Seoul（Korea） 7/6-7/8 2023	Yoshimitsu K
9	（シンポジウム） Session 1. Changes in the Landscape of HCC	The 13th Asia-Pacific Primary Liver Cancer Expert Meeting（APPLE 2023）	Seoul（Korea） 7/6-7/8 2023	Yoshimitsu K
10	（シンポジウム） 主題１　肝：「肝のリンパ増殖性疾患」	第23回臨床消化器病研究会（WEB 開催）	東京 7/15 2023	吉満　研吾
11	（シンポジウム） 肝腫瘍診療における AI/IT の可能性 「深層学習再構成法を併用した息止め拡散強調像と Navigation 拡散強調像の併用；従来再構成法との歴史的比較」	第59回日本肝癌研究会	大阪 7/27-7/28 2023	佐藤　圭亮，後藤奈帆子， 田中　慎二，村山　　僚， 高山　幸久，吉満　研吾
12	（シンポジウム） イメージインタープリテーション　骨軟部	第59回日本医学放射線学会秋季臨床大会	徳島 9/15-9/17 2023	佐藤　圭亮

13	（シンポジウム） 最新技術の臨床活用法： 最新 Deep Learning 画像再構成による上腹部領域の有効活用法	第59回日本医学放射線学会秋季臨床大会	徳島 9/15-9/17 2023	佐藤　圭亮
14	（招待講演） MRI による肝線維化診断	第51回日本磁気共鳴医学会大会	長野（軽井沢） 9/22-9/24 2023	高山　幸久
15	（招待講演） FDG-PET/CT による原発性肺がんの病期診断，治療効果判定における有用性のレビュー	第63回日本核医学会学術総会 JSNM/JSNMT 合同企画 第60回腫瘍・免疫核医学研究会	大阪 11/16-11/18 2023	長町　茂樹
16	（シンポジウム） The Washout of Hepatocellular Carcinoma at Portal Venous Phase versus Equilibrium Phase: Radiological and Clinicopathological Implication	北米放射線学会 （RSNA 2023）	Chicago（USA） 11/26-11/30 2023	Yoshimitsu K, Ishigami Y, Nishie A
17	The usefulness of FDG-PET indexes including heterogeneity parameters in the prediction of initial chemo-radiotherapeutic effect in oropharyngeal cancer	北米放射線学会 （RSNA 2023）	Chicago（USA） 11/26-11/30 2023	Nagamachi S, Yoshimitsu K
18	（シンポジウム） PL2-1　肝癌薬物療法導入症例の年代別変遷 － HERITAGE 試験から	第29回日本肝がん分子標的治療研究会	埼玉 1/26-1/27 2024	淺岡　良成，建石　良介， 山田　康秀，長谷川　潔， 飯島　尋子，加藤　直也， 島田　光生，波多野悦朗， 福本　　巧，村上　卓道， 矢野　博久，吉満　研吾， 黒崎　雅之，坂元　亨宇， 松山　　裕，工藤　正俊， 國土　典宏
19	（招待講演） CT/MRI 最新技術　～最先端技術によって臨床検査はこう変わる～　1）肝臓 MRI におけるディープラーニング画像再構成技術がもたらすインパクト	第43回日本画像医学会	東京 2/23-2/24 2024	高山　幸久
20	（シンポジウム） シンポジウム３　消化器 ２）肝がんの mimicker：CT・MRI の読影において知っておきたい知識	第43回日本画像医学会	東京 2/23-2/24 2024	高山　幸久
21	Effectiveness of DLR for Liver Tumor Delineation in the Hepatobiliary phase of Gd-EOB-MRI	The 33rd Annual Meeting of the Asian Pacific Association for the Study of the liver	Kyoto（Japan） 3/27-3/31 2024	Takayama Y, Sato K, Tanaka S, Murayama R, Jingu R, Ikushima Y, Nozaki A, Yoshimitsu K

〈国内研究助成金〉

1	ECV の概念を応用した EOB の細胞内外分布の分離：肝機能と肝腫瘍鑑別診断への応用	文科省科研費 研究基盤 C	2023	吉満　研吾（代表）
2	FDG 及び MIBG シンチを用いた肺移植前後の右心機能，心臓交感神経機能の研究	文科省科研費 研究基盤 C	2023	長町　茂樹（代表）
3	肝線維化および肝細胞機能に関する MRI を用いた新たな定量的診断法の開発	文科省科研費 研究基盤 C	2023	高山　幸久（代表）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第31回日本がん検診・診断学会総会	福大メディカルホール	6/24-25, 2023	長町　茂樹
2	第43回日本画像医学会	ステーション コンファレンス東京	2/23-24 2024	吉満　研吾

〈学会活動〉

1	日本腹部放射線学会	副代表理事	2023	吉満　研吾
2	肝血流動態・機能イメージ研究会	代表世話人	2023	吉満　研吾
3	Asian Society of Abdominal Radiology	理事	2023	吉満　研吾
4	日本画像医学会	理事	2023	吉満　研吾
5	日本肝癌研究会	理事	2023	吉満　研吾
6	APLIS	幹事	2023	吉満　研吾
7	Society of Advanced Medical Imaging (SAMI)	幹事	2023	吉満　研吾
8	日本医学放射線学会	代議員	2023	吉満　研吾, 長町　茂樹
9	日本磁気共鳴医学会	代議員	2023	吉満　研吾
10	日本がん検診・診断学会	評議員	2023	吉満　研吾, 長町　茂樹
11	日本核医学会	評議員	2023	吉満　研吾, 長町　茂樹
12	日本消化器画像診断研究会	執行部世話人	2023	吉満　研吾
13	断像画像研究会	世話人	2023	吉満　研吾
14	臨床消化器病研究会	世話人	2023	吉満　研吾
15	日本腹部造影エコー・ドプラ診断研究会	世話人	2023	吉満　研吾
16	日本肝がん分子標的治療研究会	世話人	2023	吉満　研吾
17	日本がん検診・診断学会	理事	2023	長町　茂樹
18	日本心臓核医学会	幹事	2023	長町　茂樹
19	呼吸器核医学研究会	評議員	2023	長町　茂樹
20	日本心臓核医学会　地域別教育研修委員会	九州地域委員長	2023	長町　茂樹
21	日本 IVR 学会	代議員	2023	高山　幸久

〈研究に関係した賞〉

1	GIEE-3: The Washout of Hepatocellular Carcinoma at Portal Venous Phase versus Equilibrium Phase: Radiological and Clinicopathological Implication	北米放射線学会 (RSNA 2023) Education Exhibit Certificate of Merit 受賞	2023	Yoshimitsu K, Ishigami Y, Nishie A
2	Certificate of merit: Cholecystic venous drainage, anatomy and beyond-	ESGAR (Annual Meeting and Postgraduate Course) 2023	2023	Yoshimitsu K
3	JCR ニュース画像診断症例クイズ Question 35　入賞	一般社団法人日本放射線科専門医会・医会　理事長 山田　恵	2024	佐藤　圭亮

消化器外科学

〈原著〉

1	Comparison of changes in health-related quality of life between elderly and non-elderly patients undergoing elective surgery for colorectal cancer	Int J Colorectal Dis	doi：10.1007/s00384-023-04440-7. 2023	Watanabe T, Ohno R, Kajitani R, Sahara K, Munechika T, Matsumoto Y, Aisu N, Kojima D, Yoshimatsu G, Hasegawa S
2	A Case of Posterior Interosseous Nerve Palsy Associated With Robotic Low Anterior Resection	Cureus	15(3)：e36170. 2023	Ohno R, Matsumoto Y, Sahara K, Kajitani R, Watanabe T, Yoshimatsu G, Fujioka S, Ogura H, Tsuboi Y, Hasegawa S
3	Long-term results of a phase 2 study of neoadjuvant chemotherapy with molecularly targeted agents for locally advanced rectal cancer	Int J Clin Oncol.	28(3)：392-399. 2023	Aoyama R, Hida K, Hasegawa S et al.
4	The Safety of Laparoscopic Cholecystectomy in Super-elderly Patients: A Propensity Score Matching Analysis	Cureus	15(7)：e42097. 2023	Naito S, Kajiwara M, Nakashima R, Sasaki T, Hasegawa S
5	Safety and Feasibility of Gastrectomy in Super Elderly Patients (Aged ≥ 80): A Propensity Score-Matched Analysis	Cureus	15(12)：e50443. 2023	Yamana I, Fujikawa T, Kawamura Y, Hasegawa S
6	Non-stick Liver Parenchymal Transection with Saline-linked Bipolar Clamp-crush Technique in Robotic Liver Resection	Cureus	15(3)：e36401. 2023	Kajiwara M, Fujikawa T, Naito S, Sasaki T, Nakashima R, Hasegawa S
7	Application of Extended Reality (Virtual Reality and Mixed Reality) Technology in Laparoscopic Liver Resections	Cureus	15(9)：e44520. 2023	Naito S, Kajiwara M, Nakashima R, Sasaki T, Hasegawa S
8	Management of Patients Receiving Antiplatelet Therapy During Gastroenterological Surgery: A Multicenter Prospective Cohort Study (GSATT)	Ann Surg	doi：10.1097/SLA.0000000000006136. 2023	Fujikawa T, Hasegawa S, Takahashi R, Naito S et al.
9	Achalasia phenotypes and prediction of peroral endoscopic myotomy outcomes using machine learning.	Digestive Endoscopy	doi：10.1111/den.14714. 2023	Kazuya Takahashi, Hiroki Sato, Yuto Shimamura, Hirofumi Abe, Hironari Shiwaku et al.
10	Oesophagus Achalasia Diagnosis from Esophagoscopy Based on a Serial Multi-scale Network	Computer Methods in Biomechanics and Biomedical Engineering Imaging & Visualization	11(4)：1271-1280 2023	Kai Jiang, Masahiro Oda, Yuichiro Hayashi, Hironari Shiwaku et al.
11	High predictive ability of apparent diffusion coefficient value for wall-invasion pattern of advanced gallbladder carcinoma	Abdominal Radiology	48(3)：902-912 2023	Kajiwara M, Naito S, Nakashima R, Sasaki T et al.
12	Risk Factors of Complications from Central Bisectionectomy (H458) for Hepatocellular Carcinoma: A Multi-Institutional Single-Arm Analysis	Cancers	15(6)：1740 2023	Nanashima A, Kajiwara M et al.

13	Efficacy of laparoscopic liver resection for small hepatocellular carcinoma located in the posterosuperior segments: A multi-institutional study using propensity score matching by the Kyushu Study Group of Liver Surgery	Hepatol Res	53(9): 878–889 2023	Tokumitsu Y, Kajiwara M et al.
14	シートベルト損傷による外傷性小腸穿孔の検討.	Japanese Journal of Acute Care Surgery	13巻1号 Page47–51 2023	稗田　拓朗, 内藤　滋俊, 濵畑　圭佑, 中村　　廉, 森本　光昭　他
15	Safety evaluation of immune-cell therapy for malignant tumor in the Cancer Immune-cell Therapy Evaluation Group (CITEG)	Cytotherapy	25(11): 1229–1235 2023	Takimoto R, Yoshida Y et al.
16	Analysis of Circulating DNA to Assess Prognoses for Metastatic Colorectal Cancer Patients Treated with Regorafenib Dose-Escalation Therapy: A Retrospective, Exploratory Analysis of the RECC Trial	Digestion	104(3): 233–242. 2023	Ohta R, Yoshida Y et al.
17	Genomic characterization between HER2-positive and negative gastric cancer patients in a prospective trial	Cancer Med.	12(15): 16649–16660.	Qingjiang Hu, Eiji Oki, Teppei Yamada et al.

〈症例報告〉

1	Endscopic ligation technique for refractory gastrotracheal fistula	DEN open	doi.org/10.1002/ deo2.320. 2023	Shiwaku H, Shiwaku A, Okada H, Kusaba H, Maki K, Shimaoka H, Yamauchi K, Hashimoto Y, Yamada T, Yoshimura F, Hasagawa S
2	Quick and Easy Application Method of TachoSil® During Laparoscopic and Robotic Liver Resections	Cureus	15(4): e37252. 2023	Kajiwara M, Naito S, Sasaki T, Nakashima R, Hasegawa S
3	Middle Hepatic Vein-Guided Cranial and Hilar Approach Using a Modified Two-Surgeon Technique in Laparoscopic Extended Left Medial Sectionectomy: A Technical Case Report With Videos	Cureus	15(4): e37865. 2023	Naito S, Fijikawa T, Kajiwara M, Hasegawa S
4	A case of endoscopic full-thickness resection for gastric gastrointestinal stromal tumor in the submucosal tunnel	DEN open	doi:10.1002/ deo2.282. 2023	Shiwaku H, Okada H, Shiwaku A, Kusaba H, Maki K, Shimaoka H, Hashimoto Y, Yamada T, Yoshimura F, Hasegawa S
5	根治切除後早期に肝転移再発した intracholecystic papillary neoplasm の１例	日本臨床外科学会雑誌	84(3): 448–453, 2023	富永　孝亮, 梶原　正俊, 佐々木貴英, 中島　　亮, 内藤　滋俊, 濱田　義浩, 長谷川　傑

〈総説〉

1	ストーマのすべて　造設・閉鎖から合併症管理まで双孔式回腸ストーマ	消化器外科	46(6): 589–597 2023	松本　芳子, 長谷川　傑
2	大腸癌手術/若手に伝えたい手術のコツ	消化器外科	46(4): 359–370 2023	佐原くるみ, 大野　　龍, 梶谷　竜路, 棟近　太郎, 松本　芳子, 渡邉　利史, 吉松　軍平, 長谷川　傑

3	イラストで見る消化器癌手術アトラス Ⅲ．大腸　8.直腸癌に対する経肛門的/経会陰的側方リンパ節郭清	手術	77(6): 847-853 2023	梶谷　竜路，長谷川　傑， 吉松　軍平，渡邉　利史， 松本　芳子，棟近　太郎
4	ロボット大腸癌手術のすべて/ロボット支援下右側結腸切除術	消化器外科	46(7): 713-720 2023	渡邉　利史，梶谷　竜路， 大野　　龍，佐原くるみ， 棟近　太郎，松本　芳子， 吉松　軍平，長谷川　傑

〈著書〉

1	最新ガイドラインに基づく　消化器疾患診療指針　2023-24 1．消化管疾患　食道アカラシア	総合医学社	pp.8-14， 2023	塩飽　洋生，岡田　浩樹， 塩飽　晃生，長谷川　傑
2	早わかり消化器内視鏡関連ガイドライン2023 Ⅱ．食道・POEM 診療ガイドライン	東京医学社	pp.1161-1169， 2023	塩飽　洋生，岡田　浩樹， 塩飽　晃生，草場　裕之， 長谷川　傑
3	腹腔鏡下大腸手術公式テキスト	南江堂	2023	長谷川　傑（編集）
4	腹腔鏡下大腸手術公式テキスト A．内側アプローチから下腸間膜動脈根部処理まで	南江堂	pp.45-60， 2023	松本　芳子，長谷川　傑

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（シンポジウム） 結腸癌に対するロボットと腹腔鏡手術の interactive な定型化の取り組み	第36回日本内視鏡外科学会総会	横浜 12/7-12/9 2023	松本　芳子，梶谷　竜路， 佐原くるみ，棟近　太郎， 渡邉　利史，愛洲　尚哉， 吉松　軍平，長谷川　傑
2	（国際学会） Extended Reality（VR + MR）for Liver Resection in MIS	ISLS STS 2024	Seoul, Korea 3/18-3/19 2024	内藤　滋俊
3	（パネルディスカッション） XR（クロスリアリティ）技術を用いたナビゲーションシステムによる肝臓手術	第36回日本内視鏡外科学会総会	横浜 12/7-12/9 2023	内藤　滋俊，梶原　正俊， 中島　　亮，佐々木貴英， 長谷川　傑
4	（ワークショップ） XR（クロスリアリティ）技術を用いた肝臓手術シュミレーションとナビゲーション	第31回日本消化器関連学会	神戸 11/2-11/5 2023	内藤　滋俊，梶原　正俊， 中島　　亮，佐々木貴英， 長谷川　傑
5	（シンポジウム） 胃癌に対する免疫チェックポイント阻害剤使用における新規バイオマーカー	第48回日本外科系連合学会学術集会	横浜 6/7-6/9 2023	山田　哲平，林　　貴臣， 橋本　恭弘，島岡　秀樹， 槇　　研二，吉村　文博， 吉田陽一郎，長谷川　傑
6	（特別講演） CIPN Year in Review	第８回日本がんサポーティブケア学会学術集会	奈良 6/22-6/24 2023	吉田陽一郎
7	（ワークショップ） 上部進行胃癌に対するロボット支援　脾温存脾門完全（すだれ）郭清	第48回日本外科系連合学会学術集会	横浜 6/7-6/9 2023	吉村　文博，山内　皓介， 白壁　勝大，橋本　恭弘， 島岡　秀樹，山田　哲平， 槇　　研二，長谷川　傑
8	（ワークショップ） 局所進行胸部食道癌に対する腹臥位両側胸腔境アプローチ	第48回日本外科系連合学会学術集会	横浜 6/7-6/9 2023	吉村　文博，島岡　秀樹， 橋本　恭弘，槇　　研二， 山田　哲平，長谷川　傑

9	（国際学会） POET and related procedure	ESGE days 2023	Dublin, Ireland 4/22 2023	Hironari Shiwaku, Akio Shiwaku, Hiroyuki Kusaba, Hiroki Okada, Haruhiro Inoue, Suguru Hasegawa
10	（国際学会） Recent trends and studies about POEM	IDEN 2023	Seoul, Korea 6/8–6/10 2023	Hironari Shiwaku, Akio Shiwaku, Hiroshi Kusaba, Hiroki Okada, Suguru Hasegawa
11	（国際招待） 『Post-POEM GERD』（Oral presentation）	“POEM & 3rd space endoscopy” Hands-On Training Course	Tokyo, Japan 7/8–7/9 2023	Hironari Shiwaku
12	（国際招待） 『The Utility of the double scope method: Avoiding Incomplete myotomy and ensuring adequate myotomy on the gastric side』	“POEM & 3rd space endoscopy” Hands-On Training Course	Tokyo, Japan 7/8–7/9 2023	Hironari Shiwaku
13	（ワークショップ） 食道良性疾患に対する third space endoscopy（POEM・POET）の臨床経験	第123回日本外科学会 定期学術集会	東京 4/27–4/29 2023	塩飽　洋生，岡田　浩樹， 塩飽　晃生，長谷川　傑
14	（ワークショップ） 一般病院で診療やトレーニングに質を担保する	第123回日本外科学会 定期学術集会	東京 4/27–4/29 2023	愛洲　尚哉
15	（パネルディスカッション） 当科の trans anal（Tp）/trans perineal（Ta）アプローチについて	第85回日本臨床外科学会 総会	岡山 11/16–11/18 2023	愛洲　尚哉，籠田進之介， 白壁　勝大，赤﨑　卓之， 塩川　桂一，竹下　一生， 下河邉久陽，佐原くるみ， 棟近　太郎，松本　芳子， 吉松　軍平，吉田陽一郎， 長谷川　傑
16	（ワークショップ） 大学病院におけるロボット・腹腔鏡手術の教育	第48回日本大腸肛門病学会 九州地方会	鹿児島 7/29 2023	松本　芳子，吉松　軍平， 愛洲　尚哉，棟近　太郎， 佐原くるみ，竹下　一生， 長谷川　傑
17	（シンポジウム） ロボット支援下直腸癌手術における手技の工夫と術者育成	第85回日本臨床外科学会 総会	岡山 11/16–11/18 2023	佐原くるみ
18	（シンポジウム） アカラシアに対する経口内視鏡的筋層切開術（POEM）の治療成績－各病型の臨床経過の違いに着目した検討－	第116回日本消化器内視鏡 学会九州支部例会	沖縄 11/24–11/25 2023	塩飽　晃生
19	（パネルディスカッション） 低位前方切除後の縫合不全のリスク因子の解析	第36回日本内視鏡外科学会 総会	横浜 12/7/–12/9 2023	塩川　桂一，白壁　勝大， 竹下　一生，下河邊久陽， 佐原くるみ，棟近　太郎， 松本　芳子，坂本　良平， 愛洲　尚哉，吉松　軍平， 長谷川　傑
20	（ワークショップ） 上部進行胃癌に対するロボット支援　脾温存脾門完全（すだれ）郭清－脾門部の解剖理解に基づく郭清手技－	第36回日本内視鏡外科学会 総会	横浜 12/7/–12/9 2023	吉村　文博，山内　皓介， 白壁　勝大，橋本　恭弘， 島岡　秀樹，山田　哲平， 槇　　研二，長谷川　傑

〈国内研究助成金〉

1	消化器がんに対する免疫チェックポイント阻害剤治療の腫瘍免疫学的評価とその意義	文部科学省 若手研究	2023	山田　哲平（代表）

〈学会活動〉

1	日本肝胆膵外科学会	評議員	2023	梶原　正俊，内藤　滋俊
2	日本臨床外科学会	評議員	2023	吉村　文博，愛洲　尚哉
3	日本内視鏡外科学会	評議員	2023	長谷川　傑，塩飽　洋生 吉村　文博，愛洲　尚哉
4	日本がんサポーティブケア学会	評議員	2023	吉田陽一郎
5	日本消化器内視鏡学会	学術評議員	2023	塩飽　洋生
6	日本外科学会	代議員	2023	長谷川　傑

呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学

〈原著〉

1	Use of a radiofrequency identification system for precise sublobar resection of small lung cancers.	Surg Endosc.	37(3)：2388-2394，2023	Ueda Y, Mitsumata S, Matsunaga H, Kaneda S, Midorikawa K, Miyahara S, Tokuishi K, Nakajima H, Waseda R, Shiraishi T, Sato T.
2	Feasibility of Laparoscopic Fundoplication without Removing the Preceding Gastrostomy in Severely Neurologically Impaired Patients: A Multicenter Evaluation of the Traction Technique.	J Laparoendosc Adv Surg Tech A.	33(5)：518-521，2023	Muto M, Murakami M, Masuya R, Fukuhara M, Shibui Y, Nishida N, Kedoin C, Nagano A, Sugita K, Yano K, Onishi S, Harumatsu T, Yamada K, Yamada W, Kawano T, Matsukubo M, Izaki T, Nakame K, Kaj T, Hirose R, Nanashima A, Ieiri S.
3	Evaluation of the radiofrequency identification lung marking system: a multicenter study in Japan.	Surg Endosc.	37(5)：3619-3626，2023	Miyahara S, Waseda R, Ueda Y, Yutaka Y, Date H, Suzuki J, Oizumi H, Goto M, Nakagawa T, Kojima F, Takenaka M, Tanaka F, Sato T.
4	The SUPER reporting guideline suggested for reporting of surgical technique: explanation and elaboration.	Gland Surg.	30;12(6)：749-766，2023	Zhang K, Wu J, Su Z, Ma Y, Shi Q, Barchi LC, Laisaar T, Ng CSH, Gilbert S, Zhang X, Štupnik T, Lerut T, Jiao P, Elkhayat H, Novoa NM, Fruscio R, Waseda R, Petersen RH, Fiorelli A, Sihoe ADL, Gonzalez-Rivas D, Scarci M, Jimenez MF, Li GS, Tang X, Wang SD, Chen Y.

5	The SUPER reporting guideline suggested for reporting of surgical technique.	Hepatobiliary Surg Nutr.	1;12(4): 534-544, 2023	Zhang K, Ma Y, Wu J, Shi Q, Barchi LC, Scarci M, Petersen RH, Ng CSH, Hochwald S, Waseda R, Davoli F, Fruscio R, Levi Sandri GB, Gonzalez M, Wei B, Piessen G, Shen J, Zhang X, Jiao P, He Y, Novoa NM, Bedetti B, Gilbert S, Sihoe ADL, Toker A, Fiorelli A, Jimenez MF, Lerut T, Oo AY, Li GS, Tang X, Lu Y, Elkhayat H, Štupnik T, Laisaar T, Abu Akar F, Gonzalez-Rivas D, Su Z, Qiu B, Wang SD, Chen Y, Gao S.
6	The history of Japanese lung transplantation: the unique pathway to establishing the program and its initial success.	J Thorac Dis.	28;15(9): 5204-5212, 2023	Shiraishi T, Midorikawa K, Miyahara S, Waseda R, Sato T.
7	Prognostic factors for lung transplant recipients focusing on age and gender: the Japanese lung transplantation report 2022.	Surg Today.	53(10): 1188-1198, 2023	Oishi H, Okada Y, Sato M, Nakajima J, Nakajima D, Shiraishi T, Sato T, Kanou T, Shintani Y, Miyoshi K, Toyooka S, Maeda S, Chida M, Matsumoto K, Nagayasu T, Suzuki H, Yoshino I, Matsuda Y, Hoshikawa Y, Date H.
8	Proctoring System of Pediatric Laparoscopic Surgery for Choledochal Cyst.	J Laparoendosc Adv Surg Tech A.	33(11): 1109-1113, 2023	Murakami M, Yamada K, Onishi S, Harumatsu T, Baba T, Kuda M, Miyoshi K, Koga Y, Masuya R, Kawano T, Muto M, Hayashida M, Nakame K, Shinyama S, Kuwabara J, Tatsuta K, Yanagi Y, Hirose R, Shono T, Migita M, Kaji T, Takatsuki M, Nanashima A, Matsufuji H, Ieiri S.
9	Impact of a pneumatic surgical robot with haptic feedback function on surgical manipulation.	Sci Rep.	18;13(1): 22615. 2023	Ueda Y, Miyahara S, Tokuishi K, Nakajima H, Waseda R, Shiraishi T, Sato T.
10	福岡大学における動物実験計画書審査の電子化について.	九州実験動物雑誌.	No.39: 21-26, 2023	田中　聖一, 上原　吉就, 倉岡　　功, 古賀　允久, 坂田　直昭, 白石　武史, 高田芙友子, 立花　克郎, 田中　綾子, 津川　　潤, 林　　誓雄, 廣松　賢治, 藤田　孝之, 安永晋一郎, 岩崎　克典

11	Perioperative surgical outcome of video-assisted thoracic surgery for nontuberculous mycobacterial pulmonary disease.	Kitasato Med J.	54: 70-75., 2024	Nakashima H.
12	Chest wall tuberculousis: precision surgery with indigo carmine in limited cases for safe and intuitive lesion excision.	Interdiscip Cardiovasc Thorac Surg.	5;38(3), 2024	Abe S, Okabayashi K, Tokuishi K, Nakashima H, Maekawa S, Hamatake D, Sato T.

〈症例報告〉

1	Anterior mediastinal tracheostomy for severe tracheal stenosis in a child with severe motor and intellectual disabilities: a case report.	Surg Case Rep.	11;9(1): 128, 2023	Iwanaka T, Shiraishi T, Hirose R, Sato T.
2	A case of sacrococcygeal teratoma associated with antenatally acquired urethrovaginal fistula and hydrocolpos.	Surg Case Rep.	31;9(1): 191, 2023	Shibui Y, Obata S, Hirose R, Nakano R, Setoue T, Miyazaki T, Matsuoka H, Sato T.
3	破裂奇静脈瘤に対し外科的切除を施行した一例	日本呼吸器外科学会雑誌	37(5): 432-436, 2023	三股　頌平，上田雄一郎， 白石　武史，佐藤　寿彦
4	基礎疾患のある高齢者右有瘻性膿胸にたいして胸郭成形術と気管支充填術を併用し治癒した１例	気管支学	45(4): 262-268, 2023	増田　佳子，田中　秀和， 山田　紘之，藤野　孝介， 池田　公英，鈴木　　実
5	肺癌による左完全無気肺の状態で発生した右気胸に対し手術を施行した１例	気管支学	45(2): 123-129, 2023	増田　佳子，日隈　大徳， 白神　　慈，松原　恵理， 白石　健治，池田　公英， 鈴木　　実

〈総説〉

1	【喉頭・気管病変　治療の工夫と予後】 気道狭窄に対するステント留置の現状	小児外科	55(10): 1101-1105, 2023	宮原　　聡，白石　武史， 廣瀬龍一郎，佐藤　寿彦
2	【先天性嚢胞性肺疾患の up to date】 ８．一般呼吸器外科医の見地から	日本外科学会雑誌	124(6): 514-520, 2023	岩中　　剛，白石　武史， 廣瀬龍一郎，佐藤　寿彦
3	A clinical fellowship experience in Europe: a Japanese perspective	AME Surg J.	3: 31, 2023	Waseda R.

〈著書〉

1	呼吸器内科	科学評論社	43(6): 681-686, 2023	佐藤　寿彦（分担）
2	小児内科	東京医学社	55(3): 391-394, 2023	小幡　　聡（分担）
3	小児科診療ガイドライン －最新の診療指針－第５版	総合医学社	p293-298, 2023	小幡　　聡（分担）
4	作業療法ジャーナル 急性期における疾患別作業療法	三輪書店	57: 908-914, 2023	白石　武史

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（シンポジウム）: 「未来へ向けて大きく広がる呼吸器外科の研究」: ロボット手術の未来を変える力覚フィードバック機能を有する手術支援ロボット Saroa の開発研究	第123回日本外科学会定期学術集会	東京 4月27日 2023	上田雄一郎
2	（シンポジウム） 他診療科に学ぶ新世紀外科手術	第47回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会	大阪 6月16日 2023	佐藤　寿彦
3	（パネルディスカッション） 「すりガラス結節の診断」外科的生検	第31回日本がん検診・診断学会総会	福岡 6月24日 2023	佐藤　寿彦
4	（シンポジウム） 微小肺がんに対する肺精密縮小手術	第46回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	横浜 6月29日 2023	佐藤　寿彦
5	（ワークショップ） 福岡大学における気管・気管支手術の実際	第46回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	横浜 6月29日～30日 2023	早稲田龍一
6	（特別企画） SuReFInD®の＋ B8：E15開発：魔の川，死の谷をはいのぼり，ダーウィンの海を泳ぎ切れるのか？	第40回日本呼吸器外科学会学術集会	新潟 2023年7月13日 2023	佐藤　寿彦
7	（シンポジウム） 「開胸手術の継承（外科領域講習）」: 巨大胸腔内腫瘍の切除	第40回日本呼吸器外科学会学術集会	新潟 7月14日 2023	白石　武史
8	（ワークショップ） 「ロボット支援下手術に特有に起きる合併症とその対策」: 力覚フィードバック機能を有するロボットはロボット支援下手術特有の合併症を軽減できるか？	第40回日本呼吸器外科学会学術集会	新潟 7月14日 2023	上田雄一郎
9	（シンポジウム） SuReFInD®（RFID タグ）と ICG 蛍光を併用した肺精密区域切除の実際	第６回日本蛍光ガイド手術研究会	名古屋 9月1日～2日 2023	早稲田龍一
10	（シンポジウム） Accept or Decline?左房カフに高度損傷を伴ったマージナルドナー肺に賭けた脳死両肺移植例	第59回日本移植学会総会	京都 9月21日～23日 2023	早稲田龍一
11	（会長要望演題） 間質性肺炎合併肺癌に対する手術適応	第76回日本胸部外科学会定期学術集会	仙台 10月21日 2023	佐藤　寿彦
12	（シンポジウム） 「領域を横断して応用可能な医療機器と派生する新治療法の可能性」: 力覚フィードバック機能はロボット支援下手術の安全性を高めるか？～力覚フィードバック機能を持つ手術支援ロボットサロアを用いた基礎研究～	第76回日本胸部外科学会定期学術集会	仙台 10月21日 2023	上田雄一郎
13	（ワークショップ） 進行肺癌症例のロボット支援下手術	第64回日本肺癌学会学術集会	千葉 11月2日～4日 2023	早稲田龍一

14	（ワークショップ） 「末梢小型病変の同定法の現状と課題」：小型肺癌に対する RFID マーキングシステムを使用した精密肺縮小手術の現状と課題	第64回日本肺癌学会学術集会	千葉 11月4日 2023	上田雄一郎
15	（特別企画） DX 時代の教育・環境整備－私たちの取り組み	第85回日本臨床外科学会総会	岡山 11月16日 2023	佐藤　寿彦
16	（パネルディスカッション） 福岡大学における前縦隔疾患に対する低侵襲アプローチの現在地	第36回日本内視鏡外科学会総会	横浜 12月7日～9日 2023	早稲田龍一
17	（シンポジウム） 触覚のあるロボットによる肺癌・縦隔腫瘍切除術	第36回日本内視鏡外科学会総会	横浜 12月8日 2023	佐藤　寿彦
18	（パネルディスカッション） 胸部ロボット支援下手術では開胸手術の熟練は必須である	第36回日本内視鏡外科学会総会	横浜 12月8日 2023	佐藤　寿彦
19	（ワークショップ） トラブル例・緊急開腹移行例から考える安全な内視鏡外科手術	第36回日本内視鏡外科学会総会	横浜 12月9日 2023	徳石　恵太
20	（招待講演） Surgical Treatment of Lung Cancer: Current Status of Minimally Invasive Surgery in Japan.	2024年台湾外科医学会（Special Lecture Speaker for the 2024 Annual Meeting of the Taiwan Surgical Association（TSA2024））	台湾高雄 3月16日 2024	佐藤　寿彦

〈国内研究助成金〉

1	高齢者難治性気胸に対する低侵襲治療法の研究開発	医療機器開発推進研究事業	2023	佐藤　寿彦（代表） 上田雄一郎（分担）
2	NY-ESO-1/XAGE1抗体を用いた肺癌術後早期再発の予測及び再発後の個別化医療をめざしたバイオマーカーの開発	AMED 革新的がん医療実用化研究事業	2023	佐藤　寿彦（分担）
3	手術支援ロボットを用いた遠隔手術の実現に向けた実証研究	AMED 高度遠隔医療ネットワーク実用化研究事業	2023	佐藤　寿彦 （代表者：森　　正樹）
4	新規評価システム搭載型高度手術シミュレーター開発と効果検証に関する研究	日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究Ⓒ	2023	小幡　　聡（代表）
5	力覚フィードバック機能を有する革新的手術支援ロボットの研究開発	文部科学省 若手研究	2023	上田雄一郎（代表）
6	精密肺縮小手術における術後呼吸機能，予後に関する観察研究	JATS Research Project Award（日本胸部外科学会研究助成）	2023	上田雄一郎（代表）
7	新規蛍光装置を使用したビタミン B2ガイド下手術の確立と実用化に向けた取り組み	文部科学省 基盤研究 C	2023	早稲田龍一（代表）
8	新しいコンセプトの臓器モデルが可能にする sustainable な手術教育プラットフォーム	文部科学省 基盤研究 C	2023	早稲田龍一（代表）
9	肺癌における肺胞腔内腫瘍散布像（STAS）の in vitro モデル作成およびその機序の解明	文部科学省 基盤研究 C	2023	中島　裕康（代表）

10	肺癌細胞株を用いた肺胞腔内腫瘍散布（STAS）モデルの作成およびその機序の解明	黒住医学研究振興財団 第31回研究助成金	2023	中島　裕康（代表）
11	初代培養肺癌細胞株を用いた肺胞腔内腫瘍散布（STAS）モデルの作成およびその機序の解明	臨床医学振興財団 研究助成金	2023	中島　裕康（代表）
12	難治性小児消化器疾患の医療水準向上および移行期・成人期の QOL 向上に関する研究	厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業	2023	廣瀬隆一郎 （代表者：田口　智章）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第42階日本小児内視鏡外科・手術手技研究会	福岡 九州大学百年講堂	10月26日～27日 2023	廣瀬龍一郎

〈学会活動〉

1	日本胸部外科学会	評議員	2023	白石　武史，佐藤　寿彦，早稲田龍一
2	日本肺癌学会	評議員	2023	白石　武史，佐藤　寿彦
3	日本気胸・嚢胞性肺疾患学会	評議員	2023	白石　武史
4	日本呼吸器内視鏡学会	評議員	2023	白石　武史，佐藤　寿彦，早稲田龍一
5	日本呼吸器外科学会	評議員	2023	白石　武史，佐藤　寿彦，早稲田龍一，徳石　恵太，上田雄一郎，増田　佳子
6	日本内視鏡外科学会	評議員	2023	白石　武史，廣瀬龍一郎，早稲田龍一，小幡　　聡
7	日本肺及び心肺移植研究会	幹事	2023	白石　武史
8	日本気管食道科学会	評議員	2023	白石　武史
9	日本移植学会	評議員	2023	白石　武史
10	日本小児外科学会	評議員	2023	廣瀬龍一郎
11	日本乳癌学会	評議員	2023	吉永　康照
12	日本オンコプラスティックサージャリー学会	評議員	2023	吉永　康照
13	日本臨床外科学会	評議員	2023	早稲田龍一
14	呼吸器胸腔鏡手術研究会	評議員	2023	早稲田龍一
15	Pleural disease working group of ESTS（欧州胸部外科学会）	評議員	2023	早稲田龍一
16	日本コンピュータ外科学会	評議員	2023	小幡　　聡
17	日本外科学会	評議員	2023	増田　佳子

〈研究に関係した賞〉

1	精密肺縮小手術における術後呼吸機能，予後に関する観察研究	第６回（2023年度） JATS Research Project Award	2023	上田雄一郎

〈特許取得〉

1	気管支塞栓材料	中国	第202080083181.2号 (2023.04.28)	佐藤　寿彦
2	肺動脈モデル及びその製造方法	日本	第6685042号 2023-136694 (2023.08.24)	早稲田龍一

心臓血管外科学

〈原著〉

1	Relationship between false lumen morphology and entry tear in acute type A aortic dissection	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery	65(2): I10.1093/ejcts/ezad389, 2023	Masato Furui, Noriko Uesugii, Hitoshi Matsumurai, Yoshio Hayashida, Go Kuwahara, Mitsuru Fujiii, Masayuki Shimizui, Yuichi Moritai, Chihaya Itoi, Masato Hayama, Hideichi Wada
2	Impact and Potential Risk of Acute Myocardial Infarction on Consultation Type During the COVID-19 Pandemic: A Single-Center Experience	Cardiology and cardiovascular medicine	7(3): 169-177, 2023	Masato Furui1, Kenji Kawajiri, Takeshi Yoshida, Bunpachi Kakii, Norikazu Oshiro, Mai Asanuma, Hiroaki Nishioka, and Hideichi Wada
3	Rescue of murine hind limb ischemia via angiogenesis and lymphangiogenesis promoted by cellular communication network factor 2	Scientific Reports	13(1): doi:10.1038/s41598-023-47485-y, 2023	Masayuki Shimizu, Gumpei Yoshimatsu, Yuichi Morita, Tomoko Tanaka, Naoaki Sakata, Hideaki Tagashira, Hideichi Wada, Shohta Kodama
4	Establishment of a Simple, Reproducible, and Long_lasting Hind Limb Animal Model of Lymphedema	Plastic and Reconstructive Surgery-Global Open	11(9): doi:10.1097/GOX.0000000000005243, 2023	Morita Y, Sakata N, Kawakami R, Shimizu M, Yoshimatsu G, Wada H, Kodama S.
5	Relationship between false lumen morphology and entry tear in acute type A aortic dissection	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery	65(2): doi:10.1093/ejcts/ezad389. 2024	Masato Furui, Noriko Uesugi, Hitoshi Matsumura, Yoshio Hayashida, Go Kuwahara, Mitsuru Fujii, Masayuki Shimizu, Yuichi Morita, Chihaya Ito, Masato Hayama, Hideichi Wada

〈症例報告〉

1	A case of delayed allergy after cyanoacrylate closure of varicose veins, diagnosed by drug-induced lymphocyte	International Journal of Vasculitis	1(1): 6-12, 2023	Hiroyuki Suzuki, Mayuko Nakayama, Go Kuwahara, Hideichi Wada
2	Isolated anterior mitral valve leaflect cleft repair with minimally invasive cardiac surgery using ORBEYE	General Thoracic and Cardiovascular Surgery Cases	25(2): doi.org/10.1186/s44215-023-00034-5, 2023	Masato Hayama, Mizuki Sumi, Mau Amako, Kiyoyuki Eishi, Hideichi Wada

〈総説〉

1	低侵襲大動脈治療の功罪～フランスと心臓血管外科医	日仏医学	44(1):29-38, 2023	和田　秀一

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第135回日本循環器学会九州地方会	アクロス福岡	12/2, 2023	和田　秀一，小川　正浩

〈学会活動〉

1	日本血管外科学会	理事・編集委員	2023	和田　秀一
2	日本心臓血管外科学会	評議員	2023	和田　秀一
3	日本胸部外科学会	評議員	2023	和田　秀一
4	日本外科学会	代議員	2023	和田　秀一
5	General Thoracic and Cardiovascular Surgery Cases（GTCC）	編集委員	2023	和田　秀一

脳神経外科学

〈原著〉

1	Precision Mapping of Thalamic Deep Brain Stimulation Lead Positions Associated With the Microlesion Effect in Tourette Syndrome	Neurosurgery	93(4):875-883, 2023	Morishita T, Sakai Y, Iida H, Yoshimura S, Fujioka S, Oda K, Tanaka S, Abe H.
2	Pooled blood volume measured by final flat-panel detector computed tomography predicts outcome after endovascular thrombectomy for acute ischemic stroke	World Neurosurgery: X	2023, 19:［DOI：https://doi.org/10.1016/j.wnsx.2023.100178］	Kawano D, Fukuda K, Takeshita S, Fukumoto H, Horio Y, Ogata T, Higashi T, Inoue T, Abe H.
3	Impact of Dynamic Change of Meadering of Parallel Artery to the Idiopathic Tarsal Tunnel Syndrome	Neurol Med Chir（Tokyo）	63(4):165-171, 2023	Tajiri T, Kim K, Isu T, Fujihara F, Kitamura T, Takahashi T, Suzuki T, Isobe M, Inoue T
4	前大脳動脈近位部（A1）動脈瘤の臨床的特徴と治療戦略	脳卒中の外科	51(4):292-297, 2023	小林　広昌，吉永進太郎，福本　博順，榎本　年孝，福田　健治，森下　登史，野中　　将，安部　　洋，岩朝　光利，井上　　亨
5	中頭蓋窩・側頭下窩の微小外科解剖と手術	脳神経外科ジャーナル	32(8):488-497, 2023	小林　広昌，安部　　洋
6	当院の脳腫瘍症例における原発性中枢神経系リンパ腫の頻度の推移および予後分類システムの有用性についての検討	福岡大学医学紀要	50(2):57-61, 2023	垰本　僚太，青木光希子，鍋島　一樹，武藤　礼治，榎本　年孝，安部　　洋，濱崎　　慎
7	Long-term outcome after surgery for middle cluneal nerve entrapment neuropathy	Acta Neurochir（Wien）	165(9):2567-2572, 2023	Tajiri T, Kim K, Isu T, Kitamura T, Fujihara F, Matsumoto J, Isobe M, Abe H.

8	重度トゥレット症に対する脳深部刺激療法における現在の課題	機能的脳神経外科	62: 34-40, 2023	森下　登史，安部　　洋
9	Microlesion Effect Induced by Electrode Implantation in the Posteroventral Globus Pallidus Interna for Severe Dystonic Tics	Tremor Other Hyperkinet Mov	14(1):5, 1-5, 2024	Galih Indra Permana, Morishita T, Tanaka H, Iida H, Fujioka S, Abe H.

〈症例報告〉

1	Case report: isolated trochlear nerve palsy associated with posterior cerebral artery aneurysm	Acta Neurochir (Wien)	165(4): 1027-1030, 2023	Yoshinaga T, Fukumoto H, Kawano D, Kobayashi H, Fukuda K, Morishita T, Inoue T, Abe H.
2	バイパス手術で合併症を回避する3-step DuraGen@ method	Clinical & Device Links	Jun, 2023	小林　広昌
3	Repeated coil embolization of traumatic basilar artery pseudoaneurysm accompanied by bilateral traumatic internal carotid artery stenosis following severe head injury in a pediatric patient: A case report and literature review	Surgical Neurology International	14(199): 1-6, 2023	Takeda K, Oda K, Fukumoto H, Kobayashi H, Morishita T, Takemoto K, Iwaasa M, Abe H
4	Presence of intra-aneurysmal thrombi with delayed coil migration after embolization of an aneurysmal subarachnoid hemorrhage: illustrative case	J Neurosurg Case Lessons	5(26): 1-5, 2023	Suzuki K, Oda K, Horio Y, Kawano D, Hirao N, Amamoto T, Kobayashi H, Takemoto K, Morishita T, Abe H.
5	Disappearance of a moyamoya-related distal anterior cerebral artery aneurysm after target bypass revascularization: illustrative case	J Neurosurg Case Lessons	6(3): 1-5, 2023	Kusakabe T, Oda K, Kobayashi H, Kawano D, Yoshinaga S, Fukumoto H, Takemoto K, Morishita T, Abe H.
6	Unique trajectory of transorbital penetration injury determined by the orbital bone anatomy resulting in the minimum neurological deficit:A case report	Interdisciplinary Neurosurgery	33: 1-4, 2023	Kawano D, Horio Y, Morishita T, Kobayashi H, Fukuda K, Iwaasa M, Inoue T, Abe H.
7	下垂体腫瘍術後30年目に大量鼻出血を発症した内頚動脈仮性動脈瘤の１例	脳卒中の外科	51(6): 508-512, 2023	福本　博順，小林　広昌， 廣田　　篤，吉永進太郎， 河野　　大，榎本　年孝， 福田　健治，森下　登史， 竹本光一郎，井上　　亨， 安部　　洋
8	Case Reports: Two Different Onset Types of Chronic Encapsulated Intracerebral Hematoma related to cerebrospinal fluid perfusion identified prior to and following surgery	Interdisciplinary Neurosurgery	36(5): 101945, 2023	Tega J, Suzuki K, Amamoto T, Enomoto T, Kobayashi H, Morishita T (corresponding author), Takemoto K, Kawano Y, Abe H.

〈総説〉

1	領域別解説②　定位・機能	脳神経外科速報	33(3): 308-313, 2023	森下　登史

2	領域別解説③　神経減圧	脳神経外科速報	33(3): 314-318, 2023	小林　広昌
3	領域別解説④　てんかん	脳神経外科速報	33(3): 319-324, 2023	田中　秀明，森下　登史
4	各種疾患によるめまい　脳腫瘍とめまい	臨床と研究	100(11): 1341-1347, 2023	榎本　年孝，安部　　洋
5	第５回症例報告の書き方①	脳神経外科	51(3): 553-557, 2023	森下　登史
6	第６回症例報告の書き方②	脳神経外科	51(4): 745-749, 2023	森下　登史
7	第７回症例報告の書き方③	脳神経外科	51(5): 942-947, 2023	森下　登史
8	第８回原著論文の書き方①	脳神経外科	51(6): 1160-1163, 2023	森下　登史
9	日常診療で遭遇する可能性の高い運動障害	季刊きんむ医	208: 27-30, 2024	森下　登史，安部　　洋

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	Connectomic Analysis of Deep Brain Stimulation Effects	Neurosurgeons As Advocates 2023 （AANS2023）	Los Angeles 04/21-24, 2023	Morishita T.
2	Normative Connectomic Approaches in Deep Brain Stimulation	13th Scientific meeting of Asian Australasian Society for Stereotactic and Functional Neurosurgery	大阪 04/28-29, 2023	Morishita T, Abe H.
3	（招待講演） バイポーライリゲーションで臨む若手脳外科医の脳血管障害手術	第43回日本脳神経外科コングレス総会	大阪 05/18-21, 2023	小林　広昌
4	（招待講演） 脳神経外科診療における痙縮治療：目的と手段そして利点・欠点	第43回日本脳神経外科コングレス総会	大阪 05/18-21, 2023	森下　登史
5	（招待講演） 専攻医に必要な脳波の判読	第43回日本脳神経外科コングレス総会	大阪 05/18-21, 2023	田中　秀明
6	（シンポジウム） 当院における Solitary Fibrous Tumor の臨床病理学的検討	第28回日本脳腫瘍の外科学会	長崎 09/29-30, 2023	榎本　年孝，吉永進太郎， 河野　　大，田中　秀明， 福本　博順，小林　広昌， 竹本光一郎，森下　登史， 安部　　洋
7	HAL treatment for stroke and spasticity	International Conference on Cybernics HAL 2023	Malaysia 10/13, 2023	Morishita T, Abe H.

8	（シンポジウム） 精神神経疾患に対する脳深部刺激療法のフロンティア：トゥレット症とその先へ	日本脳神経外科学会 第82回学術総会	横浜 10/25-27， 2023	森下　登史，安部　　洋
9	（シンポジウム） MVD における「型」にはめる基本手技の統一化	第26回日本脳神経減圧術学会	札幌 02/01， 2024	森下　登史
10	（シンポジウム） トゥレット症に対する脳深部刺激療法の長期予後	第63回日本定位・機能神経外科学会	札幌 02/02-03， 2024	森下　登史
11	（シンポジウム） 振戦に対する定位的熱凝固術：DBS・FUS 時代での再考	第63回日本定位・機能神経外科学会	札幌 02/02-03， 2024	田中　秀明，森下　登史， 吉永進太郎，河野　　大， 福本　博順，榎本　年孝， 小林　広昌，竹本光一郎， 安部　　洋
12	（招待講演） 低侵襲時代に求められる脳卒中の外科手術 ～合併症回避のちょっとした工夫～	第53回日本脳卒中の外科学会 学術集会	横浜 03/07-09， 2024	小林　広昌
13	動脈瘤近位の親動脈に高度血管攣縮を呈した破裂脳動脈瘤に血管内治療を行った２例	第40回 SAH/スパズム・シンポジウム	横浜 03/07-09， 2024	竹本光一郎，河野　　大， 吉永進太郎，田中　秀明， 福本　博順，榎本　年孝， 小林　広昌，森下　登史， 武村　有祐，田尻　崇人， 岩朝　光利，安部　　洋

〈国内研究助成金〉

1	パーキンソン病重症度を示す生体指標の確立による脳深部刺激条件最適化方法開発	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)	2023	森下　登史（代表）
2	計算論モデルと脳神経画像解析によるトゥレット症重症化機序の解明	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)	2023	森下　登史（代表）
3	拡張現実技術を用いたフレームレス定位脳手術装置の開発	日本医療研究開発機構 若手研究者によるスタートアップ課題解決支援事業	2023	森下　登史（代表）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	2023 Neurosurgery Conference In Fukuoka	TKP ガーデンシティ博多	4/5， 2023	安部　　洋
2	第18回九州・山口　ニューロスパイン研究会	博多 JR シティ会議室	4/8， 2023	安部　　洋
3	Neurosurgery Meeting in Fukuoka	大塚製薬福岡支店会議室 （ハイブリッド）	6/2， 2023	安部　　洋
4	神経救急 Conference in 福岡	エーザイ㈱ 福岡コミュニケーション オフィス	6/8， 2023	安部　　洋
5	Neurosurgery expert MTG	WEB	6/30， 2023	安部　　洋
6	ARNI 高血圧 WEB Symposium ～脳卒中における血圧管理 Up To Date～	ホテルニューオータニ博多 3F オリーブ	7/18， 2023	安部　　洋

7	Y&A Fukuoka Neurosurgery Meeting	リファレンス大博多ビル	9/1, 2023	安部　洋
8	福岡 SAH ネットワーク	ホテルニューオータニ博多 3F アイリス	9/15, 2023	安部　洋
9	第２回福岡大学脳神経外科ニューロスパイン研究会	福岡大学医学部本館３階 A 会議室	10/13, 2023	安部　洋
10	Neurosurgery Hands on Workshop in Fukuoka 2023	福岡大学医学部本館３階 A 会議室	10/14, 2023	安部　洋
11	第14回福岡脳神経核医学研究会	WEB	11/9, 2023	安部　洋
12	第19回九州・山口ニューロスパイン研究会	オリエンタルホテル福岡	11/11, 2023	安部　洋
13	脳神経外科手術セミナー2023 in Fukuoka	TKP ガーデンシティ博多新幹線口	12/6, 2023	安部　洋
14	第17回 Fukuoka Neurology and Neurosurgery Seminar	エーザイ㈱福岡コミュニケーションオフィス	12/13, 2023	安部　洋
15	第７回 Fukuoka Kyoto Firm bond Conference	TKP 博多駅前シティセンター	1/27, 2024	安部　洋
16	福岡県てんかんセミナー	エルガーラホール7F 会議室	2/7, 2024	安部　洋
17	Fukuoka Stroke Web Seminar	WEB	2/26, 2024	安部　洋
18	第１回機能神経外科懇話会	WEB	3/13, 2024	森下　登史

〈学会活動〉

1	日本脳神経外科学会	代議員	2023	安部　洋，竹本光一郎，森下　登史，小林　広昌
2	日本脳卒中の外科学会	代議員	2023	安部　洋，小林　広昌
3	日本脳卒中学会	評議員	2023	安部　洋，竹本光一郎，小林　広昌
4	日本微小脳神経外科解剖研究会	代表世話人・幹事	2023	安部　洋，小林　広昌
5	International Rhoton Society	評議員，副会長	2023	安部　洋
6	World Society for Stereotactic and Functional Neurosurgery	理事	2023	森下　登史
7	日本脳神経外科コングレス	理事	2023	森下　登史
8	日本ニューロモデュレーション学会	評議員	2023	森下　登史
9	日本定位・機能神経外科学会	評議員	2023	森下　登史

整形外科学

〈原著〉

1	Efficient mRNA Delivery with Lyophilized Human Serum Albumin-Based Nanobubbles	Nanomaterials (Basel)	2023 Apr 5; 13(7): 1283.	Kida H, Yamasaki Y, Feril LB Jr, Endo H, Itaka K, Tachibana K
2	Effect of plantar fascia-specific stretching and Achilles tendon stretching on shear wave elasticity of the plantar fascia in healthy subjects.	Foot Ankle Surg.	2023 Apr; 29(3): 208-212.	Sugino Y, Yoshimura I, Hagio T, Ishimatsu T, Nagatomo M, Yamamoto T.
3	Biomechanical Effects of Bone Quality and Implant Design on Femoral Damage Mechanism in Total Hip Arthroplasty	Int. J. of Orth.	2023 May 8; 10(1): 1721-1729	Izmin A, Todo M, Yamamoto T.
4	Efficacy of bone marrow stimulation for arthroscopic knotless suture bridge rotator cuff repair: a prospective randomized controlled trial.	J Shoulder Elbow Surg.	2023 May; 32(5): 909-916.	Shibata T, Izaki T, Miyake S, Shibata Y, Yamamoto T.
5	The reproducibility of MTV and TLG of soft tissue tumors calculated by FDG-PET: Comparison between the lower limit by the fixed value SUV 2.5 and that value by 30% of SUVmax.	Jpn J Radiol.	2023 May; 41(5): 531-540.	Iwasa H, Nagamachi S, Nakayama S, Yamamoto T, Yoshimitsu K.
6	Factors Affecting Home Discharge of Older Adults with Cervical Spinal Cord Injury in Japan Regional Population.	Spine Surg Relat Res.	2023 Jun 9; 7(6): 482-487.	Sasaki S, Hayashi T, Masuda M, Kawano O, Yamamoto T, Maeda T.
7	Biomechanical Analysis of Damage Formation in Total Hip Arthroplasty under Falling Conditions	Int. J. of Orth.	2023 June 28; 10(2): 1735-1742	Izmin A, Todo M, Yamamoto T.
8	Prognostic factors and clinical features in metacarpophalangeal joint hyperextension after ligament reconstruction with trapeziectomy: A retrospective cohort study.	J Orthop Sci.	2023 Jul; 28(4): 789-794.	Tanaka H, Soejima O, Muraoka K, Tanaka Y, Yamamoto T.
9	Suspension arthroplasty using the palmaris longus tendon with a suture button for thumb trapeziometacarpal arthritis: a retrospective observational study.	J Orthop Sci.	2023 Jul; 28(4): 795-801.	Tanaka H, Muraoka K, Tanaka Y, Yamamoto T.
10	Sequential Intraoperative Evaluation of Rotational Stability of Cementless Stem in Total Hip Arthroplasty: A Broach-Based Study.	J Clin Med.	2023 Aug 22; 12(17): 5444.	Kinoshita S, Kinoshita K, Sakamoto T, Seo H, Suzuki M, Yamamoto T.
11	Pathophysiology of abnormal compensation ability of the subtalar joint in the varus knee.	J Orthop Sci.	2023 Oct 16: S0949-2658(23) 00268-3.	Miyazaki K, Maeyama A, Matsunaga T, Ishimatsu T, Yamamoto T.
12	Negative Effects of Diffuse Idiopathic Skeletal Hyperostosis on Bone Fusion after Transforaminal Lumbar Interbody Fusion.	Asian Spine J.	2023 Oct; 17(5): 818-825.	Hagihara S, Ohta H, Tanaka J, Shiokawa T, Kida Y, Iguchi Y, Tatsumi M, Shibata R, Tahara K, Shibata T, Sanada K, Yamamoto T.
13	Passive Ankle Plantarflexion Position and Skin Surface Blood Flow Adjacent to the Achilles Tendon.	Foot Ankle Int.	2023 Oct; 44(10): 1030-1033.	Minokawa S, Yoshimura I, Hagio T, Ishimatsu T, Sugino Y, Izaki T.

14	Bone formation of the coracoid bone graft after the Bristow procedure assessed using three-dimensional computed tomography.	J Orthop Sci.	2023 Nov 28: S0949-2658(23) 00324-X.	Minokawa S, Shibata Y, Shibata T, Kosaka H, Izaki T.
15	Radiologic foot alignment and clinical outcome after percutaneous drilling for symptomatic accessory navicular in skeletally immature children.	Medicine (Baltimore).	2023 Dec 22; 102(51): e36643.	Minokawa S, Yoshimura I, Kanazawa K, Hagio T, Ishimatsu T, Sugino Y, Shibata Y, Izaki T, Yamamoto T.
16	Real-World Evidence for Risk Factors of Bruises and Fractures from Falls in Patients with Overactive Bladder: A Medical Record Analysis.	Int J Clin Pract.	2023 Dec 27; 2023: 3701823.	Miyajima S, Omaru T, Ishii T, Arima H, Shibata Y, Izaki T, Haga N.
17	Intracranial Gene Delivery Mediated by Albumin-Based Nanobubbles and Low-Frequency Ultrasound	Nanomaterials (Basel)	2024 Jan 30; 14(3): 285.	Koga T, Kida H, Yamasaki Y, Feril LB Jr, Endo H, Itaka K, Abe H, Tachibana K
18	Ankle bone morphology affects the size of non-trauma related osteochondral lesions of the talus in skeletally immature children.	J Orthop Sci.	2024 Jan; 29(1): 224-229.	Ishimatsu T, Yoshimura I, Kanazawa K, Hagio T, Minokawa S, Nagatomo M, Sugino Y, Yamamoto T.
19	Soft Tissue Stabilization of the Hinge Position for Lateral Closing-Wedge Distal Femoral Osteotomy: An Anatomic Study.	Orthop J Sports Med.	2024 Mar 18; 12(3): 2325967 1241233014.	Oda T, Maeyama A, Ishimatsu T, Tachibana K, Yoshimitsu K, Yamamoto T.
20	Evidence-Based Treatment Algorithm for Freiberg Disease.	Cartilage	2024 Mar; 15(1): 58-64.	Yoshimura I, Takao M, Wagner E, Stufkens S, Dahmen J, Kerkhoffs GMMJ, Glazebrook M.
21	The role of torsional stress in the development of subchondral insufficiency fracture of the femoral head: A finite element model analysis.	J Orthop Sci.	2024 Mar; 29(2): 574-584.	Fujita J, Kinoshita K, Sakamoto T, Seo H, Doi K, Yamamoto T.
22	Side-to-side variability in the femoral neck anteversion angle: A study of the Japanese population with osteonecrosis of the femoral head.	J Orthop Sci.	2024 Mar; 29(2): 589-595.	Suzuki M, Kinoshita K, Sakamoto T, Seo H, Doi K, Yoshimura I, Yamamoto T.
23	股関節骨切り術レジストリーの pilot study 中間報告（第1報）	Hip Joint	2023, 49(1): 470-474	高尾　正樹, 菅野　伸彦, 稲葉　　裕, 加畑　多文, 兼氏　　歩, 帖佐　悦男, 中島　康晴, 三谷　　茂, 安永　裕司, 山本　卓明
24	股関節形成不全患者の骨盤 X 線撮影肢位が骨頭被覆と寛骨臼・骨頭の位置関係に及ぼす影響	Hip Joint	2023, 49(2): 671-675	古賀　幹朗, 北村　健二, 藤井　政徳, 山口　亮介, 佐藤　太志, 川原　慎也, 濱井　　敏, 本村　悟朗, 山本　卓明, 中島　康晴
25	下腿に皮疹を伴う足関節炎	九州リウマチ	2023, 43(2): 107-113	古賀　幹朗, 前山　　彰, 山﨑裕太郎, 萩尾　友宣, 柴田　光史, 小田　大嘉, 氷室　尚子, 三宅　勝久, 山本　卓明

26	関節リウマチの外反母趾変形に対する DLMO の治療成績	九州リウマチ	2023, 43(1): 35-39	萩尾　友宣, 前山　　彰, 吉村　一朗, 村岡　邦秀, 柴田　光史, 山﨑裕太郎, 山本　卓明
27	小児新鮮 Monteggia 脱臼骨折の治療経験	骨折	2023, 45(2): 569-573	中村　厚彦, 稲光　秀明, 尾上　英俊
28	当院における外側型変形性膝関節症に対する大腿骨遠位内反閉鎖式骨切り術の短期治療成績の検討	整形外科と災害外科	2023, 72(1): 98-100	大島由貴子, 花田　弘文, 石松　哲郎, 野村　耕平, 阿南　亨弥, 千々岩芳朗, 藤原　　紘, 山口　史彦, 久保　勝裕, 藤原　　明, 原　　道也
29	大腿骨転子部骨折に対し術中にラグスクリューのスライディングをロックした症例の検討	整形外科と災害外科	2023, 72(2): 247-251	倉光　正憲, 井田　敬大, ファン・ジョージ, 森本　浩之, 山崎　　慎
30	ACL 再建術と Open wedge HTO を同時に施行した症例の治療成績	整形外科と災害外科	2023, 72(3): 351-356	竹山　文徳, 花田　弘文, 杉　　崇, 野村　耕平, 相良　智之, 大島由貴子, 山口　史彦, 久保　勝裕, 藤原　　明, 原　　道也
31	Double level osteotomy における脛骨側の骨切りについての検討	整形外科と災害外科	2023, 72(3): 357-359	杉　　崇, 花田　弘文, 藤原　　明, 大島由貴子, 相良　智之, 野村　耕平, 竹山　文徳, 山口　史彦, 久保　勝裕, 原　　道也
32	内側開大式脛骨粗面下骨切り術の AP スクリューにロッキングスクリューを用いた際の影響	整形外科と災害外科	2023, 72(3): 365-367	相良　智之, 花田　弘文, 藤原　　明, 山口　史彦, 大島由貴子, 野村　耕平, 竹山　文徳, 杉　　崇, 久保　勝裕, 原　　道也
33	高位脛骨骨切り術後の足部アーチへの影響	整形外科と災害外科	2023, 72(3): 373-376	篠原　由紀, 松永　大樹, 工藤　悠貴, 中山　鎭秀, 石松　哲郎, 前山　　彰, 山本　卓明
34	肥満症例に対する前方および前外側アプローチ人工股関節全置換術後の周術期合併症	整形外科と災害外科	2023, 72(3): 415-417	恵濃　大輔, 木下　浩一, 瀬尾　　哉, 松永　大樹, 土肥憲一郎, 山本　卓明
35	3D-porous SQRUM Cup を使用した人工股関節全置換術の中期 X 線学的評価	整形外科と災害外科	2023, 72(3): 427-429	春島慎之介, 瀬尾　　哉, 木下　浩一, 松永　大樹, 土肥憲一郎, 山本　卓明
36	関節リウマチにおける人工膝関節全置換術前後での距骨下関節代償能の検討	整形外科と災害外科	2023, 72(3): 437-440	田原健太郎, 前山　　彰, 山﨑裕太郎, 宮﨑弘太郎, 柴田　光史, 松永　大樹, 中山　鎭秀, 石松　哲郎, 村岡　邦秀, 萩尾　友宣, 山本　卓明
37	人工膝関節置換術が変形性足関節症のアライメントに及ぼす影響	整形外科と災害外科	2023, 72(3): 459-461	田代　勇人, 石松　哲郎, 宮崎弘太郎, 山崎裕太郎, 中山　鎭秀, 松永　大樹, 前山　　彰, 山本　卓明

38	DLMO における K-wire の至適挿入位置の検討	整形外科と災害外科	2023, 72(3): 488-491	片岡　佑太, 萩尾　友宣, 吉村　一朗, 石松　哲郎, 杉野　裕記, 深川　　遼, 朝長　星哉, 山本　卓明
39	肩甲骨関節窩前縁骨折に対する鏡視下骨接合術の治療成績	整形外科と災害外科	2023, 72(3): 505-508	齋藤　文寿, 三宅　　智, 柴田　光史, 小林　駿介, 松永　　慶, 伊崎　輝昌, 山本　卓明
40	橈骨遠位端骨折に合併する尺骨遠位端骨折の治療経験	整形外科と災害外科	2023, 72(3): 536-539	坪根　遼平, 廣田　高志, 村岡　邦秀, 三宅　　智, 田中　秀明, 川神　　智, 山本　卓明
41	非脂肪性軟部腫瘍の良悪性鑑別における超音波検査の有用性	整形外科と災害外科	2023, 72(4): 597-602	大串　秀仁, 中山　鎮秀, 山本　卓明
42	高齢者の外傷性腱板断裂と非外傷性腱板断裂に対する腱板修復術の臨床成績の比較	整形外科と災害外科	2023, 72(4): 603-606	岡田　宗大, 柴田　光史, 三宅　　智, 小林　駿介, 松永　　慶, 蓑川　　創, 柴田　陽三, 伊崎　輝昌, 山本　卓明
43	低い張力下での鏡視下腱板修復術の治療成績	整形外科と災害外科	2023, 72(4): 607-610	橋本貴美子, 三宅　　智, 柴田　光史, 小林　駿介, 松永　　慶, 山本　卓明
44	術中に大転子 Tip fracture を生じた仰臥位人工股関節全置換術の術後成績	整形外科と災害外科	2023, 72(4): 683-685	中島　龍馬, 木下　浩一, 瀬尾　　哉, 松永　大樹, 土肥憲一郎, 山本　卓明
45	膝関節軽度屈曲位での外側傍膝蓋進入により髄内釘挿入を行った脛骨骨折３症例の治療経験	整形外科と災害外科	2023, 72(4): 722-725	大森　治希, 塚本　伸章, 高村　優希, 清水　黎玖, 土居　雄太, 眞島　　新, 平林　健一, 松下　　優, 馬場　　覚, 小宮　紀宏, 林田　光正, 前　　隆男
46	軸椎歯突起後方偽腫瘍の治療経験	整形外科と災害外科	2023, 72(4): 758-760	小川宗一郎, 塩川　晃章, 田中　　潤, 柴田　達也, 眞田　京一, 萩原　秀祐, 山本　卓明
47	頸椎椎弓形成術におけるヒトトロンビン含有ゼラチン使用吸収性局所止血剤の有効性の評価	整形外科と災害外科	2023, 72(4): 761-763	野中祥太朗, 田中　　潤, 萩原　秀祐, 塩川　晃章, 柴田　達也, 眞田　京一, 山本　卓明
48	腰部脊柱管狭窄症に対する腰椎椎弓切除術（除圧術）の腰痛改善についての検討	整形外科と災害外科	2023, 72(4): 766-769	麻生　大貴, 柴田　達也, 田中　　潤, 塩川　晃章, 眞田　京一, 萩原　秀祐, 山本　卓明
49	Hansson DC Nail を用いた大腿骨転子部骨折の治療経験	整形外科と災害外科	2024, 73(1): 32-35	小禄　純平, 衣笠　清人, 松浦　一平, 篠崎智香子
50	橈骨遠位端骨折後にビスホスホネートを投与した閉経後女性における二次骨折発生危険因子の検討	整形外科と災害外科	2024, 73(2): 196-199	浦田　健児, 大茂　壽久, 樋高　由久, 下河邊久雄, 濱田　賢治, 大友　　一, 清水　建詞, 田原　尚直

51	長母指伸筋腱皮下断裂をきたした橈骨遠位端骨折の画像所見	日本手外科学会雑誌	2024, 40(5): 475-478	橋野　悠也, 飯田　博幸

〈症例報告〉

1	Rupture of External Iliac Artery during Total Hip Arthroplasty after Rotational Acetabular Osteotomy: A Case Report.	J Orthop Case Rep.	2023 Apr; 13(4): 41-44.	Suzuki M, Mikami T.
2	A case of extrapulmonary tuberculosis after use of baricitinib.	Mod Rheumatol Case Rep.	2023 Jun 19; 7(2): 364-367.	Shimada T, Maeyama A, Hagio T, Muraoka K, Shibata T, Yamasaki Y, Oda T, Hamasaki M, Yamamoto T.
3	A case of total hip arthroplasty for nonunion after femoral trochanteric fracture surgery with complete breakage of only the compression screw of the InterTAN nail.	Trauma Case Rep.	2023 Sep 23; 48: 100939.	Yoshimura F, Kinoshita K, Seo H, Matsunaga T, Doi K, Yamamoto T.
4	Arthroscopic ankle arthrodesis in two alkaptonuria patients.	BMJ Case Rep.	2023 Oct 25; 16(10): e254300.	Tomonaga S, Yoshimura I, Kanazawa K, Yamamoto T.
5	Lateral atlantoaxial joint arthritis in a patient with alkaptonuria.	J Orthop Sci.	2023 Nov; 28(6): 1467-1469.	Shibata R, Tanaka J, Shiokawa T, Yamamoto T.
6	Perineural cyst with intracystic cerebrospinal fluid leakage by traction of nerve root -a case report.	J Orthop Sci.	2023 Nov; 28(6): 1561-1565.	Hagihara S, Ohta H, Tanaka J, Shiokawa T, Matsumoto Y, Kida Y, Iguchi Y, Tatsumi M, Tahara K, Shibata T, Sanada K, Kida H, Takemitsu Y, Yamamoto T.
7	Disseminated gonococcal infection of the shoulder mimicking rheumatoid arthritis.	Shoulder Elbow.	2023 Dec; 15(6): 658-663.	Kobayashi S, Izaki T, Miyake S, Arashiro Y, Yamamoto T.
8	Usefulness of Sarilumab in Patients with Rheumatoid Arthritis after Regression of Lymphoproliferative Disorders	Case Reports in Rheumatology Open Access	Volume 2023 Article ID 5780733	Tada Y, Maeyama A, Hagio T, Sakai M, Maruyama A, Yamamoto T.
9	Vertical Subluxation Caused by Infection Around the Odontoid Process: A Case Report.	J Orthop Case Rep.	2024 Jan; 14(1): 98-102.	Sanada K, Tanaka J, Yamamoto T.
10	Adult-onset tethered cord syndrome with a retained medullary cord due to adhesive arachnoiditis	Interdisciplinary Neurosurgery	2024, Volume 36, 101960	Yoshimura A, Uchikado H, Iguchi Y, Fujimura, S Ohta H.
11	疾走中に生じた坐骨結節裂離骨折の１例	九州・山口スポーツ医・科学研究会誌	2023, 34: 17-20	木下　浩一, 恵濃　大輔, 瀬尾　　哉, 松永　大樹, 土肥憲一郎, 藤田　　潤, 吉村　郁弘, 山本　卓明
12	ソフトボールのジャンプ着地で生じた股関節後方脱臼骨折の１例	九州・山口スポーツ医・科学研究会誌	2023, 34: 21-24	木下　浩一, 立花　　悠, 瀬尾　　哉, 松永　大樹, 土肥憲一郎, 藤田　　潤, 吉村　郁弘, 山本　卓明

13	仰臥位前外側進入人工股関節全置換術が行われジャズダンスに復帰した１例	九州・山口スポーツ医・科学研究会誌	2023, 34: 25-27	木下　浩一，森本　浩之， 吉村　陽貴，瀬尾　　哉， 松永　大樹，土肥憲一郎， 藤田　　潤，吉村　郁弘， 山本　卓明
14	上腕骨近位端用プレートを用いて脛踵間固定術を施行した１例	整形外科と災害外科	2023, 72(2): 179-182	蓑川　　創，高原　真穂， 野村　智洋，坂本　哲哉， 小阪　英智，柴田　陽三， 伊崎　輝昌
15	橈骨急性塑性変形を伴った小児 Monteggia 脱臼骨折の１例	整形外科と災害外科	2023, 72(2): 225-227	市川　　賢，中村　厚彦， 稲光　秀明，秀島　義章， 重田　幸一，大串美紗子， 深川　　遼，尾上　英俊
16	人工膝関節置換術後に高度の外反不安定性に起因する loosening のため再置換術を行った２症例	整形外科と災害外科	2023, 72(3): 462-465	生田　拓也，小笠原正宣， 壷井　広大，佐藤　翔太， 長田　宗大
17	陳旧性肩関節脱臼骨折に対し観血的治療を行なった一例	整形外科と災害外科	2023, 72(3): 509-512	清水　黎玖，小宮　紀宏， 高村　優希，大森　治希， 土居　雄太，眞島　　新， 平林　健一，松下　　優， 馬場　　覚，塚本　伸章， 林田　光正，前　　隆男
18	脊椎硬膜外海綿状血管腫の２例	整形外科と災害外科	2023, 72(3): 582-586	山口　真平，塩川　晃章， 田中　　潤，柴田　達也， 眞田　京一，萩原　秀祐， 山本　卓明
19	近位手根列切除を行った変形性手関節症の３例	整形外科と災害外科	2023, 72(4): 655-658	川神　　智，村岡　邦秀， 廣田　高志，田中　秀明， 山本　卓明
20	骨盤部骨髄炎を合併した小児化膿性股関節炎の１例	整形外科と災害外科	2023, 72(4): 833-835	立花　　悠，中村　厚彦， 稲光　秀明，矢野　竜大， 大串美紗子，倉光　正憲， 松元健太郎，尾上　英俊
21	頸椎除圧固定術後に両側 C5麻痺をきたした１例	整形外科と災害外科	2023, 72(4): 836-840	谷口　善政，馬場　　覚， 林田　光正，塚本　伸章， 小宮　紀宏，園田　裕樹， 藤澤　徳仁，吉村　郁弘， 古賀　源基，前　　隆男
22	手根管開放術を契機に診断された多発性骨髄腫の１例	整形外科と災害外科	2024, 73(1): 68-70	飯田倫太郎，廣田　高志， 村岡　邦秀，田中　秀明， 山本　卓明
23	距骨下関節脱臼骨折の１例	整形外科と災害外科	2024, 73(1): 174-177	古賀　幹朗，蓑川　　創， 野村　智洋，坂本　哲哉， 小阪　英智，柴田　陽三， 伊崎　輝昌
24	小児後十字靱帯付着部裂離骨折に対しアンカーを用い固定した１例	整形外科と災害外科	2024, 73(2): 262-265	上田　章貴，諸岡　孝明， 木村　岳弘，石川　貴晴， 櫻木　高秀
25	距骨下脱臼の１例	整形外科と災害外科	2024, 73(2): 325-328	市川　　賢，金澤　和貴， 酒井　政彦，秋穂　俊輔， 泉　　秀樹

26	明らかな Gd 造影効果を認めず嚢胞病変との識別を要した硬膜内神経鞘腫の１例	整形外科と災害外科	2024, 73(2)337-341	今田　優，清水　建詞， 大友　一，森光　洋介， 濱田　賢治，田原　尚直

〈総説〉

1	Spindle Cell Lipoma and Pleomorphic Lipoma: An Update and Review.	Cancer Diagn Progn.	2023 May 3; 3(3): 282-290.	Ohshima Y, Nishio J, Nakayama S, Koga K, Aoki M, Yamamoto T.
2	Biology and Management of High-Grade Myxofibrosarcoma: State of the Art and Future Perspectives.	Diagnostics (Basel).	2023 Sep 22; 13(19): 3022.	Nishio J, Nakayama S.
3	Biology and Management of Deep-seated Atypical Lipomatous Tumor of the Extremities.	Anticancer Res.	2023 Oct; 43(10): 4295-4301.	Nishio J, Nakayama S, Chijiiwa Y, Aoki M.
4	Recent Advances in the Diagnosis, Pathogenesis, and Management of Myxoinflammatory Fibroblastic Sarcoma.	Int J Mol Sci.	2024 Jan 17; 25(2): 1127.	Nishio J, Nakayama S, Aoki M.
5	Giant Cell Tumor of the Acromion: Case Report and Literature Review.	In Vivo.	2024 Jan-Feb; 38(1): 506-510.	Sano J, Chijiiwa Y, Nishio J.
6	【急性期における疾患別作業療法】（第３章） 急性期の運動器疾患の作業療法　肺移植後の作業療法実践	作業療法ジャーナル	2023, 57(8): 908-914	百武　光一，齊田　和哉， 高島　千敬，井上　雅史， 鎌田　聡，白石　武史
7	【腱板断裂の治療戦略】 一次修復を促進させる治療　腱板断裂修復術における Bone Marrow Stimulation 適応と限界	臨床整形外科	2023, 58(10): 1211-1215	柴田　光史，伊﨑　輝昌
8	特集　骨粗鬆症と運動器疾患 股関節疾患と骨粗鬆症	整形・災害外科	2023, 66: 289-293	山本　卓明
9	変形性足関節症に対する鏡視下デブリドマン	整形外科	2023, 74(6): 709-711	萩尾　友宣，吉村　一朗

〈著書〉

1	病理と臨床 【非腫瘍性骨関節病変】骨壊死と軟骨下脆弱性骨折	文光堂	2023, 41(8): 821-826	山本　卓明
2	臨床整形外科 【腱板断裂の治療戦略】一次修復を促進させる治療　低い修復張力下での肩鏡視下腱板修復術　Ignore Anatomy, Avoid Tension	医学書院	2023, 58(10): 1199-1203	三宅　智
3	新 OS NEXUS 股関節の再建手術 Ⅰ骨切り術 寛骨臼形成不全に対する Curved periacetabular osteotomy	メジカルビュー社	2023, 8: 10-19	木下　浩一
4	最新主要文献とガイドラインでみる 整形外科学レビュー　2023-'24 Ⅲ章　下肢　3．足関節・足 距骨骨軟骨損傷	総合医学社	2023-'24, 231-235	吉村　一朗

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	招待講演 Session Ⅶ CHILDHOOD PATHOLOGIES The rationale and results of transtrochanteric rotational osteotomy	HIP SYMPOSIUM BERN 2023	Bern, Swizerland 2023/4/19-22	Takuaki Yamamoto
2	招待講演 Transtrochanteric rotational asteotomy － essential surgical steps －	International Orthopaedic Symposium “Stanford Reunion in Janpan 2023”	Fukuoka Ctiy 2023/5/5	Takuaki Yamamoto
3	招待講演 Pelvic Osteotomy Incidence and clinical outcome of lateral femoral cutaneous nerve injury after periacetabular osteotomy: A prospective over 3-year follow-up study	International Hip Society 2023 Closed Meeting	Boston, MA, USA 2023/5/17-20	Takuaki Yamamoto
4	招待講演 Pathology in musculoskeletal disoders	CMRI Tumor International Symposium	Kansas City, MO, USA 2023/6/16-18	Takuaki Yamamoto
5	教育研修講演 寛骨臼形成不全の診断と治療	第52回福岡県整形外科医会学術集会・研修会	福岡市 2023/7/22	木下　浩一
6	教育研修講演 関節リウマチに対する社会保障	第39回日本整形外科学会リウマチ研修会	2023/7/23 （オンライン開催）	前山　　彰
7	教育研修講演 有痛性外脛骨の治療	第15回日本足の外科学会教育研修会	高槻市 2023/8/5	吉村　一朗
8	Adult-onset chronic recurrent multifocal osteomyelitis of the femoral head: A case report	MSK 2023 Global Musculoskeletal Societies Joint Meeting	London, England 2023/10/8-13	Kenichiro Doi, Fumihiro Yoshimura, Takuaki Yamamoto
9	50年記念シンポジウム２ 日本で生まれた骨切り術：誕生から未来へ 大腿骨頭回転骨切り術の継承と発展	第50回日本股関節学会学術集会	福岡市 2023/10/27-28	山本　卓明
10	シンポジウム４：PAO の手技と進化 Curved periacetabular osteotomy －手技と近年の工夫－	第50回日本股関節学会学術集会	福岡市 2023/10/27-28	木下　浩一，瀬尾　　哉， 松永　大樹，秀島　義章， 吉村　郁弘，山本　卓明
11	シンポジウム４ アンメットニーズに応える再生 広範囲軟骨欠損に対する高位脛骨骨切り術併用 ACI の有用性	第１回日本膝関節学会	横浜市 2023/12/8-9	前山　　彰
12	スポンサードシンポジウム 「膝関節フォーラム」 内側半月板後根損傷の治療 症例討論	第１回日本膝関節学会	横浜市 2023/12/8-9	前山　　彰
13	Risk factor for discontinuity at the pubic osteotomy site three years after periacetabular osteotomy	ORS 2024 annual meeting	Long Beach, CA, USA 2024/2/2-6	Koichi Kinoshita, Jun Fujita, Hajime Seo, Taiki Matsunaga, Kenichiro Doi, Yoshiaki Hideshima, Fumihiro Yoshimura, Takuaki Yamamoto
14	Motor-Evoked Potential Analysis of Peroneal Nerve Status during Closed Wedge High Tibial Osteotomy/	AAOS 2024 Annual Meeting	San Francisco, USA 2024/2/12-16	Ishimatsu T, Maeyama A, Matsunaga T, Yamamoto T.

15	シンポジウム20 二次性変形性股関節症	第54回日本人工関節学会	京都府 2024/2/23-24	山本　卓明

〈国内研究助成金〉

1	MRI の多段面再構成像を用いた C5麻痺発生メカニズムの解明	科研費：基盤研究 C	2023年度～ 2025年度	柴田　達也（代表）
2	一酸化炭素封入ウルトラファインバブルによる革新的なバイオフィルム形成制御法の研究開発	福岡大学若手・女性研究基盤構築	2023年度	山﨑裕太郎（代表）
3	腱板断端の血流は腱板修復後の腱の癒合度に影響を与えるか？	令和５年度福岡大学推奨研究プロジェクト 公的研究費獲得支援Ⅱ	2023年度	柴田　光史
4	寛骨臼移動術後の骨切り部の早期癒合を目的とした検討	アカデミック コントリビューション プログラム	2023年度	木下　浩一
5	腰部椎間孔狭窄における多角的評価：MRI 画像所見と術中電気生理的評価	令和５年度福岡大学 推奨研究プロジェクト 公的研究費獲得支援Ⅱ	2023年度	田中　　潤
6	有限要素法を用いた特発性膝骨壊死における軟骨下骨折の発生メカニズムの解明	日本学術振興会 若手研究者海外挑戦 プログラム	2023年度	土肥憲一郎（代表者）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第22回福岡整形外科研究会（FOC）	福岡市/ハイブリッド	2023/5/27	山本　卓明
2	第52回福岡県整形外科医会学術集会・研修会	福岡市	2023/7/22	山本　卓明
3	福岡若手リウマチ医のためのクロストークセミナー	福岡市	2023/8/23	前山　　彰
4	第137回福岡リウマチ懇話会プログラム	福岡市	2023/8/25	山本　卓明
5	第44回福岡運動器カンファレンス（FLOC）	福岡市/web 配信	2023/9/8	山本　卓明
6	第54回日本リハビリテーション医学会 九州地方会	福岡市	2023/9/10	山本　卓明
7	第51回福岡大学医学部整形外科学教室 開講記念会	福岡市	2023/9/23	山本　卓明
8	第28回 Fukuoka Knee Society	福岡市	2023/10/21	山本　卓明
9	第397回福岡臨床整形外科医会教育研修会	福岡市	2023/11/18	山本　卓明
10	第22回七隈整形外科懇話会	福岡市/web	2023/12/8	山本　卓明
11	第35回九州・山口スポーツ医・科学研究会	福岡市	2023/12/9	山本　卓明
12	第76回七隈ハンドカンファレンス	福岡市	2023/12/15	廣田　高志
13	第23回福岡整形外科研究会（FOC）	福岡市	2024/1/20	山本　卓明
14	股関節フォーラム	福岡市	2024/2/3	松永　大樹
15	福岡骨粗鬆症講演会	福岡市	2024/2/9	山本　卓明

〈長期海外研修〉

1	The role of shear force in the development of spontaneous osteonecrosis of the knee: patient-specific three-dimensional finite element analysis	アメリカ，University of California, San Diego, Radiology	2023.4～2024.7	土肥憲一郎

〈学会活動〉

1	公益社団法人日本整形外科学会	代議員	2023	山本　卓明，吉村　一朗
2	公益社団法人日本整形外科学会	学術研究企画委員会委員 特発性大腿骨頭壊死症診療ガイドライン策定委員会 診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業 福岡地区解剖立会人	2023	山本　卓明
3	公益社団法人日本整形外科学会	専門医資格認定委員	2023	吉村　一朗
4	公益社団法人日本整形外科学会	リウマチ委員会委員	2023	前山　　彰
5	一般社団法人日本股関節学会	副理事長 国際委員会委員 股関節温存治療レジストリー委員 学会賞選考委員会委員	2023	山本　卓明
6	一般社団法人日本股関節学会	評議員	2023	山本　卓明，木下　浩一
7	一般社団法人日本関節病学会	理事 評議員 広報委員会委員長	2023	山本　卓明
8	公益財団法人日本リハビリテーション医学会	代議員	2023	山本　卓明，鎌田　　聡
9	一般社団法人日本リウマチ学会	評議員	2023	山本　卓明，前山　　彰
10	西日本整形・災害外科学会	理事 評議員	2023	山本　卓明
11	西日本整形・災害外科学会	編集委員	2023	山本　卓明，前山　　彰
12	日本画像医学会	評議員	2023	山本　卓明
13	股 Osteotomy を語る会	世話人	2023	山本　卓明
14	公益財団法人整形災害外科学研究助成財団	選考委員会委員	2023	山本　卓明
15	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	専門委員	2023	山本　卓明
16	日本リハビリテーション医学会九州地方会	幹事	2023	山本　卓明，鎌田　　聡
17	福岡市医師会	勤務医会監事 医師連盟執行委員 補欠代議員	2023	山本　卓明
18	Clinical in Orthopedics Surgery	Editorial Board	2023	山本　卓明
19	福岡県集団検診協議会	骨粗鬆症検診部会委員会委員	2023	山本　卓明
20	福岡県整形外科医会	理事	2023	山本　卓明
21	福岡労働局	労災診療指導委員会委員	2023	山本　卓明

22	福岡地方裁判所	医療関係専門委員部会員	2023	山本　卓明
23	臨床整形外科	編集委員	2023	山本　卓明
24	福岡市	福岡市 MICE アンバサダー	2023	山本　卓明
25	日本足の外科学会	理事 学術委員会　担当理事 学会誌　査読委員	2023	吉村　一朗
26	Journal of Orthopaedic Science	Editorial Board	2023	吉村　一朗
27	九州足の外科研究会	幹事	2023	吉村　一朗
28	第97回日本整形外科学会学術集会	査読委員	2023	吉村　一朗
29	日本靴医学会	評議員	2023	吉村　一朗
30	一般社団法人日本スポーツ整形外科学会	代議員	2023	吉村　一朗，前山　　彰， 石松　哲郎
31	一般社団法人日本スポーツ整形外科学会	2023査読委員	2023	吉村　一朗
32	福岡足の外科カンファレンス	代表世話人	2023	吉村　一朗
33	日本膝関節学会	評議員	2023	前山　　彰，石松　哲郎
34	第96回日本整形外科学会学術総会	抄録査読委員	2023	前山　　彰
35	日本 Knee Osteotomy and Joint Preservation 研究会	幹事	2023	前山　　彰
36	九州膝関節研究会	幹事	2023	前山　　彰
37	九州リウマチ学会	運営委員会	2023	前山　　彰
38	膝関節フォーラム	世話人	2023	前山　　彰
39	第137回福岡リウマチ懇話会プログラム	世話人	2023	前山　　彰
40	福岡生活習慣病運動療法研究会	世話人	2023	前山　　彰
41	福岡県専門研修プログラム委員会	調整委員	2023	前山　　彰
42	第68回日本リウマチ学会総会・学術集会	関節リウマチの治療： 生物学的製剤／ biological DMARDs for RA treatment 査読委員	2023	前山　　彰
43	九州 Knee Osteotomy 研究会	世話人	2023	前山　　彰
44	Asia-Pacific Journal of Sports Medicine, Arthroscopy, Rehabilitation and Technology（AP-SMART）Editorial Board	Editorial Board	2023	前山　　彰
45	日本急性期リハビリテーション医学会	代議員	2023	鎌田　　聡
46	九州 MISt（最小侵襲脊椎治療学会）	世話人	2023	田中　　潤
47	脊椎フォーラム	世話人	2023	田中　　潤
48	西日本脊椎研究会	世話人	2023	田中　　潤
49	一般社団法人日本肩関節学会	評議員	2023	三宅　　智

〈研究に関係した賞〉

1	最優秀演題賞 翻転腱板断裂に対する low tension triple-row 法の治療成績	第51回福岡大学医学部 整形外科学教室開講記念会	2023	河浪　徳志，三宅　　智， 柴田　光史，小林　駿介， 松永　　慶，畑　　直文， 山本　卓明
2	学術奨励賞 Prognostic Factors of Pulmonary Metastasectomy for Soft Tissue Sarcomas Arising in the TrunkWall and Extremities	第２回福岡大学医学部 整形外科学教室同門会	2023	中山　鎭秀
3	学術奨励賞 Rate of Return to Work After Periacetabular Osteotomy and Its Influencing Factors	第２回福岡大学医学部 整形外科学教室同門会	2023	藤田　　潤
4	優秀演題賞 選別された外傷性肩関節前方不安定症患者に対する鏡視下バンカート修復術の治療成績	第51回福岡大学医学部 整形外科学教室開講記念会	2023	樫田　祐輔，三宅　　智， 柴田　光史，小林　駿介， 松永　　慶，畑　　直文， 山本　卓明
5	優秀演題賞 コンタクトスポーツアスリートおける烏口突起移行術の治療成績	第51回福岡大学医学部 整形外科学教室開講記念会	2023	廣田　　登，蓑川　　創， 柴田　陽三，野村　智洋， 坂本　哲哉，小阪　英智， 伊﨑　輝昌，山本　卓明
6	優秀演題賞 全人工膝関節術後冠状面アライメントと術後臨床成績の関連	第51回福岡大学医学部 整形外科学教室開講記念会	2023	五島漱志朗，前山　　彰， 原　　純也，石松　哲郎， 松永　大樹，中山　鎭秀， 秀島　義章，山本　卓明
7	優秀賞：ポスターセッション 選別された外傷性肩関節前方不安定症患者に対する鏡視下バンカート修復術の治療成績	令和５年度 第16回福岡県医学会総会	2023	樫田　祐輔，三宅　　智， 柴田　光史，小林　駿介， 松永　　慶，畑　　直文， 山本　卓明
8	2022年度福岡大学病院 治験者エントリー数　第１位	福岡大学病院	2023	前山　　彰
9	Case report award 人工股関節置換術後の超早期に生じた非外傷性ステム周囲骨折の１例	第51回日本関節病学会	2023	片岡　佑太，土肥憲一郎， 木下　浩一，瀬尾　　哉， 松永　大樹，吉村　郁弘， 山本　卓明
10	研究奨励賞 Rate of Return to Work After Periacetabular Osteotomy and Its Influencing Factors	福岡大学医学部同窓会 烏帽子会	2023	藤田　　潤

形成外科学

〈症例報告〉

1	Multiple linear spiradenomas and ALPK1 mutation: A case report and literature review.	Australasian Journal of Dermatology	65(1): 71-73, 2024	Yukiko Furukawa, Monji Koga, Takuto Oyama, Kaori Koga, Satoshi Takagi, Shinichi Imafuku

〈総説〉

1	マウス腹壁瘢痕モデルの新規作成：コラーゲン由来ペプチドによる瘢痕抑制効果と筋肉再生	瘢痕・ケロイドジャーナル	№17: 9-12, 2023	自見　至郎，大山　拓人， 髙木　誠司
2	皮膚移植	臨床と研究	101(1): 56-622, 2024	鈴木翔太郎，髙木　誠司

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（シンポジスト） 顔面骨骨折に対する睫毛下切開後の下眼瞼下垂・外反評価	第33回日本シミュレーション外科学会	東京 12/2 2023	前山　徹
2	（シンポジスト） ヘッドカメラで術者の手技を伝える!!ヘッドカメラで術者目線を撮影することの意義	第29回日本形成外科手術手技学会	佐賀 3/2 2024	髙木　誠司
3	（パネリスト） マイクロサージャリー支援ロボットの開発 ～現状と次への課題～	第50回日本マイクロサージャリー学会学術集会	愛知 12/7-12/8 2023	髙木　誠司
4	Usability of 3D camera in free fat injection cases	第15回日韓形成外科学会	福岡 5/29 2023	髙木　誠司
5	Development of eyelid and eyebrow measurement software, compare with the MRD1 method	第15回日韓形成外科学会	福岡 5/29 2023	小柳　俊彰

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第22回 Nuss 法漏斗胸手術手技研究会	福岡大学医学部 RI 講義棟３階	11/25, 2023	髙木　誠司

〈学会活動〉

1	Craniofacial Center	理事	2023	髙木　誠司
2	日本形成外科手術手技学会	理事	2023	髙木　誠司
3	日本形成外科学会	評議員	2023	髙木　誠司
4	日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会	評議員	2023	髙木　誠司
5	日本フットケア・足病医学会	評議員	2023	髙木　誠司
6	日本シミュレーション外科学会	評議員	2023	髙木　誠司
7	日本手外科学会	代議員	2023	髙木　誠司
8	日本頭蓋顎顔面外科学会	代議員	2023	髙木　誠司
9	Nuss 法漏斗胸手術手技研究会	世話人	2023	髙木　誠司

眼科学

〈原著〉

1	Finite element analysis of changes in tensile strain and deformation by airbag impact in eyes of various axial lengths	Int Ophthalmol	43, 2143-2151, 2023	Kobayashi A, Izaki R, Fujita H, Harada H, Ozaki H, Kadonosono K, Uchio E.
2	Classification of subtypes of vernal keratoconjunctivitis by cluster analysis based on clinical features	Clin Ophthalmol	17, 3271-3279, 2023	Fujita H, Ueno T, Suzuki S, Harada K, Tsukahara-Kawamura T, Ozaki H, Uchio E.
3	Anterior segment optical coherence tomography in determination of entry site for vitrectomy in highly myopic eyes	Retina	43, 733-738, 2023	Hirono K, Inoue M, Tanaka S, Uchio E, Yanagi Y, Kadonosono K

4	Development of in situ crosslinked hyaluronan as an adjunct to vitrectomy surgery	Mater Sci Mater Med	34, 56, 2023	Suzuki K, Watanabe I, Tachibana T, Mori K, Ishikawa K, Ishibashi T, Uchio E, Sonoda KH, Hisatomi T. J
5	上皮型ヘルペス角膜炎症例の実質型ないし内皮型への移行に関する検討	臨床眼科	77, 892-897, 2023	塩谷　雅，川村　朋子， 原田　一宏，内尾　英一
6	春季カタルの proactive 療法における長期経過と臨床スコアの解析	眼科臨床紀要	16(2), 75-78, 2023	池田　文，森　貴之， 小林　彩加，川村　朋子， 佐伯　有祐，内尾　英一

〈症例報告〉

1	発症直後から瘢痕治癒過程まで観察した外傷性網脈絡膜断裂の１例	臨床眼科	77, 745-751, 2023	加藤　皓一，高木　宣典， 岡　あゆみ，松本　拓， 海津　嘉弘，久冨　智朗， 内尾　英一
2	敗血症加療を契機に両眼性ヘルペス角膜炎を反復した１例	あたらしい眼科	40(10), 1342-1347, 2023	副島　園子，高橋　理恵， 北谷　諒介，原田　一宏， 川村　朋子，内尾　英一

〈総説〉

1	アレルギー性結膜疾患	臨床と研究	100, 317-321, 2023	内尾　英一
2	サンヨード	眼科	65, 183-187, 2023	内尾　英一
3	春季カタルに対する外科的治療	臨床眼科	77(増), 62-65, 2023	内尾　英一
4	小児の春季カタルに対するトリアムシノロンアセトニド注射	眼科グラフィック	増刊, 90-93, 2023	内尾　英一
5	アデノウイルス結膜炎（性感染症）	アデノウイルス結膜炎（性感染症）	40, 1137-1142, 2023	内尾　英一
6	誌上シンポジウム「アレルギー専門医の社会的ニーズと今後の展望－眼科領域」	アレルギア	52, 18-20, 2023	内尾　英一
7	感染性結膜炎	小児内科	55(増), 379-381, 2023	内尾　英一
8	手術手技のコツ　新生児（未熟児）硝子体内注射のコツ	眼科手術	36(2), 280-283, 2023	川村　朋子
9	【未熟児網膜症アップデート】 未熟児網膜症に対する抗 VEGF 療法	眼科	65(1), 17-23, 2023	髙橋　理恵

〈著書〉

1	眼科・その他図説国民衛生の動向：Pocket Drugs 2023	医学書院	869–887，2023	内尾　英一

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	アデノウイルス結膜炎の Epidemic と臨床的課題の現況；国内シンポジウム	第127回日本眼科学会総会	東京，2023/4/7	内尾　英一
2	あなたのキャリアはあなたが望んだものか－女性医師のキャリア形成を考える－；国内シンポジウム	第93回九州眼科学会	福岡，2023/5/23	
3	Evaluation of the anti-adenoviral effects of polyvinyl alcohol iodine disinfectant eye drop: SANIODE	16th Joint Meeting of Korea-China-Japan Opthalmologists	韓国，2023/11/23	川村　朋子
4	Classification of subtypes of vernal keratoconjunctivitis by cluster analysis based on clinical features	16th Joint Meeting of Korea-China-Japan Opthalmologists	韓国，2023/11/23	福田　将吾
5	Clinical outcome after air-assisted manual deep anterior lamellar keratoplasty for fungal keratitis poorly responsive to medical treatment	16th Joint Meeting of Korea-China-Japan Opthalmologists	韓国，2023/11/23	ファン　ジェーン
6	Three-year outcome of omidenepag isopropyl in primary open angle glaucoma and preperimetric glaucoma	16th Joint Meeting of Korea-China-Japan Opthalmologists	韓国，2023/11/23	尾崎　弘明
7	春季カタルに対するトリアムシノロンアセトニドの眼瞼皮下注射（シンポジウム）	第96回九州眼科学会	福岡，2023/5/26	原田　一宏
8	未熟児網膜症の新たな治療戦略	第59回日本周産期・新生児医学会学術集会	名古屋，2023/7/13	髙橋　理恵

〈国内研究助成金〉

1	アデノウイルス眼感染症の細胞生物学的解析と治療薬剤開発の研究	文部科学省 基盤研究 C	2023	内尾　英一（代表）
2	新型アデノウイルスの比較増殖解析と，治療薬・予防薬への反応性の検討	研究推進部：若手・女性研究基盤構築支援事業	2023	川村　朋子（代表）
3	眼科領域の新型アデノウイルス治療剤候補の型別有用性の基礎的および臨床的評価	文部科学省 若手研究	2023	川村　朋子（代表）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第49回福岡大学眼科研究会	福岡大学メディカルホール	5/20/2023	内尾　英一
2	西日本オキュラーサーフェスクラブ2023	オリエンタルホテル 福岡博多ステーション	6/24/2023	内尾　英一
3	第51回福岡眼科研究会	電気ビル共創館	7/22/2023	内尾　英一

〈学会活動〉

1	日本眼科学会	評議員	2023	内尾　英一
2	Japanese Journal of Ophthalmology	Editor	2023	内尾　英一
3	日本眼炎症学会	評議員	2023	内尾　英一

4	日本アレルギー学会	代議員	2023	内尾　英一
5	日本眼感染症学会	監事，評議員	2023	内尾　英一
6	日本眼科アレルギー学会	理事	2023	内尾　英一
7	日本アレルギー学会九州・沖縄支部	事務局長	2023	原田　一宏

耳鼻咽喉科学

〈原著〉

1	Pembrolizumab Monotherapy Versus Pembrolizumab Plus Chemotherapy in Patients With Head and Neck Squamous Cell Carcinoma.	In vivo（Athens, Greece）	37(5) 2188-2196 2023	Matsuo M, Masuda M, Yamauchi M, Taura M, Hashimoto K, Kogo R, Jiromaru R, Hongo T, Manako T, Nakagawa T
2	Social anxiety disorder in adolescents who stutter A risk for school refusal	Pediatrics International	65(1) e15622 2023	Kikuchi Y, Kenjo M, Yoshida E, Takahashi S, Murakami D, Yamaguchi Y, Adachi K, Sawatsubashi M, Taura M, Nakagawa T, Umezaki T
3	Efficacy of beta-hydroxy-beta-methylbutyrate, arginine, and glutamine for the prevention of mucositis induced by platinum-based chemoradiation in head and neck cancer: A phase Ⅱ study	Clinical Nutrition ESPEN	57： 730-734 DOI：https：//doi.org/10.1016/j.clnesp.2023.08.027	Kuroki K, Rikimaru F, Kunitake N, Toh S, Higaki Y, Masuda M
4	Effects of Food Properties and Aging on External Auditory Canal Movements Associated With Mastication	Cureus	15(11)： e49475. DOI10.7759/cureus.49475 2023	Yamano T, Nishi K, Omori F, Kaiji T
5	A Dental Implant Foreign Body Discharged Through the Nasal Cavity.	耳鼻咽喉科臨床	116(10)： 955-961 2023	Miyazaki M, Sakata T, Yamano T
6	上下顎移動術後の声帯麻痺に関しての検討	耳鼻と臨床	69(6)： 415-418 2023	田中　隆行，西平　弥子，西　憲祐，横尾　嘉宜，泉　喜和子，山野　貴史
7	Outpatient Treatment of Mild Dysphagia in Ear-Nose-and-Throat Clinics	Cureus	16(1)：e52395 DOI：10．7759 2024	Yamano T, Nishi K, Omori F, Nakamura A, Fukuyo K
8	口蓋扁桃摘出術における術後出血リスク因子の検討	耳鼻と臨床	70(1)： 1-8 2024	前原　宏基，田浦　政彦，木村　翔一，坂田健太郎，打田　義則，妻鳥敬一郎，末田　尚之，坂田　俊文
9	口腔癌術後患者の摂食嚥下時努力感について	嚥下医学	13： 28-37 2024	大森　史隆，和田佳央理，西　憲祐，山野　貴史

〈症例報告〉

1	臍帯非切断下気管切開によって出生した先天性喉頭閉鎖症の１例	耳鼻と臨床	69(5)： 373-378 2023	木庭　忠士，三橋　泰仁，木村　翔一，竹内寅之進，井槌　大介，倉員　正光，末田　尚之，坂田　俊文

2	喉頭癌放射線治療17年後の晩発性嚥下障害例	耳鼻と臨床	70(2): 90–94 2024	山野　貴史，西　　憲祐， 木村　翔一，田中　隆行， 和田佳央理，大森　史隆

〈総説〉

1	聴覚障害のリハビリテーションと聴力検査の現状	Audiology Japan	66(3): 169–185 2023	柿木　章伸，鈴木　光也， 曽根三千彦，川瀬　哲明， 坂田　俊文，坂田　英明， 工　　譲，内藤　　泰， 藤岡　正人，米本　　清

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	企画セッション 「上咽頭擦過治療（EAT）の可能性」Long COVID 患者の上咽頭における SARS-CoV-2 RNA の検出と EAT による免疫組織学的変化	第３回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会総会・学術講演会	和歌山 4/14 2023	西　　憲祐
2	パネルディスカッション 「新型コロナウイルス後遺症に対する上咽頭擦過両方」	第124回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会	福岡 5/18-19 2023	西　　憲祐
3	シンポジウム 「ポストコロナ時代の口臭診療を考える」免疫組織学的解析による，Long COVID 治療法としての EAT の可能性	第14回日本口臭学会	福岡 6/3 2023	西　　憲祐
4	シンポジウム 「コロナ後遺症・ワクチン後遺症」組織学的解析による，Long COVID 治療法としての EAT の可能性	第11回日本病巣疾患研究会学術集会	東京 9/10 2023	西　　憲祐
5	教育講演 「上咽頭擦過療法の有効性メカニズムの組織学的解析」	第36回日本口腔・咽頭科学会	高知 9/15 2023	西　　憲祐

〈国内研究助成金〉

1	コロナ後遺症に対する上咽頭擦過療法	独立行政法人日本学術振興会 若手研究	2023	西　　憲祐
2	聴き取りづらい音韻の個人差に対する新たな補聴方式の開発	独立行政法人日本学術振興会 基盤研究(C)(一般)	2023	坂田　俊文 (代表者：森山　　剛)

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	日本聴覚医学会第８回耳鳴・難聴研究会	TKP 東京駅カンファレンスセンター	7/8 2023	坂田　俊文

〈学会活動〉

1	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会	代議員	2023	坂田　俊文
2	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会福岡県地方部会	副部会長	2023	坂田　俊文
3	日本頭頸部外科学会	評議員	2023	坂田　俊文
4	日本嚥下医学会	評議員	2023	坂田　俊文
5	日本喉頭科学会	評議員	2023	坂田　俊文
6	日本口腔咽頭科学会	評議員	2023	坂田　俊文
7	耳鼻咽喉科臨床学会	運営委員	2023	坂田　俊文

〈研究に関係した賞〉

1	上咽頭擦過療法の有効性メカニズムの組織学的解析	曽田豊二記念財団研究奨励賞	2023	西　憲祐
2	腫瘍細胞の CD155発現は舌扁平上皮癌の予後に関与する	曽田豊二記念財団研究奨励賞	2023	木村　翔一
3	Long COVID に対する上咽頭擦過療法 EAT の有効性，及びその機序に関する組織学的検討	福岡県医学会 一般演題優秀賞	2023	西　憲祐
4	訪問診療利用者の肺炎発症予測因子の検討	福岡県医学会 一般部門ポスター賞	2024	木村　翔一

腎泌尿器外科学

〈原著〉

1	Effect of Pharmacotherapy for Overactive Bladder on the Incidence of and Factors Related to Urinary Tract Infection: A Systematic Review and Meta-analysis	J Urol	209(4)：665-674，2023	Tsubouchi K, Arima H, Abe M, Matsuzaki H, Tominaga K, Fujikawa A, Gunge N, Miyazaki T, Okabe Y, Nakamura N, Matsuoka H, Okutsu S, Tada K, Haga N.
2	Efficacy and Safety of Hypoxia-Inducible Factor Prolyl Hydroxylase Inhibitor Therapy for Anemia in Renal Transplantation Patients by Prior Erythropoiesis Stimulating Agent Use.	Transplant Proc	55(4)：829-831，2023	Nakamura N, Aso S, Nakagawa C, Tachibana M, Fujikawa A, Tsubouchi K, Gunge N, Miyazaki T, Okabe Y, Matsuzaki H, Matsuoka H, Haga N.
3	Antibody acquisition after second and third SARS-CoV-2 vaccinations in Japanese kidney transplant patients: a prospective study	Clin Exp Nephrol	27(6)：574-582，2023	Deguchi H, Sakamoto A, Nakamura N, Okabe Y, Miura Y, Iida T, Yoshimura M, Haga N, Nabeshima S, Masutani K.
4	Real-world treatment outcomes of patients with penile cancer in the Kyushu-Okinawa area of Japan in the pre-guideline era.	Jpn J Clin Oncol	53(9)：837-844，2023	Yamaguchi T, Goya M, Higashijima K, Tobu S, Sato R, Tatarano S, Mukai S, Uemura K, Tatsugami K, Tsubouchi K, Shida Y, Ishii T, Sakai H, Matsuoka H, Haga N, Eto M, Igawa T, Kamoto T, Enokida H, Shin T, Noguchi M, Fujimoto N, Saito S, Kamba T.
5	小児におけるロボット支援腹腔鏡下腎盂形成術の安全性と有用性の検討	西日泌尿	85(5)：237-242，2023	宮﨑　健，麻生信太郎，立花　昌寛，中川　千鶴，藤川　愛子，郡家　直敬，岡部　雄，坪内　和女，松﨑　洋吏，中村　信之，松岡　弘文，羽賀　宣博
6	Factors Related to Overactive Bladder-like Symptoms in Bladder Cancer.	Anticancer Res	43(8)：3607-3613，2023	Tachibana M, Tsubouchi K, Fukuhara Y, Aoyagi C, Tominaga K, Gunge N, Okabe Y, Miyazaki T, Emoto T, Nakagawa C, Yamazaki F, Matsuzaki H, Nakamura N, Haga N.

7	Differentiation of human adipose tissue-derived mesenchymal stromal cells into steroidogenic cells by adenovirus-mediated overexpression of NR5A1 and implantation into adrenal insufficient mice.	Cytotherapy	25(8): 866-876, 2023	Aoyagi C, Tanaka T, Haga N, Yanase T, Kodama S.
8	Real-World Evidence for Risk Factors of Bruises and Fractures from Falls in Patients with Overactive Bladder: A Medical Record Analysis	Int J Clin Pract.	Volume 2023, Article ID 3701823, 6 pages, 2023	Miyajima S, Omaru T, Ishii T, Arima H, Shibata Y, Izaki T, Haga N.
9	令和４年度福岡市における前立腺がん検診	福岡市医報	65(1): 50-55, 2024	古賀　寛史，中村　元信， 横溝　　晃，阿部　裕典， 角田　雄一，野瀬　清孝， 松﨑　洋吏，猪口　淳一， 古屋隆三郎，御厨　　学， 後藤　　健，江藤　正俊， 田中　正利，内藤　誠二， 羽賀　宣博，山口　秋人

〈症例報告〉

1	ペムブロリズマブ投与後に血球貪食症候群をきたした腎癌の一例	西日泌尿	86: 78-84, 2023	麻生信太郎，立花　昌寛， 中川　千鶴，藤川　愛子， 郡家　直敬，宮﨑　　健， 岡部　　雄，坪内　和女， 松﨑　洋吏，中村　信之， 松岡　弘文，羽賀　宣博

〈総説〉

1	頻尿をきたす泌尿器重要疾患を見破る－尿路性器感染症・尿路結石症・悪性腫瘍	医学のあゆみ	285(3): 183-187, 2023	羽賀　宣博，坪内　和女， 岡部　　雄
2	前立腺肥大症（BPH）の外科的治療　Next 10 Years	西日泌尿	85(5): 262-267, 2023	松岡　和福，阿部　裕典， 江本　大紀，丸田　紘子， 坪内　和女，宮島　茂郎， 平　　浩志，吉田　一博， 石井　　龍，羽賀　宣博
3	抗凝固療法施行中の高度肥満患者（BMI 58.8kg/m^2）に対するロボット支援膀胱全摘除術	泌尿器外科	36(9): 1029-1032, 2023	羽賀　宣博，岡部　　雄， 宮﨑　　健，青柳　力夫， 中川　千鶴，立花　昌寛， 麻生信太郎，藤川　愛子， 坪内　和女，郡家　直敬， 松﨑　洋吏，中村　信之， 松岡　弘文

〈著書〉

1	今日の治療指針　2024年版（Volume66） 診療ガイドライン解説 21. 過活動膀胱診療ガイドライン［第３版］（2022）	医学書院	2073-2080, 2024	羽賀　宣博（分担）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（国際学会） Effect of Drug Therapy gor Overactive Bladder on the Incidence of and Factors Related to Urinary Tract Infection: A Systematic Review and Meta-analysis （Japan）	The 17th Pan-Pacific Continence Society Meeting	Kaohsiung, Taiwan 2023.10.14-15 2023	Tominaga K

2	（シンポジウム） Robotic-assisted laparoscopic pyeloplasty for horseshoe kidney	第110回日本泌尿器科学会総会	神戸 2023.4.20-23 2023	Miyazaki T
3	（ランチョンセミナー） New Insights of Overactive bladder －過活動膀胱に関する新たな視点－	第110回日本泌尿器科学会総会	神戸 2023.4.20-23 2023	羽賀　宣博
4	（ワークショップ） 「若手医師が聞く，ここがわからないのでコツを教えてください」 ロボット支援膀胱全摘除術に関する質問事項	第37回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会	米子 2023.11.9-11 2023	岡部　　雄
5	(シンポジウム） 「心・技・体シンポジウム（手術）7　尿失禁ゼロを目指したRARPの工夫」 尿失禁ゼロを目指したContinence Zone温存手技－膜様部尿道長温存から神経温存まで－	第37回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会	米子 2023.11.9-11 2023	羽賀　宣博

〈国内研究助成金〉

1	内臓脂肪の機能低下に伴う前立腺肥大症発症機序の解明	文部科学省 基盤研究C	2023	羽賀　宣博（代表）
2	一般住民における前立腺肥大と動脈硬化の機序解明	文部科学省 基盤研究C	2023	中村　信之（代表）
3	一般住民における過活動膀胱，夜間頻尿と動脈硬化の機序解明	文部科学省 基盤研究C	2023	坪内　和女（代表）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	日本泌尿器科学会福岡地方会 第312回例会	電気ビルみらいホール	7/22, 2023	羽賀　宣博

〈学会活動〉

1	日本排尿機能学会	理事	2023	羽賀　宣博
2	日本泌尿器科学会	代議員	2023	羽賀　宣博
3	日本排尿機能学会	代議員	2023	羽賀　宣博
4	日本泌尿器内視鏡学会	代議員	2023	羽賀　宣博
5	日本小児泌尿器科学会	代議員	2023	羽賀　宣博
6	日本腎泌尿器疾患予防医学研究会	世話人	2023	羽賀　宣博
7	泌尿器科再建再生研究会	世話人	2023	羽賀　宣博
8	日本移植学会	代議員	2023	中村　信之
9	日本臨床腎移植学会	評議員	2023	中村　信之
10	腎移植血管外科研究会	世話人	2023	中村　信之

〈研究に関係した賞〉

1	後腹膜	第124回九州泌尿器科連合地方会 優秀演題賞	2023	中川　千鶴

2	多発尿管ポリープに対する新規治療法開発に向けた当施設での取り組み：Holmium-YAG-Laser による内視鏡下 Laser 治療における工夫	第32回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会 会長賞	2023	郡家　直敬
3	Analysis of renal dysfunction in patients with reflux nephropathy over a very long observation period of more than 20years	第75回西日本泌尿器科学会総会 ヤングウロロジスト リサーチコンテスト 優秀演題賞	2023	冨永　光将

産科婦人科学

〈原著〉

1	当院における子宮体癌に対する腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術の臨床成績	福岡大学医学紀要	50(2), 63-69, 2023	吉川　賢一，伊東　智宏， 重川浩一郎，平野　智佳， 野口　幸子，清島　千尋， 宮田　康平，四元　房典
2	妊娠・産褥期に深部静脈血栓症・肺塞栓症を見逃さないため　当院10年間での深部静脈血栓症/肺塞栓症疑い６症例の分析	アルメイダ医報	48(1), 29-43, 2023	大川　人豪，森田　哲夫， 大川　彦宏，平川　豊文， 廣田　佳子，馬場　真澄， 有村賢一郎，大川　欣栄
3	Physical Properties of Ultrafine Bubbles Generated Using a Generator System	In Vivo.	37: 2555-2563, 2023	SHINGO MIYAMOTO, TOYOFUMI HIRAKAWA, YUKIKO NOGUCHI, DAICHI URUSHIYAMA, KOHEI MIYATA, TSUKASA BABA, FUSANORI YOTSUMOTO, SHIN'ICHIRO YASUNAGA, KAZUHIKO NAKABAYASHI, KENICHIRO HATA, WATARU NAKAGAWA, TOSHIHIRO OTSUKA, YOSHIKO NOZAWA, IPPEI FURUHATA and JITSUO MIKASA

〈症例報告〉

1	外陰に発生した高異型度子宮内膜間質肉腫の一例	福岡大学医学紀要	50(2), 77-82, 2023	伊東　智宏，吉川　賢一， 重川浩一郎，古賀　佳織， 濱崎　　慎，四元　房典
2	臍帯非切断下気管切開によって出生した先天性喉頭閉鎖症の１例	耳鼻と臨床	69巻5号 Page373-378 (2023.)	木庭　忠士，三橋　泰仁， 木村　翔一，竹内寅之進， 井槌　大介，倉員　正光， 末田　尚之，坂田　俊文

〈総説〉

1	細菌叢から読み解く女性と子どものヘルスケア　周産期　絨毛膜羊膜炎と羊水中の細菌感染－新たな早産予防・治療戦略の確立に向けて	臨床婦人科産科	77(7), 704-710, 2023	漆山　大知，秦　健一郎， 宮本　新吾
2	アセスメントすべき所見・対応は？	ペリネイタルケア	42(9), 870-878, 2023	漆山　大知

〈国際学会または国内学会シンポジウム及び招待講演での発表〉

1	（周産期臨床研究コンソーシアム Award 受賞講演） 子宮内感染の予知検査システムの確立 ～特定臨床研究による診断法と治療法の検証を通して～	第59回日本周産期・新生児医学会学術集会	2023年 7月9-11日， 名古屋	漆山　大知
2	Intrauterine infection/inflammation and preterm birth from the perspective of DOHaD	The 22th Congress of the Federation of Asia and Oceania Perinatal Societies	2023年 10月7～9日， 東京	Daichi Urushiyama, Kazuhiko Nakabayashi, Kenichiro Hata, Fusanori Yotsumoto, Shingo Miyamoto
3	MiR-4535 in maternal serum・as a predictive biomarker・for severe neonatal infection	The 109th Annual Congress of Korean Society of Obstetrics and Gynecology	2023年 11月10～11日， ソウル	Koko Ishida, Chihiro kiyoshima, Toyofumi Hirakawa, Daichi Urushiyama, Daisuke Izuchi, Ayako Sanui, Masamitsu Kurakazau, Shingo Miyamoto, Fusanori Yotsumoto

〈国内研究助成金〉

1	産科危機的出血予測 AI モデル構築を目指す研究プロジェクト	公益財団法人 柿原科学技術研究財団	2023	倉員　正光
2	マルチオミクス解析に基づく感染性早産児の神経発達障害に関わる分子の同定	令和４年度文部科学若手	2023	漆山　大知（代表）
3	受精卵分化不全患者を対象としたウルトラファインバブルによる新規培養液の開発	文部科学若手研究	2023	平川　豊文
4	胚細胞の分化誘導研究	福岡大学領域別研究	2023	平川　豊文
5	受精卵分化不全患者を対象としたウルトラファインバブルによる新規培養液の開発	公益財団法人臨床研究奨励基金 令和４年度臨床研究助成	2023	平川　豊文
6	受精卵分化不全患者を対象としたウルトラファインバブルによる新規培養液の開発	公益財団法人 今井精一記念財団 2022年度助成事業	2023	平川　豊文
7	受精卵分化不全患者を対象としたウルトラファインバブルによる新規培養液の開発	第16回ふくおか「臨床医学研究賞」	2023	平川　豊文
8	受精卵分化不全患者を対象としたウルトラファインバブルによる新規培養液の開発	一般財団法人 貝原守一医学振興財団	2023	平川　豊文
9	抗酸化作用を示すガソトランスミッターウルトラファインバブルを用いた再生幹細胞培養液の開発	公益財団法人 柿原科学技術研究財団	2023	平川　豊文
10	ガソトランスミッターを用いた受精卵分化促進培養液の開発	2023年度若手女性研究者奨励金 日本私立学校振興・共済事業団	2023	平川　豊文
11	次世代シーケンシング（NGS）と AI 統合による革新的重症感染症予測法の開発	福岡大学若手・女性研究基盤構築支援企業	2023	吉川　賢一
12	空間的トランスクリプトーム解析を用いた子宮内膜症関連卵巣癌形成プロセスの解明	公益財団法人今井精一記念財団 2023年度助成事業	2024	柴田　磨己

13	次世代シーケンシング解析による子宮内膜再生 microRNA の同定と創薬基盤開発	令和４年度文部科学若手	2024	柴田　磨己

〈学会活動〉

1	日本産科婦人科学会	代議員	2023	四元　房典
2	日本婦人科腫瘍学会	代議員	2023	四元　房典
3	日本周産期・新生児医学会	評議員	2023	四元　房典
4	バイオ治療法学会	運営委員	2023	四元　房典
5	福岡母性衛生学会	幹事	2023	倉員　正光
6	日本早産学会	幹事	2023	漆山　大知
7	福岡母性衛生学会	評議員	2023	井槌　大介

〈研究に関係した賞〉

1	第25回福岡大学医学会賞	銀賞	2023	平川　豊文
2	第27回日本バイオ治療法学会学術集会	優秀賞	2023	平川　豊文

麻酔科学

〈原著〉

1	Perineural treatment with anti-TNF-α antibody ameliorates persistent allodynia and edema in novel mouse models with complex regional pain syndrome	J Pharmacol Sci	153(1)：1-11，2023	Shibata S, Tagashira H, Nemoto T, Kita S, Kita T, Shinoda Y, Akiyoshi K, Yamaura K, Iwamoto T

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（シンポジウム） コロナ渦の麻酔を振り返る　緊急手術患者の対応	日本麻酔科学会 第70回学術集会	神戸 6/1-3 2023	重松　研二
2	（シンポジウム） 術後疼痛管理チームでハッピーに　術後患者への光明　－術後疼痛管理チームの重要性－	第37回日本手術看護学会 年次大会	福岡 10/27-28 2023	秋吉浩三郎
3	（シンポジウム） 分娩後のマイナートラブル　これって無痛分娩のせいですか？	第127回日本産科麻酔学会 学術集会	大阪 12/2 2023	佐藤　聖子

〈学会活動〉

1	NPO 法人 ABCD sonography	理事	2023	秋吉浩三郎
2	日本麻酔科学会	代議員	2023	秋吉浩三郎，重松　研二
3	日本心臓血管麻酔学会	理事	2023	秋吉浩三郎
4	日本ペインクリニック学会	評議員	2023	秋吉浩三郎，柴田　志保
5	日本医療ガス学会	常任理事	2023	秋吉浩三郎
6	日本集中治療医学会	評議員	2023	重松　研二
7	日本循環制御医学会	評議員	2023	秋吉浩三郎

8	日本神経麻酔集中治療学会	評議員	2023	秋吉浩三郎
9	小児麻酔学会	評議員	2023	秋吉浩三郎

歯科口腔外科学

〈原著〉

1	Association of the quantitative oral health status of patients with COVID-19 with their organ status and immunity: A single-centre observational study.	Intensive Crit Care Nurs.	77: 103433, 2023	Aya Yoshino, Yoshihiko Nakamura, Aki Kusu, Mari Fukushima, Yasuhiro Yotsui, Tohru Takata, Hiroyasu Ishikura, Seiji Kondo
2	Factors that impact dysphagia and discontinuance of oral intake in patients with progressive supranuclear palsy	Front. Neurol	14. [DOI：10. 3389/fneur. 2023. 1259327], 2023	Yuki Iwashita, George Umemoto (Corresponding Author), Shinsuke Fujioka, Hajime Arahata, Yuriko Dotsu, Asami Oike, Yoshio Tsuboi
3	Serum triglyceride levels and incidence of hypertension in a general Japanese population: ISSA-CKD study	Hypertens Res.	46(5): 1122-1131, 2023	Shintaro Ishida, Seiji Kondo, Shunsuke Funakoshi, Makiko Abe, Atsushi Satoh, Miki Kawazoe, Toshiki Maeda, Chikara Yoshimura, Yoshihiro Nishida, Kazuhiro Tada, Koji Takahashi, Kenji Ito, Tetsuhiko Yasuno, Daiji Kawanami, Shin-Ichiro Miura, Shohta Kodama, Keijiro Saku, Shigeaki Mukobara, Kosuke Masutani, Hisatomi Arima
4	動脈硬化性疾患患者の口腔内および腸内細菌叢の関連性について	日本歯科医学会誌	42: 32-37, 2023	石田晋太郎，吉野　綾，喜多　涼介，梅本　丈二，有馬　久富，近藤　誠二

〈総説〉

1	パーキンソン病における睡眠障害	老年歯科医学	38(2): 28-31, 2023	梅本　丈二

〈著書〉

1	有病者歯科学　第３版	永末書店	pp.215-223, 2024	近藤　誠二（分担）
2	最新言語聴覚学講座 臨床歯科医学・口腔外科学	医歯薬出版株式会社	pp.46-48, 2024	近藤　誠二（分担）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（シンポジウム） 口腔常在菌と全身疾患－口腔・腸内細菌叢と動脈硬化性疾患発症の疫学調査	第77回 NPO 法人 日本口腔科学会学術集会	岡山 5/11-13 2023	近藤　誠二
2	（シンポジウム） 歯科と神経変性疾患－ ALS 患者に対する歯科の取り組み－	第34回日本老年歯科医学会学術集会	横浜 6/16-18 2023	梅本　丈二

3	（会長講演） 神経筋疾患の摂食嚥下・栄養における多職種連携－神経筋疾患の摂食嚥下リハビリテーションと医科歯科連携－	第19回日本神経摂食嚥下・栄養学会学術集会 福岡大会	福岡 8/26 2023	梅本　丈二
4	（シンポジウム） SAS 診療において合併症をどうするか？ －歯ぎしりについて－	日本睡眠学会第45回定期学術集会・第30回日本時間生物学会学術大会合同大会	横浜 9/15-17 2023	梅本　丈二
5	（国際ワークショップ） Dental implant related material and surface treatment. －新規歯科インプラントを普及させるために考えておきたいこと－	日本口腔インプラント学会第43回近畿・北陸支部学術大会	大阪 10/21-22 2023	吉野　　綾
6	（国際学会） Factors Impact Dysphagia and Discontinuance of Oral Intake in Patients with Progressive Supranuclear Palsy	European Society for Swallowing Disorders（ESSD 2023）13th Annual Congress	Toulouse, France November 28-December 2 2023	Yuki Iwashita, George Umemoto, Shinsuke Fujioka, Hajime Arahata,Yuriko Dotsu, Asami Oike, Yoshio Tsuboi
7	（国際学会） Comprehensive Perioperative Clinical Care Pathway of Orthognathic Surgery in Fukuoka University Hospital	第36回台湾顎面外科学会学術大会	Taichun, Taipei March 9-10 2024	Aya Yoshino, Seiji Kondo, Chia-Yu Wu Kuan-Chou Lin, Chih-Yuan Fang

〈国内研究助成金〉

1	神経疾患における睡眠時ブラキシズムと睡眠障害に関する研究	文部科学省 基盤研究 C	2023	梅本　丈二（代表）
2	重症感染症の重篤化と口腔－腸連関の関連性解明	文部科学省 基盤研究 C	2023	吉野　　綾（代表）
3	口腔－腸内性菌叢と人工呼吸器関連肺炎（VAP）	文部科学省 基盤研究 C	2023	喜多　涼介（代表）
4	人工呼吸器関連肺炎続発患者における口腔－腸内細菌叢相関の集中治療施設間比較	文部科学省 基盤研究 C	2023	眞野　亮介（代表）
5	xCT を介したリンパ管内皮細胞の抗酸化機構解明と口腔扁平上皮癌の転移における意義	文部科学省 若手研究	2023	橋口　志保（代表）
6	COVID-19患者の口腔・肺外ネクロプシー検体の病理学的所見と口腔衛生管理との関連性解明	公益財団法人 8020推進財団 令和５年度8020公募研究課題	2023	吉野　　綾（代表）
7	COVID-19患者の肺外ネクロプシー検体の病理学的所見と口腔衛生管理との関連性福岡大学領域別重点研究	福岡大学領域別重点研究	2023	近藤　誠二（代表）
8	リンパ管内皮細胞に発現する xCT の抗酸化機能の解析と口腔扁平上皮癌における意義	福岡大学若手・女性研究基盤構築支援事業	2023	橋口　志保（代表）
9	要介護者のためのファインバブル技術を活用したマウスピース型口腔洗浄器のデザイン	開発戦略的基盤技術高度化支援事業	2023	梅本　丈二 （代表者：小河原　悟）
10	リンパ管内皮細胞 Tumor necrosis factor receptor 2（TNFR2）の機能解析－リンパ管内皮細胞特異的 TNFR2-KO マウスを用いた口腔扁平上皮癌リンパ節転移モデルの解析－	公益信託　九州大学医学部同窓会国際研究助成基金	2023	橋口　志保（代表）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第19回日本神経摂食嚥下・栄養学会学術集会 福岡大会	福岡大学病院 福大メディカルホール	8/26, 2023	梅本　丈二

〈長期海外研修〉

1	重症感染症患者における口腔－腸連関の関連性解明	台湾 台北医科大学	2023.9～2023.11	吉野　　綾

〈学会活動〉

1	日本口腔外科学会	代議員	2023	近藤　誠二
2	日本口腔科学会	評議員	2023	近藤　誠二
3	日本口腔感染症学会	理事	2023	近藤　誠二
4	日本口腔感染症学会	代議員	2023	近藤　誠二
5	日本有病者歯科医療学会	代議員	2023	近藤　誠二
6	日本神経摂食嚥下・栄養学会	理事	2023	梅本　丈二
7	日本睡眠学会	評議員	2023	梅本　丈二
8	日本摂食嚥下リハビリテーション学会	評議員	2023	梅本　丈二
9	日本老年歯科医学会	代議員	2023	梅本　丈二
10	日本歯科麻酔学会	代議員	2023	瀬戸　美夏

〈研究に関係した賞〉

1	顎下リンパ節モデルにおけるカリウムチャネル制御因子 KCNE4の発現誘因	2023年度日本口腔科学会 Rising Scientist 賞	2023	眞野　亮介
2	Induction of potassium channel regulator KCNE4 in a submandibular lymph nodes metastasis model	福岡大学医学部同窓会 令和５年度研究奨励賞	2023	眞野　亮介
3	進行性核上性麻痺（PSP）患者における嚥下障害および経口摂取中止の要因	第19回日本神経摂食嚥下・栄養学会学術集会 福岡大会　優秀演題賞	2023	岩下　由樹
4	CCN2-induced lymphangiogenesis is mediated by the integrin $\alpha v\beta 5$-ERK pathway and regulated by DUSP6	第25回福岡大学医学会賞	2023	橋口　志保
5	Induction of potassium channel regulator KCNE4 in a submandibular lymph nodes metastasis model	第25回福岡大学医学会賞	2023	眞野　亮介
6	リンパ管内皮細胞におけるシスチン/グルタミン酸輸送体 SLC7A11/xCT の機能解析	第27回日本バイオ治療法学会学術集会　奨励賞	2023	橋口　志保
7	COVID-19パンデミックが智歯抜歯術を受ける患者の術前不安に及ぼした影響について	第33回日本有病者歯科医療学会学術集会　優秀発表賞	2023	瀬戸　美夏

臨床検査医学

〈原著〉

1	Associations of High-Density Lipoprotein Functionality with Coronary Plaque Characteristics in Diabetic Patients with Coronary Artery Disease: Integrated Backscatter Intravascular Ultrasound Analysis.	Biomolecules	13(9): 1278, 2023	Takata K, Imaizumi S, Iwata A, Zhang B, Kawachi E, Miura SI, Ogawa M.
2	Association between paroxysmal or persistent atrial fibrillation and hyperuricemia in patients who underwent coronary computed tomography angiography: from the FU-CCTA-AF Registry.	Heart Vessels	38(12): 1451-1458, 2023	Mikagi M, Tashiro K, Komaki T, Shiga Y, Tachibana T, Higashi S, Kawahira Y, Suematsu Y, Ideishi A, Ogawa M, Miura SI.
3	「シグナスオート LD-IF」改良 LOT の基礎的性能評価及び LD 測定値への影響	医療検査と自動化	48(5): 515-522, 2023	勝山　祐人，藤波　清香，矢野めぐみ，田中　康弘，松﨑　友絵，嶋田　裕史，小川　正浩

〈症例報告〉

1	Distinct single spiky component of local abnormal ventricular activity and accurate identification of origin of premature ventricular complexes arising from left ventricular summit.	HeartRhythm Case Reports	10(3): 182-185, 2023	Tashiro K, Komaki T, Ideishi A, Mohri N, Miura SI, Ogawa M.*
2	メトトレキサート関連リンパ増殖性疾患患者の尿沈渣中に異型細胞を認めた 1 症例	医学検査	72(2): 294-300, 2023	永川　翔吾，酒井瑠美子，石川　道子，嶋田　裕史，小川　正浩

〈総説〉

1	みて覚える　心電図ギャラリー（第163回）	日本医事新報	5173: 9, 2023	小川　正浩
2	全自動尿中有形成分分析装置 UF-5000における A typ. C と尿細胞診，尿沈渣の比較検討	医学検査	72(2): 210-215, 2023	酒井瑠美子，石川　道子，松本　慎二，嶋田　裕史，小川　正浩

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（シンポジウム） どうする心室期外収縮 －12 誘導心電図で起源を推定する－	第70回日本臨床検査医学会学術集会	長崎 5/29 2023	小川　正浩

〈国内研究助成金〉

1	腸内細菌から動脈硬化を予測する：AI を用いた挑戦	文部科学省 挑戦的研究（萌芽）	2023	小川　正浩 （代表者：有馬　久富）
2	心房細動における脳心血管病予防のための降圧目標を解明する国際共同大規模臨床試験	文部科学省 基盤研究（B）	2023	小川　正浩，髙田　耕平 （代表者：有馬　久富）
3	禁煙に伴う腸内細菌叢を介した HDL 機能制御のメカニズムの解明	文部科学省 研究活動スタート支援	2023	髙田　耕平（代表）
4	情報通信技術を用いた遠隔栄養指導有用性の検討	文部科学省 若手研究	2023	髙田　耕平（代表）

5	超音波組織弾性イメージング技術を用いた家族性高コレステロール血症早期診断へのアプローチ	令和５年度福岡大学若手・女性研究基盤構築支援事業	2023	髙田　耕平（代表）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第135回日本循環器学会九州地方会	アクロス福岡	12/2，2023	小川　正浩，和田　秀一

〈学会活動〉

1	Asia Pacific Heart Rhythm Society	Faculty	2023	小川　正浩
2	日本循環器学会	社員	2023	小川　正浩，森戸　夏美
3	日本循環器学会	FJCS，循環器専門医資格認定審査診療実績表評価者	2023	小川　正浩
4	日本不整脈心電学会	評議員，情報広報委員会委員	2023	小川　正浩
5	臨床心臓電気生理研究会	幹事	2023	小川　正浩
6	日本臨床検査医学会	評議員	2023	小川　正浩，大久保久美子
7	日本内分泌学会	評議員	2023	大久保久美子

救命救急医学

〈原著〉

1	Daily combined measurement of platelet count and presepsin concentration can predict in-hospital death of patients with severe coronavirus disease 2019 (COVID-19)	International Journal of Hematology	117：845–855，2023 doi.org/10.1007/s12185-023-03555-5	Hiroyasu Ishikura, Junichi Maruyama, Maiko Nakashio, Kota Hoshino, Shinichi Morimoto, Yoshito Izutani, Junta Noake, Takahiro Yamagaito, Maho Yoshida, Taisuke Kitamura, Yoshihiko Nakamura
2	Risk Factors for Bleeding in Coronavirus Disease 2019 Patients on Extracorporeal Membrane Oxygenation and Effects of Transcatheter Arterial Embolization for Hemostasis	INTERVENTIONAL RADIOLOGY	2023 Sep 21；8(3)：136–145．doi：10.22575/interventionalradiology.2022-0043. eCollection 2023 Nov 1.	Kazuki Goto, Yukihisa Takayama, Gaku Honda, Kazuaki Fujita, Akinobu Osame, Hiroshi Urakawa, Kota Hoshino, Yoshihiko Nakamura, Hiroyasu Ishikura, Kengo Yoshimitsu
3	O-GlcNAcylation is essential for therapeutic mitochondrial transplantation	COMMUNICATIONS MEDICINE	2023，3：169 doi.org/10.1038/s43856-023-00402-w	Ji Hyun Park, Masayoshi Tanaka, Takafumi Nakano, Ester Licastro, Yoshihiko Nakamura, Wenlu Li, Elga Esposito, Emiri T. Mandeville, Sherry Hsiang-Yi Chou, MingMing Ning, Eng H. Lo, Kazuhide Hayakawa

4	Raman Fingerprints of SARS-CoV-2 Omicron Subvariants: Molecular Roots of Virological Characteristics and Evolutionary Directions	ACS Infectious Diseases	9: 2226-2251, 2023 doi.org/10.1021/ acsinfecdis.3c0031	Giuseppe Pezzotti, Eriko Ohgitani, Yuki Fujita, Hayata Imamura, Francesco Pappone, Alfio Grillo,Maiko Nakashio, Masaharu Shin-Ya, Tetsuya Adachi, Toshiro Yamamoto, Narisato Kanamura, Elia Marin, Wenliang Zhu, Tohru Inaba, Yoko Tanino, Yoko Nukui, Koichiro Higasa, Yoshiki Yasukochi, Kazu Okuma, and Osam Mazda
5	Effects of tea, catechins and catechin derivatives on Omicron subvariants of SARS-CoV-2	Scientific Reports	13: 16577, 2023 doi.org/10.1038/ s41598-023-43563-3	Masaharu Shin-Ya, Maiko Nakashio, Eriko Ohgitani, Akiko Suganami, Masaya Kawamoto, Masaki Ichitani, Makoto Kobayashi, Takanobu Takihara, Tohru Inaba, Yoko Nukui, Hitoshi Kinugasa, Hiroyasu Ishikura, Yutaka Tamura, Osamu Mazda
6	Matters arising ; A second update on mapping the human genetic architecture of COVID-19	Nature	621: 7 September 2023 doi.org/10.1038/ s41586-023-06355-3	The COVID-19 Host Genetics Initiative Data collection member No.824, Yoshihiko Nakamura, Hiroyasu Ishikura
7	Single-cell analyses and host genetics highlight the role of innate immune cells in COVID-19 severity	nature genetics	doi.org/10.1038/ s41588-023-01375-1 2023	Ryuya Edahiro, Yuya Shirai, Yusuke Takeshima, Shuhei Sakakibara, Yuta Yamaguchi, Teruaki Murakami, Takayoshi Morita, Yasuhiro Kato, Yu-Chen Liu, Daisuke Motooka, Yoko Naito, Ayako Takuwa, Fuminori Sugihara, Kentaro Tanaka, James B. Wing, Kyuto Sonehar Yoshihiko Tomofuji, Japan COVID-19 Task Force (No85 Yoshihiko Nakamura, Kota Hoshino, Junichi Maruyama, Hiroyasu Ishikura), Ho Namkoong, Hiromu Tanaka1, Ho Lee, Koichi Fukunaga, Haruhiko Hirata, Yoshito Takeda, Daisuke Okuzaki, Atsushi Kumanogoh, Yukinori Okada

8	Comparison of the cytokine adsorption ability in continuous renal replacement therapy using polyethyleneimine-coated polyacrylonitrile (AN69ST) or polymethylmethacrylate (PMMA) hemofilters:a pilot single-center open-label randomized control trial	European Journal of Medical Research	28: 208, 2023	Yoshihiko Nakamura, Hiroki Hatomoto, Shintaro Yamasaki, Kazuya Yamauchi, Fumiaki Kiyomi, Kota Hoshino, Yasumasa Kawano, Takafumi Nakano, Takehiro Hasegawa, Hiroyasu Ishikura
9	COVID-19に対する long-term ECMO のリスク因子と予後予測因子の探索：単施設後方視的検討（短報）	日本集中治療医学会雑誌	20: 465-466, 2023	星野　耕大，森本　紳一， 丸山　隼一，鯉江めぐみ， 高橋　公子，山﨑慎太郎， 鳩本　広樹，石倉　宏恭
10	Milk Casein Inhibits Effect of Black Tea Galloylated Theaflavins to Inactivate SARS-CoV-2 In Vitro (Brief Report)	bioengineering-Basel	10:1068. doi.org/10.3390/ bioengineering 10091068 2023	Maiko Nakashio, Eriko Ohgitani, Masaharu Shin-Ya, Masaya Kawamoto, Masaki Ichitani, Makoto Kobayashi, Takanobu Takihara, Hitoshi Kinugasa, Hiroyasu Ishikura, Osam Mazda
11	Effect of a Novel Trivalent Vaccine Formulation against Acute Lung Injury Caused by Pseudomonas aeruginosa	Vaccines	Vaccines 2023, 11, 1088. https://doi.org/ 10.3390/ vaccines11061088	Keita Inoue , Mao Kinoshita, Kentaro Muranishi, Junya Ohara, Kazuki Sudo, Ken Kawaguchi, Masaru Shimizu, Yoshifumi Naito, Kiyoshi Moriyama, Teiji Sawa
12	Assessment of the prognosis, frequency, and isolated bacteria in ventilator-associated pneumonia among patients with severe coronavirus disease 2019 pneumonia: A single-center retrospective observational study	Journal of Infection and Chemotherapy	30: 499-503, 2024 doi.org/10.1016/ j.jiac.2023.12.003 Available online 12 December 2023	Shinichi Morimoto, Kentaro Muranishi, Yoshito Izutani, Junichi Maruyama, Reijiro Kato, Shun Ninomiya, Yoshihiko Nakamura, Taisuke Kitamura, Tohru Takata, Hiroyasu Ishikura
13	Antibody Response Following the Intranasal Administration of SARS-CoV-2 Spike Protein-CpG Oligonucleotide Vaccine	Vaccines	2024, 12, 5. https://doi.org/ 10.3390/vaccines 12010005	Kentaro Muranishi, Mao Kinoshita , Keita Inoue, Junya Ohara, Toshihito Mihara, Kazuki Sudo, Ken J. Ishii, Teiji Sawa, Hiroyasu Ishikura

〈症例報告〉

1	Unique trajectory of transorbital penetration injury determined by the orbital bone anatomy resulting in the minimum neurological deficit: A case report	Interdisciplinary Neurosurgery: Advanced Techniques and Case Management	33: 101782, 2023, Available online 17 May 2023 doi.org/10.1016/ j.inat.2023.101782	Dai Kawano, Yoshinobu Horio, Takashi Morishita, Hiromasa Kobayashi, Kenji Fukuda, Mitsutoshi Iwaasa, Tooru Inoue, Hiroshi Abe

2	Repeated coil embolization of traumatic basilar artery pseudoaneurysm accompanied by bilateral traumatic internal carotid artery stenosis following severe head injury in a pediatric patient: A case report and literature review	Surgical Neurology International	2023・14(199) DOI 10.25259/SNI_267_2023	Kana Takeda, Kazunori Oda, Hironori Fukumoto, Hiromasa Kobayashi, Takashi Morishita, Koichiro Takemoto, Mitsutoshi Iwaasa, Hiroshi Abe
3	Adrenaline-resistant anaphylactic shock caused by contrast medium in a patient after risperidone overdose: a case report	Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences	9: 23, 2023 doi.org/10.1186/s40780-023-00292-z	Takafumi Nakano, Yoshihiko Nakamura, Keisuke Sato, Yoshito Izutani, Hiroto Iyota, Misaki Aoyagi, Taisuke Kitamura, Toshinobu Hayashi, Koichi Matsuo, Kenichi Mishima, Hidetoshi Kamimura, Hiroyasu Ishikura, Takashi Egawa
4	肺炎の治療経過中に抗菌薬関係脳症を発症した一例	九州救急医学雑誌	23(2): 23-27, 2024	二宮　駿，高山　和之，加藤礼次郎，泉谷　義人，森本　紳一，仲村　佳彦，喜多村泰輔，石倉　宏恭

〈総説〉

1	Blood Purification in Patients with Sepsis Associated withAcute Kidney Injury: A Narrative Review	J. Clin. Med.	12: 6388, 2023 doi.org/10.3390/jcm12196388	Jun Kamei, Masafumi Kanamoto, Yutaka Igarashi, Kodai Suzuki, Kensuke Fujita, Tsukasa Kuwana, Takayuki Ogura, Katsunori Mochizuki, Yuki Banshotani, Hiroyasu Ishikura, Yoshihiko Nakamura, J-STAD (Japan Sepsis Treatment and Diagnosis) Study Group
2	Sepsis-Associated Delirium: A Narrative Review	J. Clin. Med.	12: 1273, 2023	Rina Tokuda, Kensuke Nakamura, Yudai Takatani, Chie Tanaka, Yutaka Kondo, Hiroyuki Ohbe, Hiroshi Kamijo, Kosuke Otake, Atsuo Nakamura, Hiroyasu Ishikura, Yu Kawazoe and J-STAD (Japan Sepsis Treatment and Diagnosis) Study Group (Yoshihiko Nakamura)

〈著書〉

1	麻酔科プラクティス８ 麻酔管理の疑問に答える生理学 Ⅷ　麻酔科医に必要な血液凝固 １　侵襲は血液凝固にどのような影響を及ぼすのか	文光堂	220-225, 2023	石倉　宏恭（分担）
2	循環血流量減少性ショック（出血性ショックを含む）	今日の治療指針 わたしはこう治療している 2024	66: 27-28, 2024	石倉　宏恭（分担）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	シンポジウム８ 末梢神経疾患に対する手術の課題；足根管症候群に対する動脈移所術の surgical pitfall	第32回 CNTT 学会	富山市 2023/04/21	田尻　崇人，井須　豊彦， 金　　景成，藤原　史明， 喜多村孝雄，磯部　正則， 安部　　洋
2	（シンポジウム３：重症外傷患者に対する急性期栄養管理）重症頭部外傷患者における予後と血清亜鉛濃度の関係	第37回日本外傷学会 総会・学術集会	名古屋市 2023/06/02	入江　悠平，喜多村泰輔， 石橋　卓也，村西謙太郎， 丸山　隼一，星野　耕大， 弓削　理絵，仲村　佳彦， 石倉　宏恭
3	シンポジウム２ 脊椎脊髄疾患と末梢神経絞扼障害；後方除圧術を施行した腰部脊柱管狭窄症と末梢神経障害の関連について	第38回日本脊髄外科学会	名古屋市 2023/6/15	田尻　崇人，井須　豊彦， 金　　景成，藤原　史明， 喜多村孝雄，磯部　正則， 安部　　洋
4	Pitfalls of Complications due to Coagulopathy in Patients with Severe COVID-19 during ECMO: Beware of Bleeding Caused by Acquired von Willebrand Syndrome	ISTH　2023	Montreal， Canada 2023/06/25	Hiroyasu Ishikura, Yuhei Irie, Kentaro Muranishi, Junichi Maruyama, Maiko Nakashio, Hiroko Okura, Shinichi Morimoto, Yoshito Izutani, Yoshihiko Nakamura
5	教育講演４ Respiratory ECMO の潮流，舞台は post pandemic へ	日本集中治療医学会 第７回九州支部学術集会	北九州市 2023/07/15	川野　恭雅
6	Assessment of the prognosis, frequency, and causative bacteria of ventilator-associated pneumonia in patients with severe coronavirus disease 2019 pneumonia: a single-center retrospective observational study	Asia Pacific Intensive Care Symposium（APICS）2023	Suntec Singapore Convention & Exhibition Centre 2023/08/18	Ninomiya Shun, Kawano Yasumasa, Morimoto Shinichi, Ishikura Hiroyasu
7	ランチョンセミナー 敗血症患者に対するメディエータ除去を目的とした急性血液浄化療法を考察する	第34回日本急性血液浄化学会 学術集会	名古屋市 2023/10/1	仲村　佳彦
8	パネルディスカッション１ 「敗血症/AKI の診断とバイオマーカー」	第34回日本急性血液浄化学会 学術集会	名古屋市 2023/9/30	仲村　佳彦
9	シンポジウム29 脊椎変性疾患のフォアフロント；腰部脊柱管狭窄症に腰椎椎弓切除を施行した116例と末梢神経障害の関連	第82回日本脳神経外科 学術総会	横浜市 2023/10/27	田尻　崇人，井須　豊彦， 金　　景成，藤原　史明， 喜多村孝雄，磯部　正則， 安部　　洋
10	パネルディスカッション２ 「世界へ羽ばたけ救急医；世界へ挑戦する無謀な ECMO physician」	第51回日本救急医学会 総会・学術集会	東京都 2023/11/28	星野　耕大，石倉　宏恭
11	イブニングセミナー３ 「第１回 J-STAD Expert Seminar －集え，敗血症を極めたい若者達！－」	第51回日本救急医学会 総会・学術集会	東京都 2023/11/28	石倉　宏恭
12	イブニングセミナー３ 「第１回 J-STAD Expert Seminar －集え，敗血症を極めたい若者達！－」 J-STAD の仲間と楽しみながら review 論文を分担執筆しよう！；敗血症に血液浄化は大事です！	第51回日本救急医学会 総会・学術集会	東京都 2023/11/28	仲村　佳彦

13	1．DIC 部会；DIC 診療ガイドライン（仮）のお披露目 5．急性膵炎・急性肝不全	第18回日本血栓止血学会 学術標準化委員会（SSC） シンポジウム	東京都 2024/2/17	石倉　宏恭，真弓　俊彦， 田村　利尚，西尾　健治
14	ワークショップ 高度肥満患者（BMI ＞35）の集中治療に挑む！；多職種で挑んだ肥満を有する重症 COVID-19患者の ICU 管理	第51回日本集中治療医学会 総会学術集会	札幌市 2024/03/16	泉谷　義人，久保　億人， 森本　紳一，村西謙太郎， 高江洲　怜，山﨑　玲子， 松本　　舞，山崎慎太郎， 喜多村泰輔，石倉　宏恭
15	パネルディスカッション２：急性肝不全に対する治療のベストプラクティス 急性肝不全時の凝固異常に対する診断・治療のベストプラクティス	第60回日本腹部救急医学会 総会	北九州市 2024/03/21	仲村　佳彦，石倉　宏恭， 田村　利尚，西尾　健治， 真弓　俊彦，関　　義信， 岡本　好司
16	パネルディスカッション７：腹部救急医療における血液浄化療法 持続的血液浄化療法における PMMA 膜と AN69ST 膜のサイトカイン吸着能の比較：探索的単施設オープンラベルランダム化比較試験	第60回日本腹部救急医学会 総会	北九州市 2024/03/21	仲村　佳彦，鳩本　広樹， 山﨑慎太郎，山内　和也， 清見　文明，星野　耕大， 川野　恭雅，中野　貴文， 長谷川武宏，石倉　宏恭

〈国内研究助成金〉

1	トロンボモジュリン製剤を用いた新たな脳梗塞治療戦略の検証	日本学術振興会 科学研究費 若手研究	2023	仲村　佳彦（代表）
2	重症 COVID-19患者の長期予後調査	福岡大学 領域別重点研究	2023	仲村　佳彦（代表）
3	重症 COVID-19患者の長期予後調査	福岡大学 領域別重点研究	2023	星野　耕大 （代表者　仲村　佳彦）
4	重症 COVID-19患者の長期予後調査	福岡大学 領域別重点研究	2023	森本　紳一 （代表者　仲村　佳彦）
5	重症 COVID-19患者の長期予後調査	福岡大学 領域別重点研究	2023	泉谷　義人 （代表者　仲村　佳彦）

〈長期海外研修〉

1	ECMO 管理中における新規抗凝固薬の可能性	オーストラリア The Prince Charles Hospital	2023.04～	星野　耕大

〈学会活動〉

1	日本救急医学会九州地方会	幹事	2023	石倉　宏恭
2	日本救急医学会	評議員	2023	石倉　宏恭，喜多村泰輔
3	日本臨床救急医学会	評議員	2023	石倉　宏恭，喜多村泰輔
4	日本救命医療学会	評議員	2023	喜多村泰輔
5	日本 Shock 学会	評議員	2023	石倉　宏恭
6	日本外傷学会	評議員	2023	石倉　宏恭，星野　耕大
7	日本腹部救急医学会	評議員	2023	石倉　宏恭
8	日本病院前救急診療医学会	評議員	2023	石倉　宏恭

9	日本救急医学会九州地方会	評議員	2023	石倉　宏恭
10	日本 Acute Care Surgery	評議員	2023	石倉　宏恭
11	日本航空医療学会	評議員	2023	喜多村泰輔
12	日本集中治療医学会	評議員	2023	仲村　佳彦
13	福岡救急医学会	評議員	2023	仲村　佳彦
14	日本救命医療学会	監事	2023	石倉　宏恭

〈研究に関係した賞〉

1	虚血再灌流脳障害モデルマウスに対する胎盤ミトコンドリア移植療法	第51回日本救急医学会総会・学術集会 会長賞　最優秀賞	2023/11/30 東京都	仲村　佳彦，Lo Eng， 早川　和秀，中野　貴文， 丸山　隼一，村西謙太郎， 川野　恭雅，二宮　　駿， 喜多村泰輔，石倉　宏恭

総合診療学

〈原著〉

1	Elevation in white blood cell count and development of hyper LDL cholesterolemia.	Scientific Reports	13： 8292 (2023)	Shota Okutsu, Yoshifumi Kato, Hiroaki Takeoka, Shunsuke Funakoshi, Toshiki Maeda, Chikara Yoshimura, Miki Kawazoe, Atsushi Satoh, Kazuhiro Tada, Koji Takahashi, Kenji Ito, Tetsuhiko Yasuno, Hideyuki Fujii, Shigeaki Mukoubara, Keijiro Saku, Shohta Kodama, Daiji Kawanami, Kosuke Masutani, Hisatomi Arima, Shigeki Nabeshima
2	Antibody acquisition after second and third SARS-CoV-2 vaccinations in Japanese kidney transplant patients: a prospective study.	Clin Exp Nephrol	27(6)： 574-582	Hidetaka Deguchi, Atsuhiko Sakamoto, Nobuyuki Nakamura, Yasuhiro Okabe, Yoshifumi Miura, Takeshi Iida, Michinobu Yoshimura, Nobuhiro Haga, Shigeki Nabeshima, Kosuke Masutani
3	Effect of Pharmacotherapy for Overactive Bladder on the Incidence of and Factors Related to Urinary Tract Infection: A Systematic Review and Meta-analysis.	JOURNAL OF UROLOGY	209(4)： 665-674	Tsubouchi K, Arima H, Abe M, Matsuzaki H, Tominaga K, Fujikawa A, Gunge N, Miyazaki T, Okabe Y, Nakamura N, Matsuoka H, Okutsu S, Tada K, Haga N.
4	内科疾患と排尿障害	臨床と研究	Vol.100 No.10： 1267-1271	武岡　宏明，鍋島　茂樹

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（招待講演） RS ウイルス感染症と麻黄湯	第126回日本小児科学会 学術集会	東京 4/14-16 2023	鍋島　茂樹
2	（招待講演） 現代感染症からみた傷寒論	福岡県東洋医会総会	福岡 5/20 2023	鍋島　茂樹
3	（招待講演） 不明熱の一例	第36回日本臨床内科医学会	福岡 10/8-9 2023	鍋島　茂樹
4	（招待講演） RS ウイルス感染症と麻黄湯	第541回西部小児臨床懇話会	福岡 9/13 2023	鍋島　茂樹
5	（招待講演） 痛みの内科診断学	日本プライマリ・ケア連合 学会福岡県支部秋季セミナー（WEB 開催）	福岡 10/28 2023	鍋島　茂樹
6	（招待講演） 古代疫病と現代感染症 ～傷寒と三陰三陽についての考察～	第123回九州医師会医学会 第５分科会 東洋医学会	長崎 11/26 2023	鍋島　茂樹
7	（招待講演） なぜ漢方薬はウイルス疾患に効果があるのか	第４回日本東洋医学会 専門医制度委員会 中国四国支部（web）	WEB 1/21 2024	鍋島　茂樹
8	（シンポジウム） COVID-19の感染症学的側面と歴史的側面	第73回日本東洋医学会 学術総会	福岡 6/16-6/18 2023	鍋島　茂樹
9	（シンポジウム） 現代感染症学からみた太陽病について	第73回日本東洋医学会 学術総会	福岡 6/16-6/18 2023	鍋島　茂樹
10	（シンポジウム） 新興・再興感染症に対するワンヘルスアプローチ	第33回日本口腔感染症学会 総会・学術大会	福岡 9/21-22 2023	鍋島　茂樹
11	（シンポジウム） 麻黄湯の急性ウイルス性疾患に対する働き	第１回麻黄湯シンポジウム	石川 10/21-22 2023	鍋島　茂樹
12	（シンポジウム） 痛みの診断と治療 ～西洋医学と東洋医学を上手に使おう～	第28回日本病院総合診療医 学会学術総会	福岡 3/29-31 2024	鍋島　茂樹
13	（シンポジウム） 漢方臨床研究の光と影	第73回日本東洋医学会 学術総会	福岡 6/16-6/18 2023	坂本　篤彦
14	（シンポジウム） 漢方薬が効いた，とは何か。	第73回日本東洋医学会 学術総会	福岡 6/16-6/18 2023	坂本　篤彦
15	SARS-CoV-2 mRNA ワクチン（BNT162b）の反復接種による IgG と IgG サブクラス1-4の推移	第97回日本感染症学会 総会・学術講演会	横浜 4/28-30 2023	坂本　篤彦

16	麻黄湯による MHV（マウス肝炎ウイルス）への抗ウイルス作用に関する研究	第40回和漢医薬学会学術大会	富山 8/26-27 2023	瀬知　裕介
17	抗 RS ウイルス活性を有する麻黄由来低分子化合物の同定と作用機序の解明	第40回和漢医薬学会学術大会	富山 8/26-27 2023	藤兼　亜耶

〈国内研究助成金〉

1	高感度 CRP と冠動脈石灰化との関連を解明する疫学研究	文部科学省 若手研究	2023	加藤　禎史（代表）
2	感染症発症に関与する腸内細菌叢異常を解明	文部科学省 基盤研究 C	2023	鍋島　茂樹 （代表者：武岡　宏明）

〈学会活動〉

1	日本病院総合診療医学会	理事	2023	鍋島　茂樹
2	日本東洋医学会	理事	2023	鍋島　茂樹
3	和漢医薬学会	代議員	2023	鍋島　茂樹
4	日本感染症学会	評議員	2023	鍋島　茂樹
5	日本東洋医学会	代議員	2023	鍋島　茂樹
6	日本プライマリ・ケア連合学会	代議員	2023	鍋島　茂樹
7	日本病院総合診療医学会	評議員	2023	坂本　篤彦

〈研究に関係した賞〉

1	麻黄湯による MHV（マウス肝炎ウイルス）への抗ウイルス作用に関する研究	第40回和漢医薬学会学術大会優秀発表賞	2023	瀬知　裕介

福岡大学病院病理部・病理診断科

〈原著〉

1	Usefulness of NF2 hemizygous loss detected by fluorescence in situ hybridization in diagnosing pleural mesothelioma in tissue and cytology material: A multi-institutional study.	Lung Cancer	175: 27-35, 2023	Sa-Ngiamwibool, Hamasaki M, Kinoshita Y, Matsumoto S, Sato A, Tsujimura T, Kawahara K, Kasai T, Kushitani K, Takeshima Y, Hiroshima K, Iwasaki A, Nabeshima K.

〈症例報告〉

1	若年者の肩部に発生した褐色脂肪腫の１例	日本臨床細胞学会九州連合会雑誌	54: 71-75, 2023	小山　　逸，松本　慎二， 角谷　優子，坂田　祥子， 秋吉　梨江，西中村恵輔， 青木光希子，古河祐紀子， 今福　信一，濱崎　　慎
2	著しい脾臓浸潤を認めた膵臓腺房細胞癌の１例	日本臨床細胞学会九州連合会雑誌	54: 97-102, 2023	秋吉　梨江，松本　慎二， 角谷　優子，小山　　逸， 坂田　祥子，西中村恵輔， 石田　祐介，梶原　正俊， 濱田　義浩，濱崎　　慎

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（教育講演） 胸水細胞診における鑑別診断フロー　～鑑別に有用な免疫細胞マーカーの特性と Pitfall～	第47回和歌山県臨床細胞学会学術集会	和歌山 2/4 2023	松本　慎二
2	（教育講演） 中皮腫診断における免疫化学と FISH 法の有用性と注意点	第12回神戸免疫組織診断（いむーの）セミナー	神戸 9/9-9/10 2023	松本　慎二，角谷　優子，西中村恵輔，濱崎　　慎，鍋島　一樹
3	（ランチョンセミナー９） 効率的な免疫染色のワークフローと特殊染色の自動化が病理検査・診断にもたらすこと	第62回日本臨床細胞学会秋期大会	福岡 11/4-11/5 2023	濵﨑　　慎，松本　慎二
4	（教育講演） 中皮腫診断の現状－遺伝子異常基づく補助診断法の応用－	第62回日本臨床細胞学会秋期大会	福岡 11/4-11/5 2023	濵﨑　　慎，角谷　優子，松本　慎二
5	(国際学会) A case of salivary duct carcinoma in the pleural effusion confirmed by immunocytochemical ancillary assay.	11th Taiwan Japan Korea Cytotechnology joint meeting	台中（台湾） 3/3-3/4 2024	Matsumoto S, Kakutani Y, Hamasaki M

〈国内研究助成金〉

1	悪性胸膜中皮腫細胞診診断の精度向上に関する研究：新規良悪性鑑別マーカーの探索	文部科学省 基盤研究 C	2023	濵﨑　　慎（代表）
2	NIB-101コンパニオン診断薬開発	ノイルイミューン・ニチレイバイオサイエンス	2023	濵﨑　　慎（代表）

〈学会活動〉

1	日本病理学会	学術評議員	2023	濵﨑　　慎，濵田　義浩，古賀　佳織
2	日本病理学会・国立がん研究センター	病理診断コンサルテーションコンサルタント	2023	濵﨑　　慎
3	日本病理学会	センター調査個別調査部会部会員	2023	濵﨑　　慎
4	日本臨床細胞学会	細胞診ガイドライン改訂ワーキンググループ体腔液小委員会委員	2023	濵﨑　　慎
5	日本臨床細胞学会	第65回日本臨床細胞学会春期大会コアプログラム委員	2023	濵﨑　　慎
6	環境省	中央環境審議会専門委員	2023	濵﨑　　慎
7	環境省	環境保健部会所属専門委員	2023	濵﨑　　慎
8	環境省	環境保健部会石綿健康被害判定小委員会所属専門委員	2023	濵﨑　　慎
9	日本石綿・中皮腫学会（JAMIG）	理事	2023	濵﨑　　慎
10	日本肺癌学会	評議員	2023	濵﨑　　慎
11	日本肺癌学会	病理委員会委員	2023	濵﨑　　慎

12	日本肺癌学会	病理委員会・アドホック 胸部腫瘍改定作業小委員会 委員	2023	濵﨑　　慎
13	日本肺癌学会	ガイドライン胸膜中皮腫小 委員会委員　病理委員代表	2023	濵﨑　　慎
14	日本肺癌学会	中皮腫取扱い規約改定委員	2023	濵﨑　　慎，松本　慎二
15	九州肺癌研究機構（LOGIK）	LOGIK プロトコール委員 （病理）	2023	濵﨑　　慎
16	中皮腫細胞診研究会	幹事	2023	濵﨑　　慎，松本　慎二
17	日本皮膚病理組織学会	理事	2023	古賀　佳織
18	日本臨床衛生検査技師会	細胞診精度管理ワーキング 委員	2023	松本　慎二
19	日本臨床細胞学会 九州連合会学会	理事 （教育委員会）	2023	松本　慎二
20	日本臨床細胞学会 九州連合会学会	編集委員	2023	角谷　優子
21	日本臨床細胞学会 福岡県臨床細胞学会	理事	2023	松本　慎二
22	日本臨床細胞学会細胞検査士会	理事 （学術委員長）	2023	松本　慎二
23	日本臨床細胞学会 福岡県細胞検査士会	理事 （副会長）	2023	松本　慎二
24	日本臨床細胞学会 福岡県細胞検査士会	理事 （総務委員）	2023	角谷　優子
25	日本臨床細胞学会	評議員	2023	松本　慎二
26	日本臨床細胞学会	国際交流委員	2023	松本　慎二

福岡大学病院リハビリテーション部

〈原著〉

1	The differences in renal hemodynamic response following high-intensity exercise between younger and older males	Clinical and experimental nephrology	2023， 27(11)： 972-980.	Shotaro K, Tetsuhiko Y, Kazuko K, Saki K, Ai I, Kanta F, Takuro M, Shihoko N, Kosuke M, Yoshinari U, Yasuki H, Ryoma M
2	Effects of high-intensity intermittent exercise versus moderate-intensity continuous exercise on renal hemodynamics assessed by ultrasound echo	Physiological reports	2024， 12(2)： e15925.	Shotaro K, Tetsuhiko Y, Saki K, Ai I, Kanta F, Takuro M, Shihoko N, Kosuke M, Yoshinari U, Yasuki H, Ryoma M

〈総説〉

1	肺移植後の作業療法実践	作業療法ジャーナル	57巻第8号 2023年7月発行	百武　光一，齊田　和哉， 高島　千敬，井上　雅史， 鎌田　　聡，白石　武史

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（動画コンテンツ作成） 高血圧予防体操	日本高血圧学会	Web 配信 4/15 2023	三浦伸一郎，松田　拓朗， 佐藤　友則
2	（講演） 内部と外部の活動をリンクさせた健康運動指導士の社会貢献活動	ニューメップ九州	Web 配信 5/9 2023	松田　拓朗
3	（講演） 安全で効果的な糖尿病の運動療法	福岡糖尿病セミナー	WEB 配信 （福岡県） 8/30 2023	松田　拓朗
4	（講演） 非監視型心臓リハビリテーションで明らかとなった課題と将来展望	第16回福岡生活習慣病運動療法研究会	福岡大学 メディカルホール， WEB（福岡県） 9/11 2023	松田　拓朗，藤見　幹太， 藤田　政臣，田澤　理絵， 坂本　摩耶，末松　保憲， 矢野祐依子，森田　絵衣， 北島　　研，戒能　宏治， 氏福　佑希，手島　礼子， 三浦伸一郎，鎌田　　聡
5	（シンポジウム） よりよい高齢者糖尿病の運動療法を目指して	第61回日本糖尿病学会 九州地方会	熊本城ホール （熊本県） 12/1 2023	松田　拓朗
6	（ワークショップ） 慢性腎臓病・透析患者の運動療法：安全かつ効果的な運動指導を実現させるポイント	第61回日本糖尿病学会 九州地方会	熊本城ホール （熊本県） 12/1 2023	松田　拓朗
7	（教育講演） 新型コロナウイルス流行期におけるリハビリテーション医療をふりかえる	第54回日本リハビリテーション医学会 九州地方会	福岡大学病院 メディカルホール 9/10 2023	鎌田　　聡
8	（教育講演） がんリハビリテーション：地域連携での取り組みと課題	第７回日本リハビリテーション医学会 秋季学術集会	宮崎市シーガイア コンベンション センター 11/3 2023	鎌田　　聡

〈国内研究助成金〉

1	心血管疾患患者に対するウェアラブルデバイスを用いた運動指導と運動耐容能への効果	公益財団法人　健康・体力づくり事業財団 令和５年度健康運動指導研究助成	2023	松田　拓朗（代表）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第16回福岡生活習慣病運動療法研究会	Web 配信	9月11日， 2023年	藤見　幹太（当番責任者）， 松田　拓朗（当番責任者）， 鎌田　　聡，前山　　彰， 藤原　裕矢，二田　哲博， 松田　拓朗，赤木　慎作， 末永　幸洋，馬渡　太郎

2	第17回福岡生活習慣病運動療法研究会	Web 配信	3月11日，2024年	塘地　一夫（当番責任者），末永　幸洋（当番責任者），鎌田　　聡，藤見　幹太，松田　拓朗，前山　　彰，二田　哲博，松田　拓朗，赤木　慎作，下野　　大，田邉真紀人，馬渡　太郎

〈学会活動〉

1	福岡生活習慣病運動療法研究会	世話人	2012～	松田　拓朗
2	NPO 法人　足もと健康サポートネット会報誌【FOOT LIFE GOOD LIFE】	編集長	2016～	松田　拓朗
3	一般社団法人　日本スロージョギング®協会	アドバイザー	2017～	松田　拓朗
4	NPO 法人　足もと健康サポートネット	理事	2017～	松田　拓朗
5	福岡心臓リハビリテーション研究会	世話人	2018～	松田　拓朗
6	医学的管理と運動プログラムの一体的提供を推進する会	会員	2021～	松田　拓朗
7	日本臨床運動療法学会	評議員	2021～	松田　拓朗
8	日本リハビリテーション医学会	代議員	2022～	鎌田　　聡
9	急性期日本リハビリテーション医学会	代議員	2022～	鎌田　　聡
10	日本リハビリテーション医学会九州地方会	幹事	2022～	鎌田　　聡

福岡大学病院薬剤部

〈原著〉

1	Enterococcus faecium 菌血症に対するバンコマイシンの PK/PD と臨床的アウトカムの関係性：単施設後ろ向き臨床研究	医療薬学	49，143-152，2023	清水　星香，中野　貴文，江口　幸臣，森脇　典弘，池内　忠宏，戸川　　温，兼重　　晋，神村　英利
2	経口抗がん薬服用患者における HBV 再活性化予防に向けた福岡大学病院薬剤部の取り組み	癌と化学療法	50，885-889，2023	福山　景子，柿本　秀樹，長郷あかね，大倉野将広，江口　幸臣，池内　忠宏，兼重　　晋，緒方憲太郎，神村　英利
3	がん化学療法の制吐療法におけるオランザピンの使用状況と傾眠・口渇の発現状況：単施設後ろ向き臨床研究	九州薬学会雑誌	77，69-72，2023	神崎　　愛，真島　宏太，安高　勇気，井上　竜一，兼重　　晋，緒方憲太郎，神村　英利
4	薬剤管理サマリーの有用性と QR コードによる調査表返送率の改善効果	日本病院薬剤師会雑誌	59，1254-1259，2023	釜田　充浩，佐々木史香，萩原　大樹，大藪　康平，上田　　裕，柿本　秀樹，久澄　礼子，池内　忠宏，兼重　　晋，神村　英利
5	Factor Analysis of Fatigue in the Early Stages of Cancer Chemotherapy	YAKUGAKU ZASSHI	143，971-976，2023	Keisuke Fukuoka, Yuki Yasutaka, Yusuke Murata, Kenji Ohe, Munechika Enjoji, Erika Miura, Kentaro Ogata, Hidetoshi Kamimura

6	A 11-year Study of Candidemia Isolates at Fukuoka University Hospital (2011–2021)	Jpn Pharmacol Ther	51, 1677–1684, 2023	Yuko Motomura, Daiki Hagiwara, Mitsuhiro Kamada, Parinya Wilai, Rie Mukai, Daisuke Sakamoto, Tomomitsu Sato, Hidetoshi Kamimura, Nobuhiro Kashige
7	冠動脈 CT 検査時点の高血圧患者における降圧療法の効果～血圧コントロールが不良な場合に薬剤師が行うこと～	臨床と研究	101, 341–344, 2024	高橋江里香，田代　浩平， 志賀　悠平，東　　沙羅， 川平　悠人，星野　史博， 神村　英利，三浦伸一郎
8	脳神経センターでの６日間の実習における薬学生による患者への貢献に関する意識調査	薬学集報	24, 1–8, 2024	安高　勇気，緒方憲太郎， 神村　英利
9	COVID-19流行下における薬学部実務実習で実施した緩和ケア実習の教育効果	日本緩和医療薬学会雑誌	17, 9–16, 2024	川田　哲史，大津　友紀， 角　　康隆，井上　貴文， 武田　佳子，江越　菜月， 兼重　　晋，神村　英利

〈症例報告〉

1	Adrenaline-resistant anaphylactic shock caused by contrast medium in a patient after risperidone overdose: a case report	Journal of pharmaceutical health care and sciences	DOI: https://doi.org/ 10.1186/s40780- 023-00292-z, 2023	Takafumi Nakano, Yoshihiko Nakamura, Keisuke Sato, Yoshito Izutani, Hiroto Iyota, Misaki Aoyagi, Taisuke Kitamura, Toshinobu Hayashi, Koichi Matsuo, Kenichi Mishima, Hidetoshi Kamimura, Hiroyasu Ishikura, Takashi Egawa
2	持効型インスリンのみで血糖コントロールに成功した新生児糖尿病の療養指導例	くすりと糖尿病	12, 74–78, 2023	井上亜紗美，敷島　友喜， 後藤　美樹，釜田　充浩， 山口加奈子，緒方憲太郎， 兼重　　晋，瀬戸上貴資， 佐々木聡子，永光信一郎， 神村　英利

〈総説〉

1	他施設研修を取り入れた大学病院でのレジデント教育	ファルマシア	59, 415–418, 2023	池内　忠宏，神村　英利
2	妊娠可能なてんかん患者の主治医に提案したい抗てんかん薬は？	ふくおか県薬会報	36, 550–553, 2023	神村　英利

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	老年薬学の新たな展開	第７回日本老年薬学会学術大会	福岡, 5/20–21, 2023年	神村　英利

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第７回日本老年薬学会学術大会	福岡	5/20–21, 2023	神村　英利

〈学会活動〉

1	日本医薬品安全性学会	社員	2023	神村　英利，安高　勇気
2	日本医薬品安全性学会	認定試験委員	2023	安高　勇気
3	日本医療薬学会	評議員	2023	神村　英利
4	日本医療薬学会	編集委員	2023	神村　英利
5	日本精神薬学会	理事	2023	神村　英利
6	日本老年薬学会	理事	2023	神村　英利
7	日本フォーミュラリ学会	評議員	2023	神村　英利

福岡大学筑紫病院呼吸器内科

〈原著〉

1	A multicenter randomized controlled trial to evaluate the efficacy and safety of nelfinavir in patients with mild COVID-19.	Microbiol. Spectr	11(3)：e0431122，2023	Miyazaki T, Hosogaya N, Fukushige Y, Takemori S, Morimoto S, Yamamoto H, Hori M, Ozawa Y, Shiko Y, Inaba Y, Kurokawa T, Hanaoka H, Iwanami S, Kim K, Iwami S, Watashi K, Miyazawa K, Umeyama T, Yamagoe S, Miyazaki Y, Wakita T, Sumiyoshi M, Hirayama T, Izumikawa K, Yanagihara K, Mukae H, Kawasuji H, Yamamoto Y, Tarumoto N, Ishii H, Ohno H, Yatera K, Kakeya H, Kichikawa Y, Kato Y, Matsumoto T, Saito M, Yotsuyanagi H, Kohno S.
2	Partial pressure of carbon dioxide levels reflect disease severity in idiopathic pleuroparenchymal fibroelastosis.	Respir. Investig	61(4)：379-386，2023	Kinoshita Y, Utsunomiya T, Koide Y, Wada K, Ueda Y, Yoshida Y, Kushima H, Ishii H.
3	Cohort study to evaluate prognostic factors in idiopathic pulmonary fibrosis patients introduced to oxygen therapy.	Sci. Rep	13(1)：13664，2023	Kataoka K, Oda K, Takizawa H, Ogura T, Miyamoto A, Inoue Y, Akagawa S, Hashimoto S, Kishaba T, Sakamoto K, Hamada N, Kuwano K, Nakayama M, Ebina M, Enomoto N, Miyazaki Y, Atsumi K, Izumi S, Tanino Y, Ishii H, Ohnishi H, Suda T, Kondoh Y.
4	Comparative study of the two diagnostic criteria for idiopathic pleuroparenchymal fibroelastosis.	Respir. Med. Res	84：101046，2023	Kinoshita Y, Utsunomiya T, Wada K, Nakashima S, Kushima H, Ishii H.

5	Survival and acute exacerbation for patients with idiopathic pulmonary fibrosis (IPF) or non-IPF idiopathic interstitial pneumonias: 5-year follow-up analysis of a prospective multi-institutional patient registry.	BMJ Open Respir. Res	10(1): e001864, 2023	Tsubouchi K, Hamada N, Tokunaga S, Ichiki K, Takata S, Ishii H, Kitasato Y, Okamoto M, Kawakami S, Yatera K, Kawasaki M, Fujita M, Yoshida M, Maeyama T, Harada T, Wataya H, Torii R, Komori M, Mizuta Y, Tobino K, Harada E, Yabuuchi H, Nakanishi Y, Okamoto I.
6	A prospective cohort study of periostin as a serum biomarker in patients with idiopathic pulmonary fibrosis treated with nintedanib.	Sci. Rep	13(1): 22977, 2023	Okamoto M, Fujimoto K, Johkoh T, Kawaguchi A, Mukae H, Sakamoto N, Ogura T, Ikeda S, Kondoh Y, Yamano Y, Komiya K, Umeki K, Nishikiori H, Tanino Y, Tsuda T, Arai N, Komatsu M, Sakamoto S, Yatera K, Inoue Y, Miyazaki Y, Hashimoto S, Shimizu Y, Hozumi H, Ohnishi H, Handa T, Hattori N, Kishaba T, Kato M, Inomata M, Ishii H, Hamada N, Konno S, Zaizen Y, Azuma A, Suda T, Izuhara K, Hoshino T.

〈症例報告〉

1	肺胞蛋白症における全肺洗浄後に強制オシレーション法（FOT）による治療効果が確認できた１例.	日肺サーファクタント界面医会誌	54: 33-34, 2023	佐々木朝矢, 木下恵理子, 池田　貴登, 春藤　裕樹, 木下　義晃, 濱田　直樹, 海老　規之, 井上　博之, 石井　　寛, 藤田　昌樹.
2	Desquamative interstitial pneumonia with progressive pulmonary fibrosis.	Intern. Med	63(1): 107-111, 2024	Utsunomiya T, Kinoshita Y, Yoshimura M, Koide Y, Wada K, Ueda Y, Yoshida Y, Kushima H, Nimura S, Ishii H.
3	*Pseudomonas fluorescens* pneumonia.	Int. J. Infect. Dis	140: 92-94, 2024	Ishii H, Kushima H, Koide Y, Kinoshita Y.

〈著書〉

1	Pleuroparenchymal fibroelastosis (PPFE)：別冊・医学のあゆみ 間質性肺疾患の研究と診療 UPDATE	医歯薬出版	pp.105-109, 2023	石井　　寛（分担）
2	限局性結節性肺アミロイドーシス：別冊日本臨牀　血液症候群（第３版）Ⅴ	日本臨牀社	pp.186-189, 2024	石井　　寛（分担）
3	月刊薬事：特集　抗真菌薬選択がよくわかる 表在性真菌症・深在性真菌症の薬物治療	じほう	pp.87-90, 2023	串間　尚子（分担）

4	呼吸器疾患最新の治療2023-2024	南江堂	pp.246-249, 2023	串間　尚子（分担）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（教育講演） 進行性肺線維症のマネージメント：PPFE を含めて.	第91回日本呼吸器学会 九州支部 秋季学術講演会	宮崎 10/27-28, 2023	石井　　寛
2	（シンポジウム） 特発性 PPFE に対する個別化医療の方向性	第92回日本呼吸器学会 九州支部春季学術講演会	熊本 3/16, 2024	石井　　寛
3	（シンポジウム） Global な emerging mycosis：グローカルな視点から　クリプトコックス症を考える	第67回日本医真菌学会 総会・学術集会	埼玉 10/6, 2023	串間　尚子
4	（シンポジウム） 女医さんの働き方－ロールモデルは色々あってよい－：性別で夢は壊れない	第93回日本感染症学会 西日本地方会学術集会/ 第71回日本化学療法学会 西日本支部総会	熊本 11/10, 2023	串間　尚子

〈国内研究助成金〉

1	PPFE（上葉優位型肺線維症）の多面的研究	文部科学省 基盤研究 C	2023	石井　　寛（代表）
2	上葉優位型肺線維症の新規バイオマーカーとしての血清 LTBP-4の意義	文部科学省 若手研究	2023	木下　義晃（代表）
3	アスペルギルスと非結核性抗酸菌の細胞間コミュニケーションを介した難治化機序の解明	文部科学省 基盤研究 C	2023	串間　尚子 （代表者：泉川　公一）
4	肺線維症患者の真菌マイクロバイオーム解析と真菌が上皮間葉転換に与える影響の検討	文部科学省 若手研究	2023	串間　尚子（代表）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	筑紫呼吸器疾患勉強会　学術講演	ソラリア西鉄ホテル福岡	12/22, 2023	石井　　寛

〈学会活動〉

1	日本呼吸器学会	代議員	2023	石井　　寛，串間　尚子
2	日本サルコイドーシス・肉芽腫性疾患学会	評議員	2023	石井　　寛
3	日本肺癌学会九州支部	評議員	2023	石井　　寛
4	日本感染症学会	評議員	2023	石井　　寛，串間　尚子
5	日本化学療法学会	評議員	2023	串間　尚子
6	日本医真菌学会	代議員	2023	串間　尚子
7	日本臨床微生物学会	評議員	2023	串間　尚子
8	日本内科学会九州支部	評議員	2023	石井　　寛

福岡大学筑紫病院内分泌・糖尿病内科

〈原著〉

1	Investigation of the metabolic and endocrinological differences between daily and weekly growth hormone replacement therapy, somapacitan, in patients with adult growth hormone deficiency: A real-world pilot study.	Medicine (Baltimore)	102(38): e34730, 2023	Abe I, Takeshita K, Nagata M, Fujita Y, Ochi K, Koga M, Kudo T, Shimada H, Abe M, Mukoubara S, Kobayashi K.
2	Correlation between KRAS Mutation and CTLA-4 mRNA Expression in Circulating Tumour Cells: Clinical Implications in Colorectal Cancer.	Genes (Basel)	14(9): 1808, 2023	Aktar S, Islam F, Cheng T, Gamage SMK, Choudhury IN, Islam MS, Lu CT, Hamid FB, Ishida H, Abe I, Xie N, Gopalan V, Lam AK.

〈症例報告〉

1	動悸症状の出現と共に腫瘍増大を認め，術後症状消失とインスリン抵抗性の改善を認めた褐色細胞腫の１例	ACTH RELATED PEPTIDES	34: 54-55, 2023	竹下　佳織，阿部　一朗，藤田　宥哉，長田　真依，古賀　　翠，越智健太郎，工藤　忠睦，宮島　茂郎，平　　浩志，原岡　誠司，二村　　聡，石井　　龍，小林　邦久

〈総説〉

1	重症成人成長ホルモン分泌不全症の updated perspectives	ACTH RELATED PEPTIDES	34: 78-81, 2023	阿部　一朗

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	日本臨床内分泌病理学会学会賞（亀谷賞）受賞講演 褐色細胞腫及び paraganglioma（PPGL）における臨床学的・病理学的研究	第27回日本臨床内分泌病理学会学術総会	大分 9/22-9/23 2023	阿部　一朗
2	共催シンポジウム２　中性脂肪と疾病 －生活習慣病から難病まで－ 生活習慣病と高 TG 血症	第17回日本薬局学会学術総会	名古屋 10/9 2023	小林　邦久
3	優秀演題賞応募セッション２ DAX1異常症の新規根本的治療法の検討	第31回日本ステロイドホルモン学会学術集会	東京 3/9 2024	阿部　一朗，田中　智子，大江　賢治，越智健太郎，竹下　佳織，長田　真依，藤田　宥哉，工藤　忠睦，柳瀬　敏彦，小林　邦久

〈国内研究助成金〉

1	中性脂肪蓄積心筋血管症の診療，療養実態把握と医療水準の向上に資する研究 （24FC0101）	厚生労働科学研究費 難治性疾患政策研究事業	2023	小林　邦久 （代表者：平野　賢一）

〈学会活動〉

1	日本糖尿病学会	学術評議員	2023	小林　邦久
2	日本内分泌学会	学術評議員	2023	小林　邦久
3	中性脂肪学会	副代表理事	2023	小林　邦久

4	日本老年医学会	代議員	2023	小林　邦久
5	日本病態栄養学会	代議員・学術評議員	2023	小林　邦久
6	日本体質医学会	評議員	2023	小林　邦久
7	日本糖尿病合併症学会	評議員	2023	小林　邦久
8	日本臨床内分泌病理学会	評議員	2023	小林　邦久
9	日本糖尿病学会	学術評議員	2023	阿部　一朗
10	日本内分泌学会	学術評議員	2023	阿部　一朗
11	日本臨床内分泌病理学会	評議員	2023	阿部　一朗
12	日本間脳下垂体腫瘍学会	学術評議員	2023	阿部　一朗

〈研究に関係した賞〉

1	褐色細胞腫及び paraganglioma（PPGL）における臨床学的・病理学的研究	日本臨床内分泌病理学会学会賞（亀谷賞）	2023	阿部　一朗

福岡大学筑紫病院消化器内科・内視鏡部

〈原著〉

1	Association between occurrence of multiple white and flat elevated gastric lesions and oral proton pump inhibitor intake.	Clin Endosc	57(1): 65-72, 2023	Hasegawa R, Yao K, Kanemitsu T, Arima H, Hirase T, Hiratsuka Y, Takeda K, Imamura K, Ohtsu K, Ono Y, Miyaoka M, Hisabe T, Ueki T, Tanabe H, Ohta A, Nimura S.
2	Effectiveness of endoscopic resention for colorectal neoplasms in ulcerative colitis: a multicenter registration study	Gastrointest Endosc	98(5): 806-812, 2023	Hirai M, Yanai S, Kunisaki R, Nishio M, Watanabe K, Sato T, Ishihara S, Anzai H, Hisabe T, Yasukawa S, Maeda Y, Takishima K, Ohno A, Shiga H, Uraoka T, Itoi Y, Ogata H, Takabayashi K, Yoshida N, Saito Y, Takamaru H, Kawasaki K, Esaki M, Tsuruoka N, Hisamatsu T, Matsumoto T.
3	A new endoscopic scoring system corresponding to histological healing using linked color imaging in ulcerative colitis: the SOUL study.	Endosc Int Open	11(5): E504-E512, 2023	Saito D, Hirai F, Uchiyama K, Takagi T, Naito Y, Takatsu N, Tanabe H, Kishimoto M, Matsuura M, Miyoshi J, Watanabe K, Esaki M, Naganuma M, Hisamatsu T.

4	Machine learning-based model for prediction and feature analysis of recurrence in pancreatic neuroendocrine tumors G1/G2.	J Gastroenterol	58(6): 586–597, 2023	Murakami M, Fujimori N, Nakata K, Nakamura M, Hashimoto S, Kurahara H, Nishihara K, Abe T, Hashigo S, Kugiyama N, Ozawa E, Okamoto K, Ishida Y, Okano K, Takaki R, Shimamatsu Y, Ito T, Miki M, Oza N, Yamaguchi D, Yamamoto H, Takedomi H, Kawabe K, Akashi T, Miyahara K, Ohuchida J, Ogura Y, Nakashima Y, Ueki T, Ishigami K, Umakoshi H, Ueda K, Oono T, Ogawa Y.
5	Trajectory analyses to identify persistently low responders to COVID-19 vaccination in patients with inflammatory bowel disease: a prospective multicentre controlled study, J-COMBAT.	J Gastroenterol	58(10): 1015–1029, 2023	Watanabe K, Nojima M, Nakase H, Sato T, Matsuura M, Aoyama N, Kobayashi T, Sakuraba H, Nishishita M, Yokoyama K, Esaki M, Hirai F, Nagahori M, Nanjo S, Omori T, Tanida S, Yokoyama Y, Moriya K, Maemoto A, Handa O, Ohmiya N, Tsuchiya K, Shinzaki S, Kato S, Uraoka T, Tanaka H, Takatsu N, Nishida A, Umeno J, Nakamura M, Mishima Y, Fujiya M, Tsuchida K, Hiraoka S, OKabe M, Toyonaga T, Matsuoka K, Andoh A, Hirota Y, Hisamatsu T, on behalf of the J-COMBAT study group.
6	Diagnosis and Clinical Features of Perianal Lesions in Newly Diagnosed Crohn's Disease: Subgroup Analysis from Inception Cohort Registry Study of Patients with Crohn's Disease (iCREST-CD).	J Crohns Colitis	17(8): 1193–1206, 2023	Yamamoto T, Nakase H, Watanabe K, Shinzaki S, Takatsu N, Fujii T, Okamoto R, Matsuoka K, Yamada A, Kunisaki R, Matsuura M, Shiga H, Bamba S, Mikami Y, Shimoyama T, Motoya S, Torisu T, Kobayashi T, Ohmiya N, Saruta M, Matsuda K, Matsumoto T, Maemoto A, Murata Y, Yoshigoe S, Nagasaka S, Yajima T, Hisamatsu T; iCREST-CD Study Group.
7	A simpler diagnostic algorithm of the Japan Esophageal Society classification for Barrett's esophagus-related superficial neoplasia	Esophagus	21(1): 22–30, 2023	Ikenoyama Y, Goda K, Fujisaki J, Ishihara R, Takeuchi M, Takahashi A, Takaki Y, Hirasawa D, Momma K, Amano Y, Yagi K, Furuhashi H, Hashimoto S, Kanesaka T, Shimizu T, Ono Y, Yamagata T, Fujiwara J, Azumi T, Watanabe G, Ohkura Y, Nishikawa M, Oyama T.

8	Endoscopic full-thickness resection for gastric submucosal tumors: Japanese multicenter prospective study	Dig Endosc	Online ahead of print. DOI: https://doi.org/10.1111/den.14717, 2023	Shichijo S, Uedo N, Sawada A, Hirasawa K, Takeuchi H, Abe N, Miyaoka M, Yao K, Dobashi A, Sumiyama K, Ishida T, Morita Y, Ono H.
9	Prognostic Factors for Severe-to-Fatal Post-Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography Pancreatitis: A Multicenter Prospective Cohort Study	J Clin Med	13(4), 1135 DOI: https://doi.org/10.3390/jcm13041135, 2024	Matsumoto K, Noma H, Fujita K, Tomoda T, Onoyama T, Hanada K, Okazaki A, Hirano K, Goto D, Moriyama I, Kushiyama Y, Takenaka M, Maruo T, Matsumoto H, Asada M, Nebiki H, Katayama T, Kawamura T, Kurita A, Ueki T, Tsujimae M, Matsubara T, Yamada S, Tamura T, Marui S, Mitoro A, Isomoto H, Yazumi S, Kawamoto H.
10	Evaluating the usefulness of considering the size and morphological type of type B2 vessel area based on Japan Esophageal Society classification in estimating tumor invasion depth in superficial esophageal squamous cell carcinomas: study protocol for a prospective observational study (Japan BEES study)	BMC Gastroenterol	DOI: https://doi.org/10.1186/s12876-024-03138-6, 2024	Yoshida M, Mori K, Urabe Y, Hirasawa D, Sasaki F, Takeuchi M, Kadota T, Yoshio T, Yoshinaga S, Kitamura Y, Ohno K, Ono Y, Igarashi K, Takahashi H, Ishihara R.
11	Is systolic blood pressure before endoscopic sphincterotomy associated with bleeding during endoscopic sphincterotomy for choledocholithiasis?	Med Bull Fukuoka Univ	51(1): 1–8, 2024	Hiratsuka H, Maruo T, Ezaki K, Atono T, Matsuoka D, Tanaka T, Ihara R, Tachikawa K, Nagayama R, Doi M, Noma E, Ueki T.
12	Chromoendoscopy using the non-estension sign as a marker is comparable to endoscopic ultrasonography in terms of diagnostic performance for evaluating the invasion depth of early colorectal cancer.	Med Bull Fukuoka Univ	51(1): 9–16, 2024	Takeda K, Yao K, Ohtsu K, Hirase T, Hiratsuka Y, Kanemitsu T, Ono Y, Miyaoka M, Hisabe T, Ueki T, Tanabe H, Haraoka S, Nimura S.
13	Clinicopathological and endoscopic features of *Helicobacter pylori* infection-negative gastric cancer in Japan: a retrospective study.	Clin Endosc	Epub ahead of print. DOI: https://doi.org/10.5946/ce.2023.258, 2024	Imamura K, Yao K, Nimura S, Kanemitsu T, Miyaoka M, Ono Y, Ueki T, Tanabe H.
14	Multicenter study of invasive gastric cancer detected after 10 years of Helicobacter pylori eradication in Japan: Clinical, endoscopic, and histopathologic characteristics	DEN Open	4(1):e345 DOI: https://doi.org/10.1002/deo2.345, 2024	Kobayashi M, Fujisaki J, Namikawa K, Hoteya S, Sasaki A, Shibagaki K, Yao K, Abe S, Oda I, Ueyama H, Isomoto H, Ito M, Sugimoto M, Kawai T, Kodama M, Murakami K, Adachi K, Matsuhashi N, Ohata K, Ushijima T, Kato M, Miyamoto S, Yoshimura D, Yao T, Yagi K, Iwaizumi M, Uemura N.

15	Is multidisciplinary treatment effective for invasive intraductal papillary mucinous carcinoma?	Ann Gastroenterol Surg	DOI:10.1002/ags3.12790, 2024	Hirono S, Higuchi R, Honda G, Nara S, Esaki M, Gotohda N, Takami H, Unno M, Sugiura T, Ohtsuka M, Shimizu Y, Matsumoto I, Kin T, Isayama H, Hashimoto D, Seyama Y, Nagano H, Hakamada K, Hirano S, Nagakawa Y, Mizuno S, Takahashi H, Shibuya K, Sasanuma H, Aoki T, Kohara Y, Rikiyama T, Nakamura M, Endo I, Sakamoto Y, Horiguchi A, Hatori T, Akita H, Ueki T, Idichi T, Hanada K, Suzuki S, Okano K, Maehira H, Motoi F, Fujino Y, Tanno S, Yanagisawa A, Takeyama Y, Okazaki K, Satoi S, Yamaue H.
16	Multicenter prospective registration study of efficacy and safety of capsule endoscopy in Crohn's disease in Japan (SPREAD-J study)	J Gastroenterol	58(10): 1003-1014, 2023	Sakurai T, Omori T, Tanaka H, Ito T, Ando K, Yamamura T, Nanjjo S, Osawa S, Takeda T, Watanabe K, Hiraga H, Yamamoto S, Ozeki K, Tanaka S, Tajiri H, Saruta M; the SPREAD-J group

〈症例報告〉

1	Numerous lesions of gastric adenocarcinoma of fundic-gland and fundic gland-mucosa type in a patient.	Gastric Cancer	26(6): 1069-1073, 2023	Imamura K, Yao K, Nimura S, Tanabe H, Kanemitsu T, Miyaoka M.

〈総説〉

1	「胃と腸」式　読影問題集2023 基本と応用－考える画像診断が身につく 咽頭・食道　Case 4	胃と腸	58(4): 384-387, 2023	小野陽一郎，八尾　建史， 二村　　聡
2	「胃と腸」式　読影問題集2023 基本と応用－考える画像診断が身につく 胃　Case 2	胃と腸	58(4): 412-415, 2023	宮岡　正喜，八尾　建史， 二村　　聡
3	「胃と腸」式　読影問題集2023 基本と応用－考える画像診断が身につく 胃　Case 4	胃と腸	58(4): 420-423, 2023	宮岡　正喜，八尾　建史， 二村　　聡
4	「胃と腸」式　読影問題集2023 基本と応用－考える画像診断が身につく 胃　Case 5	胃と腸	58(4): 424-427, 2023	今村健太郎，八尾　建史， 田邉　　寛
5	「胃と腸」式　読影問題集2023 基本と応用－考える画像診断が身につく 胃　Case 7	胃と腸	58(4): 432-436, 2023	今村健太郎，八尾　建史， 二村　　聡

6	「胃と腸」式　読影問題集2023 基本と応用－考える画像診断が身につく 大腸　Case 8	胃と腸	58(4)： 555-557， 2023	八坂　達尚，久部　高司， 二村　　聡
7	胃上皮下腫瘍の内視鏡診断 病変の壁内局在が粘膜層にある疾患を中心に	胃と腸	58(5)： 623-634， 2023	金光　高雄，八尾　建史， 宇野駿太郎，有馬　久富， 金城　　健，長谷川梨乃， 宮岡　正喜，植木　敏晴， 平瀬　崇之，二村　　聡
8	Core Sessions of JGES Meeting Advanced diagnostic endoscopy in the upper gastrointestinal tract: Review of the Japan Gastroenterological Endoscopy Society core sessions.	Dig Endosc	35(6)： 711-717， 2023	Kawai T, Inoue H, Yao K, Kaise M, Kato M, Tanabe S, Sakata Y, and Collaborators.
9	特集　明日の業務に役立つ！胆道の臨床検査 ４．胆道の画像診断 ２）各種内視鏡検査の特徴と位置づけ	Medical Technology	51(6)： 580-584， 2023	立川　勝子，植木　敏晴， 江崎　　薫，後野　徹宏， 田中　利幸，平塚　裕晃， 土居　雅宗，永山林太郎， 丸尾　　達，野間栄次郎
10	潰瘍性大腸炎確定診断例にみられる非典型病変とその経過 潰瘍性大腸炎関連の胃十二指腸病変および小腸病変	胃と腸	58(6)： 735-746， 2023	久部　高司，宇野駿太郎， 三雲　博行，髙橋　篤史， 金城　　健，安川　重義， 古賀　章浩，髙津　典孝， 二村　　聡，植木　敏晴， 八尾　建史
11	Evidence-based clinical practice guidelines for cholelithiasis 2021	J Gastroenterol	58(9)： 801-833， 2023	Fujita N, Yasuda I, Endo I, Isayama H, Iwashita T, Ueki T, Uemura K, Umezawa A, Katanuma A, Katayose Y, Suzuki Y, Shoda J, Tsuyuguchi T, Wakai T, Inui K, Unno M, Takeyama Y, Itoi T, Koike K, Mochida S.
12	内視鏡の読み方 ラズベリー様腺窩上皮型胃腫瘍との鑑別を必要とした胃カルチノイドの１例	臨床消化器内科	38(9)： 1219-1223， 2023	宮岡　正喜，筒井　章弘， 中島　美紀，金光　高雄， 田邉　　寛，二村　　聡， 植木　敏晴，八尾　建史
13	正常十二指腸粘膜の拡大内視鏡像と組織学的・解剖学的所見	胃と腸	58(8)： 983-985， 2023	八尾　建史
14	拡大内視鏡を施行したセリアック病の１例－十二指腸粘膜の内視鏡所見を中心に	胃と腸	58(8)： 1077-1087， 2023	金城　　健，田邉　　寛， 二村　　聡，八尾　建史
15	【特集】膵疾患における Interventional endoscopy の進歩 巻頭言：膵疾患における Interventional endoscopy	膵臓	38(4)： 1， 2023	糸井　隆夫，植木　敏晴
16	【特集】膵疾患における Interventional endoscopy の進歩 膵腫瘍性嚢胞に対する EUS 下腫瘍焼灼療法	膵臓	38(4)： 238-246， 2023	丸尾　　達，植木　敏晴， 伊原　　諒，後野　徹宏， 田中　利幸，平塚　裕晃， 永山林太郎，立川　勝子

17	E-learning system to improve the endoscopic diagnosis of early gastric cancer	Clin Endosc	Online ahead of print. DOI:10.5946/ce.2023.087, 2023	Yao K, Yao T, Uedo N, Doyama H, Ishikawa H, Nimura S, Takahashi Y.
18	口腔・咽喉頭領域における非腫瘍性病変の内視鏡的特徴	胃と腸	58(9):1145-1155, 2023	小野陽一郎，高野　恵輔，武田　輝之，安川　重義，古賀　章浩，石川　智士，金光　高雄，高津　典孝，宮岡　正喜，久部　高司，植木　敏晴，田邉　　寛，原岡　誠司，二村　　聡，八尾　建史
19	「胃と腸」式　読影問題集2023 応用と発展－考える画像診断が身につく 咽頭・食道　Case 7	胃と腸	58(10):1234-1237, 2023	小野陽一郎，八尾　建史，二村　　聡
20	特集　食道疾患アトラス 【各論】Ⅰ．隆起を呈する病変 ■悪性：1型食道癌	消化器内視鏡	35(増刊号):104-105, 2023	小野陽一郎，八尾　建史，二村　　聡
21	胆石症診療ガイドライン2021（改訂第3版） ～肝内結石～	胆と膵	44(特別号):1383-1387, 2023	船越　早織，鈴木　　裕，山﨑　　彩，蓮井　信宏，工藤　翔平，百瀬　博一，松木　亮太，小暮　正晴，阿部　展次，須並　英二，植木　敏晴，藤田　直孝，阪本　良弘
22	食道上皮下病変のX線診断	胃と腸	59(3):295-306, 2024	小野陽一郎，高野　恵輔，石川　智士，久部　高司，植木　敏晴，柴田　亮輔，渡部　雅人，市岡　正敏，平瀬　崇之，吉村　雅代，田邉　　寛，原岡　誠司，二村　　聡，八尾　建史
23	Role of advanced endoscopy in the management of inflammatory digestive diseases (pancreas and biliary tract)	Dig Endosc	Online ahead of print. DOI: https://doi.org/10.1111/den.14756, 2024	Ueki T, Maruo T, Igarashi Y, Yamamiya A, Tominaga K, Irisawa A, Yoshida H, Kamisawa T, Takenaka M, Isayama H.
24	厚生労働科学研究費補助金　難治性疾患政策研究事業 「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」（久松班）令和5年度分担研究報告書	潰瘍性大腸炎・クローン病診断基準・治療指針（令和5年度改訂版）	http://www.ibdjapan.org/pdf/doc15.pdf	田邉　　寛，東　大二郎，久部　高司（難治性炎症性腸管障害に関する調査研究班，研究代表者：久松　理一）

〈著書〉

1	第3部　膵臓，Ⅱ．各論，B．急性膵炎 COLUMN 「薬物性膵炎」	非腫瘍性疾患病理アトラス 肝胆膵／文光堂	pp.276-278, 2023	植木　敏晴，丸尾　　達，二村　　聡（分担）
2	Ⅰ．総論 9．日本消化器内視鏡技師制度	消化器内視鏡技師のためのハンドブック 改訂第8版／医学図書出版	pp.129-131, 2023	植木　敏晴（分担）
3	Ⅱ．検査の実際 10．内視鏡的逆行性胆管膵管造影およびその関連手技	消化器内視鏡技師のためのハンドブック 改訂第8版／医学図書出版	pp.192-198, 2023	永山林太郎，後野　徹宏，平塚　裕晃，土居　雅宗，江崎　　薫，田中　利幸，植木　敏晴（分担）

4	２章　限界症例の見きわめ・方針転換 ６　大腸 ESD の適応としての病変サイズの限界	アドバンスト大腸 ESD ／日本医事新報社	pp.129-134，2024	大津　健聖，久部　高司，二村　　聡（分担）
5	第１章　所見からみた診断へのアプローチ 十二指腸　十二指腸の解剖と内視鏡像 ３　びまん性変化を呈する病変　セリアック病	内視鏡所見のよみ方と鑑別診断－上部消化管 第３版／医学書院	pp.360-361，2024	武田　輝之，八尾　建史（分担）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（パネルディスカッション） 術後 CD に導入した UST の寛解維持効果の検討	第48回日本大腸肛門病学会九州地方会	鹿児島 7/29 2023	三雲　博行，古賀　章浩，久部　高司，植木　敏晴，八尾　建史
2	（シンポジウム） １型自己免疫性膵炎のステロイド無治療例の長期予後	第109回日本消化器病学会総会	長崎 4/6-8 2023	丸尾　　達，土居　雅宗，植木　敏晴
3	（パネルディスカッション） 抗血栓薬服用者の総胆管結石症に対する内視鏡的乳頭括約筋切開術における出血例の検討	第109回日本消化器病学会総会	長崎 4/6-8 2023	平塚　裕晃，丸尾　　達，植木　敏晴
4	（シンポジウム） 当院のける潰瘍性大腸炎に対する JAK 阻害剤（トファシチニブ，フィルゴチニブ）の使用状況	第121回日本消化器病学会九州支部例会	福岡 5/12-13 2023	三雲　博行，安川　重義，高津　典孝，久部　高司，八尾　建史
5	（シンポジウム） 潰瘍性大腸炎に対するベドリズマブの短期および長期有効性に関する検討	第115回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	福岡 5/12-13 2023	酒見　亮介，橋本　　崇，平野　昭和，松岡　弘樹，宗　　祐人
6	（ワークショップ） 大腸ポリープに対する内視鏡治療における後出血の検討	第115回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	福岡 5/12-13 2023	平野　昭和，大津　健聖，児嶋　宏晃，宗　　祐人，森光　洋介
7	（ワークショップ） 大腸上皮性腫瘍に対する Underwater EMR の治療成績	第115回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	福岡 5/12-13 2023	八坂　達尚，久部　高司，大津　健聖，二村　　聡，八尾　建史
8	（シンポジウム） 抗 TNF-α抗体投与中に狭窄症状を有する腸管狭窄を合併したクローン病患者に対する内視鏡的バルーン拡張術の長期成績	第105回日本消化器内視鏡学会総会	東京 5/25-27 2023	武田　輝之，平井　郁仁，八尾　建史
9	（シンポジウム） 高齢者の総胆管結石に対する内視鏡的乳頭括約筋切開術の偶発症に関する検討	第105回日本消化器内視鏡学会総会	東京 5/25-27 2023	江崎　　薫，丸尾　　達，植木　敏晴
10	（ワークショップ） 経皮的治療の偶発症に対して経皮経肝胆道鏡下の処置が有用であった２例	第105回日本消化器内視鏡学会総会	東京 5/25-27 2023	後野　徹宏，丸尾　　達，植木　敏晴
11	（パネルディスカッション） 膵腫瘤診断における EUS-Elastography の有用性	日本超音波医学会 第96回学術集会	埼玉 5/27-29 2023	田中　利幸，丸尾　　達，植木　敏晴
12	(講演) Multiple white and flat elevated lesions and PPIs	2023 Southern Forum on GI Disease & Endoscopy（Web 開催）	Guangzhou，China July 7-9 2023	Yao K
13	（ワークショップ） 高齢者の切除不能膵癌における化学療法の治療成績と生命予後因子の検討	第54回日本膵臓学会大会	福岡 7/21-22 2023	田中　利幸，丸尾　　達，江崎　　薫，後野　徹宏，平塚　裕晃，伊原　　諒，土居　雅宗，野間栄次郎，植木　敏晴

14	（講演） Detection and characterization of early gastric cancer.	The first Gastroenterology Congress, National University of Colombia（Web 開催）	Bogota, Colombia September 2 2023	Yao K
15	（パネルディスカッション） 再建腸管を伴った上腹部手術症例を除く総胆管結石に対する内視鏡治療の有用性	第59回日本胆道学会学術集会	札幌 9/14–15 2023	後野　徹宏，平塚　裕晃，植木　敏晴
16	（シンポジウム） 拡大内視鏡により視覚化される white opaque substance（WOS）について	第55回日本臨床分子形態学会総会・学術集会	福岡 9/29–30 2023	金光　高雄，八尾　建史
17	（シンポジウム） 膵管内乳頭粘液性腫瘍の診断と経過観察例の検討－ US の役割を含めて－	日本超音波医学会第33回九州地方会学術集会	久留米 10/8 2023	植木　敏晴，丸尾　　達，中島　美紀，江崎　　薫，後野　徹宏，田中　利幸，平塚　裕晃，伊原　　諒，立川　勝子，野間栄次郎
18	（ワークショップ） AI を用いた大腸ポリープの検出能の検討	第65回日本消化器病学会大会	神戸 11/2–5 2023	平塚　裕也，久部　高司，八尾　建史
19	（ワークショップ） 高齢者の総胆管結石に対する内視鏡的乳頭括約筋切開術（EST）による出血の検討	第106回日本消化器内視鏡学会総会	神戸 11/2–5 2023	平塚　裕晃，丸尾　　達，植木　敏晴
20	（シンポジウム） 潰瘍性大腸炎の長期予後の変遷 ～新規分子標的薬の登場とともに～	第122回日本消化器病学会九州支部例会	沖縄 11/24–25 2023	安川　重義，高津　典孝，古賀　章浩，久部　高司，八尾　建史
21	（ワークショップ） 膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）のフォローアップとその課題	第122回日本消化器病学会九州支部例会	沖縄 11/24–25 2023	伊原　　諒，立川　勝子，丸尾　　達，野間栄次郎，植木　敏晴
22	（ポスタープレゼンテーション） Diagnostic performance of NES-based CE vs EUS in early colorectal cancer	APDW2023	Bangkok, Thailand December 6–9 2023	Takeda K, Yao K, Ohtsu K, Kanemitsu T, Hirase T, Hiratsuka Y, Yasaka T, Amano R, Ono Y, Miyaoka M, Hisabe T, Ueki T, Tanabe H, Haraoka S, Nimura S
23	（ポスタープレゼンテーション） Evaluation of AI-aided detection of colorectal polyps	APDW2023	Bangkok, Thailand December 6–9 2023	Hiratsuka Y, Hisabe T, Yao K
24	（講演） Endoscopic diagnosis of Helicobacter pylori-uninfected gastric cancer	37th International Workshop on Therapeutic Endoscopy	Hong Kong, China, December 14 2023	Yao K
25	（ポスタープレゼンテーション） Efficacy and safety of non-medical switching from infliximab originator to infliximab biosimilar CT-P13 in patients with inflammatory bowel disease, a single-center prospective study in Japan	AIBD2023	Florida, USA December 14–16 2023	Takeda T, Takahashi A, Mikumo H, Kinjo K, Yasukawa S, Koga A, Takatsu N, Hisabe T, Arima H, Yao K, Imakiire S, Yamauchi E, Hirai F

26	(シンポジウム) クローン病において便中カルプロテクチンは小腸病変の活動性を反映するか？ ～IBD Quality team による研究～	第17回日本カプセル内視鏡学会学術集会	沖縄 2/11 2024	武田　輝之，柿添　　梢， 西俣　伸亮，藤岡　　審， 鶴岡ななえ，古田　陽輝， 髙橋　晴彦，金城　福則， 上村　修司，山本章二朗， 酒見　亮介，久能　宣昭， 江﨑　幹宏，有馬　久富， 平井　郁仁，八尾　建史
27	（ポスタープレゼンテーション） Clinical features and surgical necessity rate of fistulising perianal disease in newly diagnosed patients with Crohn's disease: Interim analysis of inception cohort registry study of patients with Crohn's disease (iCREST-CD)	ECCO2024	Stockholm, Sweden February 21-24 2024	Takatsu N, Yamamoto T, Nakase H, Shinzaki S, Watanabe K, Fujii T, Okamoto R, Matsuoka K, Yamada A, Kunisaki R, Matsuura M, Shiga H, Bamba S, Mikami Y, Shimoyama T, Motoya S, Torisu T, Kobayashi T, Ohmiya N, Saruta M, Matsuda K, Matsumoto T, Maemoto A, Yoshigoe S, Tsuchiya H, Nishimura R, Murata Y, Hisamatsu T

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第29回九州胃拡大内視鏡研究会 （Web 開催）	－	8/5， 2023	八尾　建史
2	第23回福岡肝胆膵懇話会 （ハイブリッド開催）	TKP 博多駅前シティセンター	9/2， 2023	植木　敏晴
3	第87回食道色素研究会 （ハイブリッド開催）	アクロス福岡	1/27， 2024	小野陽一郎
4	第30回九州胃拡大内視鏡研究会 （ハイブリッド開催）	レソラ NTT 夢天神ホール	3/9， 2024	八尾　建史

〈長期海外研修〉

1	ピロリ菌感染症関連死撲滅に向けた中核拠点形成事業	ブータン王国 Khesar Gyalpo University of Medical Science of Bhutan, Jigme Dorji Wangchuck National Referral Hospital	2023.9.11～12.10	宮岡　正喜

〈学会活動〉

1	日本消化器内視鏡学会	理事	2023	植木　敏晴
2	日本消化器内視鏡学会	社団評議員	2023	八尾　建史，植木　敏晴， 久部　高司
3	日本消化器内視鏡学会	学術評議員	2023	宮岡　正喜，小野陽一郎， 金光　高雄
4	日本内視鏡学会　早期胃癌の内視鏡診断ガイドライン（第２版）委員会	作成委員	2023	金光　高雄
5	日本消化器内視鏡学会九州支部	支部長	2023	八尾　建史
6	日本消化器内視鏡学会九州支部	支部幹事	2023	植木　敏晴

7	日本消化器内視鏡学会九州支部	評議員	2023	八尾　建史，植木　敏晴， 久部　高司，宮岡　正喜， 髙津　典孝，小野陽一郎， 金光　高雄，古賀　章浩， 石川　智士，丸尾　　達， 武田　輝之，八坂　達尚， 天野　良祐， 伊原　　諒
8	日本消化器病学会	財団評議員	2023	植木　敏晴
9	日本消化器病学会	評議員	2023	八尾　建史，久部　高司， 金光　高雄
10	日本消化器病学会九州支部	支部幹事	2023	八尾　建史，植木　敏晴
11	日本消化器病学会九州支部	評議員	2023	八尾　建史，植木　敏晴， 久部　高司，宮岡　正喜， 小野陽一郎，髙津　典孝， 金光　高雄，丸尾　　達， 立川　勝子
12	日本カプセル内視鏡学会	代議員	2023	久部　高司
13	日本大腸肛門病学会	評議員	2023	久部　高司
14	日本大腸肛門病学会九州支部	支部幹事	2023	久部　高司
15	日本大腸肛門病学会九州支部	評議員	2023	久部　高司，小野陽一郎
16	日本大腸検査学会	評議員	2023	久部　高司
17	日本胃癌学会	代議員	2023	八尾　建史
18	日本消化管学会	代議員	2023	八尾　建史，久部　高司
19	日本消化器関連学会機構（JDDW）	社員	2023	植木　敏晴
20	日本超音波医学会	代議員	2023	植木　敏晴
21	日本肝臓学会西部会	評議員	2023	植木　敏晴
22	日本膵臓学会	評議員	2023	植木　敏晴
23	日本胆道学会	理事	2023	植木　敏晴
24	世界消化器内視鏡学会（OMED）“画像診断の標準化”プロジェクト	プロジェクト委員	2023	八尾　建史
25	世界消化器病学会	内視鏡ワーキンググループメンバー	2023	八尾　建史
26	九州 ERCP-EUS 研究会	代表世話人	2023	植木　敏晴
27	九州胃拡大内視鏡研究会	代表世話人	2023	八尾　建史
28	福岡肝胆膵懇話会	代表世話人	2023	植木　敏晴
29	福岡消化管懇話会	代表世話人	2023	八尾　建史
30	九州胃と腸大会	代表世話人	2023	八尾　建史
31	臨床消化器病研究会（肝胆膵の部）	世話人	2023	植木　敏晴

32	臨床消化器病研究会（消化管の部）	世話人	2023	八尾　建史
33	拡大内視鏡研究会	世話人	2023	八尾　建史
34	日本消化器画像診断研究会	世話人	2023	植木　敏晴
35	膵癌早期診断研究会	世話人	2023	植木　敏晴
36	大腸研究会	世話人	2023	久部　高司
37	九州大腸肛門懇談会	世話人	2023	久部　高司
38	早期胃癌研究会	運営委員	2023	八尾　建史，小野陽一郎
39	日本食道学会	評議員	2023	小野陽一郎
40	NPO 法人　胃癌を撲滅する会	理事	2023	八尾　建史

〈研究に関係した賞〉

1	小腸の狭窄病変に対して外科的加療を行った家族性地中海熱遺伝子関連腸炎の一例	第115回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 専攻医奨励賞	2023	黒岩　俊志

福岡大学筑紫病院脳神経外科・脳卒中センター・脳神経内科

〈原著〉

1	Analysis of Cerebrovascular Events after Coil Embolization of Unruptured Cerebral Aneurysms in Patients Taking Anticoagulants	J Neuroendovasc Ther	17(3)： 73-79， 2023	Hayatsura Hanada, Kouhei Nii, Kimiya Sakamoto, Ritsurou Inoue, Yoko Hirata, Kodai Matsuda, Jun Tsugawa, Sho Takeshita, Sachiko Shirakawa, Toshio Higashi
2	Retrospective observational study of patients with subdural hematoma treated with Idarucizumab	Neurotrauma Rep	4： 790-796， 2023	Suehiro H, Ishihara H, Kogeichi Y, Ozawa T, Haraguchi K, Honda M, Honda Y, Inabe M, Kabeya R, Kanda N, Koketsu K, Murakami N, Nakamoto H, Oshio K, Saigusa K, Shuto T, Sugiyama S, Suzuyama K, Tarashima T, Tsuura M, Nakada M, Kobata H, Higashi T, Sakai N, Suzuki M

〈症例報告〉

1	HTLV-1-associated demyelinating neuropathy: A case report and review of the literature.	eNeurologicalSci	2023 Feb 20； 31：100453． doi：10.1016/j. ensci. 2023. 100453. eCollection 2023	Tamaki K, Mishima T, Tateishi Y, Mera H, Ogura H, Tsugawa J, Fujioka S, Takamatsu Y, Tsuboi Y

〈著書〉

1	整形外科　SURGICAL TECHNIQUE 2023 Vol.13 No.6	メディカ出版	pp．45-49， 2023	坂本　王哉
2	脳神経外科速報　2023 vol.33 No.4	メディカ出版	pp．455-457， 2023	坂本　王哉

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	灌流画像解析ソフトウェア RAPID と脳卒中 one-stop management	CVIT2023	福岡 8/4-8/5 2023	東　登志夫
2	ヒストアクリルを安全に使うために： 低濃度で液体塞栓をコントロールする	第39回日本脳神経血管内治療学会学術集会	京都 11/23-11/25 2023	東　登志夫

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第38回日本脳神経血管内治療学会九州地方会	福岡国際会議場 ハイブリッド開催	福岡 7/29 2023	東　登志夫，廣畑　優
2	第39回日本脳神経血管内治療学会九州地方会	JR 博多シティ会議室	福岡 1/27 2023	東　登志夫，廣畑　優

〈学会活動〉

1	日本脳神経血管内治療学会	理事	2022	東　登志夫
2	日本脳神経血管内治療学会	専門医指導医認定委員	2022	東　登志夫
3	日本脳神経血管内治療学会	倫理委員長	2022	東　登志夫
4	日本脳神経血管内治療学会	機関誌副編集長	2022	東　登志夫
5	日本脳神経外科学会	代議員	2022	東　登志夫

福岡大学筑紫病院小児科

〈原著〉

1	Frequency of iduronate-2-sulfatase gene variants detected in newborn screening for mucopolysaccharidosis type Ⅱ in Japan.	Mol Genet Metab Rep	2023 Aug 28； 37：101003. doi：10.1016/ j.ymgmr.2023. 101003. eCollection 2023 Dec.	Hattori Y, Sawada T, Kido J, Sugawara K, Yoshida S, Matsumoto S, Inoue T, Hirose S, Nakamura K
2	Scalp EEG-recorded high-frequency oscillations can predict seizure activity in Panayiotopoulos syndrome.	Clin Neurophysiol.	2023 Dec； 156：106-112. doi：10.1016/ j.clinph.2023. 09.015. Epub 2023 Oct 13.	Fujita T, Ihara Y, Hayashi H, Inoue T, Nagamitsu S, Yasumoto S, Tobimatsu S.
3	Three KINSSHIP syndrome patients with mosaic and germline AFF3 variants	Clinical Genetics	2023 Jan. 103(5)590-595頁, 2023 DOI 10.1111/cge. 14292	Inoue Y, Tsuchida N, Okamoto N, Shimakawa S, Ohashi K, Saitoh S, Ogawa A, et al.

〈症例報告〉

1	A UNIQUE CASE of BULBAR-ONSET JUVENILE MYASTHENIA GRAVIS, without OCULAR SYMPTOMS or LIMB MUSCLES WEAKNESS	福岡大学医学紀要	1(1), 29-34, 2024	Taichi MARUYAMA, Jun TSUGAWA, Yasuhito MIHASHI, Takahiko HIRAI, Koshiro FUJIKAWA, Yuko FUJII, Atsushi OGAWA, Takahito INOUE

2	Infant with accidental ingestion of heated tobacco	Journal of the American College of Emergency Physicians Open (JACEP Open)	4: 1-2, 2023	Taichi Maruyama, Daiki Sasaoka, Yuko Fujii, Sayo Mori, Takahito Inoue, Atsushi Ogawa

〈総説〉

1	巻頭言　心をつなぐ　－日本子ども虐待防止学会第28回学術集会ふくおか大会を開催して－	子どもの虐待とネグレクト	25(2) 113-115頁, 2023	小川　　厚

〈著書〉

1	ネルソン小児科学　原著第21版 第36章, Rumination and Pica. 第37章, Motor Disorders and Habits.	エルゼビア・ジャパン, 東京（分担）	2023.5	井上　貴仁
2	ネルソン小児科学　原著第21版 第13章, Injury Control. 第14章, Impact of Violence on Children.	エルゼビア・ジャパン, 東京（分担）	2023.5	小川　　厚
3	週刊日本医事新報. 第179回日本プライマリ・ケア連合学会監修　プライマリ・ケアの理論と実践：子ども虐待の今	日本医事新報社	12-13, 2023	丸山　大地
4	週刊日本医事新報. 第180回日本プライマリ・ケア連合学会監修　プライマリ・ケアの理論と実践：子ども虐待を疑う際の Tips	日本医事新報社	12-13, 2023	丸山　大地
5	週刊日本医事新報. 第181回日本プライマリ・ケア連合学会監修　プライマリ・ケアの理論と実践：子ども虐待を疑った後の対応	日本医事新報社	12-13, 2023	丸山　大地
6	週刊日本医事新報. 特集　炉辺閑話	日本医事新報社	42, 2024	丸山　大地
7	週刊日本医事新報. 特集　虐待を疾患と捉えて鑑別するための Tips 集	日本医事新報社	2024	丸山　大地

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	福岡県における拡大新生児スクリーニングの取り組み～早期発見と早期介入の重要性～	第73回日本小児神経学会近畿地方会	2023.9.30, 京都	井上　貴仁

〈国内研究助成金〉

1	「新規疾患の新生児マススクリーニングに求められる実施体制の構築に関する研究」	こども家庭科学研究費 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業	2023	研究分担者：井上　貴仁 （研究代表者：但馬　　剛）
2	「ライソゾーム病, ペルオキシソーム病（副腎白質ジストロフィーを含む）における良質かつ適切な医療の実現に向けた体制の構築とその実装に関する研究」	厚労科研費 難治性疾患政策研究事業	2023	研究協力者：井上　貴仁 （研究代表者：奥山　虎之）

〈学会活動〉

1	日本小児科学会	代議員	2023	井上　貴仁
2	日本小児科学会小児慢性特定疾病委員会	委員	2023	井上　貴仁
3	日本小児科学会新生児マススクリーニング検討小委員会	委員	2023	井上　貴仁

4	日本小児神経学会	評議員	2023	井上　貴仁
5	日本小児神経学会小慢・難病に関する委員会	委員長	2023	井上　貴仁
6	日本小児神経学会九州地方会	世話人	2023	井上　貴仁
7	九州小児科学会	運営委員	2023	井上　貴仁
8	福岡臨床と脳波懇話会 （日本臨床神経生理学会認定）	世話人	2023	井上　貴仁
9	九州学校保健学会	評議員	2023	井上　貴仁
10	日本小児科学会	代議員	2023	小川　　厚
11	日本小児神経学会	評議員	2023	小川　　厚
12	日本てんかん学会	評議員	2023	小川　　厚
13	日本子ども虐待医学会	評議員・理事長	2023	小川　　厚

福岡大学筑紫病院外科

〈原著〉

1	Surveillance after resection of non-invasive intraductal papillary mucinous neoplasms (IPMN). A systematic review	Pancreatology.	23(3): 258-265, 2023	Correa-Gallego C, Miyasaka Y, Hozaka Y, Nishino H, Kawamoto M, Vieira DL, Ohtsuka T, Wolfgang C.
2	Small and large intestinal cancer in patients with Crohn's disease studied by surgeons	Surgery Today	53(6): 675-680, 2023	Higashi D, Irie H, Maki T, Kusaba H, Koreeda N, Hirano Y, Kaida H, Kawamoto M, Komono A, Takahashi H, Sakamoto R, Shibata R, Miyasaka Y, Hisabe T, Nimura S, Watanabe M
3	International evidence-based Kyoto guidelines for the management of intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas.	Pancreatology.	24(2): 255-270, 2024	Ohtsuka T, Fernandez-Del Castillo C, Furukawa T, Hijioka S, Jang JY, Lennon AM, Miyasaka Y, Ohno E, Salvia R, Wolfgang CL, Wood LD.

〈症例報告〉

1	Nonocclusive mesenteric ischemia (NOMI) on Roux limb after biliary reconstruction successfully treated by interventional radiology (IVR)	Clin J Gastroenterol	Online ahead of print, 2024	Kawamoto M, Miyasaka Y, Koreeda N, Hirano Y, Yamamoto R, Watanabe M.

〈総説〉

1	日本内視鏡外科学会技術認定合格のための集中講座　食道編（第２回）　食道癌に対する胸腔鏡下食道切除術	消化器外科	46(4): 433-440, 2023	渡部　雅人
2	日本内視鏡外科学会技術認定合格のための集中講座　食道編（第３回）　食道癌に対する胸腔鏡下食道切除術	消化器外科	46(5): 539-546, 2023	渡部　雅人

3	腹腔鏡下S状結腸切除術	消化器外科腹腔鏡手術免許皆伝	42-52, 2023	渡邉　利史，長谷川　傑
4	腹腔鏡下膵切除術	消化器外科腹腔鏡手術免許皆伝	84-98, 2023	宮坂　義浩，中村　雅史
5	BCGは1型糖尿病のTCR/CD3発現低下をDNA脱メチル化により改善する	実験医学	41(8): 1333-1335, 2023	髙橋　宏幸，Faustman DL
6	食道上皮下病変のX線診断	胃と腸	59(3): 295-306, 2024	小野陽一郎，髙野　恵輔， 石川　智士，久部　高司， 植木　敏晴，柴田　亮輔， 渡部　雅人，市岡　正敏， 平瀬　崇之，吉村　雅代， 田邉　　寛，原岡　誠司， 二村　　聡，八尾　建史
7	厚生労働科学研究費補助金　難治性疾患政策研究事業 「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」（久松班）　令和5年度分担研究報告書	潰瘍性大腸炎・クローン病診断基準・治療指針（令和5年度改訂版）	http://www.ibdjapan.org/pdf/doc15.pdf	田邉　　寛，東　大二郎， 久部　高司 （難治性炎症性腸管障害に関する調査研究班，研究代表者：久松　理一）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	【シンポジウム】 抗体療法時代における炎症性腸疾患難治例に対する外科治療戦略 クローン病におけるバイオ時代の外科治療	第123回日本外科学会定期学術集会	グランドプリンスホテル新高輪， 4/28， 2023	東　大二郎，入江　久世， 眞木　俊光，草場　裕之， 是枝　寿彦，平野　陽介， 甲斐田大貴，川元　　真， 薦野　　晃，高橋　宏幸， 坂本　良平，柴田　亮輔， 宮坂　義浩，渡部　雅人
2	【パネルディスカッション】 A Prospective Multicenter Phase Ⅱ Trial of Neoadjuvant Chemotherapy with Gemcitabine Plus Nab-Paclitaxel for Borderline Resectable Pancreatic Cancer with Arterial Involvement.	The 35rd Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery	Keio Plaza Hotel Tokyo, 6/30, 2023	Miyasaka Y, Ikenaga N, Ohtsuka T, Nakata K, Adachi T, Eguchi S, Nishihara K, Inomata M, Kurahara H, Hisaka T, Baba H, Nagano H, Noshiro H, Nakamura M
3	【パネルディスカッション】 クローン病による難治性痔瘻に対する治療マネジメント　ドレナージ単独では治療困難なクローン病痔瘻病変	第78回日本大腸肛門病学会学術集会	熊本城ホール， 11/11， 2023	渡邉　利史，東　大二郎， 長野　秀紀，高橋　宏幸， 宮坂　義浩，渡部　雅人
4	【上位演題】 膵頭十二指腸切除術後膵液瘻に対する開創ドレナージと局所陰圧閉鎖療法（NPWTi-d）の有用性	第78回日本消化器外科学会総会	函館 花びしホテル， 7/13， 2023	宮坂　義浩，眞木　俊光， 草場　裕之，是枝　寿彦， 平野　陽介，甲斐田大貴， 川元　　真，柴田　亮輔， 東　大二郎，渡部　雅人

〈国内研究助成金〉

1	難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業	2023	東　大二郎 （代表者：久松　理一）
2	TNF/TNFR2シグナルの大腸癌肝転移におけるリンパ行性転移への関与とその制御	日本学術振興会若手研究	2023	髙橋　宏幸

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第27回日本バイオ治療法学会学術集会	TKPエルガーラホール	12/2， 2023	渡部　雅人，安永晋一郎

〈学会活動〉

1	日本食道学会	評議員	2023	渡部　雅人
2	日本胃癌学会	評議員	2023	渡部　雅人
3	日本大腸肛門病学会	評議員 健康保険検討委員 規約検討委員	2023	東　大二郎
4	日本臨床外科学会	評議員	2023	東　大二郎
5	日本消化器病学会	評議員	2023	東　大二郎
6	日本病態栄養学会	評議員	2023	東　大二郎
7	日本内視鏡外科学会	評議員選考委員 国際委員	2023	渡部　雅人
8	日本内視鏡外科学会	評議員	2023	宮坂　義浩
9	日本肝胆膵外科学会	評議員	2023	宮坂　義浩
10	日本炎症性腸疾患学会	代議員	2023	東　大二郎
11	膵臓内視鏡外科研究会	幹事	2023	宮坂　義浩
12	日本バイオ治療法学会	運営委員	2023	東　大二郎
13	日本消化器病学会九州支部	評議員	2023	東　大二郎
14	日本大腸肛門病学会九州地方会	評議員	2023	東　大二郎
15	九州内視鏡・ロボット外科手術研究会	世話人	2023	渡部　雅人
16	九州代謝・栄養研究会	幹事	2023	東　大二郎
17	九州外科学会	評議員	2023	東　大二郎
18	福岡 NST 研究会	世話人	2023	東　大二郎

福岡大学筑紫病院呼吸器・乳腺外科

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	第５回胸腔鏡安全技術セミナー	第40回日本呼吸器外科学会 学術集会	新潟 7/15 2023	山下　眞一

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	Breast Cancer Seminar in Chikushino	筑紫野市文化会館	3/29, 2024	山下　眞一

〈学会活動〉

1	日本呼吸器外科学会	評議員	2021	山下　眞一
2	日本胸部外科学会	評議員	2021	山下　眞一
3	日本肺癌学会	評議員	2021	山下　眞一
4	単孔式胸腔鏡手術研究会	幹事	2021	山下　眞一

福岡大学筑紫病院整形外科

〈原著〉

1	Bone formation of the coracoid bone graft after the Bristow procedure assessed using three-dimensional computed tomography	J Orthop Sci.,	Publishd online, 2023	So Minokawa, Yozo Shibata, Terufumi Shibata, Hidetomo Kosaka, Teruaki Izaki
2	Radiologic foot alignment and clinical outcome after percutaneous drilling for symptomatic accessory navicular in skeletally immature children.	Medicine (Baltimore).	102(51):e36643, 2023	Minokawa S, Yoshimura I, Kanazawa K, Hagio T, Ishimatsu T, Sugino Y, Shibata Y, Izaki T, Yamamoto T.
3	Passive Ankle Plantarflexion Position and Skin Surface Blood Flow Adjacent to the Achilles Tendon.	Foot Ankle Int.	44(10):1030-1033, 2023	Minokawa S, Yoshimura I, Hagio T, Ishimatsu T, Sugino Y, Izaki T.
4	Arthroscopic margin convergence of large-sized rotator cuff tears does not lead to better clinical outcome compared with conventional repair	JSES International (JSEINT).	in press	Terufumi Shibata, Yozo Shibata, So Minokawa, Satoshi Miyake, Teruaki Izaki,
5	Efficacy of bone marrow stimulation for arthroscopic knotless suture bridge rotator cuff repair: a prospective randomized controlled trial	J Shoulder Elbow Surg.,	32(5):909-916, 2023	Terufumi Shibata, Teruaki Izaki, Satoshi Miyake, Yozo Shibata, Takuaki Yamamoto
6	Side-to-side variability in the femoral neck anteversion angle: A study of the Japanese population with osteonecrosis of the femoral head.	Journal of Orthopaedic Science.	29(2):589-595, 2024	Suzuki, M., Kinoshita, K., Sakamoto, T., Seo, H., Doi, K., Yoshimura, I., & Yamamoto
7	Femoral nerve status during the anterolateral approach for total hip arthroplasty: Motor-evoked potential analysis and an influencing factor	J Orthop Sci.,	28(1):152-155, 2023	Kinoshita, S., Ishimatsu, T., Suzuki, M., Seo, H., Sakamoto, T., Kinoshita, K., & Yamamoto, T.
8	Real-World Evidence for Risk Factors of Bruises and Fractures from Falls in Patients with Overactive Bladder: A Medical Record Analysis	Int J Clin Pract.	Published online, 2023	Shigero Miyajima Taisei Omaru Tatsu Ishii Hisatomi Arima Yozo Shibata Teruaki Izaki Nobuhiro Haga
9	股関節形成不全患者の骨盤 X 線撮影肢位が骨頭被覆と寛骨臼・骨頭の位置関係に及ぼす影響	Hip Joint	49(2):671-675, 2023	古賀　幹朗，北村　健二，藤井　政徳，山口　亮介，佐藤　太志，川原　慎也，濱井　　敏，本村　悟朗，山本　卓明，中島　康晴

〈症例報告〉

1	距骨下関節脱臼骨折の 1 例	整形外科と災害外科	73(1):174-177, 2024	古賀　幹朗，蓑川　　創，野村　智洋，坂本　哲哉，小阪　英智，柴田　陽三，伊﨑　輝昌
2	下腿に皮疹を伴う足関節炎	九州リウマチ	43(2):107-113, 2023	古賀　幹朗，前山　　彰，山﨑裕太郎，萩尾　友宣，柴田　光史，小田　大嘉，氷室　尚子，三宅　勝久，山本　卓明

〈総説〉

1	変形性肩関節症に対する解剖型人工肩関節置換術	整形外科	74(6)：555-560，2023	伊﨑　輝昌
2	【腱板断裂の治療戦略】一次修復を促進させる治療　腱板断裂修復術における Bone Marrow Stimulation　適応と限界	臨床整形外科	58(10)：1211-1215，2023	柴田　光史，伊﨑　輝昌

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	シンポジウム３　人工肩関節置換術を極める：最近の進歩と今後の課題 解剖学的人工肩関節置換術：最近の進歩と今後の課題	第54回日本人工関節学会	京都市 2/23，2024	伊﨑　輝昌
2	解剖学的人工関節置換術の最新動向と成果	第17回広島肩関節研究会	広島市 2/3，2024	伊﨑　輝昌
3	肩関節疾患におけるリバース型人工関節の有用性	第393回福岡臨床整形外科医会教育研修会	福岡市 6/10，2023	伊﨑　輝昌
4	腱板断裂治療の歴史	下関整形外科医会学術講演会	下関市 7/12，2023	柴田　陽三

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第18回 SCC 整形外科研究会	福岡市	4/7，2023	柴田　陽三

〈学会活動〉

1	日本肩関節学会	理事	2023	伊﨑　輝昌
2	九州肩関節研究会	世話人	2023	伊﨑　輝昌
3	日本整形外科学会	代議員	2023	柴田　陽三
4	日本整形外科スポーツ医学会	監事	2023	柴田　陽三
5	日本肩関節学会	名誉会員	2023	柴田　陽三
6	Korean Shoulder and Elbow Society	Honorary member	2023	柴田　陽三
7	Journal of Shoulder and Elbow Surgery	reviewer	2023	伊﨑　輝昌，柴田　陽三
8	JSES International	Guest Editor	2023	伊﨑　輝昌
9	JSES Reviews, Reports & Techniques	reviewer	2023	伊﨑　輝昌
10	Orthopaedic Journal of Sports Medicine	reviewer	2023	柴田　陽三
11	Hindawi	reviewer	2023	柴田　陽三
12	Journal of Orthopaedic Science	reviewer	2023	伊﨑　輝昌，柴田　陽三
13	日本股関節学会	学術評議員	2023	坂本　哲哉
14	九州足の外科研究会	幹事	2023	蓑川　　創

〈研究に関係した賞〉

1	コンタクトスポーツアスリートにおける鳥口突起移行術の治療成績	第51回福岡大学医学部整形外科学教室開講記念会優秀演題賞	2023	廣田　登，蓑川　創

福岡大学筑紫病院泌尿器科

〈原著〉

1	Real-world treatment outcomes of patients with penile cancer in the Kyushu-Okinawa area of Japan in the pre-guideline era	Jpn. J. Clin. Oncol	1-9，2023.	Yamaguchi T, Goya M, Higashijima K, Tobu S, Sato R, Tatarano S, Mukai S, Uemura K, Tatsugami K, Tsubouchi K, Shida Y, Ishii T, Sakai H, Matsuoka H, Haga N, Eto M, Igawa T, Kamoto T, Enokida H, Shin T, Noguchi M, Fujimoto N, Saito S and Kamba T
2	Real-World Evidence for Risk Factors of Bruises and Fractures from Falls in Patients with Overactive Bladder : A Medical Record Analysis.	Int J Clin Pract.	2023 Dec 27：2023：3701823	Miyajima S, Omaru T, Ishii T, Arima H, Shibata Y, Izaki T, Haga N.

〈学会活動〉

1	日本泌尿器科学会西日本支部	評議員	2023	石井　龍
2	日本排尿機能学会	代議員	2023	宮島　茂郎

福岡大学筑紫病院眼科

〈原著〉

1	IMPACT OF MACULAR INTRARETINAL HEMORRHAGE AND MACULAR HOLE ON THE VISUAL PROGNOSIS OF SUBMACULAR HEMORRHAGE DUE TO RETINAL ARTERIAL MACROANEURYSM RUPTURE. .	Retina.	2023，43(4)，585-593.	Doi S, Kimura S, Saito S, Inoue M, Sakurai T, Kobori A, Hisatomi T, Imai H, Kuriyama S, Takasu I, Hosokawa MM, Shiode Y, Matoba R, Suzuki E, Morizane Y
2	Differences in Central and Peripheral Choroidal Thickness among the Subtypes of Age-Related Macular Degeneration in an Asian Population. Fukuda Y, Notomi S, Shiose S, Kano K, Hashimoto S, Fujiwara K, Akiyama M, Ishikawa K, Hisatomi T, Sonoda KH.	J Clin Med.	2023，12(16)，5364.	Fukuda Y, Notomi S, Shiose S, Kano K, Hashimoto S, Fujiwara K, Akiyama M, Ishikawa K, Hisatomi T, Sonoda KH.
3	Development of in situ crosslinked hyaluronan as an adjunct to vitrectomy surgery.	J Mater Sci Mater Med.	2023，34(11)，56.	Suzuki K, Watanabe I, Tachibana T, Mori K, Ishikawa K, Ishibashi T, Uchio E, Sonoda KH, Hisatomi T.
4	Injectable in situ cross-linking hyaluronan hydrogel for easier removal of posterior vitreous cortex in vitrectomy.	Jpn J Ophthalmol.	2024，68(2)，146-156.	Hisatomi T, Tachibana T, Mori K, Ishikawa K, Ishibashi T, Sonoda KH, Uchio E, Watanabe I, Suzuki K, Iida M.

〈症例報告〉

1	発症直後から瘢痕治癒過程まで観察した外傷性網脈絡膜断裂の１例	臨床眼科	2023， 77巻6号， 745-751	加藤　皓一，高木　宣典， 岡　あゆみ，松本　　拓， 海津　嘉弘，久冨　智朗， 内尾　英一

〈総説〉

1	炎症・感染とこれからの眼科診療 眼炎症疾患におけるアンメットニーズへの挑戦	日本眼科学会雑誌	2024， 128(3)： 216-233.	武田　篤信，八幡　信代， 石川桂二郎，秋山　雅人， 長谷川英一，伊東　崇子， 村上　祐介，納富　昭司， 藤原　康太，吉富　景子， 村田　千博，浅原健一郎， 白根茉利子，山名　智志， 福田　洋輔，下川　桜子， 園田　康平，久冨　智朗， 中尾新太郎，柴田　健輔， 木村　和博，柿原　伸次， 村田　敏規，清水　誠之， 花田　俊勝，滝澤　　仁， 清田　章文，後藤　　浩， 臼井　嘉彦，片岡　圭亮， 古屋　淳史，湯浅　光博， 小田　義直，赤司　浩一， 加藤　光次，仙波雄一郎， 前田　高宏

〈著書〉

1	【わかりやすい　オートファジーと眼疾患】 加齢黄斑変性とオートファジー	眼科	2023， 65巻4号， 329-336	納富　昭司，久冨　智朗

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	病理学からみた内境界膜剥離の功罪と網膜色素変性の特性（シンポジウム）	第127回日本眼科学会総会	2023年4月， 東京	久冨　智朗
2	インストラクションコース　硝子体手術自由自在　内境界膜翻転法の注意と最適化	第77回臨床眼科学会総会	2023年10月， 東京	久冨　智朗
3	眼科白内障手術用トロッカーシステム開発	国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）新技術説明会	2024年1月， Web meeting	久冨　智朗
4	糖尿病網膜症メディカルサージカルアップデート	筑紫医師会学術講演会	2024年3月， 筑紫野市	久冨　智朗

〈国内研究助成金〉

1	加齢黄斑変性初期病態モデルにおける網羅的脂質代謝解析	科学研究費 基盤研究(C)	2021-04-01- 2024-03-31	久冨　智朗 （代表　塩瀬　聡美）
2	後眼部 DVD：硝子体手術用補助剤の開発	生化学工業株式会社 共同研究	2022-2024	久冨　智朗（代表）

〈学会活動〉

1	博多眼科セミナー	世話人	2023	久冨　智朗
2	眼科神経保護研究会	世話人	2023	久冨　智朗
3	日本臨床眼科学会	査読委員	2023	久冨　智朗

福岡大学筑紫病院耳鼻いんこう科

〈症例報告〉

1	臍帯非切断下気管切開によって出生した先天性喉頭閉鎖症の１例	耳鼻と臨床	69(5)：373-378，2023	木庭　忠士，三橋　泰仁，木村　翔一，竹内寅之進，井槌　大介，倉員　正光，末田　尚之，坂田　俊文

福岡大学筑紫病院放射線科

〈著書〉

1	症例で学ぶ中枢神経の画像診断 （監）安陪等思（編集）平井俊範，吉浦　敬（編者）上谷浩之	金原出版株式会社	pp121-126，2023	高野　浩一
2	症例で学ぶ中枢神経の画像診断 （監）安陪等思（編集）平井俊範，吉浦　敬（編者）上谷浩之	金原出版株式会社	pp37-40，2023	肥田　浩亮，高野　浩一
3	症例で学ぶ中枢神経の画像診断 （監）安陪等思（編集）平井俊範，吉浦　敬（編者）上谷浩之	金原出版株式会社	pp45-48，2023	谷　　知允，高野　浩一
4	症例で学ぶ中枢神経の画像診断 （監）安陪等思（編集）平井俊範，吉浦　敬（編者）上谷浩之	金原出版株式会社	pp203-204，2023	日隈由紀枝，高野　浩一

〈学会活動〉

1	日本医学放射線学会	代議員	2023	高野　浩一

福岡大学筑紫病院麻酔科

〈国内研究助成金〉

1	心肺停止蘇生後の記憶障害に対する TNF-α 阻害薬による治療効果の検討	文部科学省 基盤研究 C	2018	若崎るみ枝（代表）
2	遠位尿細管特異的遺伝子改変マウスを駆使した急性腎障害機序の解明	文部科学省 基盤研究 C	2022	若崎るみ枝 （代表者：根本隆行）

福岡大学筑紫病院病理部・病理診断科

〈原著〉

1	A new endoscopic scoring system corresponding to histological healing using linked color imaging in ulcerative colitis: the SOUL study	Endosc Int Open	11(5)：E504-E512，2023	Saito D, Hirai F, Uchiyama K, Takagi T, Naito Y, Takatsu N, Tanabe H, Kishimoto M, Matsuura M, Miyoshi J, Watanabe K, Esaki M, Naganuma M, Hisamatsu T
2	Efficacy of endoscopy under general anesthesia for the detection of synchronous lesions in oro-hypopharyngeal cancer	Clinical Endoscopy	56(3)：315-324，2023	Ono Y, Yao K, Takaki Y, Ishikawa S, Imamura K, Koga A, Ohtsu K, Kanemitsu T, Miyaoka M, Hisabe T, Ueki T, Ota A, Tanabe H, Haraoka S, Nimura S, Iwashita A, Sato S, Wakasaki R

3	Small and large intestinal cancer in patients with Crohn's disease studied by surgeons	Surgery Today	53(6)：675-680，2023	Higashi D, Irie H, Maki T, Kusaba H, Koreeda N, Hirano Y, Kaida H, Kawamoto M, Komono A, Takahashi H, Sakamoto R, Shibata R, Miyasaka Y, Hisabe T, Nimura S, Watanabe M
4	Association between occurrence of multiple white and flat elevated gastric lesions and oral proton pump inhibitor intake	Clinical Endoscopy	57(1)：65-72，2024	Hasegawa R, Yao K, Kanemitsu T, Arima H, Hirase T, Hiratsuka Y, Takeda K, Imamura K, Ohtsu K, Ono Y, Miyaoka M, Hisabe T, Ueki T, Tanabe H, Ota A, Nimura S
5	Chromoendoscopy using the non-extension sign as a marker is comparable to endoscopic ultrasonography in terms of diagnostic performance for evaluating the invasion depth of early colorectal cancer.	Med Bull Fukuoka Univ	51(1)：9-16，2024	Takeda K, Yao K, Ohtsu K, Hirase T, Hiratsuka Y, Kanemitsu T, Ono Y, Miyaoka M, Hisabe T, Ueki T, Tanabe H, Haraoka S, Nimura S.
6	Clinicopathological and endoscopic features of Helicobacter pylori infection-negative gastric cancer in Japan: a retrospective study	Clinical Endoscopy	doi：10.5946/ce.2023.258. Online ahead of print.，2024	Imamura K, Yao K, Nimura S, Kanemitsu T, Miyaoka M, Ono Y, Ueki T, Tanabe H

〈症例報告〉

1	内視鏡の読み方 ラズベリー様腺窩上皮型胃腫瘍との鑑別を必要とした胃カルチノイドの１例	臨床消化器内科	38(9)：1219-1223，2023	宮岡　正喜，筒井　章弘，中島　美紀，金光　高雄，田邉　寛，二村　聡，植木　敏晴，八尾　建史
2	拡大内視鏡を施行したセリアック病の１例 十二指腸粘膜の内視鏡所見を中心に	胃と腸	58(8)：1077-1083，2023	金城　健，田邉　寛，二村　聡，八尾　建史
3	Numerous lesions of gastric adenocarcinoma of fundic-gland and fundic gland-mucosa type in a patient	Gastric Cancer	26(6)：1069-1073，2023	Imamura K, Yao K, Nimura S, Tanabe H, Kanemitsu T, Miyaoka M
4	特異的な内視鏡所見を認めず，病理組織像で診断し得た腸間膜静脈硬化症の１例	日本大腸検査学会雑誌	40(1)：27-34，2023	高野　恵輔，金城　健，安川　重義，久部　高司，二村　聡，植木　敏晴，八尾　建史
5	Desquamative interstitial pneumonia with progressive pulmonary fibrosis	Internal Medicine	63(1)：107-111，2024	Utsunomiya T, Kinoshita Y, Yoshimura M, Koide Y, Wada K, Ueda Y, Yoshida Y, Kushima H, Nimura S, Ishii H
6	An 88-year-old woman with pneumothorax and black pleural effusion	Chest.	165(4)：e119-e123，2024	Takenaka S, Yoshimura M, Kinoshita Y, Utsunomiya T, Kushima H, Nimura S, Ishii H

〈総説〉

1	【「胃と腸」式　読影問題集2023　基本と応用－考える画像診断が身につく】 咽頭・食道（Case 4）	胃と腸	58(4)： 384-387， 2023	小野陽一郎，八尾　建史， 二村　　聡
2	【「胃と腸」式　読影問題集2023　基本と応用－考える画像診断が身につく】胃（Case 2）	胃と腸	58(4)： 412-415， 2023	宮岡　正喜，八尾　建史， 二村　　聡
3	【「胃と腸」式　読影問題集2023　基本と応用－考える画像診断が身につく】胃（Case 4）	胃と腸	58(4)： 420-423， 2023	宮岡　正喜，八尾　建史， 二村　　聡
4	【「胃と腸」式　読影問題集2023　基本と応用－考える画像診断が身につく】胃（Case 5）	胃と腸	58(4)： 424-427， 2023	今村健太郎，八尾　建史， 田邉　　寛
5	【「胃と腸」式　読影問題集2023　基本と応用－考える画像診断が身につく】胃（Case 7）	胃と腸	58(4)： 432-436， 2023	今村健太郎，八尾　建史， 二村　　聡
6	【「胃と腸」式　読影問題集2023　基本と応用－考える画像診断が身につく】小腸（Case 5）	胃と腸	58(4)： 514-517， 2023	石橋　英樹，二村　　聡， 平井　郁仁
7	【「胃と腸」式　読影問題集2023　基本と応用－考える画像診断が身につく】大腸（Case 8）	胃と腸	58(4)： 555-557， 2023	八坂　達尚，久部　高司， 二村　　聡
8	壁内局在からみた胃上皮下腫瘍の鑑別診断 胃上皮下腫瘍の内視鏡診断　病変の壁内局在が粘膜層にある疾患を中心に	胃と腸	58(5)： 623-634， 2023	金光　高雄，八尾　建史， 宇野駿太郎，有馬　久富， 金城　　健，長谷川梨乃， 宮岡　正喜，植木　敏晴， 平瀬　崇之，二村　　聡
9	診断　病理組織検査 （標本の取扱いと診断の基本）	日本臨牀 最新臨床大腸癌学2023 －最新の診断・治療と病態－	81(増5)： 122-125， 2023	二村　　聡
10	潰瘍性大腸炎確定診断例にみられる非典型病変とその経過－潰瘍性大腸炎関連の胃十二指腸病変および小腸病変	胃と腸	58(6)： 735-746， 2023	久部　高司，宇野駿太郎， 三雲　博行，髙橋　篤史， 金城　　健，安川　重義， 古賀　章浩，高津　典孝， 二村　　聡，植木　敏晴， 八尾　建史
11	消化管リンパ増殖性疾患の分類－病型・疾患単位の分類を中心に	胃と腸	58(7)： 843-852， 2023	二村　　聡，石橋　英樹
12	消化管 T 細胞リンパ腫の内視鏡所見の特徴	胃と腸	58(7)： 871-879， 2023	石橋　英樹，二村　　聡， 平井　郁仁，竹下　盛重
13	E-learning system to improve the endoscopic diagnosis of early gastric cancer	Clinical Endoscopy	doi： 10.5946/ ce.2023.087. Online ahead of print., 2023	Yao K, Yao T, Uedo N, Doyama H, Ishikawa H, Nimura S, Takahashi Y
14	胃潰瘍の病理	医学と薬学	80(9)： 907-913， 2023	二村　　聡，石橋　英樹

15	口腔・咽喉頭領域における非腫瘍性病変の内視鏡的特徴　内視鏡医の立場から	胃と腸	58(9)：1145-1155，2023	小野陽一郎，高野　恵輔，武田　輝之，安川　重義，古賀　章浩，石川　智士，金光　高雄，高津　典孝，宮岡　正喜，久部　高司，植木　敏晴，田邉　　寛，原岡　誠司，二村　　聡，八尾　建史
16	「胃と腸」式　読影問題集2023　応用と発展－考える画像診断が身につく 咽頭・食道　Case 7	胃と腸	58(10)：1234-1237，2023	小野陽一郎，八尾　建史，二村　　聡
17	【食道疾患アトラス】隆起を呈する病変 １型食道癌	消化器内視鏡	35(増)：104-105，2023	小野陽一郎，八尾　建史，二村　　聡
18	S 状結腸癌穿孔による難治性後腹膜膿瘍に対する栄養療法の経験	Medical Nutritionist of PEN Leaders	7(2)：136-140，2023	眞田　雄市，古田斗志也，吉村　寛志，吉村　雅代，二村　　聡
19	食道上皮下病変の X 線診断	胃と腸	59(3)：295-306，2024	小野陽一郎，高野　恵輔，石川　智士，久部　高司，植木　敏晴，柴田　亮輔，渡部　雅人，市岡　正敏，平瀬　崇之，吉村　雅代，田邉　　寛，原岡　誠司，二村　　聡，八尾　建史
20	厚生労働科学研究費補助金　難治性疾患政策研究事業 「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」（久松班）令和５年度分担研究報告書	潰瘍性大腸炎・クローン病診断基準・治療指針（令和５年度改訂版）	http：//www.ibdjapan.org/pdf/doc15.pdf	田邉　　寛，東　大二郎，久部　高司（難治性炎症性腸管障害に関する調査研究班，研究代表者：久松　理一）

〈著書〉

1	第３部　膵臓　Ⅱ.各論　B.急性膵炎 COLUMN 「薬物性膵炎」	非腫瘍性疾患病理アトラス 肝胆膵／文光堂	P276-278，2023	植木　敏晴，丸尾　　達，二村　　聡（分担）
2	胃炎の京都分類　改訂第３版 第３章　病理組織像 1. 正常の胃粘膜 2. H. pylori 感染胃粘膜 3. 萎縮 4. 腸上皮化生	日本メディカルセンター	P143-152，2023	二村　　聡（分担執筆）
3	活用於臨床的病理診斷學－消化道．肝膽胰篇（第３版）	遼寧科學技術出版社	P1-254，2023	福嶋　敬宜，二村　　聡（共著）
4	もっと病理写真が好きになる いちから知る病理写真撮影のお作法	金芳堂株式会社	P1-204，2024	二村　　聡（単著）
5	２章　限界症例の見きわめ・方針転換 6　大腸 ESD の適応としての病変サイズの限界	アドバンスト大腸 ESD ／日本医事新報社	P129-134，2024	大津　健聖，久部　高司，二村　　聡（分担）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（ワークショップ） 腸腫瘍に対する内視鏡治療の工夫：CSP から ESD まで　大腸上皮性腫瘍に対する Underwater EMR の治療成績	第121回日本消化器病学会九州支部例会／第115回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	福岡 5/13 2023	八坂　達尚，久部　高司，大津　健聖，二村　　聡，八尾　建史

2	（教育講演） よい写真の撮り方（の基本）	第64回日本臨床細胞学会 総会春期大会	名古屋 6/9 2023	二村　聡，山田　静佳， 林田　涼
3	（特別講演） 消化管疾患の診療における臨床医と病理医の 連携のありかた	第167回佐賀県胃癌・ 大腸癌検診医会研修会	佐賀 6/10 2023	二村　聡
4	（ポスタープレゼンテーション） Diagnostic performance of NES-based CE vs EUS in early colorectal cancer	APDW2023	Bangkok, Thailand December 6–9 2023	Takeda K, Yao K, Ohtsu K, Kanemitsu T, Hirase T, Hiratsuka Y, Yasaka T, Amano R, Ono Y, Miyaoka M, Hisabe T, Ueki T, Tanabe H, Hraoka S, Nimura S
5	（特別講演） Histopathological diagnosis of non-ampullary duodenal epithelial tumors	Zhejiang Sino-Japan Seminar on Endoscopic Diagnosis and Treatment of Early Gastrointestinal Cancer & The 15th Seminar on Endoscopic Diagnosis of GI Early Cancer	浙江省， 中国 1/28 2024 （Web 開催）	Nimura S

〈学会活動〉

1	日本病理学会	認定評議員	2023	二村　聡
2	日本病理学会	Pathology International Editorial Board	2023	二村　聡
3	日本病理学会	コンサルテーション システム領域別 コンサルタント	2023	二村　聡
4	日本消化器内視鏡学会	胃癌に対する ESD/EMR ガイドライン作成委員	2023	二村　聡
5	日本胃癌学会	学術評議員	2023	二村　聡
6	日本食道学会	学術評議員	2023	二村　聡
7	日本食道学会	病理規約委員	2023	二村　聡
8	日本消化管学会	代議員	2023	二村　聡
9	臨床消化器病研究会	世話人	2023	二村　聡
10	大腸癌研究会	施設代表者	2023	二村　聡
11	AI–拡大内視鏡研究会	世話人	2023	二村　聡
12	大腸Ⅱc研究会	世話人	2023	二村　聡
13	早期胃癌研究会	運営副委員長	2023	二村　聡

福岡大学西新病院循環器内科

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	PCI 生ライブ症例１，２（術者）	第36回日本心血管インターベンション治療学会 九州・沖縄地方会 （ハイブリッド開催）	福岡 1/12-1/13, 2024, 福岡大学西新病院より中継	西川　宏明

〈学会活動〉

1	日本循環器学会	九州支部代議員	2023-2024	西川　宏明
2	日本心血管インターベンション治療学会	九州支部代議員	2023-2024	西川　宏明
3	日本肺循環学会	評議員	2023-2024	西川　宏明

福岡大学西新病院消化器内科

〈学会活動〉

1	日本消化器病学会九州支部	評議委員	2012	入江　　真
2	日本肝臓学会西部会	評議委員	2014	入江　　真

Ⅱ．医学部看護学科

1．学科主任挨拶

看護学科主任　　宮　城　由美子

文部科学省大臣指定の全国看護系大学は、令和５年度300校、入学定員は26,100人、福岡県内では16校、入学定員1,448人中、福岡大学医学部看護学科は、熾烈な学生獲得競争の中で、高い受験競争率を維持し、令和５年度新入生110名を迎えスタートしました。

2023年３月に卒業した学生の看護師国家試験及び保健師国家試験は全員合格することができました。看護学科では、令和３年４月より新カリキュラムを開始し、３年目の対応年度となります。看護職に求められる役割や活動が拡大していることに対応できる看護職者としての人材育成をより強化していきたいと思っております。

令和３年度に採択された文部科学省の「with コロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」は、医療研究開発革新基盤事業（国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED））・株式会社ジョリーグッドとの実証研究に継続参画し、VR を用いた学習教材を福岡大学病院看護部と共同研開発を継続的に行っています。

福岡大学病院、福岡大学筑紫病院とは例年に引き続き看護研究支援、臨地実習指導者研修支援、各科目における専門的知識の教授のためのゲストスピーカーなどの連携を図ることができております。令和４年度より始めた看護部との人事交流も２年間が終了し、最初の助手が病院に戻ることになりました。看護基礎教育において多くの学びができ、臨床に戻りました。今後は看護学科と看護部との橋渡しとなり、現任教育・学生への教育指導がより一層図れることが期待できます。また看護部とのこのようなさまざまな交流を令和６年度に向けて unification 事業として準備を進めていくことも決まりました。

看護学科では令和８年度に日本看護学教育評価機構（JABNE）看護学教育評価を受審予定としております。そのため令和７年度には自己点検を行うことになるため令和６年度から看護学科の教育・研究・学科運営のさまざまな体系を見直し充実を図っていくことが必要となります。私ども看護学科教職員は、福岡大学の一員であることを自覚し医学科、大学の他学部、病院との連携関係を大切にしながら今後も努力を継続してまいります。

関係各位の更なるご協力・ご支援をお願い申し上げます。

2．令和５年度　医学部看護学科年譜

年月日	行　　事	付　　記
5.4.1	令和５年度　学年始め、入学式	
	看護学科17回生　110名入学（男子２名　女子108名）	
4.2	新入生オリエンテーリング	於：看護学科棟他
4.26	看護学科第１、２回 FD 招聘講演会	於：看護学科棟他
5.1	看護学科第１回 FD 研修会	於：看護学科棟
6.2～20	単独進学説明会	
6.18	父母懇談会	於：看護学科棟
7.5	看護学科第２回 FD 研修会	於：看護学科棟
8.3	看護学科第３回 FD 招聘講演会	於：看護学科棟他
8.5	オープンキャンパス	於：看護学科棟・メディカルホール
8.16～20	国際交流プログラム韓国啓明大学看護研修	於：啓明大学
9.11	秋季大学院入学試験	
9.15	第１回大学院看護学専攻 FD 招聘講演会	於：看護学科棟
10.10～25	単独進学説明会	
10.21	医学部慰霊祭	於：ユウベル積善社福岡斎場
11.18	学校推薦型選抜（指定校）	
11.19	帰国生徒選抜	
〃	学校推薦型選抜（附属校）	
11.26	学校推薦型選抜（Ａ方式）	
6.1.13、14	共通テスト利用型（Ⅰ期）、（Ⅱ期）	
2.2	一般選抜（系統別日程）	
2.6、11	一般選抜（前期日程）、前期日程・共通テスト併用型	
2.9	第110回保健師国家試験	
2.11	第113回看護師国家試験	
2.13	春季大学院入学試験	
2.23～3.10	国際交流プログラム米国看護研修	於：ウオッシュバン大学
3.7	一般選抜（後期日程）	
3.19	卒業式　学位記授与式	
3.31	学年終了	

3．看護学科教員組織

A．教員構成　　令和５年10月１日現在

科　目	教授〈10名〉	准教授〈6名〉	講師〈7名〉	助教〈11名〉	助手〈2名〉
専門基礎学	大倉義文				蘭　美彩 不動真由美
基礎看護学	末次典恵	坂梨左織	神徳和子 高木良重	相良彩乃 播磨弘子 藤　理絵	
小児看護学	○宮城　由美子		松本祐佳里	藤原悠香	
成人看護学	緒方久美子	岩永和代 浦　綾子 大田　博	牧　香里	浅野悠佳 鮫島由紀子	
老年看護学	樑　直美	有田久美		上野珠未 福本優子	
母性看護学	佐久間良子		藤木久美子	平井美緒	
精神看護学	中島充代		黒髪　恵	池田　智	
公衆衛生看護学	江藤真紀	長谷川珠代			
在宅看護論	木村裕美		古賀佳代子	松村友紀子	
学校保健	小柳康子				

○学科主任

B．看護学科常設委員会　　令和５年10月１日現在

委員会	委員長	委　員			
教務・実習委員会	江藤真紀 (本学オブザーバー出席)	末次典恵 (副委員長)	中島充代 (副委員長)	樑　直美	小柳康子 (教職課程自己点検・評価委員)
		有田久美	神徳和子	古賀佳代子	藤木久美子
		牧　香里	松本祐佳里	蘭　美彩	不動真由美
FD委員会	中島充代	小柳康子 (副委員長)	神徳和子	浅野悠佳	鮫島由紀子
		平井美緒	藤原悠香	松村友紀子	
入試委員会	大倉義文 (本学オブザーバー出席)	樑　直美 (副委員長) (若葉高等学校一貫教育委員)	木村裕美	浅野悠佳	播磨弘子
		福本優子	藤原悠香		
学生委員会 (3NP含む)	長谷川珠代 (本学オブザーバー出席)	大倉義文 (副委員長)	大田　博	坂梨左織	松本祐佳里
		池田　智	上野珠未	相良彩乃	不動真由美
総務・広報委員会	浦　綾子 (医学部広報委員会)	坂梨佐織 (副委員長)	池田　智	上野珠未	相良彩乃
		鮫島由紀子			
国際交流委員会	木村裕美	末次典恵 (副委員長)	岩永和代	黒髪　恵	高木良重
		藤木久美子	平井美緒	福本優子	
研究推進委員会	末次典恵 (本学オブザーバー出席)	大田　博 (副委員長) (医学部紀要編集委員)	樑　直美 (看護部研究支援)	佐久間良子	黒髪　恵 (医学部紀要編集委員)
		藤　理絵	松村友紀子		
図書委員会	小柳康子 (分館図書小委員会) (医学情報センター運営委員会)	木村裕美 (副委員長)	大倉義文 (分館図書小委員会) (医学情報センター運営委員会)	中島充代	播磨弘子
国試・就職進路委員会	佐久間良子 (キャリアセンター)	有田久美 (副委員長)	長谷川珠代	古賀佳代子	高木良重
		牧　香里	蘭　美彩	藤　理絵	

4．入学試験・教育活動・国家試験、進路支援

A：入学試験

1．令和５年度入学受験・入学者状況

⑴ 令和５年度入学年度別学生在籍数

令和５年４月１日現在

	１年	２年	３年	４年	在籍	入学	卒業	退学	除籍	転部
23台	110				110	110				
22台		103			103	105		2		
21台		3	98		101	106		3		2
20台			3	101	104	106	100	1		1
19台				4	4	108	107			1
計	110	106	101	105	422	535	207	6		4
男子	2	1	1	3	7					

⑵ 令和５年（令和６年度）入試制度別入学試験科目・配点

	入試制度	選考方法		科　目	配点
学校推薦型選抜	A 方式	外国語		英語（コミュニケーション英語Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，英語表現Ⅰ，Ⅱ）	50点
		国語		国語（国語総合）	50点
		面接		面接は，提出書類・評価項目に基づいて行い，段階評価したうえで点数化する	20点
一般選抜	系統別日程	外国語		英語（コミュニケーション英語Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，英語表現Ⅰ，Ⅱ）	100点
		数学		数学Ⅰ，Ⅱ，数学 A，数学 B（数列，ベクトル）	100点
		理科		化学（化学基礎・化学），生物（生物基礎・生物）：高得点の１科目を採用し、200点に換算	200点
	前期試験	外国語		英語（コミュニケーション英語Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，英語表現Ⅰ，Ⅱ）	100点
		国語		国語（国語総合：現代文・古文）	100点
		理科		化学（化学基礎・化学），生物（生物基礎・生物）から１科目選択	100点
	前期日程・共通テスト併用型	前期日程	国語	国語（国語総合）	100点
			理科	化学（化学基礎・化学）、生物（生物基礎・生物）から１科目選択	100点
		共通テスト	外国語	英語（リーディング・リスニング）	100点
			数学	数学Ⅰ・数学 A，数学Ⅱ，数学Ⅱ・数学 B から１科目	100点
	共通テスト利用型Ⅰ期	外国語		英語（リーディング・リスニング）	100点
		国語		国語（近代以降の文章）	100点
		数学		数学Ⅰ・数学 A，数学Ⅱ，数学Ⅱ・数学 B から１科目	100点
		理科		化学，生物から１科目	100点
	共通テスト利用型Ⅱ期	外国語		英語（リーディング・リスニング）	200点
		国語		国語（近代以降の文章）	高得点１科目 200点
		数学		数学Ⅰ・数学 A，数学Ⅱ，数学Ⅱ・数学 B から１科目	
		理科		化学，生物から１科目	200点
		国語（近代以降の文章），数学，理科は100点を200点に換算			
	後期日程	外国語		英語（コミュニケーション英語Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，英語表現Ⅰ，Ⅱ）	100点
		国語		国語（国語総合：現代文・古文）	100点
特別選抜	帰国生徒	外国語		英語（コミュニケーション英語Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，英語表現Ⅰ，Ⅱ）	100点
		小論文			100点
	学部留学生選抜	筆記試験		日本留学試験（独立行政法人日本学生支援機構），英語	―
		面接		試験，および書類審査により総合的に選考	
		小論文			

⑶ 令和５年（令和６年度） 医学部看護学科入学試験状況

志願方法	志願者	受験者	合格者	競争率	追加合格者
学校推薦型選抜（A方式）	86	86	23	3.7	0
学校推薦型選抜（附属校）	12	12	6		0
学校推薦型選抜（指定校）	14	14	14		0
帰国生徒選抜	0	0	0	−	
学部留学生選抜	0	0	0	−	
一般選抜（系統別日程）	85	82	17	4.8	0
一般選抜（前期日程）	633	606	139	4.4	17
前期日程・共通テスト併用型	193	188	64	2.9	0
共通テスト利用型Ⅰ期	86	78	37	2.1	0
共通テスト利用型Ⅱ期	70	66	30	2.2	0
一般選抜（後期日程）	27	26	5	5.2	0
計	1206	1158	335	3.5	17

以上の入試形態の合格者のうち入学者数は110名である。

２．入試委員会活動

⑴ 活動計画：

福岡大学の中長期目標に基づき、入試委員会の業務である看護学科入学者の募集および入学に係る取組を充実させていく。

・入学センター運営関連事項（入学センター運営委員会からの情報提供・審議依頼事項）
・各種関連委員会への協議参加（入学センター運営委員会と附属若葉高校一貫教育委員会（高大連携））
・質の高い学生募集のための企画検討（①出張模擬講義・学部説明会の取組、②オープンキャンパスの企画・運営、③看護学科入試・広報冊子関連業務〔学生募集・入試関連の情報発信の検討〕、④日本看護系大学協議会（JANPU）へのオープンキャンパス情報提供、⑤看護学科のブランド力向上のための取組の検討〔特別推薦指定校の検討を含む〕など）
・入試業務担当の配置・調整（令和６年度入試の面接者・監督者・小論文・生物の作題者）
・多様な入試形態の検討（ウィズコロナ・ポストコロナ時代の大学入試のあり方）
・入学前教育の支援の見直し（特別連携指定校からの入学予定者の入学前課題レポート）

特に、①多様な学生の受入れ、②附属学校を含む地域の高等学校との接続・連携強化、③質の高い入学生確保の観点から、以下の３項目を看護学科入試委員会の『重点目標』として掲げ、それらの達成のために2023年度の計画と評価のための具体的目標を設定した。

１）多様な学生を受け入れるための広報誌「大学案内2025」「学部ガイド2025」の掲載内容の充実（通年）
【評価指標と目標設定】 医学部看護学科の志願者数 前年比３％増

２）入学センターと連携した附属学校等との接続・連携強化のための指定校推薦高校の新規開拓（通年）
【評価指標と目標設定】
福岡県立修猷館高校、福岡高校、筑紫丘高校等の学校推薦型選抜（特別連携指定校）の新規開拓 １校以上

３）質の高い入学生確保のためのオープンキャンパスにおける PR 提示資料の充実（通年）
【評価指標と目標設定】
医学部看護学科の一般入試（前期日程）合格者の「出身高校偏差値」の平均値 前年比増

⑵ 活動報告と評価：

福岡大学の中長期目標に基づき、入試委員会の業務である看護学科入学者の募集および入学に係る取組を充実させた。

・入学センター運営関連事項（入学センター運営委員会からの情報提供・審議依頼事項）
・各種関連委員会への協議参加（入学センター運営委員会と附属若葉高校一貫教育委員会（高大連携））

・質の高い学生募集のための企画検討（①出張模擬講義・学部説明会の取組（10件の依頼）、②オープンキャンパスの企画・運営、③看護学科入試・広報冊子関連業務〔学生募集・入試関連の情報発信の検討〕、④日本看護系大学協議会（JANPU）へのオープンキャンパス情報提供、⑤看護学科のブランド力向上のための取組の検討〔特別推薦指定校の検討を含む〕など）
・入試業務担当の配置・調整（令和６年度入試の面接者・監督者・小論文・生物の作題者）
・多様な入試形態の検討（ウィズコロナ・ポストコロナ時代の大学入試のあり方）
・入学前教育の支援の見直し（特別連携指定校からの入学予定者の入学前課題レポート）

特に、①多様な学生の受入れ、②附属学校等との接続・連携強化、③質の高い入学生確保の観点から、以下の３項目を看護学科入試委員会の『重点目標』として掲げ、それらの達成のために2023年度の計画と評価のための具体的目標を設定した。また、委員会の活動として、アドミッションポリシーを含む大学の活動方針に紐づけた取り組みができていることを確認した。

１）多様な学生を受け入れるための広報誌「大学案内2025」「学部ガイド2025」の掲載内容の充実（通年）
【評価指標と目標設定】　医学部看護学科の志願者数　　前年比３％増
【活動概要と評価】
今年度のオープンキャンパス（令和５年８月５日）では福大メディカルホール（300名収容）で学科説明会・模擬授業を開催したことも関連したのか、令和５年11月実施の学校推薦型選抜（Ａ方式）志願者は前年比7.5％増（令和５年度入試80名 → 令和６年度入試86名）であった。また、広報委員会が管理・運用している学科ホームページによる情報発信や学科掲載頁を６頁から10頁に増頁した「学部ガイド2024（医学部）」による広報活動も志願者の増加につながっている印象がある。しかしながら、前期日程の志願者が前年比3.5％減（令和５年度入試656名 → 令和６年度入試633名）であったなど、入試全体での志願者は前年比5.1％減（令和５年度入試1,242名 → 令和６年度入試1,179名）であり、設定した目標には至らなかった。定員110名に対する総志願者数は1,179名と、志願率は10.7倍であった。

２）入学センターと連携した附属学校等との接続・連携強化のための指定校推薦高校の新規開拓（通年）
【評価指標と目標設定】
福岡県立修猷館高校、福岡高校、筑紫丘高校等の学校推薦型選抜（特別連携指定校）の新規開拓　１校以上
【活動概要と評価】
優秀な入学生の確保を目的として、令和５年５月31日に学科単独の進路指導室（福岡市内の県立高校３校）への高校訪問活動を実施し、新たに福岡県立修猷館高校・福岡高校・筑紫丘高校の学校推薦型選抜（指定校）の推薦枠（各校１名、計３名）を設けることができた。また、11月実施の学校推薦型選抜（指定校）に福岡高校から１名の志願者があり、指定校推薦高校の新規開拓の取組が実際の志願者確保につながった。

３）質の高い入学生確保のためのオープンキャンパスにおける PR 提示資料の充実（通年）
【評価指標と目標設定】
医学部看護学科の一般入試（前期日程）合格者の「出身高校偏差値」の平均値　前年比増
【活動概要と評価】
これまでオープンキャンパス等で使用していた紹介動画（2019年２月版、９分20秒程度、48.4MB）を大幅にリニューアルすることで、学科 PR 提示資料の充実を図った（2023年８月版、10分８秒、2.22GB）。
評価指標である「一般入試（前期日程）合格者」の「出身高校偏差値」の平均値を比較検討した。
「一般入試（前期日程）合格者」の「出身高校偏差値」の平均値は、令和５年度（120名）の63.2から令和６年度（134名）の62.7へと減少したものの、その変化は軽微であった。
なお、偏差値は「みんなの高校情報」（https://www.minkou.jp/hischool/）を参考にして算出したものの、私立高校等では複数の学科に対応した偏差値があり正確な合格者の卒業学科の偏差値の把握は困難であった。

4）その他の取組

・指定校推薦等合格者に対する入学前準備教育の教材の見直し

昨年までの課題図書の読書感想レポート課題（課題図書：希望の一滴 ～中村哲、アフガン最期の言葉　中村哲 著、出版：西日本新聞社　ISBN：9784816709883）を見直し、本学医学部医学科、薬学部、スポーツ科学部が既に採用している下記の教材を入学前準備教育教材として採用した。

㈱ナガセ 東進ハイスクール 作成『入学前準備教育』教材

①【学科推奨講座】

医療系総合ミックス講座＝「医療系総合講座５コマ」＋「国語標準５コマ」

②【選択講座】

医療系生物入門（基礎生物①）……12コマ

・令和７年（2025年）実施予定の本学科自己点検・評価と、令和８年（2026年）10月受審予定の一般財団法人日本看護学教育評価機構 JABNE による看護学教育評価（看護学分野別評価）に向けて、対応する評価基準に沿って本年度の委員会活動の自己点検・評価を行った。

B：教育活動

1．教務・実習委員会活動

《活動計画》

1）旧カリキュラム１学年と新カリキュラム３学年の円滑な平行開講を実施する。

⑴ 単位認定（進級および卒業）や復学、休学に関する事柄

・進級・卒業判定、復学・休学の資料作成と委員会での承認

⑵ 授業形態と水準に関する事柄

・授業形態と水準名称の検討実施

⑶ 非常勤講師・ゲストスピーカーに関する事柄

・教授会議に諮り、公文書等の作成と回答書の管理

⑷ 新カリキュラムの評価に関する事柄

・教員評価、モデル・コア・カリキュラムコアコンピテンシー調査の実施

⑸ 教職課程に関する事柄

・教職課程教育センターからの依頼の対応

2）実習環境を整えながら実習施設と連携し、看護学実習の充実を図る。

⑴ 福岡大学病院、筑紫病院および西新病院との実習施設連絡会議に関する事柄

・実習施設連絡会議開催時の計画と運営

⑵ 実習開講に関する事柄

・要項（共通編の見直しと各科目群）、配置表案の作成、３年次後期の実習オリエンテーション計画と実施、看護技術自己評価のまとめ、福岡大学病院統合医療情報システム利用と電子カルテ利用、依頼公文書作成と発送、実習のまとめ作成、ルーブリック態度評価の検討、学生関連（情報共有・ユニフォーム等）、実習中の感染対策と発生時・復帰時の対応、新型コロナウイルス感染症法第５類移行後の臨機応変な対応

⑶ 臨地実習指導者研修における協力に関する事項

・ファシリテーターの選出

3）教育・実習の質向上に向けた企画・運営・評価を実施する。

⑴ 履修状況と成績把握、留年者減少を目指した学修指導に関する事柄

・COVID-19を含めた感染症の対応、修学指導における集団・個別の対応、保護者への対応、身分異動学生への対応と指導

⑵ 令和５年度履修ガイダンスと履修登録に関する事柄

・４、９、３月のガイダンスと履修登録指導の実施、令和６年度のガイダンススケジュールの調整と作成

⑶ アセスメントプラン策定に関する検証科目抽出とチェックリストの作成

4）その他

⑴ 父母懇談会

・担当者の選出と実施

⑵ 特待生の選考

・特待生候補者案を作成し、教授会議に諮り全学教務委員会で審議

⑶ 授業開始日変更申請

・案を作成し、教授会議に諮り全学教務委員会で審議

⑷ その他

《活動評価》

1）旧カリキュラム１学年と新カリキュラム３学年の円滑な平行開講を実施する。

⑴ 単位認定（進級および卒業）は、委員会と教授会で審議した。復学、休学に関する事柄については、委員会および教授会議にて報告した。

⑵ 非常勤講師・ゲストスピーカーに関しては、各科目責任者に情報提供フォーマットへの入力を依頼し公文書等を作成した。

⑶ 新カリキュラムの評価に関しては、前期・後期科目の調査を実施し、教授会議にて報告した。

⑷ 教職課程に関しては、必要に応じて教務一課からの依頼に対応した。

2）実習環境を整えながら実習施設と連携し、看護学実習の充実を図る。

⑴ 配置表案の作成、３年次後期の実習オリエンテーション計画と実施、看護技術自己評価のまとめ、福岡大学病院統合医療情報システム利用と電子カルテ利用、依頼公文書作成と発送、ルーブリック態度評価の検討、学生関連（情報共有・ユニフォーム等）、実習中の感染対策と発生時・復帰時の対応、新型コロナウイルス感染症法第５類移行後の対応等をおこなった。

⑵ 令和６年度の円滑な実習展開を鑑み、福岡大学系列３病院の看護部長と合同の打ち合わせ会議を実施した。

⑶ 臨地実習指導者研修におけるファシリテーターの選出をおこなった。

3）教育・実習の質向上に向けた企画・運営・評価を実施する。

⑴ 履修状況と成績把握、留年者減少を目指した学修指導に関することとして、感染症の対応、修学指導における集団・個別の対応、保護者への対応、転部学修制度を利用する学生への対応と試験監督をおこなった。

⑵ 令和５年度履修ガイダンスを４月、９月と３月に，修学指導を４月、９月と２月に実施した。令和６年度のガイダンススケジュールの調整と作成をおこなった。

⑶ アセスメントプラン策定に関する検証科目抽出とチェックリストの作成をおこなった。

4）その他

⑴ 父母懇談会は、看護学科として七隈会場、宮崎会場、沖縄会場の３会場で実施した。

⑵ 特待生候補者案を作成し、教授会議に諮り全学教務委員会で審議した。

⑶ 授業開始日変更申請案を作成し、教授会議に諮り全学教務委員会で審議した。

C：FD 活動

1．FD 委員会活動

1）大学教育・研究についての招聘講演・学習会の企画・運営

⑴ 教育の質向上を目指した FD 講師招聘講演会

第１回：「看護実践力を育てる OSCE とは」

講　師：札幌市立大学看護学部　中村　惠子 先生

日　時：令和５年４月26日（水）15：00～16：30

参加人数：福岡大学医学部看護学科教員33名

第２回：「育てる OSCE の実際」

講　師：札幌市立大学看護学部　中村　惠子 先生

日　時：令和５年４月26日（水）16：40～16：30

参加人数：福岡大学医学部看護学科教員28名

⑵ 臨地実習指導者合同 FD 講師招聘講演会

第３回：「合理的配慮を提供する実習体制の構築とその実際」

講　師：鹿児島大学医学部　李　　慧瑛 先生

日　時：令和５年８月３日(木) 17：00～18：30

参加人数：福岡大学医学部看護学科教員31名、大学病院臨地実習指導者９名、看護学科事務室２名、学生課事務室５名

⑶ 大学教育・研究についての学習会

教員の自主的な学び研究と教育に関するテーマの学習会を抄読会形式で２回/年で実施した。

第１回：令和５年５月１日(月) 11：00～12：00　「Methods in teaching of nursing」　参加者：14名

第２回：令和５年７月５日(水) 16：20～17：20　「Recent trends in Research」　参加者：14名

２）学外研修会の参加支援

学外で開催される研修会の情報を継続的に収集し、目的達成に資する研修への参加を適宜情宣した。

第１回：日本私立看護系大学協会 新任教員向け研修会「大学教育とは」

情誼　https://www.jspcun.or.jp/news/3689/　　オンデマンド配信参加教員11名

第２回：大学コンソーシアム京都　FD フォーラム

情誼　https://www.consortium.or.jp/project/fd/forum

３）卒業前アンケートの実施

2023年10月２日、４年生を対象に、Microsoft Forms を用いて、コアコンピテンシーと卒業時到達度調査を実施した。達成度は昨年度と同様の傾向で、全体的に0.1～0.2ポイント上昇していた。結果は教授会で報告し、資料は FD 委員会のファイルに格納した。

４）助手・助教の教育プログラムの検討

計画を修正し、次年度から運用できるように内容を整えた。

５）FD 活動報告

看護学科科教授会で報告した。３回の講師招聘講演会について写真とともに HP に掲載した。

６）「福岡大学看護ユニフィケーション事業（案)」のプログラムの検討

事業案を作成し、プログラム内容を確認した。

７）看護学教育評価受審の体制づくり

評価項目と各委員会活動を紐づけし、2024年１月の教授会議で報告した。また、各委員会へ活動内容と評価項目の確認と今年度評価を依頼した。

D：国家試験・進路支援

Ⅰ．看護師・保健師国家試験に関する事項

１．国家試験合格に向けての学習支援

１）国家試験対策の企画・運営

①国家試験対策ガイダンスや学習支援の計画・実施

・学習環境の調整、クラス担任および学科教員への情報共有、業者講師による講義開催の検討・実施

・卒業生からの激励会を計画し、激励と、勉強方法のアドバイス（11月実施）

②学生の国試対策委員との連携・調整

・国家試験模擬試験の企画・運営支援：看護師は、６回/年実施、保健師は４回/年実施

・学生の学習会実施への支援：９月より学習会を学生主導で実施（毎週月曜日　10：00～12：10）

２）模擬試験結果を踏まえた学習状況の振り返りと学習方法への支援

①クラス担任からの支援の調整

・「国試年間学習計画」「模試結果および今後の学習計画」の活用による情報共有

・合格ラインへ達しない学生への「振り返りシート」を活用した学習支援

②学生、クラス担任、国試担当の3者間での情報共有と学習支援

３）模試結果の成績が伸び悩んでいる対象者への教員および業者講師からの学習支援

・11月さわ研究所講師による国家試験対策ガイダンス、さわ研究所による学内講座、個別指導の実施

４）看護師・保健師国家試験受験手続に関する説明：10月と試験前に事務より実施

2．国家試験後の自己採点支援
3．国家試験結果発表後の不合格者への支援　＊不合格者は１年間、担任を中心として支援。2023年度は該当なし
4．低学年への支援：３年次生への看護師模擬国家試験の３回/年実施、支援

Ⅱ．就職・進路に関する事項
1．４年次生への就職・進路支援
1）４年次生の就職相談と内定の確認、就職・進路に関する情報提供・相談
2）推薦による就職採用試験への支援
3）キャリアセンターとの連携
・進路確定状況と進路届の状況の確認・指導：７月より毎月実施調整
・F-キャリアの活用に関する指導（閲覧方法と就職活動情報入力含む）
4）就職ガイダンスの企画・実施：4/4　講師：ナース専科より
2．３年次生への就職・進路支援
1）就職ガイダンスの企画・実施
業者講師への講義内容の検討および実施　講師：マイナビより
・第１回目： 7/ 8「就活スタートセミナー」
・第２回目：12/ 9「自己分析＆病院研究講座」
・第３回目： 2/17「選考対策講座」＋ 8：40～模擬面接（５名×３クール　計15名）
・学生へのガイダンスおよび就職活動に関する情報の周知
2）キャリア形成・国試対策支援プログラム「先輩と語る」の企画・実施
・第３回就職ガイダンスとタイアップで2/17に実施
・福大病院２名（福大・筑紫 各１名)、東京医科大学病院１名、保健師１名、助産師１名、養護教諭１名
計６名による対面での講演、相談
3．低学年への就職・進路支援
1）１年次生：マッチプラステスト結果の活用について、４月ガイダンスで実施。マイナビ講師より
4．キャリアセンター活用の案内：就職情報は全てキャリアセンター HP 上で閲覧可能のため、４月ガイダンスにて、全学年に就職支援センター F-Career の案内説明を実施
5．就職支援室の閉鎖
1）就職に関する情報は F-Career で閲覧可能なため、就職情報は看護学科内には配置しない
2）保健師・助産師・養護教諭・大学院・就職体験記の情報のみ１階４年次生掲示板横の棚に配架した
3）就職支援室に配置していた国家試験問題集等は3階ラウンジに持ち出し禁止で配架した
6．求人・施設案内目的の来学者の対応
・学科への求人依頼の来学者への対応、求人情報の周知のため学生への案内送付、F-Career へ掲載依頼
7．担任教員による就職支援の役割の明確化、推薦書類作成のシステム化
・「学生の就職活動にかかわる担任教員の対応」作成

Ⅲ．卒業後の学科へのアクセス方法の検討
1．卒業生に向けた看護学科の情報アクセス環境の整備：現在検討中

Ⅳ．日本看護学教育評価機構 受審に向けての準備
1．雇用者・卒業生からの教育プログラムの評価調査
1）雇用先への調査の実施
・第１回調査として、所在が確定できる福大系列病院の直近３年間の卒業生を対象とし web 調査を行った。回答率は30％（30/107名）であり、相対的に教育への満足度は高かった。
2）卒業生への調査の実施
・第１回調査として、令和4年度卒業生の就職先を対象とし web 調査を行った。回答率は59％（23/39施設）であり、ディプロマポリシーの各項目は半数以上が身についているとの回答であった。

Ⅴ．評価

1．国家試験に関する事項の評価

1）国家試験対策（学習会含む）に対するアンケート調査の分析

・対策全ての項目に対して８割前後の学生は満足と回答した。模試の時期を変更し、１月に追加したが効果的であり、次年度も継続する。

2）看護師国家試験、保健師国家試験合格率

・第113回看護師国家試験105名（既卒者１名）100％合格

・第110回保健師国家試験18名　　100％合格

2．就職・進路支援に関する事項の評価

1）就職ガイダンス＆「先輩と語る」に対するアンケート調査の分析

・学生のニーズにマッチし具体的な進路支援につながるガイダンス内容であったとの評価を得た。

2）進路・就職内定率

・令和５年度卒業生104名の進路は、看護師94名、保健師３名、養護教諭３名、助産進学３名、未就職希望１名であり、就職内定率は100％であった。

3．令和５年度就職状況

1）職種別・地域別就職決定状況

職種	就職先地域	令和５年度	令和４年度	令和３年度	令和２年度
看護師	福岡大学	48	31	39	44
	福岡県内	25	63	29	20
	九州内	2	3	5	4
	関西以西	1	9	5	4
	関東圏	18	21	9	11
保健師		3	4	3	3
養護教諭		3	6	5	3
進学		3	4	4	5
未就職希望		1	0	0	1
合計		104	110	99	95

過去４年間のデータを掲載する。

5．学生の指導・課外活動

《活動計画》

目標１．学生の学修活動の継続に向けた企画・運営・評価を行う。

１）学生の安定的な学習生活環境の維持を目指し、以下の活動を行う。

・看護学科棟学内利用における感染症対策検討の年２回以上の実施
・安定した学習生活開始および維持に向けたガイダンスの年１回以上の実施
・医学部事務および看護学科事務室が主管となる大学行事・式典（慰霊祭、学位記授与式など）の円滑な実施に向けた調整支援
・学修活動の維持・促進に向けた特待生および各種表彰候補者の推薦
・学生部委員会との連携体制維持のための学生部委員会参加と教授会議報告の実施

２）学生の健康生活環境の維持を目指し、以下の活動を行う。

・クラス担任制度の円滑な実施に向けた企画・調整の実施
・保健室の利用状況把握と安定的な運用に向けた支援
・学生の健康管理意識の向上と定着支援

目標２．学生の学校生活の充実に向けた企画・運営・評価を行う。

１）学生の継続的な正課・正課外活動実践の促進を目指し、以下の活動を行う。

・ポートフォーリオ開始と継続に向けた学生指導企画の年１回以上の実施
・看護学科初年次教育プログラムの実施と評価、評価を反映した次年度企画の検討
・新入生オリエンテーリングの実施と評価、評価を反映した次年度企画の検討
・その他、学生の自発的な看護技術演習等に関する学生への情報提供

２）学生の主体的な正課外活動参加の維持と促進を目指し、以下の活動を行う。

・年１回以上の学生自治会や学生自主サークル活動状況の把握と活動促進に向けた情報提供
・年２回以上の社会貢献活動の実践支援と成果発信環境の整備

３）多様な学生が共に活動できる場の創出と定着を目指し、以下の活動を行う。

・年１回以上の学生間交流の開催と活動定着に向けた支援体制の整備

《活動評価》

活動計画に基づき以下の活動を実施した。活動にあたり、実施計画・評価を委員会で検討共有した。会議開催14回（メール会議含む）。

目標１．学生の学修活動の継続に向けた企画・運営・評価を行う。

１）学生の安定的な学習生活環境の維持を目指し、以下の活動を行う。

看護学科棟学内利用における感染症対策・ガイダンス、医学部事務および看護学科事務室が主管となる大学行事・式典（慰霊祭、学位記授与式など）、各種表彰候補者の推薦、学生部委員会参加と教授会議報告について、計画通り実施した。

２）学生の健康生活環境の維持を目指し、以下の活動を行う。

クラス担任制度の円滑な実施、保健室の適正利用、学生の健康管理意識の向上支援について、計画通り実施した。

目標２．学生の学校生活の充実に向けた企画・運営・評価を行う。

１）学生の継続的な正課・正課外活動実践の促進を目指し、以下の活動を行う。

ポートフォーリオ継続支援、初年次教育プログラムの実施、新入生オリエンテーリングの実施を計画通り実施した。学生の自発的な看護技術演習としての卒業年次の卒業前技術演習については、学生自治会の決定により未実施であったが、それに代わる「卒業前 VR 演習」を教員主導で実施した。

２）学生の主体的な正課外活動参加の維持と促進を目指し、以下の活動を行う。

学生自治会やサークル活動状況の活動促進、社会貢献活動の実践支援を例年同様に継続実施した。

３）多様な学生が共に活動できる場の創出と定着を目指し、以下の活動を行う。

学生間交流の開催（クラス別ミーティング）を計画通り実施した。

6．国 際 交 流

1．看護学科の国際交流活動を学生およびその保護者に情宣し、学生の活動参加を促進する。
・国際交流プログラム（パンフレット）・ポスターの見直しにより内容を充実させて、学生に配布し国際交流委員会の活動を情宣した。
・2023年度の新１年生ガイダンス時に在学生が英語にてプレゼンテーションを行い、国際交流活動の紹介を実施した。
・学生を募集し、国際交流プロジェクトチームとして2024年度新入学生ガイダンス時の英語によるプレゼンテーションと今後の研修留学への参加に向けての学習会を実施した。
・2024年度の国際交流プロジェクトチームの募集を開始した。
＊2024年度新入生ガイダンスにて、2023年度に KU および WU で研修した学生による研修報告会開催の準備を行った。
＊WU での研修を終えた学生による研修報告会の開催準備を行った。

2．ウオッシュバン大学（WU）および啓明大学（KU）との国際交流活動に向けた計画・準備・事後評価を行う。
・８月に予定されていた KU への研修に向け、計画を立案し準備した。
・２月23日～３月10日に予定の WU への研修に向け、計画を立案し準備した。
・WU・KU とのオンラインにて、頻回にメール交換し交流関係の維持に努めた。
・新規交流大学の開拓については、今後も慎重に検討を重ねることとした。
＊2024年２月23日～３月10日に渡米した研修学生の事前学習会の開催、研修中の支援、帰国後に研修の評価を行った。
＊2024年６月19日～28日に来校する WU 学生の研修プログラムの計画に着手した。
＊2024年８月２日～８日に来校する KU 学生の研修プログラムの計画に着手した。

3．学内外で募集された海外研修支援金の獲得に向けた活動を行う。
・海外研修支援金（福岡県：世界に打って出る）を獲得した。
＊上記研修支援金を獲得後、研修報告書を福岡県に提出した。

4．その他
・KU 研修引率教員の支援をした。
＊WU 研修引率教員の現地でのプレゼンテーション資料の作成と発表の支援を行った。
＊新規の国際交流先となる大学の開拓はしなかった。

7．総務・広報・図書・研究推進活動

1．総務・広報委員会

《総務に関する活動計画と評価》

1）2023年度予算の適正な執行

⑴ 看護学科予算の適正使用

①看護学科予算（実験実習費支出項目、実験実習費の使用について、2023年度機械器具要望、等）と予算執行方法の確認（実験実習費執行マニュアルの周知）

②看護学科予算執行通知の確認：教員実験実習費の確定、要望された機械器具購入を周知

③過年度の実験実習費、機械器具・什器予算等の決算表を作成依頼し、教授会議で報告

④９月、１月実験実習費予算執行状況の確認と周知

⑤機械器具・什器の納品確認

⑥次年度への繰り越し金に関する内容を検討

⑵ 2024年度予算編成と要望の集約

①2024年度予算決定額を事務に確認

②予算要望調査の実施：教授会で看護学科予算と予算執行方法の説明

③実験実習費の予算要望書作成：教授会で予算執行に関して審議

⑶ 2024年度機械器具・什器要望調査

①各分野・科目群の予算要望書（実験実習費含む）をとりまとめて予算要望書（案）を作成
（経年劣化器具要望の確認）

②機器器具・什器要望調査のヒアリング実施・優先順位決定

評価１：2023年度予算執行について

①令和５年度予算に関する看護学科配分額（31,828,831円）および大学院看護学専攻配分額（1,954,109円）が決定した。機械器具費（4,543,800円）、実験実習費（28,185,031円）、保全費を除いた残額3,705,501円を共通経費（予備費300,000含む）とした。

②機械器具・什器の注文品は、10月までの納品を事務室に確認した（執行額4,243,800円）。

③実験実習費の共通経費等予算額は、10月採用２名の教員実験実習費を配分し11,434,531円となった。執行額は12月末現在8,645,712円、令和５年度保全費2,917,750円を支出し残額－128,931円である。不足金額は教員の実験実習費の残金で補える見込みである。教員の実験実習費は、３月末に確定となるため、余剰金による学科内施設・実習室などの整備は、現時点では難しいと判断した。
また、執行率が一部100％を超えており適正な執行を周知する必要がある。コピー料金は185.44％の高い執行率であった。予算額を例年より減じていたが、コピーの使用状況は変化しなかった。予算配分はコピーや印刷など紙媒体資料の必要性など考慮して検討する。

評価２：2024年度予算編成と要望調査について

①令和６年度予算要望調査は、共通経費や実習室、各領域、委員会等の消耗品等の調査を７月初旬締め切りとし、実験実習費と保全費の暫定版について教授会議で説明した。機械器具・什器要望調査は８月末締め切り、10月ヒアリングを実施し令和６年度予算要望（案）として教授会議で報告した。

2）学科内施設・実習室等の整備

⑴ 実習室・講義室等の整備
廃棄処分品や有効利用物品の整備
３階実習室の特殊浴槽室の壁面の撤去工事の予算要望書を作成

⑵ 学科内・外からの施設利用・物品管理のシステム化

①施設利用届、物品利用届の整備

②実習室利用の手続きの整備

3）危機管理事項

⑴　災害時の危機管理について

①災害時の自衛防災組織の役割と必要物品の確認

②災害対策初動マニュアルやヘルメット等の配備の確認

③災害対策初動マニュアルやヘルメット等の配備について検討（部屋移動に伴う）

⑵　自衛防災訓練

2023年度の訓練日は未定であり避難場所、避難誘導方法、役割を周知し、物品等の確認と整備を行う。

評価１：実習室や講義室等の整備

①実習室利用手続きについて、実習室予約方法は Outlook カレンダーを使用するように変更し周知した。

評価２：災害時の危機管理

①自衛防災組織編成、避難場所、避難誘導について周知した。配備品の点検・整備を行い教員室変更に沿って再配置した。緊急事態対応マニュアルは、災害対策初動マニュアルと重複する部分があり全部屋から外した。

②医学部消防計画に基づき看護学科棟地区隊防火・防災訓練を企画し、３月11日に開催した。

・学生はボランティアを募り、学生も参加した。

・２月教授会議前に防火・防災訓練説明会を行い、看護学科棟防火・防災訓練概要、防災訓練分担表、防災訓練シナリオ、防災訓練フロー、訓練時用使用 PHS 名簿等の資料を配布し訓練の流れを説明した。

・城南消防署や関連部署との調整は、事務室長に依頼した。

・城南消防署からの評価は、現状での早急な改善は特になしであった。

評価３：５階倉庫の整備・活用

①各委員会等の物品配置を整備し保管・管理をしやすくした。倉庫の保管物品は、各委員会が責任をもち行うことを周知した。

《広報に関する活動計画と評価》

1）ホームページ管理

⑴　定期的な更新内容の確認と検討

①新年度に伴う内容変更は、４月と10月に医学情報センター担当者に依頼する。

②大幅な内容変更や新規の掲載事項は、医学情報センター予算の運用となり、D-Zero と調整後に検討する。

③新着情報の発信は、Fu-box から投稿依頼書を作成し教育技術職員の協力を得てタイムリーに行う。
学生や教職員の教育・研究活動、地域社会貢献活動など幅広く情報を更新する。

⑵　公開講座の推進

①社会連携センターと時期、方法について臨床看護学分野に通知する。

②学科内の公開講座マニュアルに従い、時期や方法について報告する。

評価１：ホームページ管理

①定期更新の４月に FD 研修内容、市民公開講座、教職課程を追加、10月は新任教員を更新した。

評価２：公開講座

①看護学科は輪番制で行っていたが、社会連携センターより、次年度からは、教員個人かチームで開講できる公開講座プログラムを提示し、地域の要望に応じて実施する計画で、プログラムの事前調査を予定中と情報提供された。従って令和５年度の開催はしないこととなった。

《学科職員の親睦に関する活動計画と評価》

1）学科職員の親睦会等に関する事項

⑴　定年退職者の最終講義の確認と準備（医学科、看護学科）

評価１：学科職員の親睦会等……該当なし

２．研究推進委員会

《活動計画と評価》

１）看護研究活動における研究倫理・コンプライアンスの確保・推進を図る

⑴ 研究推進部委員会へ参加し、看護学科教員の研究活動に必要な情報（研究倫理教育、コンプライアンス教育、競争的研究資金獲得に関する情報 他）について情宣する。

研究推進部委員会で情報が提示される外部研究資金や福岡大学女性研修支援等、大学全体の研究支援等について、教授会等でアナウンスを行い、情報共有を行った。

⑵ 倫理審査申請に関する手続きについてのマニュアルの作成・整備を行い、研究活動を推進する。

2023年度は、２件の学部生の看護研究における研究実施手続きを実施した。

⑶ 研究を推進していくうえでのコンプライアンスの確保のため、問題および要因の把握とその排除に努め、看護学科における研究活動の活性化を図る。

看護学科で、研究の実施において問題が生じることはなかった。

２）看護学科ジャーナルの発刊準備を完了し、投稿受付を開始する

⑴ 2022年度に検討された雑誌概要、運営・管理、投稿規定等を再度見直し、発刊に向けての準備を整える2024年度の発刊に向けて以下①～④の準備を行った。

①看護学科ジャーナルは、日本語名称を『福岡大学看護学紀要』，英語名称を「Nursing Bulletin of Fukuoka University」とし、福岡大学医学部看護学科、福岡大学系列病院に勤務する教職員、福岡大学大学院生の研究教育活動および看護実践並びに国際共同研究の成果を広く学内外にアピールすることを目的に、2024年度に創刊する。

②運営・管理については、編集委員会を看護学科研究推進委員会で構成し、編集委員会が選出した２名の査読者が査読を、資料室が庶務を担当する。

③投稿規程は、掲載対象、投稿資格、原稿種別、執筆要領、査読、著作権等を盛り込み、作成した。本雑誌の投稿資格は、原則として、福岡大学に勤務している現職者、投稿時に退職して５年以内の者、福岡大学大学院生および学位取得５年以内の修了生とする。

④投稿・掲載は、福岡大学ウェブシステムを利用して行う。

⑵ 関連規定（倫理や法規）、広報、予算を決定する（８月 予算申請）

掲載された論文等の著作権は，著者および看護学科に帰属するものとする。看護学科は掲載原稿を電子的な手段で配布する権利を有するものとする。今年度予算で、雑誌の表紙デザインまで執行完了した。

⑶ 投稿受付を開始する

2024年度４月より投稿受付を開始し、2025年２月創刊を予定している。

３）福岡大学病院、筑紫病院、西新病院との共同研究および研究支援による研究交流を推進する

⑴ 研究支援手続きマニュアルの運用を軌道に乗せる

福大病院系列の研究支援は、マニュアルによって順調に運用され、今年度の支援依頼は19件で、昨年度の約２倍に増加した。本委員会の会議は議題が生じた場合に開催する形を採っているため、支援教員を申請度にメール会議で推薦し、決定している。件数の増加により、メール会議の回数も複数回に及んでいるため、次年度より、研究支援教員の決定は、委員会開催時に議題として定常的に扱う。

⑵ 研究支援および共同研究の更なる活性化を図る

支援の認識について看護学科と臨床との間に若干の齟齬もあるため､共通理解が図れるよう､｢研究支援依頼書｣の記述を改訂し、次年度より運用を開始する。

⑶ 研究支援及び共同研究に関する課題を把握し、改善に取り組む

支援件数の増加に伴い、全教員が１件以上の担当をもち、2024年３月末現在の支援中の課題総数は26件となっている。一方で、研究が停滞しているテーマも複数あり、教員一人あたりの担当件数が増えている。論文投稿につながるような研究の質の確保および、教員の業務との兼ね合いを考慮し、支援対象テーマ等の選考について、看護部に働きかけつつ、教員の研究能力の向上につながるよう、支援を継続していく。

3．図書委員会

1）紙媒体と電子媒体の重複を見直すという学術情報課の方針に沿って、視聴覚教材（図書の電化）の課題やニーズを明らかにする。

⑴ 雑誌や、視聴覚教材に関する実態調査により、課題の明確化とデータの活用を図る。

・本学のコア・ジャーナル調査実施に協力した。

⑵ 電子資料活用の評価

・看護学科の課題である電子資料予算の不足という課題について今後の電子資料の講読の見通しについて検討した。

・令和５年度は、図書予算の凍結はなかった。次年度はナーシングチャンネルと EVO の両方の予算要求をしている。もし不足の場合は、学科図書委員に一任いただくことで教授会議の了承を得た。

2）図書の電子化（視聴覚教材、電子媒体等）の課題を踏まえて、電子資料の利活用の促進を図る。

⑴ 電子化の拡大に伴う課題改善をめざした広報活動の充実

・看護教育視聴覚教材（ナーシングチャンネル及び EVO）の活用を案内し、電子資料（ナーシングチャンネル、EVO）を活用する看護学科の領域の拡大を検討した。

・ナーシングチャンネルについて、①新入生の利用登録、②卒業生、退職者の退出の登録削除、③シスメールでの利用の徹底を図った。

・教員及び学生が、必要な図書を購入できるよう、広報活動を行った。

3）図書館組織の改編に協力し、適切に対応しながら、有効な図書予算の執行をめざす。

・図書費の執行率100％のために図書購入を促した。

・2024年２月29日現在、決算推定額は15,186,030円となり、1,602,764円が残額となった。

4）研究用図書点検を実施する

・技術職員の協力のもと、研究用図書点検を実施し紛失書籍はなかった。

8．医学研究科看護学専攻（修士課程）

1．看護学専攻委員

令和５年４月１日現在

組織	長（議長）	委員			
修士課程小委員会	（研究科長） 松永　　彰	平井　郁仁	樑　　直美	江藤　真紀	緒方久美子
		木村　裕美	小柳　康子	佐久間良子	末次　典恵
		中島　充代			
研究指導教員会議	（専攻長） 緒方久美子	樑　　直美	江藤　真紀	木村　裕美	小柳　康子
教員資格予備審査委員会		佐久間良子	末次　典恵	中島　充代	
出願資格審査会議メンバー					
大学院専攻会議	（専攻長） 緒方久美子	樑　　直美	江藤　真紀	大倉　義文	木村　裕美
		小柳　康子	佐久間良子	末次　典恵	中島　充代
		宮城由美子	岩永　和代	浦　　綾子	有田　久美
		大田　　博	坂梨　左織	長谷川珠代	黒髪　　恵
		藤木久美子	牧　　香里	松本祐佳里	池田　　智
		（上野　珠未）	（鮫島由紀子）		
学務委員会	佐久間良子	末次　典恵	中島　充代	有田　久美	大田　　博
		坂梨　左織	牧　　香里	（専攻長） 緒方久美子	（学科主任） 宮城由美子
		（鮫島由紀子）			
入試委員会	小柳　康子	長谷川珠代	黒髪　　恵	（専攻長） 緒方久美子	（上野　珠未）

2．令和６年度入試の実施　秋季入試１名受験、春季入試１名受験、合格者２名
　令和５年度在籍者　8名

専門領域	１年次	２年次	長期履修*
母子健康支援領域（特別研究）	２名	０名	０名
地域健康支援領域（特別研究）	０名	０名	０名
成人療養支援領域（特別研究）	０名	０名	０名
看護教育・管理領域（特別研究）	１名	０名	０名
高齢者療養支援領域（特別研究）	０名	０名	０名
精神健康支援領域（特別研究）	０名	２名	０名
クリティカルケア看護領域（課題研究）	１名	２名	２名
合計	４名	４名	

＊：長期履修者数は、１年次在籍者数、あるいは２年次在籍者数に重複

3．専門領域及び研究指導教員

専門領域	研究指導教員
母子健康支援領域	教授　小柳康子、教授　佐久間良子
地域健康支援領域	教授　江藤真紀
成人療養支援領域	教授　緒方久美子
看護教育・管理領域	教授　末次典恵
高齢者療養支援領域	教授　樑　直美、教授　木村裕美
精神健康支援領域	教授　中島充代
クリティカルケア看護領域	教授　緒方久美子

4．活動内容

【修士課程小委員会】

1）委員：

4月1日～11月30日；

◎松永　彰　研究科長、平井郁仁　大学院学務委員

研究指導教員（Ⓜ）：緒方久美子、江藤真紀、木村裕美、櫟直美、小柳康子、佐久間良子、末次典恵、中島充代

12月1日～3月31日；

◎高松　泰　研究科長、安永晋一朗　大学院学務委員

研究指導教員（Ⓜ）：佐久間良子、櫟直美、江藤真紀、緒方久美子、木村裕美、小柳康子、末次典恵、中島充代（◎委員長、以下同じ）

2）活動内容（議事）：

上記の構成員により11回開催した。（第11回はメール会議）

①令和6年度入試要項について

②令和4年度自己点検・評価を踏まえた「問題点」への対応について

③令和5年度自己点検・評価について

④令和5年度教職課程自己点検・評価について

⑤令和5年度新入生の研究仮テーマ、研究指導教員、研究指導補助教員の承認

⑥令和5年度3つのポリシー確認シートについて

⑦令和6年度秋季入試の合否判定（受験者1名合格者1名）

⑧令和5年度研究計画発表会について

⑨令和5年度修了生の修士論文発表会について

⑩令和5年度修士論文審査の主査・副査の承認

⑪看護学専攻教育職員資格審査について（研究指導補助教員4名と（非常勤）研究指導教員1名の資格審査を実施、大学院教育職員資格審査委員会に上程）

⑫修士学位申請論文合否判定及び修士課程修了判定

⑬令和6年度学年暦および時間割の決定

⑭令和6年度科目担当者の決定

⑮令和6年度大学院シラバスの作成・点検について

⑯非常勤講師採用の決定

⑰令和6年度春季入試の出願資格審査（受験者1名出願資格あり）

⑱令和6年度春季入試の合否判定（受験者1名合格者1名）

⑲看護学専攻申し合わせ事項の修正について

修士課程小委員会の下に、申し合わせにより専攻長の諮問会議として研究指導教員会議（Ⓜ会議）を、内規により教員資格予備審査委員会を設置している。

【研究指導教員会議】は研究指導教員8名（上記）で構成し、専攻長を議長として1回開催した。

令和4年度自己点検・評価を踏まえた「問題点」への対応について審議した。

【教員資格予備審査委員会】は研究指導教員8名（上記）で構成し、専攻長を議長として1回開催した。

審議の結果、M教員（医学科教員含）4名および非常勤研究指導教員1名の推薦を決定し、修士課程小委員会に上程した。

【専攻会議】

1）委員：

4月1日～11月30日：◎緒方久美子、櫟　直美、江藤真紀、大倉義文、木村裕美、小柳康子、佐久間良子、末次典恵、中島充代、宮城由美子、岩永和代、浦　綾子、長谷川珠代、有田久美、大田　博、黒髪　恵、坂梨左織、牧　香里、松本祐佳里、池田　智、（上野珠未、鮫島由紀子）

12月1日～3月31日：◎佐久間良子、櫟　直美、江藤真紀、大倉義文、緒方久美子、木村裕美、末次典恵、中島充代、宮城由美子、岩永和代、浦　綾子、長谷川珠代、有田久美、大田　博、黒髪　恵、坂梨左織、牧　香里、松本祐佳里、池田　智、（鮫島由紀子、藤理恵、松村友紀子）

２）活動内容：構成員22名により11回開催した。（第11回はメール会議）

⑴　入試に係る事項の検討・協議

①令和６年度入学試験要項の作成

②令和５年度入学試験の作題および入試業務の役割分担決定

③志願者募集のための広報活動：募集ポスターとリーフレットの作成

④秋季入学試験の実施（受験者１名）

⑤春季入学試験の実施（受験者１名）

⑥大学院ホームページの改訂

⑵　学務に関する事項の検討・協議

①令和５年度修士課程ガイダンスの実施

②令和５年度新入生の仮テーマ、研究指導教員、研究指導補助教員の確認

③研究計画発表会の実施について

④令和５年度修士論文審査の主査・副査の確認

⑤令和６年度学年暦と時間割の編制

⑥令和６年度科目担当者の検討

⑦令和６年度シラバスの作成・点検

⑧令和６年度大学院履修の手引きの作成

⑨課程修了者３名（修士論文コース１名、高度実践看護師コース２名）の修士論文公開発表会と学位審査の実施

⑩学位授与式を看護学科と合同で実施

⑶　令和５年度予算執行と令和６年度予算要望

【学務委員会】

４月１日～11月30日：◎佐久間良子、緒方久美子（専攻長）、宮城由美子（学科主任）、末次典恵、中島充代、有田久美、大田　博、坂梨左織、牧　香里、（鮫島由紀子）

12月１日～３月31日：◎櫟　直美、佐久間良子（専攻長）、宮木由美子（学科主任）大倉義文、岩永和代、大田　博、長谷川珠代、（鮫島由紀子、藤　理恵）

【入試委員会】

４月１日～11月30日：◎小柳康子、緒方久美子（専攻長）、長谷川珠代、黒髪　恵、（上野珠未）

12月１日～３月31日：◎小柳康子、佐久間良子（専攻長）、末次典恵、黒髪　恵、（松村友紀子）

9．社 会 活 動

1．高校生への模擬授業および看護学科紹介

講義日	対象校	テーマ	担当者
令和５年６月23日	沖学園高等学校	元気で長生き！介護予防とは	木村　裕美
令和５年７月６日	下関南高等学校	元気で長生き！介護予防とは	木村　裕美
令和５年７月７日	福岡工業大学附属 城東高等学校	災害から命を守る	岩永　和代
令和５年８月５日	オープンキャンパス	学科紹介（計４回）	宮城由美子 大倉　義文
		フィジカルアセスメント -「看護の触診の技」を体験しよう-	坂梨　左織
令和５年８月22日	八女学院中学・ 高等学校	暮らしを支える在宅看護 ～ICT 活用事例を通して～	古賀佳代子
令和５年９月５日	福岡県立福島高校	ストレスと看護	黒髪　　恵
令和５年９月12日	明光学園高等学校	女性の栄養と健康について考える	佐久間良子
令和５年９月16日	附属大濠高等学校	生活習慣病のある患者さんへの支援	牧　　香里
令和５年10月４日	九州国際大学付属 高等学校	「看護のチカラ」を考える	末次　典恵
令和５年10月７日	若葉高等学校	知っていますか？　骨粗鬆症	佐久間良子
令和５年11月14日	福岡県立京都高校	こどもの不思議	松本祐佳里
令和５年12月２日	福岡市立高校３校	・看護学科紹介 ・模擬講義 「骨の健康をアセスメントしよう」 ・実習室バックヤードツアー	有田　久美 上野　珠未 福本　優子
令和５年12月12日	附属若葉高等学校	ヘルシーエイジング～楽しく健やかに老いるために	樑　　直美

10. 研 究 業 績

令和５年４月より令和６年３月までの１年間における研究業績の主なものを、ここに記載する。

講座名 No.	論文題名	発表雑誌	発行の巻（号） 頁・年	著者及び演者
専門基礎				
〈国内研究助成金〉				
1	骨質低下を制御するビタミンＢ群摂取による新たな骨粗鬆症骨折予防の探索的解析	文部科学省 挑戦的研究（萌芽）	2023	中園　栄里（代表）， 末松美保子，力丸　哲也， 貴島　聡子，大倉　義文
2	壮年期からの骨粗鬆症予防と口腔機能向上を目指した食事レシピ開発	文部科学省 挑戦的研究（萌芽）	2023	中園　栄里（代表）， 力丸　哲也，大倉　義文， 南　レイラ，古野みはる
〈学会活動〉				
1	日本動脈硬化学会	評議員	2023	大倉　義文
基礎看護学				
〈原著〉				
1	医療者としての役割を認識する早期体験実習を創る	新しい医学教育の流れ	23(3)： 149-150， 2023	末次　典恵
2	Learning needs of family caregivers in the Japanese working generation who care for community-dwelling people with dementia: A qualitative research study	Journal of International Nursing Research	DOI： 10.53044/jinr. 2021-0022	Sakanashi S, Fujita K, Nishio M, Ouma S, Ogata K
3	クリティカルケア領域において代理意思決定を行った患者家族の体験	日本クリティカルケア学会誌	19： 1-11， 2023	鮫島由紀子，緒方久美子， 坂梨　左織
4	Ability of older male caregivers to seek help when caring for a wife or mother with dementia living at home.	Japan Rural Medicine	18(3)： 182-188， 2023	Nishio M, Sakanashi S, Uchida N, Oma S, Kimura H, Kukihara H, Koga K
〈著書〉				
1	褥瘡ガイドブック（第３版）	照林社	pp.208-212， 224-225， 228-229， 2023	高木　良重（分担）
〈国際学会（総ての演題）と国内学会（シンポジウムかワークショップあるいは招待講演のみ，一般演題は除く）〉				
1	地域の看護を支える人材を育成するICTを活用した教材開発	日本看護学教育学会 第33回学術集会	福岡市 8/26-27，2023	末次　典恵，草原　麻紀， 小倉　裕香，山中　真弓， 稲田真菜実
2	（ジョイント　シンポジウム） CKD進行予防のための運動療法－看護師の役割	第14回日本腎臓リハビリテーション学会	新潟 3/17， 2024	神徳　和子

〈国内研究助成金〉

1	地域包括ケアを支えるICTを活用した看護リカレント教育プログラムの開発	文部科学省 基盤研究(C)	2023	末次　典恵（代表）， 鶴田　来美，吉永　砂織， 久保　江里
2	緊急に人工呼吸器を装着した患者へのコミュニケーション支援に関する国際比較	文部科学省 基盤研究(C)	2023	緒方久美子（代表）， 佐藤　禮子，末次　典恵， 佐藤まゆみ
3	造血幹細胞移植患者に対する運動支援プログラム開発に関する基礎的研究	文部科学省 基盤研究(C)	2023	久保　江里（代表）， 末次　典恵
4	働き盛り世代の仕事と認知症介護の両立への備えを促すVR学習プログラムの開発と検証	文部科学省 基盤研究(C)	2023	坂梨　左織（代表）， 西尾美登里，大田　　博， 藤田　君支，合馬　慎二
5	新分岐型台帳技術搭載SNS －”デジタルMOAI”－による若年世代の貧困・格差への対抗	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)	2023	神徳　和子（代表）， Yuri Tijerino，徳森　謙二， 宮崎　康支，安達圭一郎
6	地域包括ケアシステムにおける尿失禁看護の検討とクリティカルパスの開発	文部科学省 基盤研究(C)	2023	田中　理子（代表）， 高木　良重，岩木　三保， 川本利恵子，武冨貴久子， 梶岡　俊一
7	プラチナナースの就労継続を可能にする働き方モデルの開発	文部科学省 基盤研究(C)	2023	川口賀津子（代表）， 高木　良重，吉村　千草， 宇治田さおり
8	乳がん自壊創の形態的特徴	日本がん看護学会研究助成	2023	高木　良重（代表）， 松原　康美，高橋　　純， 水島　史乃

〈学会活動〉

1	日本看護研究学会 九州・沖縄地方会	役員	2023	末次　典恵
2	日本看護科学学会	代議員	2023	末次　典恵
3	日本手術看護学科	査読者	2023	坂梨　左織
4	日本糖尿病教育・看護学会	編集委員会 専任査読者	2023	神徳　和子
5	日本創傷・オストミー・失禁管理学会	評議員	2023	高木　良重
6	日本褥瘡学会	評議員	2023	高木　良重
7	日本がん看護学会	理事	2023	高木　良重

成人看護学

〈原著〉

1	就労血液透析患者の自己管理行動とワーク・ファミリー・コンフリクトに関する研究	バイオメディカル・ファジィ・システム学会誌	25(1)： 55-64， 2023	山元万里子，緒方久美子， 村田　敏晃，斎藤　喬雄， 兼岡　秀俊
2	Learning needs of family caregivers in the Japanese working generation who care for community-dwelling people with dementia: A qualitative research study	Journal of International Nursing Research	DOI： 10.53044/jinr. 2021-0022	Sakanashi S, Fujita K, Nishio M, Ouma S, Ogata K

3	Association between serum ALT levels and incidence of new-onset diabetes in general population of Japanese: a longitudinal observational study（ISSA-CKD）	BMJ Open	DOI: 10.1136/ bmjopen-2023-074007	Morinaga A,Iwanaga K, Maki K, Ueno T, Kawano K ,Funakoshi S, Yamanokuchi T, Tsuji M, Abe M,Satoh A, Kawazoe M, Maeda T, Yoshimura C, Takahashi K, Tada K, Ito K, Yasuno T,Kawanami D, Masutani K,Arima H
4	Relationship between abdominal circumference and the incidence of hyperuricemia in the general Japanese population	Scientific Reports	DOI: 10.1038/ s41598-024-55008-6	Kawano K,Ueno T, Maeda T,Nohara C, Maki K, Iwanaga K, Morinaga A, Funakoshi S, Abe M, Satoh A, Kawazoe M, Yoshimura C, Takahashi K,Tada K, Ito K, Yasuno T, Mukobara S,Kawanami D, Masutani K,Arima H
5	Two-year evolution of quality of life following radiotherapy and/or chemotherapy in patients with head and neck cancer	Asia-Pacific Journal of Oncology Nursing	DOI: 10.1016/ j.apjon. 2023.100301	Iwanaga K, Ishibashi Y, Maki K, Ura A, Kotake K, Haba K, Sakata T, Nakagawa T, Arima H

〈国際学会（総ての演題）と国内学会（シンポジウムかワークショップあるいは招待講演のみ，一般演題は除く）〉

1	Association between frailty and psychosocial status in patients undergoing hemodialysis	26th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference（EAFONS）	Tokyo, Japan March10-11 2023	Maki K, Kukihara H, Tamura Y, Ishimoto Y, Uemura C
2	Changes in the Coping Strategies of Families Caring for People with Dementia after an Education Program	26th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference（EAFONS）	Tokyo, Japan March10-11 2023	Baba M, Yamamoto Y, Okura M, Ueno T, Maki K, Tsuboi Y
3	Interventional Effects of an Education Program to Reduce Caregiving Burdens on Families Caring for People with Dementia	26th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference（EAFONS）	Tokyo, Japan March10-11 2023	Okura M, Baba M, Yamamoto Y, Ueno T, Maki K, Tsuboi Y, Ayaka S

〈国内研究助成金〉

1	緊急に人工呼吸器を装着した患者へのコミュニケーション支援に関する国際比較	文部科学省 基盤研究(C)	2023	緒方久美子（代表），佐藤　禮子，末次　典恵，佐藤まゆみ
2	クリティカルケア看護師の緩和ケアコンピテンシー育成プログラムの開発	文部科学省 基盤研究(B)	2023	大川　宣容（代表），緒方久美子，佐藤まゆみ，森本紗磨美，平尾　明美
3	冠動脈血行再建術後患者の HL 向上を目指した在宅遠隔セルフケア支援システムの開発	文部科学省 基盤研究(B)	2023	稲垣　美紀（代表），大田　　博，緒方久美子，竹下　裕子，稲垣　範子，長沢美和子，岡田　彩子，小堀　栄子

4	新たなクリティカルケア Simulation Learning モデルの構築	文部科学省 基盤研究(C)	2023	大田　博（代表）， 緒方久美子，稲垣　美紀， 長沢美和子，東　ますみ， 藤原　尚子
5	喉頭全摘出者の QOL 向上へつなげる看護体制の構築：RCT による縦断的介入	文部科学省 基盤研究 B	2023	小竹久実子（代表）， 岩永　和代（分担）
6	発達障害傾向看護学生のコミュニケーション力育成プログラムの試行	文部科学省　基盤研究 C	2023	宮林　郁子（代表）， 岩永　和代（分担）
7	喉頭全摘出者の家族の術後生活への移行を促進する外来での生活支援プログラムの開発	文部科学省 基盤研究(C)	2023	石橋　曜子（代表）， 岩永　和代，小竹久実子， 浦　綾子，宮林　郁子
8	頭頸部がんで化学放射線療法を受ける患者の栄養状態改善のための介入プログラムの開発	文部科学省 基盤研究(C)	2023	岩永　和代，石橋　曜子， 小竹久実子，羽場　香織， 浦　綾子，牧　香里， 宮林　郁子
9	認知症高齢者のエンドオブライフの最善を支える ACP プロセスの構築	文部科学省 基盤研究(C)	2023	馬場みちえ（代表）， 山本八千代，久木原博子， 牧　香里（分担研究者）， 上野　珠未，隈本　寛子
10	VR 教材を用いた学生の倫理的感受性を高める臓器移植看護教育の検討	文部科学省 基盤研究(C)	2023	鮫島由紀子（代表）， 緒方久美子，大田　博

〈学会活動〉

1	千葉看護学会	査読者	2023	緒方久美子
2	ニューロサイエンス看護学会	学術集会 協力委員	2024	浦　綾子
3	福岡県看護学会	福岡県 看護協会	2024	浅野　悠佳

老年看護学

〈原著〉

1	Association between serum ALT levels and incidence of new-onset diabetes in general population of Japanese: a longitudinal observational study（ISSA-CKD）	BMJ journal	DOI: 10.1136/ bmjopen-2023- 074007	Morinaga A, Iwanaga K, Maki K, Ueno T, Kawano K, Funakoshi S, Yamanokuchi T,Tsuji M, Abe M, Satoh A, Kawazoe M, Maeda T, Yoshimura C, Takahashi K, Tada K, Ito K, Yasuno T, Kawanami D, Masutani K, Arima H
2	Relationship between abdominal circumference and the incidence of hyperuricemia in the general Japanese population	Scientific Reports	DOI: 10.1038/ s41598-024- 55008-6	Kawano K,Ueno T, Maeda T, Nohara C, Maki K, Iwanaga K, Kawazoe M, Yoshimura C, Takahashi K, Tada K, Ito K,Yasuno T, Mukobara S, Kawanami D, Masutani K, Arima H

〈国内研究助成金〉

1	婦人科がん術後患者のリンパ浮腫自己アセスメントが受診行動に与える影響	文部科学省 基盤研究(C)	2023	矢野ゆう子（代表）， 有田　久美，佐藤真由美

〈学会活動〉

1	日本看護福祉学会	査読委員	2023	有田　久美

母性看護学

〈原著〉

1	子連れで働くことを選択した母親のワーク・ライフ・インテグレーション	福岡大学医学紀要	51(1)： 17-28, 2024	藤木久美子，佐藤　香代

〈国際学会(総ての演題)と国内学会(シンポジウムかワークショップあるいは招待講演のみ，一般演題は除く)〉

1	Skin dryness and related factors in term infants born at the Comprehensive Perinatal Maternal Child Health Centre	27th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference	Hong Kong March 6-7, 2024	Sakuma Y, Hase H, Kitagou S, Nakahara A, Inoue Y, Kobiyama A, Gotou K, Hasegawa M
2	National Survey of the Intake of Folic Acid Supplements by Japanese Women from Preconception to the End of Pregnancy, Report-1	27th East　Asian Forum of Nursing Scholars Conference	Hong Kong March 6-7, 2024	Sakuma Y, Arita K, Yamada S

〈国内研究助成金〉

1	妊娠適齢期女性に対する葉酸摂取啓蒙のためのヘルスリテラシー支援プログラムの開発	文部科学省 基盤検収（C）	2023	佐久間良子（代表）， 有田　久美

〈学会活動〉

1	福岡母性衛生学会	理事	2023	佐久間良子
2	福岡母性衛生学会	幹事	2023	藤木久美子

小児看護学

〈原著〉

1	看護師学士課程の入学時オリエンテーションにおける初年次教育プログラム	看護教育	64(2)： 220-225, 2023	大田　　博，坂梨　左織， 上野　珠未，松本祐佳里， 長谷川珠代
2	保育士の子どもへの緊急対応時の課題解決に関連する要因－子どものけいれん発作を想定した研修後における評価－	福岡大学医学紀要	50(2)： 89-94, 2023	松本祐佳里，中井　寿雄， 藤原　悠香，藤　　理絵， 古賀　　綾，宮城由美子
3	看護大学生の援助要請スタイル別の心身の健康および自尊感情	インターナショナル Nursing Care Research	22(1)： 115-123, 2023	黒髪　　恵，中島　充代， 有田　久美，松本祐佳里， 佐久間良子

〈総説〉

1	学童期・思春期の子どもたちにとっての食物経口負荷試験－聞き取り調査の結果－	アレルギーの臨床	44(1)： 88-90	宮城由美子，横尾美智代， 秋鹿　都子，藤原　悠香

〈著書〉

1	イラスト　子どもの保健・健康と安全	東京教学社	pp.143-160 2023	宮城由美子（分担）

2	イラスト　子どもの保健・健康と安全	東京教学社	pp.54-70 2023	松本祐佳里（分担）
3	イラスト　子どもの保健・健康と安全	東京教学社	pp.162-174 2023	藤原　悠香（分担）

〈国内研究助成金〉

1	除去食療法を経験している学童・思春期患児の療養行動と支援プログラム	文部科学省 基盤研究(C)	2023	宮城由美子（代表）， 横尾美智代，秋鹿　都子， 藤原　悠香
2	食物アレルギー児が将来を見据えた生活を再構築するための教育プログラムの作成	文部科学省 基盤研究(C)	2023	宮城由美子（代表）， 横尾美智代，秋鹿　都子
3	新型コロナウイルス感染症の流行がワクチン忌避保護者に与えた影響について	文部科学省 基盤研究(C)	2023	横尾美智代（代表）， 宮城由美子，早島　　理
4	食物除去過程の幼児家族教育プログラム　家族実践型プレパレーションツールの開発	文部科学省 基盤研究(C)	2023	秋鹿　都子（代表）， 山本八千代，宮城由美子
5	医療的ケア児と養護者，訪問看護・介護が参画した個別災害対策ガイドラインの開発	文部科学省 基盤研究(C)	2023	松本祐佳里（代表）， 中井　寿雄，長谷川珠代， 藤原　悠香
6	産前から子育て期までの継続的な孫育て支援プログラムの構築	文部科学省 若手研究	2023	藤原　悠香（代表）

〈学会活動〉

1	日本小児臨床アレルギー学会	査読委員	2023	宮城由美子

精神看護学

〈原著〉

1	看護大学生の援助要請スタイル別の心身の健康および自尊感情の特徴	インターナショナル nursing care research	22(1)： 115-123， 2023	黒髪　　恵，中島　充代， 有田　久美，松本祐佳里， 佐久間良子

〈国内研究助成金〉

1	自閉スペクトラム症を有する人の支援者への多職種型教育プログラムの構築	文部科学省 基盤研究(C)	2023	中島　充代（代表）， 黒髪　　恵，池田　　智， 大重　育美，倉知　延章， 中山　政弘
2	妊娠期の交代制勤務看護職の睡眠健康プログラムの開発	文部科学省 基盤研究(C)	2023	大重　育美，山口　多恵， 中島　充代（分担），飛奈　卓郎， 永松　美雪，倉岡有美子， 木村　涼平
3	乳がん女性のサポート・ニーズとサポート・グループ傘下バリアの経時的変化の検証	文部科学省 基盤研究(C)	2023	山内　圭子，中島　充代（分担）， 原　　頼子
4	日本型リカバリープログラムを活用した精神科病棟でのリカバリー支援モデルの構築	文部科学省 基盤研究(C)	2023	黒髪　　恵（代表）， 中島　充代，坂本　明子， 畑中　聡仁，原田　康平
5	精神看護学教育に共同創造を実装するためのガイドラインの開発	文部科学省 基盤研究(C)	2023	石村佳代子（代表）， 千々岩友子，黒髪　　恵

6	特別な支援を要する看護学生への教育力育成プログラムの開発	文部科学省 基盤研究(B)	2023	安酸　史子（代表）， 松浦　賢長，仲西　　愛， 北川　　明，黒髪　　恵， 山住　康恵，日高　艶子， 太田　祐子，西村優紀美， 上山千恵子，中嶋恵美子， 塚原ひとみ，佐藤　亜紀

公衆衛生看護学

〈学会活動〉

1	日本看護研究学会	査読委員	2023	江藤　真紀
2	日本看護医療学会	査読委員	2023	江藤　真紀
3	日本公衆衛生看護学会学術集会	企画委員	2023～2024	江藤　真紀

在宅看護学

〈原著〉

1	早期認知機能低下高齢者における家族介護者のケアニーズ尺度の開発	日本農村医学会	72(5)： 374-384 2024	木村　裕美，古賀佳代子， 西尾美登里，久木原博子
2	地域包括支援センター保健師職交流会の成果と課題	保健師ジャーナル	79(6)： 484-491 2023	岡野　明美，古賀佳代子， 保母　　恵，永井　潤子， 曽我　智子，藤本　公恵， 小林奈緒子，森永　朗子， 志村いずみ
3	看護系大学の卒後支援のための卒後動向および支援ニーズの実態調査	福岡大学医学紀要	51(1)： 41-45 2024	牧　　香里，吉川千鶴子， 掛田　　遥，藤　　理絵， 佐久間良子，久木原博子， 古賀佳代子，馬場みちえ
4	Association between the appendicular extracellular-to-intracellular water ratio and all-cause mortality: A 10-year longitudinal study.	The journals of gerontology. Series A, Biological sciences and medical sciences	DOI： 10.1093/ gerona/glad211	Iwasaka C, Yamada Y, Nishida Y, Hara M, Yasukata J, Miyoshi N, Shimanoe C, Nanri H, Furukawa T, Koga K, Horita M, Higaki Y, Tanaka K
5	Association of appendicular extracellular-to-intracellular water ratio with age, muscle strength, and physical activity in 8,018 community-dwelling middle-aged and older adults	Archives of Gerontology and Geriatrics	DOI： 10.1016/ j.archger. 2023.104931	Iwasaka C, Yamada Y, Nishida Y, Hara M, Yasukata J, Miyoshi N, Shimanoe C, Nanri H, Furukawa T, Koga K, Horita M, Higaki Y, Tanaka K
6	韓国療養病院看護師の看護実践能力の特性と教育的支援 ―6地域8病院への調査から―	日本看護福祉学会誌	29(2)： 41-50， 2024	松村友紀子，生野　繁子

〈著書〉

1	ワードインマイマインド 看護に向き合う私の金言・格言・名言	ふくろう出版	pp.106-111	木村　裕美（分担）
2	「看護者に期待されるもの」シリーズ　みる力	ふくろう出版	pp.48-50	木村　裕美（分担）
3	「看護職に期待されるもの」シリーズ⑤みる力	ふくろう社	pp.74-79， 2023	古賀佳代子（分担）

〈国際学会(総ての演題)と国内学会(シンポジウムかワークショップあるいは招待講演のみ，一般演題は除く)〉

1	個別支援から地域支援へ介護予防事業を展開するための手法	日本地域看護学会 第26回学術集会	神奈川 9/3， 2023	岡野　明美，保母　　恵， 古賀佳代子，森永　朗子， 藤本　公恵，志村いづみ， 永井　潤子，小林奈緒子
2	認知症高齢者の生活支援に向けた多職種連携および地域づくり	第12回日本公衆衛生看護学会学術集会	福岡 1/7， 2024	古賀佳代子，岡野　明美， 志村いづみ，藤本　公恵， 永井　潤子，保母　　恵， 森永　朗子，小林奈緒子
3	頑張りすぎず，ゆるやかな協働もあっていいとはいうものの（招聘講演）	日本地域看護学科(地域看護次世代育成トークチャンネル)	福岡 2/14， 2024	古賀佳代子

〈国内研究助成金〉

1	熊本地震に被災した就労者支援のためのプログラム開発	文部科学省 若手研究	2023	古賀佳代子（代表）
2	軽度認知症高齢者の独居生活を支援する感性AIロボットの実践的検証と実用化に向けて	文部科学省 基盤研究(C)	2023	木村　裕美，久木原博子， 村田　　伸，西尾美登里， 古賀佳代子， 岩村　誠人（分担）
3	認知症徘徊者検知システムの実証実験と介護者の介護負担度への影響	文部科学省 基盤研究(C)	2023	掛田　　遥，古賀佳代子， V.Gモシニャガ，池田　　智， 堀　　輝，大田　　博， 橋本　浩二（分担）

〈学会活動〉

1	日本認知症ケア学会九州・沖縄地域部会	監事	2023	古賀佳代子
2	日本看護福祉学会	査読委員	2023	古賀佳代子

〈研究に関係した賞〉

1	熊本地震５年後における被災就労者の精神的健康の経時的変化	優秀論文賞 (日本災害医学会)	2024	古賀佳代子

学校保健

〈原著〉

1	課題解決型の保健室経営計画と組織的支援に関する研究(Ⅰ)学校種別の保健室経営計画表かと協力に関する養護教諭への調査から	福岡大学 研究部論集B 社会科学編	14: 55-67， 2023	小柳　康子
2	課題解決型の保健室経営計画と組織的支援に関する研究(Ⅱ)組織学習が学校保健の評価に及ぼす影響に関する検討	福岡大学 研究部論集B 社会科学編	14: 69-77， 2023	小柳　康子

Ⅲ．福岡大学病院

令和５(2023)年度の「福岡大学病院」について

病院長　三　浦　伸一郎

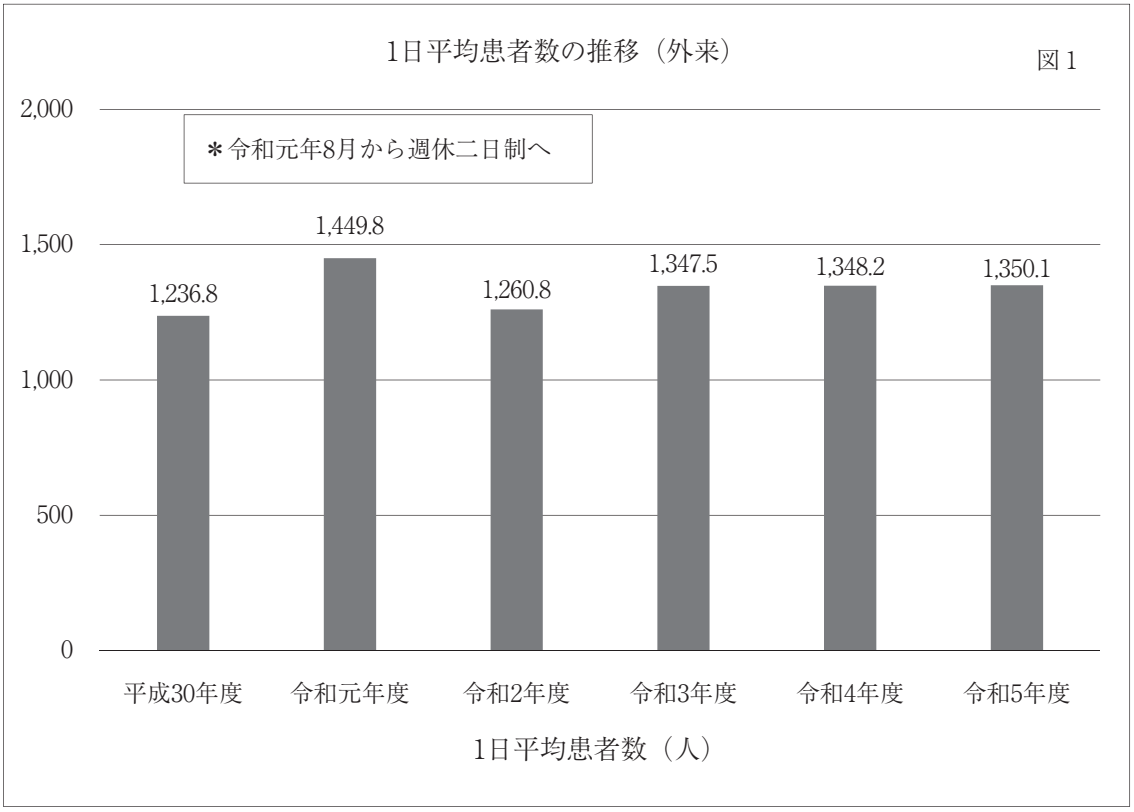
令和５年８月に福岡大学病院は創立50周年を迎えました。これまで多くのご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

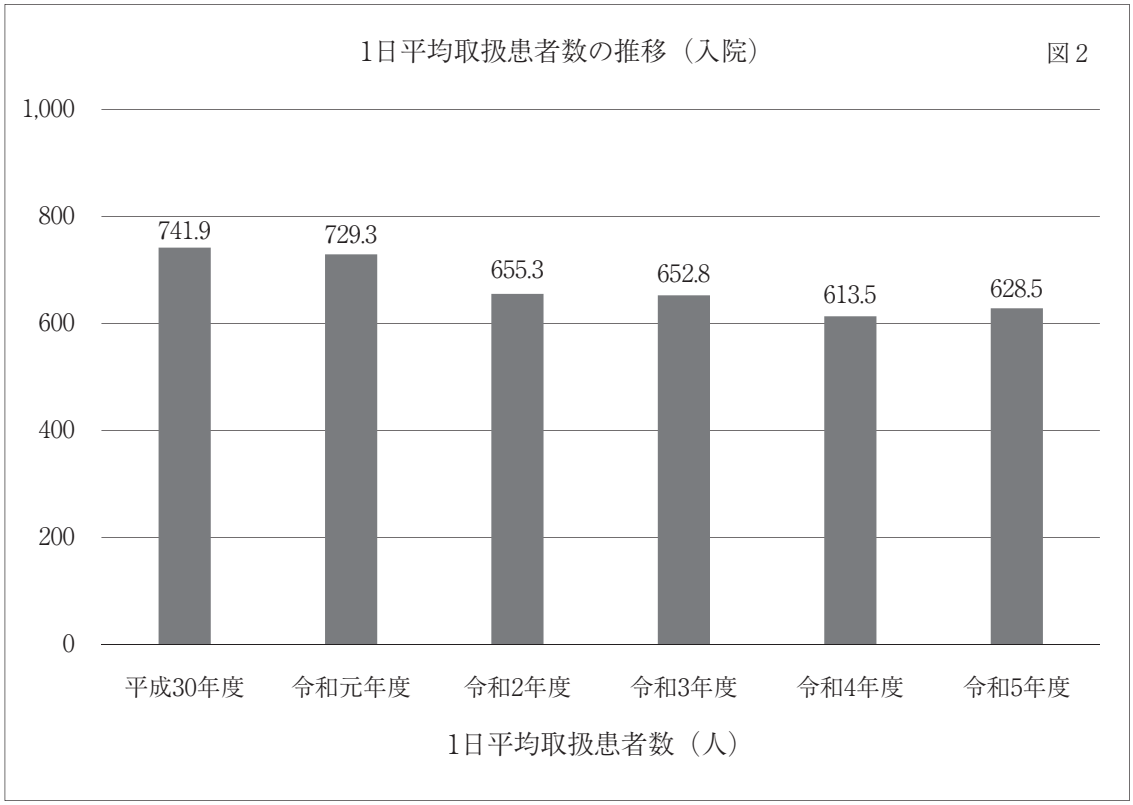
学校法人福岡大学の病院群は Three Hospital, One team を掲げ、福岡大学病院、筑紫病院、西新病院の３病院が連携を強化し発展していく必要があります。病院の収支改善や職員の人事交流、技術交流など福岡大学全体で医療の取り組みを進めています。

以下に令和５年度の福岡大学病院の活動報告をまとめていますのでご覧いただければと思います。

患者動向（図１、２）

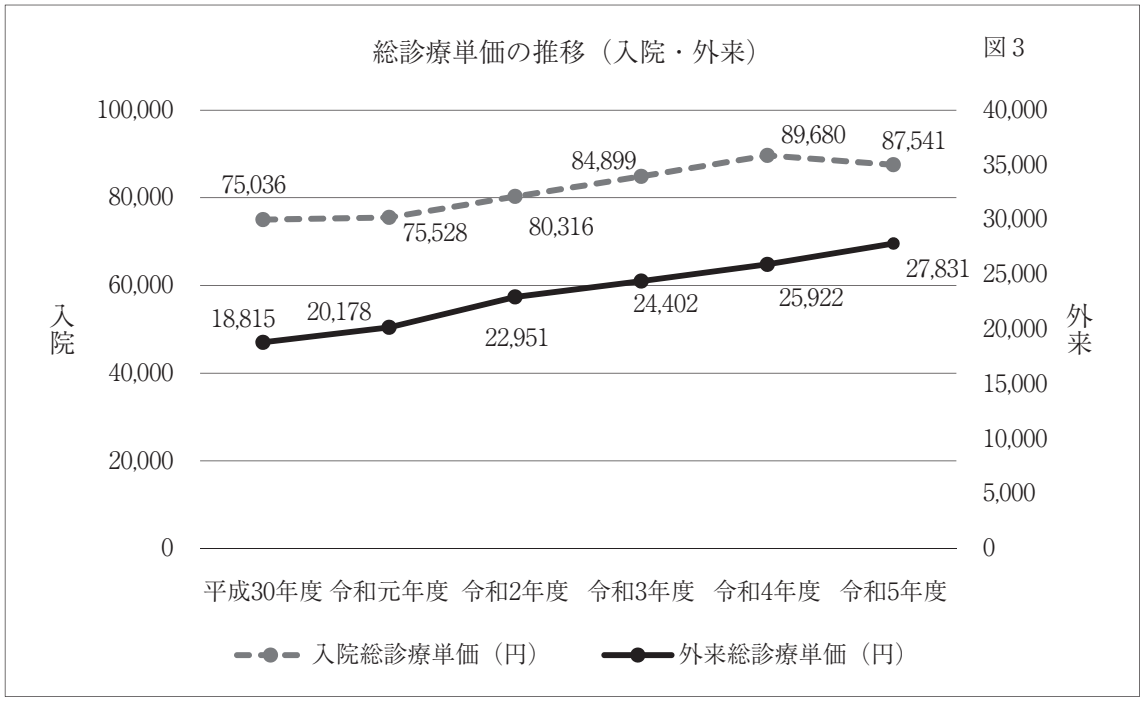
外来取扱患者数は延326,731人（前年度比100.15%、474人増）と微増しました。再診患者数が305,069人（前年度比100.56%、1,684人増）、新たに当院を受診した患者数は16,262人（前年度比94.88%、878人減）となり、新来初診患者数は減少したものの、外来化学療法患者数の増加により再診患者数を含めた全体的な外来患者の増加につながりました。また、入院取扱患者数は230,033人（前年度比102.73%、6,111人増）、病床稼働率80.9%と前年を上回る結果となり、新入院患者数も17,458人（前年度比102.3%、394人増）と上回りました。令和５年５月から新型コロナウイルス感染症が５類に移行されたことを受け、新入院患者数、取扱患者数および手術件数（8,803件）が増加し、病床稼働率も上昇しました。





診療収入の状況（図３）

外来化学療法患者数などの増加により、外来総診療単価は上昇しております。また、入院総診療単価も令和５年度はやや低下しましたが、ここ数年は伸びています。しかし、これらの傾向は、薬物費や医療材料費の高騰に寄与する部分が多く、収入超過（経常収支）を達成するためには、更なる入院患者数の増加を目指した対策を立てることが急務となっています。



病院新本館建設

令和３年10月に着工した病院新本館建設も令和６年５月に開院いたします。

地下１階から地上12階建てで屋上にヘリポートを備えており、中央棟と合わせると総病床数は771床を有します。高度医療を提供する特定機能病院として手術室を増室するなどいろいろな機能を充実させました。また新興感染症への対策として感染症患者に対応できるよう随所に陰圧切り替えが可能な病室を配置し、感染拡大時には１つの病棟を陰圧区画にできる機能も備えています。

高度な質の高い安心安全な医療を提供するとともに、地域医療へ貢献できるよう、更なる発展に向けて邁進してまいりますのでご支援をよろしくお願いいたします。

Ⅳ．福岡大学筑紫病院

令和５年度「福岡大学筑紫病院」の実績報告

病院長　河　村　　彰

１．地域医療支援病院としての機能評価

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが、地域の医療機関との連携の目安となる紹介率は85.5%（昨年度比4.8%増）、逆紹介率は90.3%（昨年度比8.5%増）となった。地域医療支援病院の実績を評価する指標のうち、救急搬送件数は3,925件（昨年度比310件増）、地域医療従事者に対する研修会の開催数89回（昨年度比23回増）、院外参加者4,290人（昨年度比379人増）となった。なお、病床稼働率は、88.2%（昨年度比7.1%減）と昨年度より減少した。平均在院日数は9.2日（昨年度比0.3日短縮）であった。

２．将来計画の推進

令和３(2021）年に策定した将来計画に基づき、診療部長会、経営戦略会議、師長会（看護部）等で、数値目標を周知し、病床稼働率の上昇、平均在院日数の短縮、DPC の期間内の退院率上昇、救急車搬送件数増加、手術件数増加等に取り組んだ。平均在院日数の短縮、DPC の期間内の退院率、救急車搬送件数については、数値目標を達成した。

３．腎センターの新設

慢性腎臓病（CKD）は末期腎不全に至るリスク因子で、全国的に患者数が増加しており、人工透析を受ける患者数も毎年増加傾向にある。また、筑紫医療圏においても、一層、その需要は高まっている。これらの状況を踏まえ、令和５年10月より、当院に腎センターを設置するとともに腎臓内科を標榜し、常勤の腎臓内科医を配置した。これにより、これまで他院へ依頼していた血液透析を当院で実施するなど、診療体制を強化した。

４．医師の働き方改革の推進

医師の働き方改革に対応するため、三病院（福大病院、筑紫病院、西新病院）合同の勤怠管理システム「Dr.JOY」を導入した。筑紫病院では、令和５年11月から試験運用を開始した。令和６年度医師労働時間短縮計画を策定し、医療機関勤務環境評価センターへの評価申請を行った。これに対し、中間報告時点で労働時間実績の再調査を行った結果、全診療科 A 水準に該当することが判明したため、特例水準指定のための評価申請を取り下げた。

Ⅴ．福岡大学西新病院

福岡大学西新病院の計画・成果報告（2023年度）

病院長　山　本　卓　明

［計画１］西新病院の今後の対応（西新病院新病院（仮称）の移転・新築について）

福岡大学西新病院は、平成30年４月１日に一般社団法人福岡市医師会が所有する福岡市医師会成人病センターから事業譲受し開院した。2023年４月現在、前身の成人病センターが開業して以来、既に40年という長い年月が経過しており、施設や備品の老朽化が避けられず、それに伴う毎年の維持管理費が増加している状況であった。加えて、福岡市医師会に対して支払い義務のある借地料も経営観点からの重要な検討課題に一つとなっていた。

現在の診療機能を効率的に維持・発展させるため、建て替えや移転を含めた将来像の検討を早急に行う必要があった。

［成果１］

2022年３月29日開催の理事会において、「西新病院事業継続のための移転」と「福岡市立病院機構が所有するこども病院跡地活用事業者公募への参加予定企業との共同応募」が承認され、同年12月に福岡市に対して提案書の提出を行い、福岡市によるヒアリングを経て2023年１月30日に本学のグループが優先交渉権者として選定された旨、公表された。同年３月16日付で福岡市と基本協定締結、４月13日付で福岡市立病院機構との間で土地売買契約が締結（仮契約）された。その後、６月27日開催の福岡市議会において土地の処分について議決が行われ、同日付で仮契約から本契約に移行した。

2023年度は、福岡県医療指導課及び福岡市医師会に対して移転の申請を行い、地域医療構想調整会議による審議を経て承認された。その他、福岡市に対しては本学及び共同事業者にて地区計画及び開発事計画の提出を行い承認されたことを受け2024年２月16日付で福岡市立病院機構より土地の引き渡しが行われた。新病院建設に向けては2023年６月より基本設計に着手し2024年３月28日開催の理事会で承認を得、同年４月より実施設計に着手する。現在、2027年春の新病院開業に向けて準備を進めている。

［計画２］診療体制の拡充および看護部門の充実

各診療部門の診療体制の充実を目標とした。看護部においては、看護職員は定数70人に対して年度中の休職及び離職者の補充を見込んだ７人を加え及び定員77名となっているが、2023年４月当初より定数に達しておらず、平均10人以上の欠員状態となり、11月より実働病床を108床から81床に減じる緊急措置を行うことになった。そのため、早急に看護職員の確保や新採用者のリクルートを行うことが課題となった。

また、リハビリテーション部拡充、放射線部の検査拡充などの計画を立てた。

［成果２］

看護職員に対する教育の充実、職場環境の適正化、離職対策、などを目的に2024年度から４年間、副看護部長1人の追加配置が認められた。新年度より、各部署内の業務改善などを積極的に行える体制を確立した。

リハビリテーション部はアルバイト１人の廃止、専任職員２人の増員を行った。この結果、外来リハビリが前年度比43％増、入院は看護職員の配置不足により入院患者数が大きく減じてしまったが、一般病床で13％、地域包括ケア病床では18％のリハビリ増の成果があった。

放射線部は、地域の医療機関訪問を開始し、他施設からの検査獲得に力を入れ、その結果、CT 検査は目標の14％増、MRI 検査は26％増を達成した。また、2024年１月から、院外読影の依頼先を福岡大学病院放射線科に変更し、読影精度の向上に加え年間で1,000万円を超える経費削減を行うことを目標にしている。看護師からのタスクシフトも推進し、造影検査における静脈路確保を実践している。

Ⅵ. 付属施設・組織

1）福岡大学図書館医学部分館

図書館医学部分館では、医学・看護学分野の学習・教育・研究を支援するための資料の整備・充実に努めており、令和６年３月31日現在の蔵書数は277,953冊、学術雑誌は4,323種類を所蔵している（表１）。また、DVD・CD-ROM 等の視聴覚資料1,463件を保有し、医学情報センター４階 AV 資料室で活用されている。なお、電子資料費にて継続購入している資料*は17点である。

令和５年度の年間受け入れ状況は、図書532冊、製本雑誌514冊、継続購入雑誌215種類、電子ブック129点となった。今年度は為替レートの変動による円安に伴い、洋雑誌及び電子ジャーナルが高騰している中、医学部では３年に１度定期的に実施しているコアジャ－ナルアンケートを実施し、そのアンケート調査の結果を基に雑誌等の購読継続の見直しを行った。

購入継続資料の見直しについては、医学部の各講座からの新規要望を可能な限り反映させられるよう、既存ジャーナルとの入替え等について電子ジャーナルの各出版社との交渉を進めるとともに、「冊子」または「冊子＋電子ジャーナル」から「電子ジャーナル」への購読形態の変更や、利用回数の少ないジャーナルを中止候補とすること、新規に大学へ要望することなどの方策を含めて、委員会の中で協議を重ね、新規購入ジャーナルと継続中止ジャーナルの見直し・選別について審議した。また、継続中止ジャーナルについては、研究活動等の混乱をなるべく避けられるように、あらかじめ関連部署の主任教授、診療部長にメールで継続中止についてお知らせし、ご理解とご協力をお願いした。

令和５年度の利用状況に関しては、令和５年５月８日の新型コロナウイルス感染症の５類感染症への移行に対応するため、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めつつ、盆休・年末年始の休館日の７日並びに医学科共用試験及び台風のため休館した９日の計16日間以外は８時50分から22時まで開館（台風接近のため１日のみ13時より開館）とした。但し、特定機能病院である大学病院に隣接する医学図書館という特性上、学外者については医療従事者など事前に申し込んだ利用者のみに入館を制限し、１日平均入館者数は、医学部分館233人（前年度比36人減）・筑紫病院図書室21人（前年度比12人減）、１日平均貸出冊数は医学部分館23.4冊（前年度比6.0冊減）・筑紫病院図書室3.2冊（前年度比0.7冊減）となった。学内の年間文献複写枚数については、4,229枚（前年度比2,688枚減）となり、新型コロナウイルス感染症の拡大により図書館の利用離れやリモートアクセスによる利用増が影響しているように思われる。また、他大学との ILL（文献複写・貸借）サービスによる複写受付件数は1,386件（前年度比243件減）、学外への複写依頼件数は732件（前年度比13件減）で減少傾向にある。

施設面では、新型コロナウイルスなどの感染症に対応するため、手指消毒用のアルコールや清拭用除菌シートの配布、カウンターや情報サービス室に飛沫防止のためのパーティションの設置の他、閲覧室の使用可能座席数を減らし座席の間隔を確保する等の感染対策を継続して講じてきたが、ポストコロナに対応した医学部分館におけるサービスの向上と BYOD（Bring Your Own Device）の取り組みの推進のため、電源コンセント付き閲覧机・椅子の買替や、電源コンセントの増設、フロア絨毯の張替え、照明の LED 化に対する令和６年度予算が承認された。

図書館情報システム（NEC：E-CatsLibrary）はリプレイス４年目を迎え、安定した稼働を続けており、利用者の利便性を図るための情報サービス室の利用者用パソコン（16台）は学内のパソコン教室と同じ環境になっている。その他館内では、学内者向けの高速 Wi-Fi の整備により、個人のスマートフォンから図書館資料の検索や利用が可能となっている。

表１　蔵書数

（令和６年３月31日現在）

資料／種類	単行書	製本雑誌	計	雑　誌
和書	86,451冊	42,794冊	129,245冊	1,571種
洋書	50,615	98,093	148,708	2,752
計	137,066	140,887	277,953	4,323

※蔵書数には、筑紫病院図書室を含む

＊電子資料費内訳：医中誌 Web，系統別看護師国家試験問題・保健師国家試験問題 WEB，今日の診療 WEB，最新看護索引 Web，メディカルオンライン，ナーシングチャンネル，CINAHL Plus，LWW Fixed 50，MedicalFinder，Springer Nature（Nature 関連誌18誌＋ Academic Journals 11誌），Ovid EBMR, Health & MedicalCollection with MEDLINE, Science Direct, Science Signaling, Science Translational Medicine, Wiley Online Library，Educational Video OnLine

図書館ユーザのウェブ活用が進み、図書館資料についても紙媒体（図書・雑誌）から電子媒体（電子ジャーナル・データベース・電子ブック）への推移の傾向が見られるが、新型コロナウイルス感染症の発生以降、遠隔授業や課外学習の中での電子媒体の活用が広がっており、その傾向は今後もさらに加速するように思われる。

福岡大学図書館では、学外からアクセス可能な図書館ウェブサイト上から図書の予約・取寄せ、福岡大学蔵書検索（OPAC）から電子ジャーナルのフルテキストへのリンク、医中誌 Web や PubMed（福大専用）等のデータベース検索の結果から学内で契約している電子ジャーナルのフルテキストへのリンク、各データベースの検索結果から書誌情報を取り込み ILL（文献複写・貸借）依頼が可能となっているが、なお一層のウェブを介したサービスの拡充に努めたい。令和６年３月31日現在、電子ジャーナル・電子ブックは無料提供を含め、全学で126,937種類の利用が可能である。

令和５年度の主なパッケージ型電子ジャーナルの利用件数は、メディカルオンライン42,814件（前年度比1,248件減）、Science Direct127,599件（前年度比24,011件増）、Wiley Online Library 35,938件（前年度比2,669件増）であった。

令和６年度は､医学科および看護学科学生を対象とする臨床研修等に必要な知識･情報を効率良く入手するためのデータベースや電子ジャーナルの利用説明会の開催など、医学部、福岡大学病院、福岡大学筑紫病院、福岡大学西新病院との連携を図りつつ、今後も引き続き利用者のニーズに合った図書館サービスを充実させていきたい。

（図書館医学部分館長　大　倉　義　文）

２）アニマルセンター

令和５年度のアニマルセンター利用者は、延べ5,885名（理学部17名、医学部4,512名、薬学部３名、スポーツ科学部1,353名）でした。

利用者カードの取得者数は158名（理学部２名、医学部114名、薬学部1名、スポーツ科学部41名）となっています。

主たる使用動物ではマウス2,295匹、ラット404匹、モルモット30匹、ブタ８頭、サル３匹、カエル６匹の搬入がありました。

動物実験実施者講習会は Zoom によるハイブリッド方式にて開催し、118名（理学部５名、医学部40名、薬学部54名、スポーツ科学部16名、アニマルセンター３名）が受講しました。

『第46回実験動物慰霊祭』は令和５年９月20日(水)午後４時30分から開催しました。

アニマルセンター長・動物実験委員長・アニマルセンター所属職員他、合計35人で執り行いました。これと併せて午後１時から４時までの間、随時、慰霊できるように準備し、43人が供養に訪れました。

機器備品関係では ALLENTOWN 社製個別換気方式飼育システム給気ブロアー、排気ブロアー、カートリッジ方式全自動酸化エチレンガス滅菌器、CO_2インキュベータ８台を購入しました。また、施設工事では１階胚操作室（115）の胚操作実験室の窓塞ぎ工事および胚操作動物室のエアコン取り換えに伴う工事が行われました。

今後も利用者に対するより一層のサービス向上に努めて参りますので、何卒ご理解・ご協力の程をよろしくお願いいたします。

（アニマルセンター長　立　花　克　郎）

３）医学部 RI 施設

令和５年度の業務従事者登録者数は55名（年度内退職者１名含む）であった。予防規程第36条による教育及び訓練として、令和５年５月８日に⑴放射性同位元素等または放射線発生装置の安全取扱い⑵放射線の人体に与える影響⑶放射線障害防止に関する法令及び予防規程の項目で、新規登録者対象の教育訓練講習会を行った。また、更新登録者の教育訓練講習会を令和５年５月９日に実施した。予防規程第37条による健康診断受診者は55名で受診率100％であった。また、放射線測定の信頼性確保に関する法令改正により、放射線測定器の点検及び校正に関する放射線障害予防規程と使用規程の改正を行い、令和５年10月１日に施行した。今回の法令（規程）改正により、施設内の放射線測定器を定期的に点検・校正し、結果を記録保管することが義務化された。

施設関連では、遠赤外線動物乾燥装置を令和５年11月に設置し、動物実験後の RI 汚染動物だけでなく紙やプラスチックチューブ等の各種放射性廃棄物の乾燥処理が、短時間で安全にかつ簡便に実施できるようになった。

（医学部 RI 施設長　秋　吉　浩三郎）

4）福岡大学医学会

令和５年度は第46回総会と、第88回・第89回例会とが行われた。

A）第46回総会

1．日　時：令和５年９月27日(水) 17：30～19：15
　場　所：福岡大学医学部 RI 講義棟3F　大講堂
　議　事：１）報告事項
　　２）令和４年度会計報告および令和５年度予算案

2．令和５年度の役員は、下記のとおり承認された。

会　長		小　玉　正　太	医学部長
副会長		髙　松　　泰	大学協議員
顧　問		朔　　啓二郎	学長
		岩　﨑　昭　憲	福岡大学病院長
		河　村　　彰	福岡大学筑紫病院長
		宮　城　由美子	看護学科主任
幹事	庶務幹事	鍋　島　茂　樹	総合診療学
	会計幹事	松　永　　彰	総合医学研究センター
	集会幹事	川　浪　大　治	内分泌・糖尿病内科学
	編集幹事	小　川　正　浩	研究推進部委員
会計監事		羽　賀　宣　博	腎泌尿器外科学
		升　谷　耕　介	腎臓・膠原病内科学
評議員	人体生物系	藤　田　孝　之	生理学
		白　澤　専　二	細胞生物学
	生体制御系	廣　松　賢　治	微生物・免疫学
		髙　木　誠　司	形成外科学
	病態構造系	濵　﨑　　慎	病理学
		安　部　　洋	脳神経外科学
	病態機能系	山　本　卓　明	整形外科学
		和　田　秀　一	心臓血管外科学
	先端医療科学系	永　光　信一郎	小児科学
		安　永　晋一郎	生化学
	社会医学系	有　馬　久　富	衛生・公衆衛生学
		川　嵜　弘　詔	精神医学
	講師・助教	田　中　智　子	再生・移植学
	大学院生	森　永　絵　理	生体制御系

3．令和４年度会計報告ならびに令和５年度予算案は承認された。

B）第88回例会

日　時：令和５年９月27日（水）17：30～19：15

場　所：福岡大学医学部 RI 講義棟3F　大講堂

内　容：

１．第25回福岡大学医学会賞受賞論文講演

金賞（１名）

①講演者…橋口　志保　　座長…近藤　誠二

「CCN2-induced lymphangiogenesis is mediated by the integrin αvβ5-ERK pathway and regulated by DUSP6」

銀賞（２名）

②講演者…平川　豊文　　座長…四元　房典

「Trophic and immunomodulatory effects of adipose tissue derived stem cells in a preclinical murine model of endometriosis」

③講演者…眞野　亮介　　座長…近藤　誠二

「Induction of potassium channel regulator KCNE4 in a submandibular lymph node metastasis model」

２．新任教授講演

講演者…佐藤　寿彦（呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学）　　座長…小玉　正太

「肺癌治療の進歩」

３．第25回福岡大学医学会賞授賞式

C）第89回例会

日　時：令和６年２月21日（水）18：00～19：00

場　所：福岡大学医学部 RI 講義棟3F　大講堂

内　容：

１．新任教授講演

講演者…濵﨑　　慎（病理学）　　座長…小玉　正太

「がんゲノム医療時代における病理医」

２．福岡大学医学紀要第50巻優秀論文賞授与式

受賞者：林　　礼雄（精神医学）

三股　亮介（衛生・公衆衛生学）

３．医学生業績報告書「JAMeS」優秀賞授与式

金藤　義一

長崎大学における BSL-4施設の稼働問題について

－なぜ日本の BSL-4施設は稼働できないのか－　JAMeS6(1)：43-53，2023

牟田　侑未，藤川　唯音，浅野　　大，吉井　優斗

C 型肝炎ウイルス感染ドナーから非感染レシピエントへの心臓および肺の移植　JAMeS6(1)：11-1112，2023

４．受賞論文の要旨講演

講演者…林　　礼雄　　座長…川嵜　弘詔

「Evaluation of Changes in Anxiety, Depression, Social Behavior, and Oxytocin mRNA Levels in Adults after Adolescent Interventions in Maternal-separated Mice」

講演者…三股　亮介　　座長…有馬　久富

「Relationship between Minute-to-minute Variability of Intraoperative Arterial Blood Pressure and Postoperative Acute Kidney Injury in Patients Undergoing Noncardiac Surgery」

（庶務幹事　**鍋　島　茂　樹**）

福岡大学医学部年報　令和５年度

令和６年10月31日発行

編　集　　福　岡　大　学　医　学　部
福岡市城南区七隈七丁目45番１号

発　行　　福　岡　大　学　医　学　部　事　務　課
福岡市城南区七隈七丁目45番１号

印刷所　　福　岡　印　刷　株　式　会　社
福岡市中央区天神三丁目４番３号